（1）　昭和31年1月1日　カトリック　昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第12号



可　昭和二十五年　司教区
深堀　敏
福岡市浄水通り三八
福岡司教館
発行所
兼発行人
編集人
深堀　敏
定価一部一円

謹しんで新年の賀詞と祝福を送ります



我等は天主の豊かな恩寵の下、こゝに一九五六年の新年を平和のうちに迎えました。あけゆく新春の朝のさわやかな喜びを感じます。御同慶の至りであります。一同心を合せて天主に感謝申し上げましょう。共にこの新しい年の間にわれらが益々天主に選まれた聖にしてかつ至愛なる子の如く、寛仁、謙遜、柔和、堪忍などを身にまとい、互に忍耐し、宥恕し、なお一切のことに加えて愛を有し、常に地上のことにならで、先づ上のことをおもんばかり、而して一体として主キリストの平和が心をつかさどり、何事を行うも言うも悉く主キリストの御名によりて、父にて在す天主に感謝し奉る者とならしめらるゝよう、お祈り致しましょう。

以て自己自身と家庭、祖国日本の上に真の平和、幸福、天主の御国をもたらす者たらんことを希望しつゝ、重ねて祝福を送ります。

一九五六年一月元旦

福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

光の世

神の愛を悟る

愛をうたがうとはそもそも人間悲劇のもとである。愛の性質は、自分の心をもって相手の心にふれ、その接触が新らしい愛を生んで、二つの心と一つにすることにある。

愛の悲劇は、この自然の傾きが望ましい結果を生じない時に起る。愛が相手の心に通じなければ、愛は悲しみに変る。そして悲しみが度重ると、心は苦しみに耐えられなくなり、絶望のカタストロフに終る。

愛が絶望に変じてゆくとは何たる矛盾であろう、心からほどばしりでる愛が愛の共鳴を得ないとは何と不自然なことであろう。然し人の心のあさはかさ、愛するために作られた人の心が鋭敏さを欠くために、他人の愛をありのままに受けとり得ないことが度々ある。

偉大と云われる人物とそうでない人間の違いはこゝにあるのではなかろうか。

真に人間性を陶冶した人は、耕やされた心の深さ、みがかれた心のデリケートさを身につけている。凡てのよきものを愛をもって包み、更にそれを愛すべきものとする不思議な力が具っている。アンジの聖フランシスコの様な聖に見られる単純温和、寛容がその特徴である。

それに反して、心のせまい人はよきものをありのままに感じとることができない。自己愛によって心の鋭敏さを失っている。他人の愛に対して無関心であったり、疑い深くなったりする。

愛を語る場合に、外的証拠を示したり、或はそれを求めたりすることは人間関係に於て当然のことである。然し先づ心でじかに感じようとする努力を惜んで〝記し〟にこだわることは、愛されるよりも進んで愛することを望む愛の本性をまだわきまえないものである。積極的な愛の活動が全然なくなってしまうと、どんな愛の証明を見せられても、気に入らなければ拒絶するようになる。救いようのない悲劇が生れる。

人間に対する神の愛は、心あるものには歴然たる事実である。目に映るすべてのものが生ける造物主の愛を証っているのをきいて、神の愛を疑うことはできない。然しこの自然の讃歌に耳をかたむけない、或はきいても悟らない心も又多い。このにぶい心に訴えるためにも、又それ以上に、汲み尽しがたい神の愛の深さを更によく示すために、神は人のかたちをとってこの世に降り給うたのである。ベトレヘムに於けるキリストの御降誕それは神の愛の最大の証拠である。人間を救うために、云い換えれば、神の心によって温められ、生かされるようにとこの愛をわれらに示し給うのである。全能なる神がひよわい赤児の姿をとって現れ、われらの愛をかき立て給うとは、全く予想だにしなかった出来事である。信じ愛し合っている者同志であれば、自分達の愛を示すために、どういう手段でもとるものである。はたから見れば幾分子供らしい表示でも致しかねない愛は愚を面をもっている。常識だけでは割切れない、云って見れば、神秘的な面を含んでいる。神は全智なる御方である。所が人間に対する愛の表示に当っては、この神の特性も一時姿を消すかの如くである。人間の目にさえも愚の極みと映ることを、敢てなし給うのである。

この神の愛の愚さを単なる愚さでなくて、限りない愛の率直な証明として感じとるためには、われらが神と同質の愛を持つ必要がある。神の愛に同化されることは、人間の愛の浄化だけでは足りない。神に特有の愛の火を灯して頂かねばならない。

そうでなければ、馬槽の上に寝さに凍えるマリアの子イエズスの前に〝来りて拝む〟ことも、自分の腕に抱くこともできない天上的な愛に燃されて、この貧しき赤子の前に跪いた人がいるいたづらな感傷によってではなく、神の愛の証に疑り術を見出さずして、単純に礼拝に出かけたのである。

然しこの神の愛を疑い、担む人はどれ程多いことであろう。打算的な自己愛にこりかたまっているために、自分より以上のものを愛することができないのである。

他人の愛を疑うとは、この世の最も大きな悲劇である。

でも、神の愛を疑うとは、永遠の悲劇である。（堀深　敏）



謹しんで主の御降誕と新年をお祝い申し上げます

教区機関誌「カトリック」

祈禱の使徒会

【一般の意向】教会一致の基礎として教皇首位権が認められんことを

「わが祈るは、彼らが悉く一ならん為なり。」愛によって結ばれている神の教会が分離して存在してはならず、またそれはキリストの御言葉によって教皇の首位の下に一致しているはずなのであるが、われわれは現実には悲しい状態を目前にしている一月十八日より廿五日までは教会の一致のための祈禱の期間であり、この間には、全世界のカトリック信者のみならず全てのキリスト信者が、特別に教会の一致のために天主に祈るのである。われわれも同じ目的のため、全キリスト信者が唯一の教会に結ばれるように祈るのである。今までの経験ではこの一致のための努力において、常に困難になったのは教皇の首位を認めることであったので、われわれはこの意味で今月中、毎日の祈り、働きをささげよう。

【布教の意向】中国信者の相互一致と教会への忠誠のため

われわれは中国のカトリック信者が如何に困難な立場にたっているかを理解し、かれらのために祈らなければならない。宣教師の過半数は追放され、少数の中国人の聖職者は極度にその活動を制限され、全く信者は牧者なき羊の群の如く危険にさらされている。さらに政府は積極的にかれらを信仰より引き離し、あるいは残されたキリスト者の互の和合を傷つけようとの努力を惜しまず、いわゆる「独立教会」の影響は決して少くはないのである。

【布教委員会の意向】家庭の聖化のため

昭和卅一年度 福岡小神学校入学生徒募集について

（高等学校）

一、願書受附　一月十日(火)から十九日(木)まで

一、選考日　二月廿日(金)　本人出頭のこと

一、選考方法　書類選考　主任司祭推薦書と出身学校長の報告書による

但し、高校、中学への編入については未定。

（中学校）

一月十日(金)から三月三日(土)まで

三月五日(月)　本人出頭のこと

上に会じ

福岡市浄水通り三八
福岡カトリック小神学校
平田惣五郎神父

永久聖体礼拝　一月

第一日曜　サンモール会
第二日曜　大名町教会
第三日曜　門司教会
第四日曜　カリタス会（宮崎）
第五日曜　大牟田教会
　　宮崎教会

司祭異動

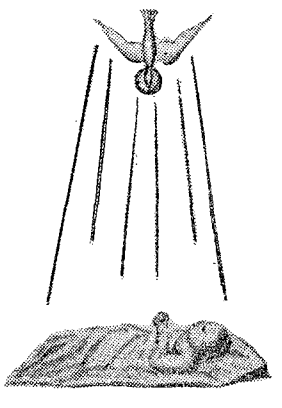
（北九州パリ・ミッション会地区）

新田原教会助任ドノワイエ師
任行橋教会主任

謹賀新年

福岡教区司祭一同
聖ヴインセン・チオ・アポーロ会
（福岡特別理事会）
レヂオ・マリエ・福岡コミチウム
福岡カトリック学校協議会
福岡市内教会合同委員会
福岡カトリック学士会

一月



一日（日）元旦
我主イエズス・キリストの御割礼の祝日
卅三年後の十字架上での犠牲に先立ち、御降誕の八日目すでに血を流し給う。この最初の犠牲に立ちあわれた聖母マリアの役割を黙想しよう。

二日（月）イエズスの聖名の祝日
イエズスとは〝救主〟を意味する。吾等はイエズスによってのみ救われるのである「汝その名をイエズスと名づくべし、そは己が民をその罪より救い給うべければなり」と天使は聖ヨゼフに告げている。

六日（金）我主御公現の祝日　初金曜日

八日（日）御公現の第一の主日　聖家族の祝日
カルメル会で誓願式（司教司式）
今日は王様の祝日とも呼ばれる、東方の三人の博士たちがベトレヘムに来て、幼児イエズスを神として礼拝したこと、イエズスの方からすれば、はじめて、御自分の神たることを公けにお示しになったことを、お祝いする。
健全なる家庭は健全なる社会のもといである。立派な信者、立派な社会人は信仰あつき家庭より生れる。イエズス・マリアヨゼフの聖家族は、家族制度のよい面を忘れている現代人がみなおすべきモデルであろう。

十日（火）教区司祭月の集会の日

十三日（金）我主イエズス・キリストの洗礼の記念日

十五日（日）御公現第二の主日　成人の日
イエズスはカナの婚姻の席場で水をブドー酒に変えられ、御自分の神性を証明した。

十八日（水）使徒聖ペトロがローマに教座を定めた祝日
今日より八日間教会の一致のための運動が世界的に行われる「一つの檻、ひとりの牧者となるべし」との吾主の御命令が一日も早く実現するよう祈る。
人吉教会祝別式

廿一日（土）聖女アグネス童貞殉教者
第三世紀の終り頃、ローマで殉教した有名な聖女。

廿二日（日）御公現後第三の主日

廿五日（水）使徒聖パウロの改心の記念日
誕生したばかりのキリストの教会に対して最も徹底した憎悪をいだいていた聖パウロが、ダマスコ途上で奇蹟的に改心し、一変して、その後は、キリストの御教えの最も熱心な使徒となったことを記念する。

廿七日（金）聖ヨハネ金口司教博士証聖者
そのすぐれた雄弁術の故に〝金の口〟と呼ばれた同聖人は正義と信仰をふりかざして、不正と戦ったためざん言されて殉教、四〇七年

廿九日（日）七旬節の主日
サレジオの聖フランシスコ司教博士証聖者
今日から御復活の祝日の遠い準備がはじまる。神と生きる喜を味うために、自分の罪や悪い傾向と戦う期間である。
今日同時にお祝いするサレジオの聖フランシスコは「信心生活の入門」や「神愛論」で有名である。神の愛の深さと甘味さを美しい文章で述べている。

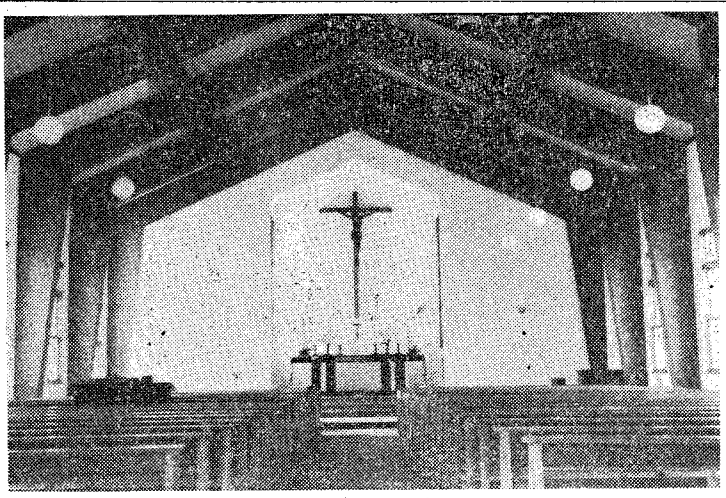
卅一日（火）聖ヨハネ・ボスコ証聖者
吾国でも社会、教育事業に挺身しているサレジオ会の創立者。一八八八年帰天。

北九州パリ・ミッション會地區に三つの新教會誕生

戸畑、行橋、豊津

数年前、パリの外国宣教会の布教活動に委ねられた福岡県北部（北九州パリ・ミッション会地区）は二十六名の宣教師達のたゆまぬ献身によって、驚異的躍進を遂げているが、この程行橋市と京都郡の豊津町に二小教区を設立、更に戸畑教会の新築を完成し、去る八月に創設された水巻教会とを併せて、この地区の使徒的事業に画期的進展をとげることとなつた。

戸畑教会の新築



戸畑教会内部

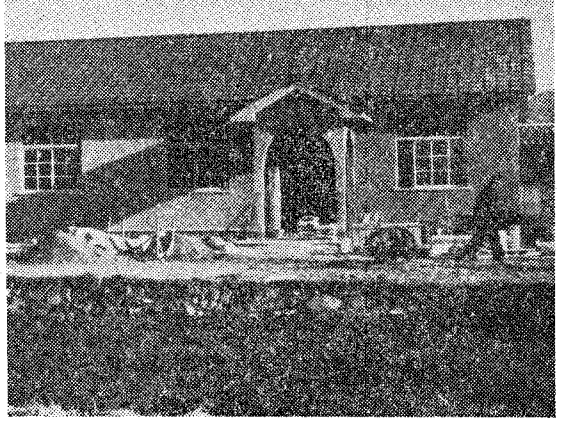
創立約廿年の歴史を有する戸畑教会は、この程一四二坪の聖堂を新築したが、その祝別式が十二月四日深堀司教様の手により荘厳にとり行われた。

戸畑教会の信者数は昭和廿五年十一月に二三五名、二年後には三九五名となり、現在では六一五名と五年前とくらべて三倍近い増加、ところが今迄の聖堂では收容力が精々二〇〇名で、日曜日毎に狭隘を感じていた。新教会建築の気運が起つたのは廿九年の夏で、以来全教会員及び幼稚園母の会がこぞつて基金の準備のため祈り、犠牲、寄附金集めに努力した結果、去る七月には建築開始のめどがつき、設計をその道のベテランである東京親建会の市野昌氏に、工事を森建設に依頼して九月に着工大浦氏が献身的に工事の監督に当り、予定通り十一月下旬に完成した。この難事業に於いて示された司祭、信者、求道者の団結は絶讃に値するものであつた。

祝別式は白木戸畑市長その他市の有力者、教区内の司祭、修道者、北九州の信者多数参列のもとに、午後二時半より行われ御聖体に奉献された。

引き続き新聖堂で四十七名の求道者が司教様より親しく洗礼の秘蹟を授り、当日の祝典を一層意義あるものとした。

四時半より司教荘厳ミサが捧げられ、六時教会横の広場で祝賀会に移つた。先つ北九州パリミツション会地区を代表してドルエ師の挨拶、主任司祭バスチ師の経過報告、信者代表として福島氏の挨拶、次に白木市長の祝辞、最後に深堀司教様の御言葉があつて祭典の幕を閉ぢた。



行橋教会誕生

行橋地方の信者は、今迄新田原教会に所属していたが、この度小教区として独立、市内に小聖堂を建立。十一月廿七日午前十時より深堀司教様の祝別をうけた。式には市長、警察署長、地元及び新田原の信者多数があつまつた。主任司祭には新田原助任のドノワイエ師が任命された。

豊津町に分教会

行橋市から一里距つた京都郡豊津町にも民家を改造して分教会が発足し、廿七日午後三時より祝別された。司牧にはドノワイエ師が当る。地元信者二〇〇名は殆んど長崎からの開拓民で小さいながら教会をもち得たことを心より感謝している。

佐伯教会も誕生のよろこび

海軍飛行隊の要地として知られていた大分県佐伯市にも、この度サレジオ会員セツキ師の努力によつてカトリック小聖堂が生れ、十二月十八日午前八時半より、深堀司教様をお迎えして祝別式を挙行した。

現在市内には僧かの信者しかいないが、主任司祭の観察によれば、発展の見込みは大きいとのこと。その手始めとして御降誕の祝日には十名の受洗者を得ている。

尚深堀司教様は翌十三日別府カトリック教会において、大分県下の全司祭及修道女会議に列席せられた。

（写真は佐伯教会）

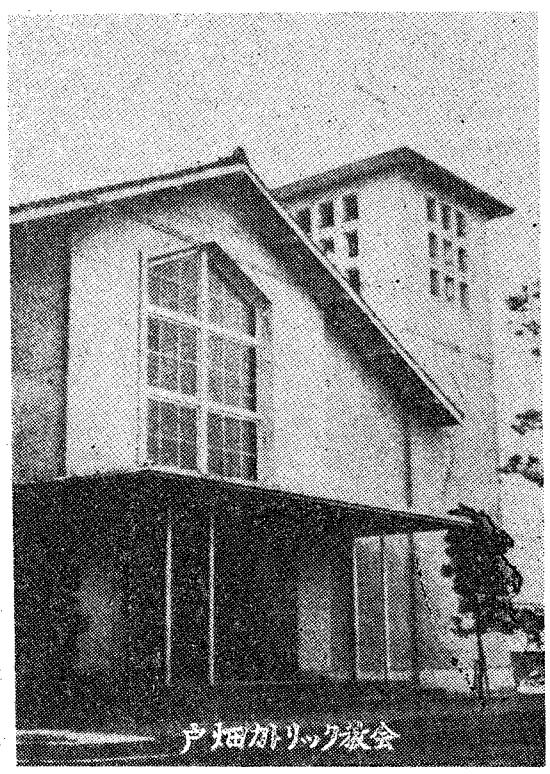
洪水の前

恐怖は仮定の上にしか足場を見い得なかつた。神の御意志の設定が留守にされている。

（あせちか）

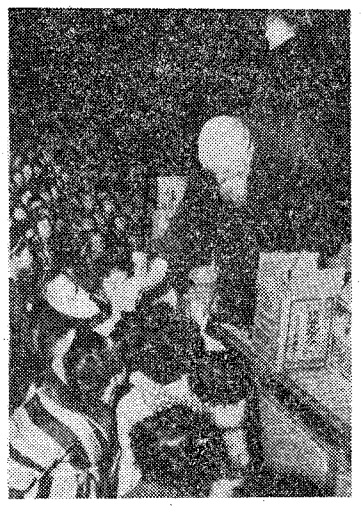
本郷教会に新司祭館

去る四月末新小教区として発足した本郷教会には、村岡久義師が主任司祭として任命されていたが、この程廿八坪の司祭館を新築。十一月七日に完成。十二月七日深堀司教様より祝別。建築は福岡の高山工務店。工事に際しては地元の信者が甚大な浄財及び労力的奉仕をなした。



戸畑カトリック教会

小倉鑛にゼノ修士が贈物



全国を股にかけて貧困者に限りなき愛の手をのべている長崎市聖母の騎士修道会のゼノ修士は、十二月一日救済物資をどつさり積んだトラックで、小倉市足原菊ケ丘の小倉炭鉱炭住街広場をおとずれた。

ゼノ修士は、再開はしたものの長い労働争議で疲れた小倉炭鉱従業員の子供たちがかわいそうでたまらず、十一月初旬から福岡を中心に小倉、大阪などを寝食も忘れて駈け回り、小倉炭鉱炭住街の苦境を訴えた。約一ケ月間の努力が報いられ月末ごろには福岡市薬学園、筑紫学園、福岡女学院、戸畑明治学園小倉井筒屋など数十ケ所から衣類、お菓子、干うどん、タタミなどがトラック一ぱいも届けられた。運搬に困つていると聞いて、十屋県知事も〝私がトラックをお貸ししよう〟と一役買つて出た。一日午後二時半福岡司教館を出発したトラックはゼノ修士をを荷台にのせてやつと同日夕刻到着。

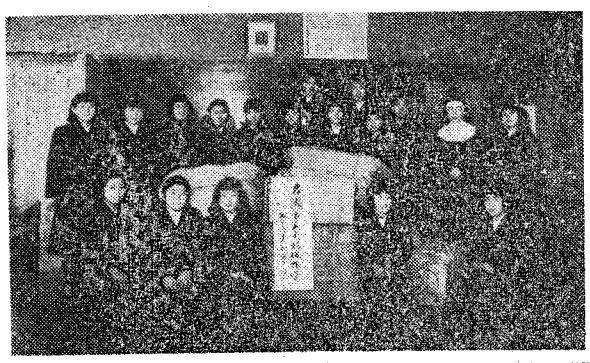
冷たい風が吹いている広場でトラックの上から子供たちにプレゼントするゼノ修士の背にボタ山の灯がキラキラ輝いていた

（写真は贈物を渡すゼノ修士とトクフ師）

名瀬大火の罹災者のために

先程の鹿児島県名瀬市の大火で罹災した人々を救うために、全国のカトリック教会から義捐金や物資を募つているが、ゼノ修士の報ずる所によれば、修士が関係している東京築地草の〝蠟の町〟の人々が各自零細な金額を持ちよつて一万円を差し出したとのこと。

尚本教区でも福岡雙葉学園生徒が小遣を倹約して集めた八、六九六円を聖ヴインセンシオ会に委託し、熊本信愛女学院では衣類六二四点その他ノート、本等一九〇点を、幼きイエズス会日本本部を通じて名瀬に発送。又各教会の信者から義捐金や救済物資が集められている。



（写真は救援物資を集めた熊本信愛女学院の生徒たち）

ヴアンドリユ師

九大仏文学講師に

去る七月中旬来福以来、司教館に滞在してベネヂクト会創立の準備をしているヴアンドリユ師は、九州大学の仏文学の講師として招かれ、十一月以来現代仏文学を講じている。

福者マリア・アスンタ童貞列福一年記念式典

五拾年前中国の山西省の野で修道使命を果して、天父のふところにそのその若き生命を帰したマリア・アスンタ童貞は、昨年ローマに於て列福の栄誉を与えられた。人吉市のマリアの宣教者フランシスコ修道院ではこの列福一年を記念して十一月五日より三日間祭を行つた。

司式は福岡のフランシスコ会のデンケル・ソラノ師で毎朝荘厳ミサが歌われ、一日二回の説教。式には市内の信者及未信者多数が参加して、福者の数々の美徳を默想した。最終日の七日には聖遺物の崇敬と御像の行列が行われた。

受堅のよろこび

【地行教会】

無原罪の御宿りの聖母と保護者といたゞく福岡市地行町教会では、十二月八日夜七時よりの司教様のミサのあと、卅五名が堅振の秘蹟をさづかつた。尚ミサ前に四名が司教様から受洗の恩典をたまわつた。

【唐津教会】

十二月十一日唐津教会で廿五名が受堅、当日は司教様御病気のため、佐賀教会のルツチ師（佐賀地方ミラノ外国宣教会地区長）が司式した。

セント・ウフラジア童貞

八幡の煉獄援助修道会のセント・ウフラジア童貞は去る十一月廿六日帰天、享年八六才。入会後六一年。

博多教會史（其ノ三）

司教　浦川和三郎



故浦川司教

バルタザル師の憲簡（つゞき）

そのうち船頭は、わたしたちを手どりにしていることを城主に知らせました。早速、武装兵士をのせた四隻の船がやつて来ました。兵士たちは、わたくしたちが裸になつているのを見て船頭に嘖嘩を吹きかけ、分捕品の分前に与ろうとしました。たくさんの乞食も、兵士達の後からついて来て、わたしたちが身にまとうている古いボロ布をも奪いとりました。たとえ兵士達は狂暴ではあつても彼等と共に居るのは、わたくしたちを犬の様に虐待する水夫等の掌中に居るより好ましいことでした。

さて兵士達はわたしたちを船から引出して町に上陸させました。彼等に護送されて一里許りも行きました時、わたしをよく知つている侍に行きあいました彼はこうした私のみじめな状態を見て同情を催し、私にマントを与え、又自分の家来たちに命じて私と共にいた人々にもその衣を着せてくれました（註一）

町につきました時、部よりも大きな危険にさらされました。それと申すのは、町の門に留つていた兵士等は、私たちからはぎとつたものゝ分前にあづかり度いと思い、他の兵士等と喧嘩をはじめ紛争をかさねてその望むところを得ました。すると早速彼等はわたしたちの周囲に集つて来て、金を出すようにせまり、太刀や槍をつき出すものがあり、縛つて奴隷にしようとするものがあり又わたしたちを其の場で殺したいと思う者さえいましたが、邪魔するものがあつてそこ迄には至りませんでした

ついに城壁の下なる穴倉の中にわたしたちを閉ぢこめました（註二）いよいよこれでおしまいかと思いました。外に居た者どもが、私たちを以て悪漢だ、何処にでも戦争を仕かける暴徒だ、寸断すべきものだと話し合つて居る雑然たる声が聞えるのでした。暫くしてから指令部の人が来てわたしたちを穴倉から引き出し刀を手にして金がどこにあるのかと問いました。私は彼に答えました「御覧の通りわたしたちは身にまとうものさえ残らずとられています、それにあなたは、どこに金があるかとおたづねになるのでございますか」と。それを聞いてその人は少しだまり、わたしたちについて如何したらよいかを知るために使者を城主のもとに遣わしました。

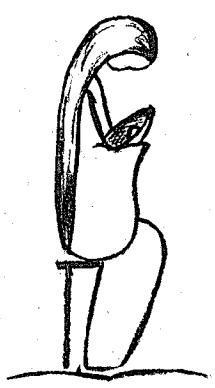
其の間にもシルウエステルは本稿は文筆活動特にキリシタン研究に生涯を捧げられ、去る十一月廿四日帰天された故浦川司教が、御臨終の三日前、大阪教区の山口正師に口述して本誌のために送り下さつた遺稿である。

自由の身でしたから町中に入りジユアン加藤というキリシタン富豪をたづね、パデレたちの危急を告げました。加藤は新城主の知人でしたので、早速城主の許へかけつけ、囚人たちを自分の手に渡してもらいたい、十分責任を負うべしと保証しましたそれからもめいめいのために四枚の着物を持ち来り、とぢこめられて居た所からわたしたちを救い出しました」（続）

註一、フロイスの日本史一二六頁には「一同皆心のうちにデウスに向つて罪のゆるしを祈り痛悔の祈を念じた」とあり。

註二、仝上一二七頁に、この貴人（侍）は異教人であつた。

註三、フロイスには「柴柵の内におしこめた。そして一人は「やつらを殺せ」と叫び、その他「こやつ等は同家を滅ぼすぎぞ」とお其の他罵詈ザン謗を浴せた、但しこれらの事柄は全く下賤なやからによつてなされたとある。



御降誕の大祝日

「いざ、我等ベトレヘムまで行き、主の我等に示し給える事の次第を見ん。」（ルカ二ノ十五）

夜の空は大陸に於いて殊にアラビアの荒野に於いては筆舌に尽す事の出来ない位に美事である。澄み切った秋の夜空に瞬く我国の星空も美しいには異いないが、星の光が貫き通っている様な無限の空間、黒いビロウドの上に眼のように静かにきらめく紫晴らしい東方のそれには到底較ぶべくもない。更け行く夜の静寂に三々伍々此処彼処と群居らさわやかに鈴を振り、のどかに草を喰んでいる羊をジツと眺めるならば誰しも心ゆく程の平和感に浸ることであろう。眞朴な羊飼達の心が利那的現世の想から何時しか大自然の神秘へ神秘の世界から永遠の考察へと解放されるのも無理からぬことであろう。況んやイスラエルの如き古き伝統と敬虔素朴な信仰の下に成長した国の人々に於いてをや。

折しも数名の牧者達が互に助け合いつつ交代で羊の夜番をしていたのであった。すると突然一人の天使が目の前に立ち天上の輝を以て彼等を照らしたのである。飼職と狂暴とに猛り狂う狼の群を恐れぬ彼等もかかる超自然の出来事にとつさには恐怖の念に捉われないわけにはゆかなかった。落ち付きを失った彼等に天使はゆつくりと述べた。

「恐る事勿れ、其は我人民一般に及ぶべき大いなる喜の福音を汝等に告ぐればなり。蓋し今日ダヴイドの町に於いて、汝等の為に救世主生れ給えり。是主たるキリストなり。汝等之を以て徴とせよ、即ち布にて包まれ、馬槽に置かれたる嬰児を見るべし。」

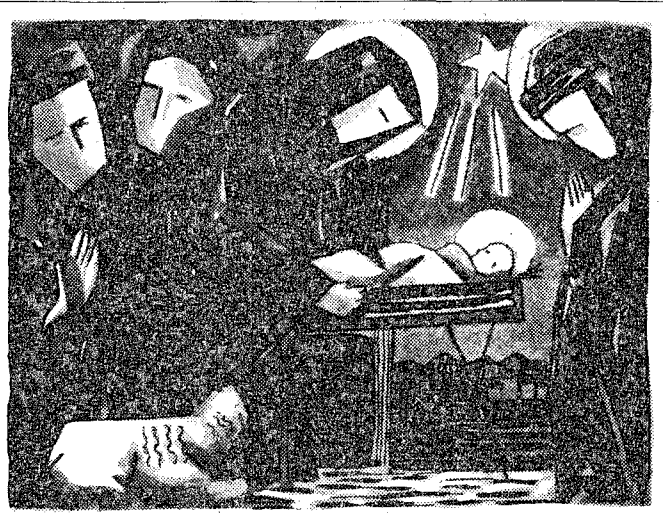
是を告げる天使の何と厳かな、何と慎しみ深い、然し又、何と優しさに充ち溢れた言葉使いであつたろう。祖父に語り継ぎ、云い伝えられし待望の数千年、其は救世主御降誕の喜き音信、歓ばしき福音に他ならなかつたのである。待つ間もなく閃く聖にもまごう天使の一群が嘗て一度も聞きし事なきいとも妙なる調べを以て新しき頌歌を奏するのを目撃した。「最高き処には神に光栄、地には御好意の人々に平和。」

悦びの興奮に浸り乍ら牧者達は互に顔見合せて云いあつた。「いざ、我等ベトレヘムまで行き、主の我等に示し給える事の次第を見ん。」と

星明りのほのかな明るさの中、かすかに動めく人影、形容し難い崇高な婦人の跪ける姿、信仰に充ちてはいるが見すぼらしい主と思しき人、申訳程の布に包まれた嬰児、天使に予め告げ知らされて想像していたとは云え是は又何と云う赤貧洗うが如き有様であろう！世界、醜闘より約束せられ、世々人々の期待を一身に身に背負い、失われしイスラエルを贖うべき救世主は金殿玉廊の中に生れ給うたのであつたろうか、否、嫩然たる臥所、あやなす褥、やわらかき雌衣、数多の侍者に仕えられ乍らの御降誕であつたのであろうか、否否。

牧者達は幼児をこの見すぼらしい洞窟に発見してどう考えた事であろう？失望し落胆して家路についたであろうか？否、滅びゆくイスラエルの救済の為、神が此世に遣わし給うた救世主たる事、神の告げ給いしことは必らずそうあるべきを確信し、深き信仰を以て礼拝し、主の救済を見たる歓びの中に帰途につ いたに相違ない。信仰なき者にとつて一握の礫の上に横わるこのいたいけな嬰児は無意味である、然し信仰の眼を以て見る時この嬰児の中には人間の生命以上のもつと高貴な生命が躍動していることが分る。この嬰児こそは至聖三位の第二のペルソナ天主の聖言、云い尽し難き永却の誕生によつて御父天主よりその神的御生命を与えられた御子である。キリストのペルソナに於ける神性と人性との一致融合歴史は遠くこの事実を遡び去つたが、実に臨流する生命はいつ迄も躍動している、聖ベルナルドの言葉を借りれば是は〝実に驚嘆すべき神智の傑作〟である

凡ゆる困難、凡ゆる煩、凡ゆる灰芝、凡ゆる不満に充つる人生、凡ゆるものを凌駕し、一切を支配せんとして止む所を知らない現代、何人をも信じ得ずして対立する世界、神の愛を知らない世界は一切が暗黒である、救世主イエズスキリストの御降誕を偲び、牧者の後に従つて厩の前に跪ずこう。其処にはつきる事なき謙遜の泉があり、謙遜とは何なるかが教えられる事であろう。不平と不満のみしか心の中に持たない者は「足る事を知る」神的知識が与えられる事であろう。五体を凍らす寒風に両手を拡げ給う幼児は塵かの不如意さえも気を配つて避けようと努める信者に犠牲とは何であるかを教え給うであろう。



幼きを謳歌する聖人たち

（十二月二十八日）

ダビドの街で、イエズスの御誕生に前後して産声をあげた男児達は、金利と権勢に眼のない大人たちにとつては、どうでもよい部ないの存在であつたにちがいない。

救世主出現の前期にあつては、男子の誕生は、イスラエルに約束を賜う天主の信仰と直結していた。この大いなる希望だけが旧約の人たちにとつて、天主に面をあげるための宗教の窓だつたのである。

或る静かな夜あけに、ベトレヘムの街は、羊飼い達の讃美のどよめきにゆれていた。大いなる福音が彼等の眼の下で実現したのである。

おびただしい天使達の飛翔と歌声で大気さえ喜びにうちふるつたのに、嬰児であるからとて彼等が無感覚であつたとは云えない。

大人達は羊飼いの話をいぶかり乍ら聞いたかも知れないが嬰児は感ずる処を疑うすべを持たない。懐胎せるマリアの訪問にあつてヨハネは胎内で躍つたと云うが、今や救主を懐にした大地の中、すぐ彼の傍で、彼等の肢体は雀躍したとも考え度い。

イエズスは後で「幼児のわれに来るを禁ずるなと」とて大人達をたしなめるが、彼等に向けられるイエズスの瞳は、時間をこえて御自分の生命的な事件の立役者としてこの嬰児たちを眺めた事であろう。

割礼がほどこされる時にも、御言葉なる御者は私たちには集合名詞でしか知られていない彼等の名前を一つ一つ弁えて居られた筈である。万民の養き牧者は斯様にふる舞われるのである（ヨハネ、十ノ三）

東方の賢人たちが貴重な貢物をラクダに載せてやつて来た。人々の注目が或る一人の子に向けられる時に、母親達が感ずる羨望の思いに子供たちはこだわる事を知らない。

選民の救主が無力な姿で降臨される。彼は少くともローマの狼共を足蹴にする程の英傑であるべきだと大人達は考える。

嬰児は自ら英傑である事に何等の矛盾も感じないのだ。暖つた存在の喜びと、体内に漲ちあがる生長の潮に押されて、救いの希望を堅実に彼等の腹の底に感じていた事であろう。

王位の確保をめぐつて、ヘロデは推理する。その推理に誤りがあつたとは誰も云えない。彼は今までにそれを固遠いなくやつてのけた。王位継承の問題でこのやり手の暴君は、妃を十人も取りかえた。最初の王妃ドリスを二子と共に追放する。第二の王妃マリアムネを殺害して二人の息子を絞首にした。姪にあたるベレンケの良人を毒殺し、死の五日前に実子アンチパテルを殺させる。殺害という方法で彼の推理は間違いなくその目的を違してゆくのである。

東方の賢者達が「生れたユデア人の王は何処に？」と云つた時彼は狼狽した。推理の薄処がないのだ。彼はその推理の土足を啓示の聖域にまで運び込もうとする。しかしその前に天主の足を掴まえ度いので賢人をスパイに仕立てた。期待が裏切られると推理はぎりぎり一杯まで追い込まれる。「二才以下の男子を殺す」と云う結論が暴君の行動の上に下された。

隠忍持久していた幼児の軍勢が怒りをもつて立つたようであるヘロデの軍隊の矢面てに人垣をつくつて対向する。彼等が立たなければ、石が立ちあがつたであろう。「彼等黙せば石叫ぶべし」（ルカ十九ノ40）イエズスはこう云つて彼等の召命を弁護されるに違いない。

軍隊の足音を嬰児等は平然と聞いただろう。そして殺害の刃の苦痛を全存在をもつて告しんだ〝言葉ではなく、血でもつてイエズスを賛美し〟と典礼文が彼等を称える意味はこうであろう。イエズスの救いは、人間の中の、こんな風に根ツからは腐敗していない初穂を聖化するにこそ存するのである。彼等の中で亡ぼされなければならぬのは、悪魔の支配だけである。大人達に於けるこの支配に対しての阿諛や流し眼の風習は、救いの雰囲気ではない。「キリスト的幼児期」と呼ばれる霊的教説が霊生の定説として古くから尊ばれる所以は先ずイエズス御自身が幼児の純粋さを身につけて出現された事に依るのであるが、御降誕祭の直後に紫色の祭服で記念されるこれ等の幼き聖人達のおのが存在をあげての証明はたしかにこのキリスト教精神に華をそえたものと考えられる。

嬰児は御摂理の上を推理しないで、御摂理の下に臥す事がどんなものかを見たい。御誕生にはこの山に厩を造つて下さい。牛とロバも忘れないように」

例によつて奇妙な発案である。丘を下つて行く領主はこの新しい考えがどうもピンと来ないまま、村に入ると野良に居る人々にその事を話した。

ところが一農夫がそれを歓迎し領主の不審をはらしてくれた。「フランシスコさまが、あんな生活をされるのも、もともと清貧の姿に生れ給うたイエズス様を模範にされてのことじやで、御誕生は救主の清貧のお祝日でしようもの、旦那、することがあれば、わーあ、よろこんでこの二つの腕を借しまさあ。その日にや、わしの家畜どんもしこたま甘草を馳走してやりますよ。聖母さまと一緒に御子さまを温めてあげたんですからなあ」

領主はこれですつかり納得がいつたらしい。

山の上にある洞窟につくりつけた厩には祭壇が設けられて、馬草が運ばれ、苦心さんたんしてXマスの何よりもの楽しみであろう。私もこの夢を持つていた頃……もうずいぶん昔の様に思われる。

その年のクリスマスが近づいてくると、私は毎日家の中にある小さな祭壇の前にひざまずいて、「どうぞ、サンタクロースのおじいさんが、おはじきと風船とぬり絵と着せ替え人形を持つて来て下さいますように」と一心に祈つたものだ。

Xマスの朝が来た。目をさました途端、胸がどきどきしてきた。静かに目を閉じて、枕元をさぐつてみると、手に「バサツ」と大きそうな包みが、ぶつかつた。胸のときめきが激しくなるのが、自分でもよくわかつた寒いのも忘れて、あたたかいおふとんからとび起きた。

「かなこちやんへ　サンタクロースのおじいさんより」

と墨で書いてある。

「お母ちやんプレゼントが来てたー」と両手でやつと包みをかかえて、家中にひびきわたるような大声でさけびながら走り回つた。包みをおもむろに開いてみると、ぞくぞく、すてきな物がぎつしりつまつていたが、福音を読むと、熱烈な説教が初まつた人々の心の中に、忘れられた幼きイエズスの玄義は新たによみがえつたのである。

村人は櫃の上にすやすやとねむる嬰児を見た。フランシスコが抱きあげると目をさまして、ほえまれたと云う。又馬草は幼きイエズスの追憶のために大切に各々家に持ちかえつたが、後で家畜の病気を癒したり、その地方の厩を伝染病から守つたとも云われている。真偽はともかく、厩はこの時以来、教会の降誕祭に愛憐をもつて飾られて、最も大きなよろこびと最も大きな貧しさをその姿の中に想わしめているのである。

ロバと牛が引きあげられた。祭壇の下には馬草櫃が置かれただけであつた。

夜になると山の細路は村人のたいまつで明々と照らされ聖歌は谷を埋めつくした。

ミサが捧げられる時、フランシスコは祭壇の傍で身うごきもせずにあづかつていたが、福音を読むと、熱烈な説教が初まつた人々の心の中に、忘れられた幼きイエズスの玄義は新たによみがえつたのである。

村人は櫃の上にすやすやとねむる嬰児を見た。フランシスコが抱きあげると目をさまして、ほえまれたと云う。又馬草は幼きイエズスの追憶のために大切に各々家に持ちかえつたが、後で家畜の病気を癒したり、その地方の厩を伝染病から守つたとも云われている。真偽はともかく、厩はこの時以来、教会の降誕祭に愛憐をもつて飾られて、最も大きなよろこびと最も大きな貧しさをその姿の中に想わしめているのである。

勝利へのスタート

一瞬の停止もなくめぐる時の中に、一九五五年は紙ひとえにもあたらない薄い、然し固く閉じて二度とは開かない切れ目をつけて、そのコースを終りました。その一年の間に起つたこと、為されたことの一切合切を永遠という大きな袋の中に包み、我らの目から葬り去りました。私も、私が思い行い為したことも、言つたことのすべてが、この永遠の袋の中に収つてしまつたのだ。が私のそれらは、その中にどんな所をしめているであろうか。各自が省みるべきであります。或は感謝し、或は痛悔の胸を打ちつゝ、ここに与えられたる新年の競走場裡に、わが為に新しくあざやかに引かれている、わがコースの上に一層の奮発と熱心とを以て、目的なき者の如くではなく、勝者に約束されている永遠の栄冠を目ざして、スタートを切りたいものであります。



うまやの由來

〝肉眼で天主を見ることにより、見えざるものへの愛に引かれる〟（降誕祭の序誦）

キリスト者は、子供のような心で、御降誕をお祝いする。御托身の玄義は、すぐそこで、多くの夢が実現しそうな感動を伴つている。

この感動を厩の状景の中に表現する方法を、カタコンブの美術も弁えていた。

〝牛はその飼育者を知り、ロバも主の厩を弁えるのに、イスラエルは何も弁えがない様に忘恩である〟イザヤ予言者のなげきをひびかせて、馬槽桶の傍に牛とロバを配することを忘れなかつた。

一二二三年、アシジのフランシスコの天才が、美しい習慣を創り出すまでは、御降誕祭厩ととは今日程の関係はなかつたものようである。

この年、聖人は、多くの人の反対にもかかわらず、彼の清貧の会則に教皇の認可を得たのである。その直後、グレツチオの丘で精神の緊張から解かれて居たかつたためにこの人里はなれた山に庵を組んだのであろうが、彼の心には、近づく御誕生の新しい祝い方がうかんで来た。

隣人であり又心の友であつたリエツチの領主ジョアンニにその計画をもらした。

「私はベトレヘムで生れた御子の想い出をお祝いし度いと思う。この眼で、人の子となる事が、どう云う事なのか。厩の中で牛とロバに温められて、馬槽の上に臥す事がどんなものかを見たい。御誕生にはこの山に厩を造つて下さい。牛とロバも忘れないように」

例によつて奇妙な発案である。丘を下つて行く領主はこの新しい考えがどうもピンと来ないまま、村に入ると野良に居る人々にその事を話した。

ところが一農夫がそれを歓迎し領主の不審をはらしてくれた。「フランシスコさまが、あんな生活をされるのも、もともと清貧の姿に生れ給うたイエズス様を模範にされてのことじやで、御誕生は救主の清貧のお祝日でしようもの、旦那、することがあれば、わーあ、よろこんでこの二つの腕を借しまさあ。その日にや、わしの家畜どんもしこたま甘草を馳走してやりますよ。聖母さまと一緒に御子さまを温めてあげたんですからなあ」

領主はこれですつかり納得がいつたらしい。

山の上にある洞窟につくりつけた厩には祭壇が設けられて、馬草が運ばれ、苦心さんたんしてXマスの何よりもの楽しみであろう。私もこの夢を持つていた頃……もうずいぶん昔の様に思われる。

その年のクリスマスが近づいてくると、私は毎日家の中にある小さな祭壇の前にひざまずいて、「どうぞ、サンタクロースのおじいさんが、おはじきと風船とぬり絵と着せ替え人形を持つて来て下さいますように」と一心に祈つたものだ。

Xマスの朝が来た。目をさました途端、胸がどきどきしてきた。静かに目を閉じて、枕元をさぐつてみると、手に「バサツ」と大きそうな包みが、ぶつかつた。胸のときめきが激しくなるのが、自分でもよくわかつた寒いのも忘れて、あたたかいおふとんからとび起きた。

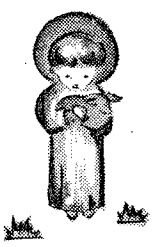
「かなこちやんへ　サンタクロースのおじいさんより」

と墨で書いてある。

「お母ちやんプレゼントが来てたー」と両手でやつと包みをかかえて、家中にひびきわたるような大声でさけびながら走り回つた。包みをおもむろに開いてみると、ぞくぞく、すてきな物が出て来た。「サンタのおじいさん私の名前を良く知つていたものだな、きつと云うこともきくしいつしようけんめいにお祈りしたからだわ」と自己満足し得意顔になつて、もやで満たされているお庭に飛び出て、深呼吸した。もやのにおいが、鼻をつく。もやがうす紫に見えて、美しかつた。この上なく幸福だつた。

この幼い夢も、つかの間にこわされてしまつた。もつとそうとしておいてくれればよかつたのに。（久留米教会所属信者）

幼き頃のクリスマス



徳玉　加奈子

「サンタクロースのおじいさんが、いい子の所にプレゼントを持つて、煙突から入つていらつしやる」ということは、実に愉快な夢であり、子供にとつて

クリスマスキャロル

昔は、降誕祭の情感を歌つた現代は、この歌から凡ゆるファンタージを生まんと焦る。

（史子）

しかし、彼等は自分たちの存在を以て之を礼拝し、讃美し、之に身をまかせる。天主はこをよみせられるのだ。

〝彼等は神と共のために初穂として人々の中からあがなわれた純潔なものである。彼等の口に偽りがなく、傷のないものである、彼等は小羊の行く所へは、何処へもついて行く（黙示録十四の4）

（一九五五、十二、十五）

伊東誠二

たのしいクリスマス

二年　大坪京子

クリスマスは、たのしいですただ、プレゼントを、いただいたりすることがたのしいのではありません。自分のこころにイエズスさまが、お生れになるからたのしいのです。おめぐみをいただくのがうれしいのです。」と、こうきようよりのおはなしをうかがいました。イエズスさまが、お手本をおみせになつたこともわかりました。わたしは、イエズスさまを、おむかえするために、こころのじゆんびをしています。たくさんのおいのりやきせいをささげております。

農村の叫び

荒木彰五郎

都で育つた人達には農村生活の姿、いや農村人の考えが理解出来ないのは当然であろうが、最近の布教は都市重点的又は優先的と見るのは農村人のひがみか。靈魂の危機は都市労働者より農漁村の青年男女に少いとは決して云われない。

農村は今、大豊作に恵まれている。豊作に微笑しているのは人間だけではあるまい。そうだサタンもこの空前の喜びに浸る農民に対して全機能をあげて突撃して来ているその手段が余りにも農民の心理にマッチしているので所謂赤化の第一段階を過ぎ第二段階に立つて居ることをすら農民は感じない。此の攻撃に対するに正義の軍隊はどのような作戦で、どのように戦っているのか？農漁村に住み、農を業としている私は叫ばずにいられない。作戦は？その軍隊は？

コムニストのヤロビ農法を見てみよう。彼等は誰でも考える通り最初は水害等で生活苦や不平の多い農村に勤労奉仕や政治問題を携えて突入する。がこれは農民との接触といつてもあまりに一部の農民が対象であるので、その次にヤロビ農法により農村人の関心を集めようとするすでに長野地方では之による強力な組織が構成され、最近は九州にも侵入している。此の組織によりミチユーリン、ルイセンコの環境遺伝学説、ひいてはダービニズムをも仮説の衣を脱がしめて正当化する。余談であるが宣教師の方達はダービニズムはもはや欧米では過去の学説であると一蹴なさるが、残念なことには、日本の自称インテリは此のダービニズムを現に扱つているから仕方がない、どちらか譲らねばならないらしい。さて一般農民にはヤロビ農法によつて増収することを実証し、経験せしめることにより、該方面に於ける政府の研究機関への不信更にそれを政治的に結びつけようとする一方には、生活、文化に精神的要素を除き、唯物思想を吹込んで農漁村の青年男女の精神を機械化しつつある。此の憂うべき現象の温床は勿論、農漁村人種の側にもある。彼等の長所であると同時に欠点である習癖に、一つの技術を採用するに当り、理論的に之を追求し納得してその後に自分のものとして導入するのではなく、表面に出てくる現実的な成果に信をおいて技術を模倣することに非常な積極性を持つていることがある。模倣は退従に到らしめる。生産技術を同伴する農漁村への浸透はコムニスムのみならずカトリシズムにしてもゆめおろそかにしていいとは思つているまい。

見る所、カトリック陣営に於ては、JOCのような組織はあるがそれは工場労働者を対象としている。時間を定めて読書やディスカッションの機会を持てる都会の労働者にはJOCほかそれぞれのグループ、文化サークルが活動しているのに反し、模倣追ずいを得意とする農村人、理解それを生活の指針とするには難渋し勝ちの彼等には、靈的指導者のもとに活動する組織のなんと少いことか。

農村に根をおいているJOC、レデオ、青年団などどもろもろのグループよ、願わくば有名無実の組織にならないように。危機に立ち続けている農漁村の純朴な靈魂に祈りと、そして祈りと同じ程大切かもしれない生産手段の進歩向上え不断の開眼をうながしつつ農漁村のみでなくいては祖国日本に一日でも早く主の聖旨の行われんことを共に祈願して進もうではないか

（筆者は元佐賀県海の星中学校職員）



仰ぎみれば星のかゞやき空にみつ
　み子あれませることほぎの夜を
風寒き馬屋に眠るみとり子を
　拝しまつらむ熱き憂もて
とこしえの生命与へて死し給ふ
　神なる御子はあれましにけり
とこしえの生命いたゞく幸福を
　深く思ひぬ馬槽の前に
博士等は三種のたから捧げけり
　我も捧げむ愛のみつぎを
ろうそくの灯影ひときはかゞよひて
　降誕祭のミサ始まりぬ
真夜中のミサに与りし身の幸に
　心安けく聖堂を出づ

質問欄

【問】カトリック教会は権威主義であるとのことを或る熱心な信者さんの口からよく聞きます。漠然たるものですが、私の入信の不安の一つである事は否めません。本当はどう云うことでしようか？（一未信者）

【答】近代社会では怪物扱いを受ける権威という言葉を正しい意味で考えますと、創造主なる神の超絶的な主権に根底を持ちその御意志より発する秩序の中にあるものと言うことが出来ましよう。

人各々の上に立てる諸権に服すべし。けだし権にして神より出でざるはなく、現に在るところの権は（それが自然的なるものにせよ、人為的なるものにせよその範囲内に於て）神より定められたるものなり（ロマ一三ノ一）

こゝから、権に従うは神に従うなりとの結論を得ます。

他方人の信用を土台とした権威見たいなものがありますが、これを右の規則に当てはめる処に不安が出て来るのです。

端的に云つてカトリック教会の信仰生活の規準は人間のいかなる主義からも出発したものでなく、神とその思召しに初まるものであります。神よりの権威をかさに着て、明らかに御意に違う様な命令が下される場合には断固として排斥すべき事を教えています。

（筆者大名町司祭　伊東誠二）

「カトリックならでは」

寛容、そして愛の火は燃えている。

M T生

ブウーン、ウーンウーンと朝の六時かつきり暗い寒い空に、サイレンは鳴る。亦火事かなと頭の中を走つた。が常には五秒置きの中断が火事のサイレンであるのに続けざま一分間の吹鳴であるのは、はあー防火週間だなあと安心する。

K市のど真中に雪のサンタマリア医療法人の経営する病院がある。×月×日の午後は寒気加わり風速十乃至十五米の強風が道行く人の外套の襟を立てさせた。街の家々には明か明かと火が点いていた。突然この病院の洗濯場に続く物干台の上にめらめらと火が走つた。固唾を入れず附添婦等は水道の水を無我夢中でかけて漸く消し止めてホツとした。

下では今頃こんな水がと見上げた瞬間、火だ火だ。火が小根太をなめている。上では火の板だけは消したものの下は見えないのだ。炊事婦の一人がけたましく大声で叫び、二人の男は駈上りざま、消火に努めたので大事に至らずしてすんだ。

大体、火は子供が過つて紙片を火鉢に落した程度もなかつたかもしれない。しかし強風下に乾燥しきつた露台では全く身の毛もよだつ思である。入院患者諸君がこの事を知つたのはずつと後の事だが、若し大事に至つたとすればサイレンと一緒にとんで来た、消防ポンプの御免舞を受けるやら焼出されて目も当てられぬ惨状を呈したとだろう。

失火の当事者等は内輪で済まそうと、この大事が公にならなかつたのを幸、心おののきながら無言のままだつた。その日の当直は病棟主任の○○看護婦だつた。食事中途でまつさおな顔で非常階段より駈上り、又、診療室にいた院長先生も駈付けたがもう事は済んでいた。先生は何の言葉もなく、深く心に決する処ありとみえた。折も折、分院々長の理事長先生は院長先生と入違いに現場に這入つて来た硬直した顔面は異状な緊張味を帯び「この事に関係ある人は皆降りて来て下さい」と云いながら階下の方に歩いた。附添婦の三人、当直看護婦その他が一列に並んで続いた皆が泣き出しそうな顔をしている時、理事長は「誰が今日の責任者ですか」と口を切つた。「寸沈黙が続いて「○○さんで…」「責任者はその所在を明らかにして責任を取つてもらいましよう」「いや三人でやつた事です」亦、看護婦長次席等も各々「責任を取てもらいましよう」と厳然と云い渡された病院内はもう暮れ行く外の暗より暗いとばりが人々の心にたれ下つていた。看護婦の一人が責任上やめるとなると、仕事が共同のため、三人共やめねば一人だけを苦境に陥れる事になる三人中二人迄が戦争未亡人で二人の子の母である。責任者と目される婦人は真赤に眼を泣き腫らしている。只できえ失業者のはん濫している不況時、しかも年の暮の押し迫る時、投出されてはどうなることであろう。男の患者等は見かねて代表をたて謝罪を申入れて穏便にとり計つて呉れるように理事長に願出た。理事長は事理を明かにすべしと云う毅然たる態度であつたので、続いて患者一同からの歎願書が病院当局に提出された。理事長からは会議を開いて事を決するとの返答であつた。

次の日痛む胸を押えて皆が発表を待つ中に、やがて本院々長賞与お預け、当直の病棟主任の賞与削減、火事の早期発見者の炊事婦に賞与五千円と云う事が発令され、皆互に顔見合せ余りの寛大さと慈愛の籠つた処置に涙が人知れず頬をつたつたのだ。

民主的に勤務者の声を聞かれた当局の態度は正に「カトリックならでは」到底この寛容と慈愛を持つ事は不可能であろうと思う事は盛し筆者のみではなかろう。

「汝等人を計りたる如くに計らるべし……」

すいせん図書

「スコラ哲学入門」

ジャン・M・マルタン師
ドン・ボスコ社　発行著

中世を暗黒時代と呼ぶならばそれは、自分自身が中世に対して暗黒だからだ。自ら光りを求めて中世の繁林にわけ入れば、そこに珠玉の様に輝く幾多の文物を見出すことが出来る。スコラ哲学もその一つである。

最近、徐々に、中世に対する再認識の傾向と併せてスコラ哲学研鑽の声が高まりつつあるのは喜ぶべき現象であるが、専門的研究にたづさわる人々は措くとして、一般の学徒や知識人が手軽にひもどくことの出来る入門書は、不幸にも我が国では数少い。

本書は、序文に於て学習院大学教授大沢章氏が紹介して居られるように、パリ外国宣教会司祭としてわが福岡教区にもなじみ深いジャン・マリタン師が、かつて福岡大名町教会に於て、連続講座として行つた講義を集録したものである。平易な文章と適切な内容の撰択配置は、スコラ哲学のアウトラインを知るに恰好の手引となろう。

最後にカトリック学徒の為に申し添えたいのは、B6版二九二頁の小冊子を以て久遠の哲学の真随を網羅することは不可能なことで、寧ろ本書を踏み台として、更に高度の専門的な研究によつて、永遠の叡智えの道を究めて頂きたいことを著者と共に希望するということである。

（東光町　畑原神父）

〔実話コント〕「此の母をごらん」

室野治次

大正三年二月十二日の正午のこと。桜島は大噴火を起し、黒煙は天に沖し、忽ち附近一帯は修羅場と化した。丁度その頃、附近海上に演習中の軍艦にあて佐世保の司令部より救助命令が発せられた。軍艦が鹿児島湾に到着した時、黒煙の中から昼なお、しるき真紅の溶岩が、文字通り雨と降りそゝぐ中に桜島々民は海岸に救いを求めている。

艦の全部のボートは下され、水兵達の必死の救助作業が続けられた。この作業もあらかた終ろうとする頃、子供二人を小わきに抱えて、ひとりの母がボート目がけて走つて来る。子供を水兵に手渡すや止める手をふり切つて、再び山の方へ去り去つた。人々が不安な心で待つ中に溶岩の雨の中を先刻の母親が、又もう一人幼児をひしと抱いて走つて来た。母の手足や顔に血が流れ、かなりの重傷である。

よく見ると幼児の手足もぶらぶらしている。驚いた水兵は「この子供の手足は折れている」と叫ぶと母は、苦しい息の下から「この子は生れつきの片輪なのです。」と云う。その時、一人の水兵がほろほろと涙を流しながら目をつむつた。他の水兵がその姿を見て「何だヤソ。此の子はけがじやないんだとよ。お祈りはよせ。貴様のお祈りは食事の時だけで結構だ。」とからかつた。

ヤソと云うあだ名の水兵は眼をあけるや、「おい貴様、此の母を御覧。片輪の子を重傷の身で再び家に引き返し助け出したこの愛、この母の愛の幾十倍幾百倍したものがキリストの愛だ機のお祈りをとやかく云う前に貴様のお袋の事を思え。」と力強く云いはなつた。この言葉に打たれ、一瞬あたりはしんとなつた。その時、指揮官の兵曹が「天羽君有難う。よく判つた。僕は今日から君と僕のお袋に、もつと敬意を払わねばならない」と云つた。やがて人々を載せた艦は鹿児島湾から姿を消したが此の母の愛と、水兵の言葉は人々の心から心へ今も姿を消していない。

× × ×

伝え聞くところによれば、この水兵は後に修道士となられ、深い感銘を受けられた兵曹は三年後受洗されたと云うことである。

よき讀書は心の油

やさしき御母　聖パウロ女子修道会訳
マリア様の御生活をやさしく書いた子供向きの本　¥130

永遠の傑作　カンドウ神父著　¥180

毎日のミサ典書　バルバロ尾方寿恵　共訳編　¥850

カトリック家庭カレンダー　¥70
カトリック美術カレンダー　¥100

聖パウロ書院
福岡市大名町・トリック教会横

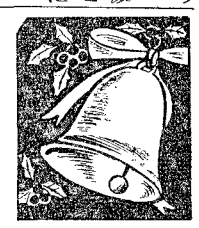
八ミリフイルムと八ミリ映写機　九州総発賣
福岡市上小山町一五

カメラのゴゴー商會
電③東一〇八〇番

一、幼稚園用、子供用八ミリ各種フイルムがあります
一、映写機は最新タイプ光音最も安く実用的八ミリ映画を御利用下さい

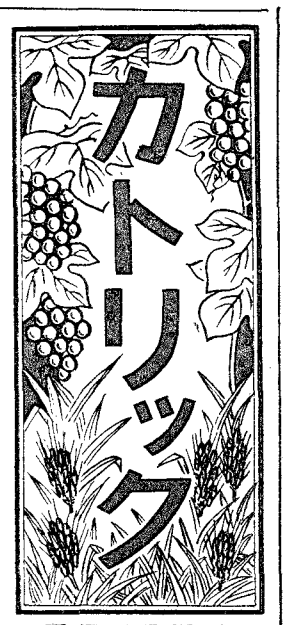
クリスマス
薩野和代

夢のヴエールの彼方からかすかにかすかにソリの鈴の音
トナカイのつのはヴエールを出でゝ
空をかけ銀の河を渡り
子供等のもとへ走る
靴下の中にも限りなき喜びは秘められ
みめぐみは子供等の心に
夢よりさめて幸せを満たす
粉雪は聖らに舞ひおごそかなるクリスマスの鐘ー
幼きは幼いまゝの幸せに
胸あたたかく今宵をうたふ



ことしのクリスマス
ながののりこ

クリスマスが、ちかづいてきました。わたしは、イエスさまのために、たくさんの、ぎせいを、しています。一つの、ぎせいは、さむいけれど、とびおきました。二つめのぎせいは、ようねんブックが、ほしかつたけれど、ぎせいをして、ぎせいだまを、二つあげました。そして、いもうとの、じゆんこちやんにおいのりを、おしえてあげました。いつもねるときに、おいのりをしてねます。じゆんこちやんは、三ばんめの、みみこちやんと、ときどき、クレバスの、とりあいつこをします。わたしが「じゆんこちやんは、おねえさんだから、かしてあげなさい」と、いつたらじゆんこちやんは、おこつて、わたしの、ほつぺたを「パチツ」と、たたきました。わたしは、いくらいたくても、ぎせいをしました。



可諾司教　深堀敏
発行所　福岡市浄水通　福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏
定価一部十円

四旬節と信者の心構え

福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

救主イエズス・キリストは教会の典礼に従つて、二月十五日灰の式を以て四十日間の御苦難節に入り給うのであります。主の御受難と十字架上の御死去との御功力によりて贖われ、洗礼の秘蹟を以て、主に接がれ、永遠の生命を約束されている我等も、又主の御受難、御死去に与り、祈りと痛悔の苦業によつて聖寵を蒙り、罪と罪の源である自己の情慾に死し、自己の聖化をはかるべき〝よき時〟に入るのであります。このよき時に当り私は聖パウロがフイリツピの信者に書き送つた〝汝等キリストの為に賜りたるは、只彼を信ずることのみならず、又之が為に苦しむことなり〟（一ノ二九）の心を以て、我が福岡、宮崎両教区の司祭、修道者、信者諸子に呼びかけ、共に默想したいと思うのであります。

もともと天主は人祖アダムとエワを義なるもの、秩序正しいものに造られましたが、彼等によつて罪が一度世に入り来るや忽ちこの秩序は乱れ、情慾と衝動は上位の理性に反抗して、我等を罪にそゝのかすのであります。人が若しこの不秩序の中に放置されていたら、肉身の死のみならず殊に霊魂は永遠の死に陥る外なかつたのであります。所が憐み深き天主は我等を死の不幸から救い上げる為に、御独子を救主として世にお遣しになりました。これ救主イエズス・キリストであります。救主は三年の間苦しみの生涯を送り、遂に十字架上に死し、三日目に復活し、その御功力によつて我等の罪に死なしめ、聖寵の生命に復活せしめる道を開いて下さいました。この御功力を実際に我等に蒙らしめるものは、イエズス・キリストを信じて受ける洗礼の秘蹟であります。我等は洗礼を以てキリストに接がれ、その御生涯、その御業の凡てに接がれている訳であります。それで我等は主が我等を罪より贖い、永遠のたすかりに入らしめる所謂救世の大業を為したと伊給う御苦しみ、十字架上の死にも又接がれているものであり、それに与るべきものなのであります。罪深い一被造物の身で主キリストの救世の玄義に与ることを許されるとは何とした大きな光栄でありましょう。

然し我等はどういう風にすれば主の御受難に与ることになるのでしょう。母たる教会は祈りと痛悔の苦業を以て聖寵を褒ること、自己の改善聖化を勧めています。もう少し具体的に申せば、信者の基礎的苦業即ち天主の十誡、聖会の掟を忠実に守り各自の身分上の義務を完全に果し、罪の機会を避けることにあります。尚自己愛や傲慢などの欠点を、このよき時に吟味し悪の根が全く枯れ果てる迄、戦つて行かねばなりません。この外にも病気、災難、貧困、他人からの非難、生活の重圧など凡て自然の傾きに反する苦しみがありますが、之等の摂理的苦業を利用すれば、欠点を矯めなし自分の聖化とキリストとの一致に役立てることができます。

この様にして我等は四旬節を主イエズス・キリストと共に祈り、自分と人々の為に罪の病悩の苦業を主と共にし、天国の世嗣を約束されている天主の子として、信仰と希望との中にこの〝よき時〟を過したいものであります。各々が聖パウロの〝汝等キリストの為に賜わりたるは只彼を信じるのみならず、又之が為に苦しむことにあり〟との御言葉を、我が身の上に実現せしめる様、励みたいものであります。そうすれば、我等は又主と共に復活の光栄と喜びに入ることができるでありましょう。

私はかく祈り、かく望みつゝ皆さんの上に心からなる祈福を贈ります。

永久聖体礼拝

二月
第一日曜　光の園（別府）
第二日曜　修道院
第三日曜　小倉教会
第四日曜　健軍教会
（最終）　大在教会
訪問聖体会（大濠）

世の光

美しいもの

先日はるばる来朝して、音楽芸術の粋を紹介したウイーン少年合唱団は、既にレコードその他を通じて聞き知つていた人々にも、又初めて聞いた人々にも消え去る事のない深い印象を与えた。この世のものとは思えない程に美しい世界に誘いこまれたわれわれは、幼い音楽家達の才能を見るにつけ、長い間にこちかわれてきた伝統の力と、きびしいたゆまない習練の偉大さに、今更のように考えさせられたのである。金聴衆を聞題なしに魅了したものは、耳に快くひゞいた美声や合唱の技術というよりも、それを包み、生かしていた彼等特有の品位、清純なふん囲気そしてその内的な美しさであつた。

こういう稀な美しさでなくても、人は誰でも美しいものには心を引かれる。美しいものを眺めて楽しみ、美しいものを創造しながら、この世の人生に喜びを見出すのである。人間が美を鑑賞したり創造することに労を惜しまないのは、自分達の生む世界を更に美しくすることによつて、自分達自身がもつと美しくなることを望むからであり、又自己の美によつて他を美しくすることができるからである。

美学という学問が最近発達している。それによれば、或物が美しいと云われるには少くとも次の三つの条件がそろつていなければならない。先づ第一に完全なものであつて、不備なところや、未完成なところがあつてはならない、次に適当な均合又は調和がとれていること、最後に内部の完全性からできる或る程度の輝きを備えていることだそうである。

こういう条件を立派に備えてどこから見ても美しいと云われるもの、即ち理想美をもつたものをこの世では勿論見出すことはできない。然し最高、絶対の美がある筈だとは理論的に確実なことである。これをわれわれは神と呼んでいる。

然し抽象的にではなくて具体的に、人の心に触れるようにこの神の美しい姿を見せてくれるのがキリストの教である。神の美しさはキリストの教を学び、そして信仰によつて神を受け入れるに従つて、除々に明らかになつて来る。この世に於ては神の美しさを恰も目で見る様に見て心を奪われるということは極く稀な聖人にしか許されないことである。われわれは只来世に於てのみ〝顔と顔とを合せて〟神を見て美しさを楽しむことができるのである。これが天国の福楽である。

この世では信仰によつて〝おぼろげに〟神の姿に接するか、又は神に造られた自然界の美しさを通じて、創造主の美しさをおしはかることしかできない。恰もウイーンの少年達の音楽をきけば、神のまわりに集う天使達の讃歌を想像する様に。この世の美しいものは凡て完全美である神を部分的に反映しているものであるから、人々は自然の傑作を嘆賞しつゝ神を讃美し、自ら神の業に真似て自分達の力でも美を創造し、この世の生活を更に美しいもの、神の実際の美しさにもつと近いものにしようと努めるのである。宗教の栄える所には芸術が栄えるのはこの理由による。

キリストの教は天国のみを強調してこの世のものを排斥する宗教だと誤解されがちである。その来世観は決してこの世の美しさを否定するような狭量なものではなくて、凡てが永遠の美とつながつていると教える。こういう身近を美を通じてこそ益々神に近づくことができるのである。

然しわれわれはこの世の美しさを感覚にふれるものだけに限つてはならない。この世にはそれよりも遥に美しいものが隠されているのである。目に見える美しさだけでなく、人の心をひきつけ、楽しませる美しさがある。美しい思想、美しい秩序がそれである。この種類の美しさは人間の精神の美であり、人格そのものから発する輝きである。目に映る自然界のどの様な美しさでも磨かれた人の心の輝きには遠く及ばない。それは神の美しさに最も近く、現想美の最も完全な〝似姿〟と云われる。美しい心は美しい生活となつて現れ、美しい言葉となつて人を感動させる。美しい心がこの世を美しいものにし、悪の汚れを放逐して平和をもたらす。美しい心のみが美の本源にて在す神を見出すことができるのである。

（深堀　敏）

祈禱の使徒会　二月

【一般の意向】酒精、麻薬等の乱用防止

アルコール飲料、煙草等は、天主につくられたものであるので決して悪ではない。教会もその正しい使用を禁じることはないしかしその度を過ごし、あるいはそれらのものを乱用すれば罪にもなりまた種々の弊害を生ずる。煙草を過度に飲み健康を害した何万人、飲酒により家庭生活を乱した幾万人、娯楽場で財産を浪費した無数の人を考えて見よ。その他最近問題になつているのはアヘン、モルヒネ、ヒロポンのような麻薬乱用のことである。その恐しい結果についてこの頃新聞にもたびたび書かれているが、麻薬乱用者は全く人間らしい生活を送り得なくなるまたこれらの乱用者等は悪いと知りながら改めることはむずかしいのである。それ故、この乱用から多くの人々が救われるように祈り防止のために努力しよう。

【布教の意向】ヴエトナムの教会のため

ヴエトナムは今年七月、国民投票が行われるまで朝鮮のように南北に分割されている。北部の共産圏の事情は詳細でないが、四年前からはじまつた宗教迫害は一時停止されたが、「愛国カトリック運動」「教会における宗教生活の制限」など続けられている。南部も、北部からの九十万の移動と共産党や種々の秘密結社の地下運動等のために危険にさらされている。今月は特にこのために祈りと犠牲をさゝげよう。

【布教意向】共産主義者のために



家庭の元后

福岡小神學校入學生徒募集について

（中学部編入及入学）

一、願書受付　二月十日（金）から三月三日（土）まで

一、選考日　三月五日（月）本人出頭のこと

一、選考方法　書類選考　主任司祭推薦書と出身学校長の報告書による

福岡市浄水通り三八　福岡カトリック小神学校
平田惣五郎　神父

二月



一日（水）アンチオキアの聖イグナチオ司教殉教者
二世紀の始め、トラジヤン帝の治下で殉教

二日（木）童貞聖マリアの御潔めの祝日
御降誕の祝日より四十日目、聖母はイエズスを伴つてエルザレムの神殿にお上りになり、モイゼの律法に従つて、潔めの式にあずかり、同時に御子を天主に捧げ給うた。今日ローソクの祝別を行うこともある。火のともつたローソクは暗の世を照らす者等の信仰のシンボルである。

三日（金）初金曜日
四日（土）初土曜日

五日（日）六句節の主日、聖女アガタ童貞殉教者
〝天主の御言の種子は誰の心にも蒔かれる。正しい、素直な心を以て受け入れるものは、百倍の実を結ぶことができるが、この世のことのみに心を奪われていれば、何も生じることができない〟と今日の福音は教える。
聖女アガタは二五四年シシリー島で殉教。

六日（月）日本二十六聖殉教者
日本人が全世界に誇り得る信仰のかゞみ。一五九六年（慶長元年）十二月捕えられ、翌年二月五日長崎立山で殉教。一八六二年（文久二年）教皇ピオ九世より聖人の位に挙げられた。廿六人中廿人が日本人。

七日（火）教区司祭月の集会の日
八日（木）アレキサンドリアの聖チリロ司教博士証聖者
九日（金）聖女スコラスチカ童貞
十日（土）ルルドに於ける無原罪の聖母御出現の記念日
今から約百年前フランスのルルドの一少女ベルナデツタに無原罪の聖母が出現し給うたことを記念する。

十二日（日）五旬節の主日
今日のミサで、有名な聖パウロの愛の讃歌が読まれる〝我たとい、山を移す程なる一切の信仰を有すとも、愛なければ、何物にもあらず。又わが身を焼かんる程にわたすとも、愛なければ、いさゝかも我に益あることなし〟と愛の優越性、偉大さを説く。

十五日（水）灰の水曜日
〝人よ、汝はちりなれば、又ちりに還るべきを記憶せよ〟今日より愈々四旬節が始まる。キリストの十字架を手にしつゝ、自己の欲情と世間の誘惑に対して戦を宣すべき時であり、キリストと共に光栄の復活を準備すべき時期である

十八日（土）ルルドの聖女ベルナデツタ童貞

十九日（日）四旬節の第一の主日
〝今日こそはよき時なれ、今こそは救いの日なれ〟四十日の断食の後、主はわれらの先頭に立ち、悪魔の攻撃に敢然立ち向い給う。

廿二日（水）使徒聖ペトロ・アンチオキアに教座を定めた祝日　四季の水曜日

廿五日（土）使徒聖マチアの祝日

廿六日（日）四旬節第二の主日
〝神の御旨は、汝等の聖たらん事にあり〟今日の福音では主キリストの御姿容の記事。まさにわれらの聖化の前徴である

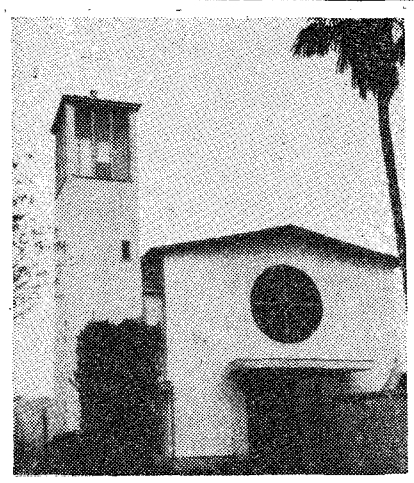
宣教六十年を誇る人吉に
新聖堂完成
一月十八日に祝別さる

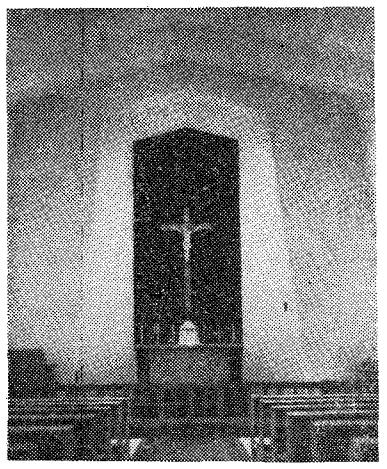
清流で名高い球磨川の上流、古い城下町を誇る人吉市に、始めて福音伝導者の足跡が印せられたのは、明治廿九年、今を去る六十年のことであり、そしてこの地に神の家が建立されたのはその四年後の明治卅三年のことであった。この古い信仰の伝統と歴史に輝く人吉カトリック教会の新聖堂の祝別式が、一月十八日深堀司教様によって挙行されて、当教会の歴史に更に新らしい一頁を飾った。

新聖堂の建設は前任コロンバン会司祭ノーリス師によって計画されて、資金その他の準備を進め、現主任司祭グローガン師が之を受けついで、幾多の困難ののち、昨年八月漸く着工の運びとなった。設計には既に幾つもの教会を物された福岡市在住の管種雄氏が、施工には同じく福岡市の井上組が当り、平田勇師の指導監督の下に工事が進んで、遂に落成の喜びを迎えるに至った。

ロザリオの聖母に奉献されたこの聖堂は、延坪八三坪強、四階建の塔屋のついた近代式。特色として屋根が両側一枚続きのアルミニューム板張りで、防暑その他の点から非常に注目されている。尚内部では従来の脇祭壇の位置に洗礼台がある等が目新らしい。

献堂式の当日は、朝から雨で気づかわれていたが、市長代理の外賓公共関係者及民間諸団体の有力者等六十余名、それに司祭及び信者約二百名が参列。先ず十一時、礎石と新聖堂の祝別、終つて司教荘厳ミサが捧げられ、続いて聖体降福式が行われ、一時過ぎ聖式を終了した。


人吉教会正面


教会内部

新司祭
都成日出人師（ジェレミオ）
宮崎教会で初荘厳ミサ

去る十二月廿一日新らしく司祭の聖位に挙げられた宮崎出身のサレジオ会員都成日出人師はクリスマス当日、宮崎教会で親族及同郷人を前に感激の初荘厳ミサを捧げた。二十五日午後三時から新司祭の歓迎会が開かれ、ザベリオ会管区長、日向学院々長、主任司祭等が祝辞を述べた。同師は五十年の歴史を有する宮崎教会最初の邦人司祭である。

オマラ師休暇帰国

在日六年の八代教会主任オマラ師はこの度休暇を得て、二月五日英国船で濠洲向け帰国出帆する。後任は長崎及び大磯で活躍したグリーン師。

泰星学園生徒
八名受洗

福岡市山荘通りの泰星学園では、毎週一回高校生六十五名と宗教部員に、公教要理研究を行っているが、担任のムルア師の努力が実を結び、クリスマスの前日、高校生七名が浄水通り教会で深堀司教様より親しく受洗の光栄に浴し、尚中学生一名は家族もろ共、吉塚教会で同じお恵みに与った。

カルメル会で荘厳誓願式

福岡市神松園の女子カルメル会修道院では、一月六日御公現の大祝日、司教様の御ミサの後先月無期誓願を立てたマルガリタ・テレジア童貞（東京世田ケ谷出身）の荘厳誓願式（無期誓願を立てた者が、会の正式のヴエールを受ける荘厳式）を行つた。

煉獄援助修道會
―創立百年祭―

煉獄援助修道会では一月十九日創立百年を印したが、八幡黒崎西山寺の修道院でも、家族的なふん囲気の裡に創立百年記念を祝つた。午後三時、近隣の司祭修道女約五十名が、パリ外国宣教会北九州地区長ドルエ師の司式する聖体降福式に与つた後聖ヨゼフ保育園で同会修道女を中心に歓談して、五時過ぎ散会した。

煉獄援助修道会は今から丁度百年前の一月十九日パリーに於てエウゼニー・スメット（御摂理のマリア童貞）によつて創立全人類の救霊と、キリストの神秘体の中の苦悩の教会たる煉獄の霊魂を救済することを目的としている。会員は他の修道会と違つて、清貧、従順、貞潔以外に、もう一つ、即ち「煉獄の霊魂の為に祈り、苦しみ、働き自分の善業、誓願の功徳、祈り及現世と死後に於いて得らるべき凡ての贖宥をゆづる」という誓願も立てることにをつている。

一般の慈善事業を行つているが、修道院の所在地の教区の必要に応じて種々の仕事もする。

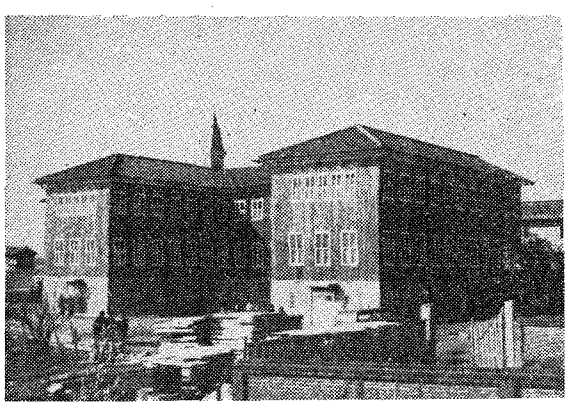
日本では東京、広島、八幡に修院をもち、近く神戸にも設立される等、来日は昭和十年四月で、翌年十二月八幡の門田町教会に幼稚園を開き、病人の訪問等で布教に従事していたが、戦後現在地に移転、聖ヨゼフ保育園（園児二百五十名）聖ヨゼフ養老院、聖マリア診療所を経営して、黒崎地方の人々のために日夜献身している。

トラピスチヌ修道院新館の落成
去る十六日祝別さる

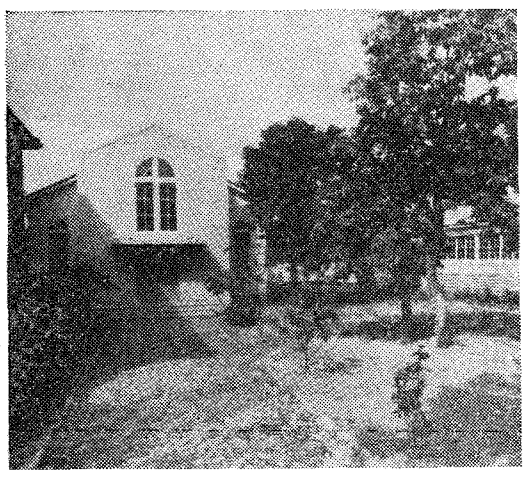
福岡県京都郡豊津町の聖家族の聖母トラピスチヌ修道院ではかねて着工中であつた新館の一部の落成を見たので、去る十六日（月）午前十時より深堀司教様の来臨を仰ぎ、盛大なる祝別式を挙行した。

先ず司教様より祝別が行われ引き続き、来日中のシート会総長ガブリエル・ソルテ師の荘厳ミサが捧げられ、近隣より三十余名の司祭、豊津町々長、その他信者多数が列席した。

因みに同修道院の志願者及誓願者の総数は廿五名である。


トラピスチヌ新修道院

發展をたどる修道會
人吉修道院（マリアの宣教者フランシスコ会）
創立五十周年を祝う



一月十九日時あたかも人吉カトリック教会の新築祝別式日の翌日、マリアの宣教者フランシスコ会人吉修道院では、深堀司教様の御来臨を仰いで、創立金祝感謝のミサが捧げられた。

現在幼稚園、聖心養老院、育児園を経営しつゝ布教事業に献身している人吉修道院は、今を去る五十年前の明治卅九年一月十九日、当時熊本県をくまなく巡回して、この地方の教化のため驚異的活躍をしていた、パリ外国宣教会のコール師の要請に応じて創立されたもの。

創立の事業に当つたのは当時の管区長マリ・マドレン・ド・パン童貞と熊本の院長他四名で創立後には中四名が留つた。その頃は勿論人吉迄の汽車はなく馬車に乗り、船で川をさかのぼるなどの難儀を経て到着。創立の家には調度品は何もなく、雨戸をしつらえてテーブル代用にしたという話も残つている。

創立の年廻ちに伝導婦二名によつて布教を開始。三月に施療を始め、七月にはアトリエが創設されたが、この年の施療患者は五一一六名、臨終の洗礼十名に上つた。明治四十三年修道院建立、大正六年に幼稚園を開き廿五名の子供を収容（現在では二九五名）大正十二年育児施設聖心保育園を創設して二名の乳児を引きとつた。（現在は九九名）四年前の昭和廿七年に聖心養老院と修道院附新聖堂を建立した。（写真は現在の人吉修道院）

神学講座始まる

各方面より待望されていた一般信者のための神学講座は、深堀司教様の一方ならぬ御支援によつて、準備ようやく成り、一月廿一日（土）会場に当てられた福岡雙葉学園で午後一時半より、司教様の御訓話を以て開講した。

講義内容は神学一般、聖書、教会法及典礼学で、二ケ年を以て一周期とし、一講座は二科目約十時間づつとなつている。毎週土曜午後二時より四時迄。

第一講座は基礎倫理神学（平田正喜師）と護教学（畑原富雄師）で、教区司祭の他、サンスルピス大神学校教授も講座を分担する。

当講座について詳細を知りたい方は司教館の深堀神父宛申込むこと。

クリスマスのタベを楽しむ
第三回慈善音楽會
佐賀教会主催で

佐賀カトリック教会では十二月廿六日（月）午後六時三十分より市公会堂で、聖ヴインセンシオ・ア・ポーロ会（カトリックの全世界的慈善団体）の事業援助を目的として、クリスマスの夕べを楽しむ第三回音楽会を催した。

当日の音楽会では、ミラノ国立音楽学校出身の声楽家で、現在佐賀教会助任と佐賀大学の講師を兼任しているミラノ外国宣教会のサルヴイ師の独唱を中心に、教会附属幼稚園々児の合唱、宮田稔さん等の絃楽合奏、黒沼幸子さんのピアノ独奏等と多彩なプログラムで会場を埋めた二百五十名余の聴衆を完全に魅了した。

聖ヴインセンシオ・ア・ポーロ会々報

(一)雙葉学園の活動

SVP福岡協議会はクリスマスの活動にそなえて早くから雙葉学園の生徒に協力をまめていたが園長様はじめ雙葉様、諸先生が快く引受けられ殊に同学園宗教部の生徒等が主体となつて全生徒に呼びかけた結果その愛の精神がみのり衣料六三〇点他運動靴、雑誌多数が寄贈され会員一同は集められた衣料の多数はもとよりきちんと清潔に折たゝまれた一つ一つに何よりも愛がみなぎつている事に感激した

(二)SVPクリスマス活動

クリスマスを迎えて福岡の聖ヴインセンチオ・ア・パウロ会は少しでも多くの人々にクリスマスの正しい意義を識つてもらいたいと云う念願から毎年さゝやかな催しをしているが今回は特にレジオ・マリエの会員でもある雙葉学園の曽我先生に御協力願い紙芝居を通じて平生訪問している多々良川べりの対象家庭の子供等とクリスマスの集いを開いた。またこれと前後して市内茶山・長浜・養島・比恵と散らばる三十世帯の対象家庭に冬物衣料の配布を行つた。このための衣料や食しい子供等への学用品など待降節SVP会員の呼かけに応じた各信者の協力の結果で会員は大いに勇気付けられた。

座談会式青年默想会

宮崎教会では、十二月廿六・七・八の三日間高校生以上の男子学生及青年のため、青年心理学に定評ある日向学院デル・アンゼラ師指導のもとに、座談会式默想会を催した。第一日は「自由」第二日は「信仰と不信仰」第三日は「青春、その選所と長所」の講題で毎日午後七時より話しが行われた。

大分便り
幼稚園のクリスマス

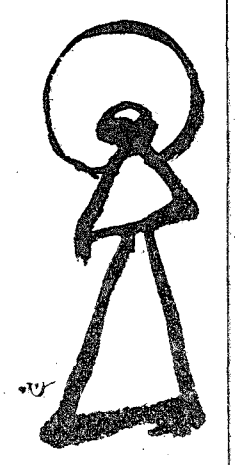
降誕祭を間近かに控えた昨年十二月廿一日午後一時大分カトリック教会附属海星幼稚園ではクリスマスについての園児並に一般父兄の理解を目標に、クリスマス記念大遊戯会を開催、クリスマスの説明入りの番組四十三にもわたる多彩なプログラムを参加の父兄二百名に配布。園児百九十名の園歌合唱と園長ヨゼフ・モロ師のユーモアたつぷりの挨拶を以て楽しい遊戯会は幕を開け、次々に万場の拍手を浴びたが、中でもモロ師のきも入りで演出された児童聖劇「イエスさまの御誕生」は人組から救主の降誕までの旧約史を描写、録音で伴奏説明された無言劇で園児殊に一般父兄を完全に魅了、深い印象を与えた。終り園児達のサンタクロースを迎える歌「雪よふれふれ」が声を限りに合唱されている時、これはびつくり、サンタの爺さん突然舞台の天井から網にぶらさがつて降下、万場の園児並びに父兄達をやんやと喜び笑わせ、待焦れのプレゼントを園児一同に贈るや名残りを惜しみながら、網伝いに天井に姿を消し、かくてクリスマス遊戯会は家族的ふん囲気の中に、大成功裡に終り、一同大満悦で帰途についた時は既に午後五時過ぎであつた。

教会のクリスマス

大分教会主任ヨゼフ・モロ師は、ラヂオ大分、ペトロ福永氏の依頼をうけ、クリスマスの前日午前十一時廿五分「クリスマスに就いて」と題し、十五分間にわたつて録音放送してクリスマスに関する一般の誤解をときその真意義を知らせた。

深夜のミサの始まる二時間前秋元師司式で、和文聖歌と解説付の洗礼式と聖体降福式を執行。広い聖堂も求道者、一般参列者大学生も交えて早や満員の盛況である。

やがて十二時高らかな鐘の音と同時に、モロ師の司式でクリスマスのミサがおごそかに献げられたが、新しい試みとして、二階の聖歌隊席に設けられた録音器の発声は、オルガニスト並に聖歌隊と名コンビをなし、参列者一同に配布された特別編集の「クリスマス和文聖歌集」は殆んど全員から充分積極的に活用され、合唱された。読経ミサではあつたが、列席者の側からさながら和文歌ミサの観を呈した。廿五日早暁一時半ミサ終了と共に、参列者は暖房された附属海星幼稚園に楽しく集い、名実共に夜を徹した大規模祝賀会を開催した。



聖なる四旬節

灰の水曜日を以て聖会は聖なる四旬節を始めるのであるが、古い慣例に従い、この期間を四十日と規定した。（ニケア公会議決議事項一第五条、然し四旬節の数え方は東方教会と西欧教会とにより異つており、東方教会では六百年頃より当時、尚優麥な慣習であつた八週間四旬節が採用された。何故と云えば聖土曜日を除き、各安息日には断食が許されなかつたから週五日を八週間、之にあて、四十日としたためである。西欧教会では初め六週間断食をしていたが、大グレゴリウス教皇以来、満四十日とする為、灰の水曜日より断食節即ち四旬節を始めるに至つた。）

四十日間の由来

四旬節の期間を四十日間としたのは、①人々が罪悪にふけつて天主も捉も無視した生活の罰として四十日、四十夜降り続いたノエの洪水と、②天主とその代理者なるモイゼ及びアアロンとに対して、受けた数々の厚恵を忘れ、不平不満をつぶやき、その為に天主の聖言に適わずして、四十年間の長い間、イスラエル人達が荒野をさ迷い続けた事と、③モイゼがシナイ山に於いて天主の十誡を受けるために、四十日間断食して身を清めた事、④予言者エリアが四十日間断食してホレブ山に登つた事、⑤最後に主イエズスキリストが御自ら四十日四十夜断食して公生活の準備を為し給うた事を人々に想起せしめるにある。

四旬節の意義

四旬節の第一主日の書簡で、「今こそは良き時なれ、今こそは救の日なれ。」との聖パーロの切なる言葉を引用して典礼はこの聖節中我等を真の改心と償と善徳の実践とに激瀬する。この聖節こそは祈祷の時であり、改心の時であり、聖化の時である。此の主日のミサ聖祭中読まれる福音は主イエズスキリストの荒野に於ける四十日四十夜の断食と誘惑の場面であるがここに於いて主はこの聖節中に我等が実践すべき善業の完全なる模範となり給うた。内的にも又外的にも主の模範に我等が今から始めようとする四十日間の苦業の生活に大いなる勇気と信頼とを与えるものである。砂漠に退いて為された主の苦業は単に厳格なる断食を以て自らを苦しめるのみでなく、御自分に背負わされた世の一切の罪を痛悔して、激しい心痛を甘受されたからである。我等はこの聖節に当り、主キリストと同じ心構を以て、自らの改心を目指しているであろうか。

先づ、四旬節に当つて為すべき事は等よりも熱心に又屢々環境の許す限り祈る事である。天主の尊前に出る事によつて、天主への義務を果し、更に己が生涯の罪深さを想い出すであろう。我等人類の罪科を償う為には天主の御独子の十字架の価が支払われねばならなかつた事の考は、我等の罪の頭大さを悟らしめ、天主を侮辱し奉る事の非を知らしめ、その悪を理解させるであろう。四旬節の第一の目的たる真の改心が効果的であるためには潜心して祈る事である。御中主の御苦難の黙想、及び十字架の道行は、完全なる痛悔の念を起さしめる為に最良の方法である。犯した己が罪を嘆き悲しむ事は改心の為の第一条件である。己が甚だしい霊魂の惨めさや、霊魂が受けんとしている極めて重大な危険及び損失に思いくのである。罪深い生活をした我等にとつて、過去の為には天主の慈悲が、将来の為には天主の恩寵が必要である。今や我等は余りの卑しさに敢えて眼を天に上げる事もせず、只管に胸を打ちつつ天主の御憐みを祈つて、この聖節の如く なつて、この聖節の祝福を出ではならない。

教会は又、この四旬節中に出来る限り、償の精神を以て、命ぜられた大斎小斎をなす様に勧めている。善き準備を以てなされた悔悛の秘蹟は確かに、罪の赦免を与えるが、有限の罪は残つているのであるから、少しでも此の罪を既に現世から償う様にとの親心から出たものである。現世の快楽を遠ざかり、飲食を節制し、他人の欠点を忍よく耐え忍び、己が義務を忠実に果し、一日一日の十字架と試練とを償として、主に奉献しよう。本性は激しく抗うかも知れないが苦難にあつて天主に忠実なる者には恩寵を又豊かに注がれるであろう事を想うべきである。

最後にこの聖節中に努力すべき事は我等の現化である。我等の主要欠点をなくする様に些細な機会をも利用する様に励まねばならない。「我等は汝等が天主の恩寵を、いたずらに受けざらん事を望むと聖パーロは云つている。心に善業の実行への私語を聞き乍ら、是を聞き流す事は天主の聖寵をいたずらに受ける事である。平常にまして祈られるこの聖節には天主の聖寵も豊かに与えられるであろうからこの意味に於いて、改心する罪人にとつても又聖化を目指して励む善人にとつても、真に「今こそは良き時なれ、今こそは救の日なれ」と云えるのである。

慈母たる聖会がその愛し子達に勧める処に従つてこの聖節を苦しみ給う御子の聖心に固き一致の生活をするならば、やがて罪に勝ち、世に勝ち、死に勝ち給うたキリストと共に光栄をも共にする事が必ず出来るであろう。聖パーロは云つている、「若し我等キリストと共に苦しまば光栄をも又共に受くべきなり」と。

祈りの姿勢

散心のみじめさの中で
キリスト者の肢体は
祈ることを知っている

（びあと）

ルルドの聖女

ベルナデッタ童貞

（二月十八日）

〝人から認められずにいる事を愛し、無能ものと認められる事を好む事〟

もしも、イミタチオの著者がすすめるこの恐るべき修業を自然に身につけている人がいたならその人は、天主が特に御栄えの器としてえらみ給う条件を備えている。

貧しさと病弱さとは、たゞそれだけでは聖性の原因とはなり得ないのだが、天主の御旨はしばしばこの分の悪い土壌から聖徳の華を世に示して、思念におどれる人間共をして顔色なからしめるのである。

ベルナデッタ・スビールー。十四才になつたルルドの田舎娘の背丈は年令の割に小さくて、丸つこい顔には子供らしさがほころびては居るが、同じクラスで妹達と一緒に肩を並べて見ると体つきの早熟さは否めない。農夫の着る仕事着を着て木沓をはき馬屋果てた様にして公教要理を聞いている彼女は誰にも注意されずに生長して来たのである。七才の頃から喘息を患つていたために学校にも行けず。三位一体とか御托身とか言う言葉での御教は全々理解出来ないのである。先生がいらいらしてたしなめると、

「私にバカなんです。人がみんなそゝ言われます」とおづおづ宣言する彼女を、先生は投げやりなずうずうしさと誤解した。彼女にしては、学校でよく覚えて皆から賞められる事よりも今までのように叔母の家で羊の番をして居た方が余程自分の性に合つていると思つていた。可愛い〻動物達は自分の方言でも適確に理解してくれるし、ひまひまに思う存分ロザリオを繰る事が出来るのである。

信仰厚い両親は、家計のきびしさにもかゝわらず、早くこの病身な長女に初聖体をと言つて預けてあつた叔母の家から引きとつたのである。

ベルナデッタは、長女の自覚から誰よりも母の苦労を理解していて、病気だからとて大事がられるのを嫌がつた。この勝気な娘は母が止めるのもきかずに、村外れの河岸に薪拾いに出かける。一八五八年二月十一日の寒空に病身な体はふるえ上つていたであろう。水を渉らねばならぬいやつと覚悟をきめて沓下をぬいだ時、嫌きたない洞窟の中から貴婦人がほゝえみかけるのにゆきあつてしまつた。

「雲の様に白い衣。空色の帯、金の鎖でつないだ真珠のロザリオ、おゝその美しさ！」

彼女の表現ではこれだけしか知り得ないのだが、この美しさこそベルナデッタのすべての力であつた事は伺い知れる。

貴婦人と共にとなえるロザリオの甘味さ、お別れした後の底知れない淋しさ、十四才の小娘は自分では何も知らずに、あの超自然と対面したモイゼやイザヤの恐怖とも安息ともつかない時間を体験するのである。

妹達にせがまれて語つた事は母に云いつけられ、村中の見せ物の様に喧伝される。

検事が訊問する、官憲が出動し出現の洞窟で警棒をふるつて大切な貴婦人を追払う。科学陣が精神鑑定に差向けられる。迷信深い一婦人はベルナデッタを自分が保護し育ててやつた聖女に見立てて得意がる。



私はもうありたけの力をしぼつて
姫君をみつめていました

―ベルナデツター

出現の出来事は彼女を失望にも近い孤独感に追いやつてしまつた。他のすべての人は空ろな世界にだけ彼女をとり守ろうとするのである。

貴婦人が泉に行つて顔を洗い且つ飲むがよいと仰言つた時の人々の思惑は、まさに土を掘つた手で泥だらけになつた狂人面を人前にさらけ出して反対者の立場を肯定するかに見えた。

ところがこの泉がプオールの赤ん坊を奇蹟的に癒すと言うのである。

「私はこの世界であなたを幸福にしてあげる約束は出来ませんでも、その後では必ず。」

「罪人のためにお祈りなさい」

「償いです、償いを！」

「病んでいる世界のために祈りなさい」

貴婦人の少い言葉の中からベルナデッタは自分の使命のために霊的に生長して行つた。

「私は汚れなきやどりです」と貴婦人が名乗られ、礼拝のために聖堂を造ることと行列をなす事を教会に伝える役目も彼女を謙遜なものとさせた。

十八回目の出現以後ベルナデッタの貴婦人に対する憧憬は急に別を調子を帯びて来た。「もう貴婦人はおいでになりません」自分では何処かの下女にでも使つてもらつて少しでも母親をたすける心算であつたが、主任司祭のはからいで、ルルドから離れたヌベール会の修院におくられた。

彼女は完全にルルドから分離され、巡礼達から忘れられねばならないかの様であつた。

修院にあつて例の泉の奇蹟が伝えられる度に、彼女はそれが私にとつて何だと言うのかと言つた様な風であつた。

重病になつて病床で誓願を立てたあと、院長が奇蹟の泉の水を差出したが、院長さま、その水は私のためのものではありません、と言つて微笑した。

或日の訪問日記から

熊本VK生

九月五日。暑い日、儕等三人のS・V・P会員は両手に重い荷物を持ち、国立病院の分院（施療患者）を見舞つた。その後求道者のNさんを訪ねる為に一番端の病棟に行く。Nさんは終戦以来七ケ年の永い闘病生活、病状は悪化する一方で本人の顔を見るのも気の毒である。看護婦さんの話ではNさんの余命も此処数日でしよう、と当直の先生が申して居られたとのこと。

私はいよいよ時が来たと思い天主様に心から御祈りして勇気を出してNさんの病床に行き、「Nさん、人間は此の世に生れたら必らず一度は死にますね、此の死について考えて見ましたか……」「はい、然し私は今死なれません。」「然し、生れる事も勝手に出来なかつた様に、死ぬ事も生きる事も勝手に出来ませんよ。」

Nさんの宅には働き手はなく、中学一年生と小学四年の二人の男児と、七十六才の老母の三人がNさんの元気になつて帰る日を待つている。「Nさんの御家庭の事は私達会員が一番知つています。貴女の死にたくない原因も知つています。御母様にも何時か死が訪れる……それを知るのは天主様のみです。貴女のベツトの上の聖母マリア様は、毎日お話相手になつて下さいましたね。御家庭の心配を儕等会員におまかせ下さい。総てを天主様に捧げ、マリア様に寄りすがつて下さい。貴女の上に天使が洗礼の準備を進めて居ります良く考えて下さいね。」

Nさんは苦しい様な顔をして目をとじたので、私達も室外に出て大樹の下に行き、しばらく木陰に憩い、Nさんの為に祈つた。二十分位して同室の患者さん二人が私達の処に来て、Nさんは教会の皆様の温い心に打たれ、泣きながら、「どうして私の様な罪深い女が、天主様の子供になれよう」しかし、受洗を望んでいる。と申されるので、これは奇蹟だと叫び、病室に飛び込んで、「Nさん、永い苦しみは終ります。貴女は今の望みを天主様に感謝して下さい。明日は此の病床で洗礼です。」それから三十分間、洗礼について必要な信仰箇条と罪の痛悔について話した。本人は大変な安心と喜びだつた。

九月六日

日曜日、神父様と伝導婦さん二人がNさんを訪れ霊名もマリア・マグダレナとつけ洗礼を授けた。

此れが熊本S・V・P最初の献げものであつた。発会一ケ年全員の力強い努力にもかかわらず、唯一人の受洗、如何に、救霊事業の困難であるかをつくづく考えさせられる。

九月七日

火曜日夜、Nさんを訪れたら可愛い入子供の様な笑顔で、先日洗礼を受けたら、色々な苦しみ、悩み、悲しみがなくなりました」と云う。

Nさんは其の夜、天父の許に昇られた。私達会員は、水曜日夜、御通夜の為、Nさんのいない淋しい家を訪れた。四畳半一間の家には、若い日のNさんの写真が美しい花の中に飾つてあつた。老母は熊本弁で、「娘もほんと不幸な者でした。戦後、主人の胸の病を四年も看護して主人の病気がうつり、とうとう死なしたい　死ぬる時は美しかつたですばい。キリスト教は何か良か宗教ですな」

今では毎日曜Nさんの子供二人がミサに来て、一番前に座して祈つている姿を見る。老母も時々教会堂内で見受ける。三人の救霊もNさんの天国からのお祈りによつて受洗の日もそう遠くないであろう。

ウイーン少年合唱團

大名町教会でミサ拝聴

ウイーン少年合唱団は去る十四日夜九州公演に先立つて博多入りしたが、翌十五日の日曜日には、特別の御配慮によつて十時半深堀司教様が捧げられた大名町教会のミサ聖祭を拝聴。早朝から堂を埋めていた市内外の信者の希望を容れて、ミサの終了部で聖歌「アレルヤ」を歌つた。

信ずるということ

AがBを信ずるということは、Aは自己の意も智も情も与え、言行ありすべてを挙げて、Bのそれと入換え、又はBのそれと完全に一致せしめた時の状態を示すに外ならない、言いかえれば、Aは自己を捨てBと一心同体となることである。その極致はBのものとなりはつることである。

これからして、われらがイエズス・キリストを信ずるとは、自分が全くキリストと同心同体となり、キリストのものとなり、最早や自己に活きるのではなくて、キリストによつて活きる者となることである。その極致はわれなる存在は消えうせて、たゞキリストのみがわれらの中に活き給うということになる。これを思うとき、聖パウロの「我は活くといえども最早や我にあらず、キリストこそ我に於て活き給うなれ」は実に信の深き極みである。



平和

桑原万壽太郎

今年も亦太平洋のどこかで水爆が爆発するらしい。ほっておけないとシベリアの何処かでもキノコ雲がふき上るのかも知れない。原子核の破壊という事は人類の科学の勝利にちがいない石炭も石油も、もうはつきりと先がみえている今日、世界の人口は急激に増大しているし、生活の文明化は急速に普及しつゝあるのだから、エネルギー源の枯渇は人類の危機である。それを救うものは原子力の活用であろう。地球上の人間の生活がこゝ迄来た時利用するようにかくしておかれた、天与のたまものを、自らの科学の智慧でさがし出して活用するのは人類に許された特権であろう。

原子力の利用は未だ未だ研究時代を出てはいない。日本でも乏しい科学研究費の大半をこれにつぎこもうというような状勢である。人智の進歩、人類の生活の向上のためにはこゝに今相当の重点がおかれても不思議はない。

たゞ問題は原子発電も、原子船も世界の何処かで、試験的に動いたとか動かないとかいつてる最中に太平洋で、シベリアで原爆や水爆がポカポカ爆発しているのはどうした事だろう。人間は、一体何に最も熱心になつているのだろうか。

人類は自らの科学の進歩に過大の信頼を捧げ、その発達によつてすべてを征服し得るという考えに傾きながら、二つの世界のどの陣営も、互いにいつ相手側から原爆水爆に見舞われないとも限らないというノイローゼにかゝつている。自然を征服すべく意気込んだ科学の成果に生命をおびやかされている。

平和運動というものが街頭に雑誌に私共の眼にうつる。原爆反対、基地撤廃、どれも私は大賛成である。然しビキニに原子灰が降つた時には大騒ぎをしたのにシベリヤから何万カウントかの雨が来てもなりをひそめているのでは私には何の事だかわからない。

人類が人間の智慧に最終的信頼をおいて勝手な世界観を打ち立てゝいる限りは二つの世界どころかいくつに割れるか知れたものではない。思想の対立は永久に死斗をくり返すであろう。その事実は世界中の人達に暗黙の中に分つているのである。だからこそ、皆が平和を求めつゝも殺人の道具を改良する努力をやめないのである。そして底知れず進むかにみえる科学の進歩に多くを期待しながら原爆の恐怖におのゝいているのである。

之を救うものは政治だろうか資本主義が戦争をちよう発するから、之を打倒する事が平和運動だと考えている人達がある。

然しそれにかえようという社会は個人の自由を抹殺する世界であると知れば、まともな人間ならまつぴらなのである。階級の斗争からは平和は来ない。平和は「己を愛する如く隣人を愛する」事からのみ来るのである如何に理想論のひゞきをもとうとも、世界が一つである道は世界の人類が、人間を超えたるもの絶対なるものからの真理の天啓に帰する事以外に断じてあり得ないのである。その事をカトリック者ははつきり知つている。知つているだけでは駄目である。もつと信念に迄高めなくてはいけない。

目前の一人の貧者を救おうとする行為を時代おくれと笑う者があれば笑わせておけばよい。多数の貧者を救つて行く道は成る程政治にあろう。然しその政治はすべての隣人を吾身の如くに愛する精神に立脚しそこから生れ出るものでなければ絶対に人類の平和にはつづかないのである。

正しい政治力を私は待つている。然し根本は天主の前に人類が一つ心でひざまづく事なのである。日曜日に世界中の人間が聖体拝領台の前に並ぶようになる事だけが、平和への道なのである。それは政治ではいかないカトリック一人々々が、隣人の一人々々に働く事を、如何に目標が遠くみえても、ゆるめてはならない。（筆者は九大理学部教授）



禁書について

自然法と聖會法から見て（上）

T・P・ラベル

本稿は福岡サンスルピス大神学校の聖会法教授J・P・ラベル師が、去る一月十日教区司祭の月例集会に於て発表した講演の要旨で、師の諒解を得て、ここに掲載する。

現代に於ては、出版の自由によつて、何でも出版することができる権利があると思う人が多い。信仰、道徳に反する出版物は悪いものであつて、誰もこれを出版する権利も、読む権利も持たない、言論の自由は凡ての人々の意見が真理であつて、従つてそれを表明する権利があるということではない。誤つた考えはあくまで拒まねばならない。自由は信仰と良俗に反しない範囲に限られているのである。

今日では、言論の自由は、政府が人々の思うことを自由に発表するのを統制するのを排除することを意味している。というのは政府がその権力を濫用するのを恐れているからである。

カトリック教会という社会では、この様な濫用の危険はない教会は用心深い母の様に、信者の信仰を守り、その最後の目的たる天国に導く義務を負せられているが故に、彼等の霊魂を悪より守る責任がある。その一つの方法は悪い本を禁止することである。

今こゝでは禁書問題解決の具体的方法ではなくて、自然法と聖会法についてだけ述べることにする。

悪書は次の三つの法によつて禁じられる。

(1)自然法によつて。つまりその読書が霊魂にとつて危険であるとき。もし或る人々が危険を感じなければ、自然法による禁止はこの人々に限り適用されない。

(2)聖会法によつて。

(A)カトリック信者の霊魂に危険な悪い本は一般の規定によつて禁じられる（教会法一三九九条）一誰でも司教の特別の許しがなければ読むことはできない。

(B)時として直接に特別の布告によつて。教皇と聖務省と司教の布告によつて禁じられるもの。

禁書目録

聖座が聖務聖省と通じて、直接に名指して、一つの本を禁ずることがある。こうして禁じられた本は禁書目録（インデックス）の中に入れられる。

インデックスは凡ての禁じられた書物の完全な目録ではなくて、或る人々の求めに応じて、疑わしい本を慎重に調査した後聖座により直接禁じられた本のリストに過ぎない。

この禁止の意味するものは著者に対する攻撃ではなくて、学説や信仰箇条やカトリック教的良俗の見地から、或る本又は或テーマに加えられる非難である

禁止の範囲

一般的に云つて、或る本が禁じられると、その本の中に書かれていることを全体が禁じられる具体的には、次の様に区別することができる。

(1)カトリックの信仰道徳に関して、教会の認可なくして出版された本は、悪い点が全然なくても、全体的に禁じられる

(2)内容の点から禁じられている場合には、若し悪い頁が取り除かれるならば、他の頁は読んでもかまわない。

(3)邊又の場合にも同様危険な頁を取り除くならば、他の頁は読んでもさしつかえない。

全集の禁止とは

教会が禁止布告を出すときには、その本の名前を明示するのが普通であるが、時としては何某の「哲学作品」とか「小説集」とか又は「全集」等と総括的に挙げられることもある。今ここでは「全集」とはどんな意味にとられるかに就いてだけ述べることにする。

この言葉には三つの違つた意味がある

(1)一九一一年前には、全集とは禁止の布告の前に出版された本は勿論、その後に出版された本の凡てを禁じるという意味にとられていた。例えばエミール・ゾラの作品。

(2)一九一一年より一九四〇年迄には、全集とは或る著者の全作品を意味するのではなくて只主題目として宗教を論じた事柄を含んでいるもの、及宗教以外の問題に関していても特別の布告によつて禁じられた本だけを指摘していた。

尚布告がでた時に出版されている書物だけが禁じられるのであるが、それ以後出版されたものも少くとも危険の疑いがあるので、その疑いが晴らされない限り読むことは許されない。例えばアナトール・フランスの場合。

(3)一九四〇年以後現在の規則によれば、全集とは或著者が書いた凡てのものを指す。即ち禁止の布告の時迄に出版された凡ての本を指している。然しそれ以後のものも疑わしいものと見做され、軽々しく読むことは許されない。例えばサルトルのもの。

今迄に述べたことは、全世界に通用し、原文のみでなくて、その訳文にも適応される。（続）

（文責編集部）

断想（十字架の道）（一）

準備のひと時

聖なる十字架よりはるかに立つて、私は二つの事を知つている

私の信仰の度合にしたがつて、ますますよく主を理解し得るということ。

御母マリアと、愛し給えるヨハネと、愛の犬いなりしために多く赦された、マダレナは十字架の奥義の中心部に居る。

主よ、信じ奉る。されど信仰をましたまえ。

主よ、愛し奉る。されどわが貪しく拙き愛を強めたまえ。而して御苦難御死去をわが内に再現せしめ、御血の流れのうちにわが救いを今日にも、完たからしめたまえ。

第一当死の宣告

〃汝神の子なりや〃　〃然り汝の云えるが如し〃

論告は簡単明瞭、宣言の真偽は

この事実の獲得と共に問題にされない。

天主の秩序と人間の営みが激しく衝突するとどう云うことになるのか？

権利の偏重、理智の無節操、政治の利部主義、人格なしの群衆の狂燥。そして、イエズスは天主の子であるという事実に忠誠を蹂われる。死の宣告だけしか残らない。

主よ、すべての主義主張の中でわが内なる天主の子の面影を潔ぎよく保たんために、死をも辞せざる忠誠を!!

第二当十字架

粗木。罪と悲惨と弱さと死の運命を、癌のように含みもつている全人類を渾身の力で引き受け給う。

完き御本性とこのふしくれ立つた一本の呪いの木は何処で結びつくのか？

私に対する愛と、御父に対する従順がその隔りを埋める。

私の十字架をまともに見出す勇気と愛!!

私の存在と切り離せない御摂理の十字架を逃げないお恵!!

救霊の道具としてそれを取りあげられる心を!!そして、何迄をどう云う風に担うべきかを知らしめる従順なる愛!!

第三当倒れる事

救世の業それだけで人体には勝ち過ぎた衝。剰え、弱さは罪と同じく人間に普遍である。

イエズスは倒れられる。しかも起ちあがつて道をつづける。無限なる愛は天主の力を持つている。

十字架を受けるとは、倒れる事を甘んじ受ける事と同時に起きあがる事を覚悟することである

主よ、尊に、失望でなく倦まざる信頼を!!失墜のあとでも起ち上る勇気の美しさを理解せしめよ。

第四当御母と

御母の信仰と愛をつくしても御子を意の如く所有することが出来ない。御子は罪人なる衆人の有なのだ。

死の様な孤独の中で母と子は救世の事業を見まもられる。

イエズスは母よりの孤独を味わる。救いを待つ罪人の聖化された孤独!!離脱!!虚脱!!渇なるかな、心の貪しき人!!すべてのキリスト者が世の救済の使命に参与する時に……その度合にしたがつて知られねばならぬ聖なる孤独の意味を!!

子、兄弟、友としての人の心は彼、イエズスと共にすべての人の所有となるであろう。

第五当シレネの人

ほかの場合であつたら、無視される人、労働に馴れて、頭の低い、どうにでもなる様のいい人間。救世の業の重さに耐える偉大さと価値とシモンは知つて居たであろうか？私たちの生活の中から、貪しいもの、蔑られ勝ちなもの、結局切りすて度いものを愛は救世の御事業のために徴用する。

最も軽視され光彩のないものが救霊のために必要とされる事を知らねばならない。

救主への奉仕に役立つために、天主のゆるし給うかぎり、貪しく低くあり度い。

少くとも、与えられた卑賤を愛する心を!!

第六当ヴエロニカ

主の御苦難を通じて、最も嫌なのは、その愛による御苦しみが御主を無粋で戦慄をもよおさせる姿に置いてしまう事。

名誉さえ打ち出せたら!!英雄心さえ催うさせたら!!

しかし、主は弱さの中に貪しさの中に、埃と唾の下に此の世をわたられる。

弱きものにはわづかの権勢をほこり、貪しきものにはわづかな富をほこるおろかさをもつて、主をみとめないまゝ百遍でも通るを通る事を考えたら!!

主よ、白眼視する群衆の中、息もつまる埃、血みどろの唾のヴエールの中におんみを見出す程の愛を!!ヴエロニカの眼を!!

第七当再び倒れる事

人としての弱さと、あまりにも大きい天主の愛がイエズスの中で戦つている。彼は道すがらこの戦いを抱いているのだ。

犠牲が完全であるためには一度それを献げる意志を定めるだけでは足りない。

ゲツセマニで受けた杯もその場かぎりの苦悩ではない。

私も又、無気力や弱さや失墜の習慣から屢々転倒する。

それが主への途への確かな過程であるために何が必要なのか？

主よ、私の弱さが力となり、倒れる事の中でさえ、主の愛より離れざる程の〃犠牲の魂〃を!!

愛が人の心の中で永遠に勇く生命の泉であるかぎり、なお、私も起ち上るだろう。（続）

☆……★

学生の為の福祉施設

福岡カトリック学生ホーム

主旨＝一、思想、道徳、経済等現下の学生が当面する多くの負担を軽減し、真摯な学問的探究に適当な場所を提供する。

一、カトリック精神に基く規則的共同生活によつて、キリスト教的人格の涵養を計る。

当学生ホームは、以上の様な主旨に基いて、真面目な学生の福祉を計る福岡司教区直属の社会福祉施設であります。信者、未信者を問わず、以上の主旨によつて自己の向上を願う真面目な学生ならば喜んで迎えて居ります。

尚、入寮御希望の方は、十円切手同封の上、左記宛御連絡下さい。

福岡市東光町四五
福岡カトリック学生ホーム
畑原神父



可認教司堀深
福岡市浄水通所行発
館教区司岡福
編集人兼発行　深堀敏
定価一部十円

「いとも大いなる」救世の玄義について

大名町教会主任　伊東誠二

一九五五年十一月十六日付、典礼聖省は聖週間の聖式に関して表題のような布告を発布されました。

この布告に基いて、本年度から聖週間の聖式にいちじるしい改革が行われた訳であります。この改革の主要な点は、聖週間を通じて記念される救世の大玄義が、よりふさわしい霊的なみのりを全信者の精神にもたらすように、日を追つて、成就されたそれぞれの玄義の時間に出来るだけ忠実に従いながら、挙つてこの聖式を執り行う事を規定したものであります。

既行の典礼に従つては聖木曜日聖金曜日、聖土曜日の聖式は午前中に行われていて、実際とは時間的にずれていたものであります。即ち

聖木曜日の記念する聖なる晩さんは木曜日の夕方でありましたし、聖金曜日の十字架の記念のミサは午後三時、聖土曜日は御墓の喪中である筈なのに午前中にも早アレルヤがはじめられて居たのであります。

このように時間を早めたのは色々な事情によつて中世の頃に改められたと云う事ですが、十七世紀にウルバノ八世教皇に社会生活の変化にともない、それまでは守るべき祝日であつたものを、大祝日の範囲から外されたのでした。勢い、御復活の大祝日の意味がだんだん薄く感じられるようになつた事は残念なことでありました。

現教皇ピオ十二世陛下は早くからこの事に心を寄せられ、又教会の声をおきゝになつて、一九五一年に聖土曜日の式についてだけ、これを真夜中にする事を試みとして許されましたが、結果は大変よろこばしいものであつたので、此度、聖週間全般にこの復興を規定されたのであります。

今、この布告から主要な変更の箇所をひろつて見ますと

一、枝の祝日

は午前中、普通の時間に行われますが特に祝別された枝を手にして執行されるべき事、聖務日祷は普通の時間にとなえます。

二、聖木曜日

ミサは朝、聖油のミサが司教によつて行われ、聖香油の祝別が行われます。

聖なる晩さんを記念するミサが一般のためのミサで、この日のミサは夕方に信者が一番多く集まれる時間に行わるべきです。但し、五時より早く、八時より遅くならない事。

信者は御聖体に対する愛について教えられ、出来るだけ御聖体を拝領し、ミサ後少くとも真夜中まで代り合つて御聖体の礼拝にあづかるがすゝめられる。

又御主が弟子達の足を洗い給うた事を思つてこの日に、兄弟愛の業にはげむべきであります。

尚、聖油のミサが行われないところでは聖務日祷の晩課讃課は前日にくりあげてはならない。

三、聖金曜日

ミサは午後三時が最も適当、理由があればもつと遅くともよいが六時以後にならぬよう心がくべきである。御受難が歌われ、教会の諸歌願に心をあわせて、十字架の礼拝につとめ、御聖体を拝領して救世の功徳にあづかるように考うべきである。又この日より土曜日一杯、宗教的潜心に心がくべきであります。

四、聖土曜日

朝に聖式は行われない、信者は寝に服する精神でこの日を過すようにしなければならない。

御復活の前夜のミサが御復活当日の真夜中にはじめられるよう聖土曜日の聖式を初めるべきである。信者や土地の事情を考えて司教は適当と思えば時間をはやめることは出来るが、日没以前になつてはならない。

聖務日祷を共同で誦えるものは聖土曜日にかぎつて翌日の分をこの日の午後誦えます。

聖省はこの布告にともなつても一つの附属教書を追加してこの変向について、典礼的意味を信者に徹底せしめる様に種々司牧者に要請して居ります。

変向の理由はもともと二つにつゞめられます。即ち一つに全教会がより一致してあつい信心をもつて救世の大玄義を默想すること、二つに、信者がより容易しく聖式にあづかれるように、というのであります。このために午後とか夕方とか云う時間が週日の朝の時間より都合がよいと考えられたのであります。

四旬節や御復活の準備の期間でありますけれど、聖週間は更に真近かな新しい生命の直接の準備、否むしろ、新しい聖寵の生命が生れるために是非とも必要な過程として考えられるのです

私たちは皆、御主イエズス・キリスト様の死によつて、悪魔のための生活に死し、彼の復活によつて、天主のために生きるものであることを弁えて少くとも聖週間の最後の三日は教会の典礼にあづかつて、深い默想のうちによろこばしい御復活を準備いたしましよう。

永久聖体礼拝　三月

第一日曜　都城教会
第二日曜　本郷教会
第三日曜　地行町教会
第四日曜　湯川教会
（最終）　パウロ会（小笹）

司祭異動

牧山重光師　福岡小神学校附

呼子教会にて病気静養

吉塚教会主任モンセイニヨール　フレイザー師帰国

二師の消息

△昨年秋以来、久留米井手病院で病気静養中であつた、久留米教会主任棚町正乃師（教区副司教）は、二月廿日退院。

△福岡吉塚教会主任モンセイニヨール・フレイザー師は本国カナダでの要務を果すため帰国、二月廿三日午前十時の汽車で福岡を出発した。トロント外国宣教会の創立者であり、中国で長崎教区及本教区でめざましい使徒的活動を続けられた布教者の典型とも云うべき方である。



第八十回御誕生日を迎えられたピオ十二世教皇聖下

世の光　精神の自由

「人間この未知なるもの」によつて、多くの人にその名を知られているフランスの医学者アレキシス・カレルはその生涯の終り頃に「生活の行状についての反省」という書物を遺訓としてわれわれに残している。

彼は科学者としての専門の立場からと、非常に広い学問の裏付けを以て、人間の生き方についての自分の意見を具体的に述べている。いわゆる哲学書でも修養書でもないが、彼なりの教育論と見ることができるであろう。

彼の考えの土台をなしている幾つかの真理がある。

それは極めて平凡なものであるが、それだけわれわれに深い反省をうながす力を蔵しているようである。

人間観察の出発点は〝ありのまゝの人間とは、精神だけでもなければ、肉体だけでもない〟ということである。若しこの出発点を一歩間違えば、結果に於ては非常に重大な誤りをおかすことになり、あるべき人間の姿をゆがめて、全生活を破滅させないとも限らない。

精神を強調する余り肉体とその傾向を軽べつしたことが、人類の正常な発達を阻止したことは否めない事実である。又反対に外部的な行動にのみ人間の価値を認めて、内面的な生命をおろそかにする現代の教育の行き方が、どれ程恐ろしい将来を来すかは、既に充分予測できる所である。

人間のうちにある二つの活動原理をどちらにも偏らないで公平に尊重することが、正しい人間生活を営むための第一条件である。勿論どちらかを強調するという場合もあるであろうが。

所がこの二つの原理は水炭相容れない程に違つた傾向をもつている。一つは感覚にふれる具体的な、こゝろよいものを影する傾向をもつ。自分の小さゝを外部のものによつて補つて、拡げようとする本能に基いている他は感覚では達せられない、普遍的なもの、こゝろよいというより高貴なものを慕う傾向をもつている。自分よりも優れたものに近づき、それに当ることによつて、自分の内的なねうちを高めようとする本能である。

一つは自分と同等又は自分より程度の低いものを愛する、云わば下降的な本能、他は常に自分を高めようとする上昇的な本能。このまるきり違つた二つの生命活動が、人間という一つの世界を作つているのである。所で正しい人間生活とは二つのうちの一つを不当に歪めることではない。物質的な本能に逆行したりそれを押し殺すことが、優れた人間生活を営む近道でないわれわれはこの二つの間に一つの接触点を見出し、物質的な自然の力をも精神的なものに活用する術を知らねばならない。

所がこの自然の支配は二つのことを前提としているとカレルは考える。一つはその自然の法則に従うこと。もう一つは物質の力に対して精神力を一段と強めることである。

〝自然を支配しようと欲すれば自然に従え〟とカレルが繰返し述べている。水力を水の法則に従つて利用する所に科学の進歩がある。人格の進歩についても物質に執着しようとする自我の力は根絶できない代物であるから、それをどの様に秩序ずけるかが問題である。精神のはけ口の如何によつて人間は或る時にはあくなき野心家ともなれば、或る時には社会を救う改革者ともなれる。

然しこういう盲目的な激流が正しい方向を与えるには、自分の本性に忠実な精神の支配力が必要である。精神力とは必ずしも専門的な知識の習得でもなければ、判断なしに動く意志の養成を指すのでない。それは真理を愛して虚偽を憎む心、普遍的な真理に基いて善悪を判断する理性、日常の行動を律する明かな良心のことである。別言すれば盲目的に行動する自我をがつちりと掌握する力をもつこと物質的な暴力に妨げられない精神の自由と独立を得ることである。人格の完成は自我に対する犠牲的な克服がなくては不可能である。然し自分の精神力のみに頼つて自然の力に対抗することは、実際には殆んど成功おぼつかない程困難なことである。全自然の支配は結局神の助けによつてのみできることである。

カトリック児童福祉会（一月最終日曜）献金

大名町	四、八〇〇	馬渡島	二、一〇〇
浄水通	七、二八〇	佐賀	二、五一〇
地行町	二、〇〇〇	唐津	四〇〇
養島	一、六六〇	伊万里	三一〇
西新町	五〇〇	手取	二、八〇〇
高宮	三、一〇〇	健軍	六五〇
吉塚	五〇〇	門司	一、一七五
郭珂町	一、二〇〇	小倉	二、三〇〇
古賀	一、一〇〇	湯川	六五〇
二日市	八七八	戸畑	六、〇四〇
久留米	二、五〇〇	若松	一、一〇〇
今村	三、八〇〇	八幡	一、〇〇〇
本郷	三、八五三	黒崎	二、三〇〇
大牟田	九五〇	水巻	一、一〇〇
呼子	一、八七一	直方	一、〇〇〇
新田原	二、一〇〇	行橋	二〇〇
大江	一、〇〇〇	水俣	二〇〇
崎津	一、〇〇〇	玉名	六一〇
隈府	二、〇二〇	本渡	五〇〇
大江	一、〇〇〇	水俣	二〇〇
崎津	一、〇〇〇	玉名	六一〇
隈府	二、〇二〇	本渡	五〇〇
大江	一、〇〇〇	水俣	二〇〇
崎津	一、〇〇〇	玉名	六一〇
計	七二、六五六		

二月　聖ヨゼフの月　教皇の月

二日（金）ピオ十二世教皇の選定記念日、及び御誕生日

今日より三日間教皇のため、特別の霊的修行がなされる。

初金曜日。

三日（土）初土曜日

四日（日）四旬節第三の主日。

「我々を愛し、我々のために神のそなえとして、香しいかおりのいけにえとして御自分をさゝげ給うたキリストの模範にしたがつて、愛徳にあゆめ」と聖パウロは教える。今日の献金は現教皇の第八十回御誕生日を記念して、ローマに建設される「労働会館」の資金にあてられる。

教皇のための司教荘厳ミサ（於大名町教会午後四時）

七日（水）アクイの聖トマ博士証聖者

十一日（日）四旬節の第四主日

今日は「喜びの主日」と呼ばれる、痛悔と犠牲の節も半ば過ぎ、主との光栄の復活も間近かにせまつている。勇気を振いおこして、最後まで歩みつゞけよう。

北九州地区合同で教皇のためのミサ（於八幡市槻田のミッション会本部、後五時半）

十二日（月）ピオ十二世教皇の戴冠式の満十七年記念日

十七日（土）日本のキリスト信者発見の童貞聖マリアの記念日

サンタ・マリアの御像はどこに」長崎大浦の天主堂をひそかに訪れた浦上キリシタンの一群をプチジャン師が発見、二百年にわたつて、祖先の教を守りつゞけた彼等の信仰の偉大さは、教会史上にその例を見ない模範として、全カトリック教国に喧伝され、日本人の真価を知らせた。

十八日（日）救世主御受難の主日。

今日より愈々、主の御受難のドラマが始まる。キリストは神の正義を満足させるため、動物の血でなくして、御自分を犠牲として捧げ給うのである。

福岡大神学校で叙品式（前九時）

十九日（月）聖母マリアの浄配及び全教会の保護者、聖ヨゼフの祝日

司祭叙品式（於浄水通り、前十時）

教区司祭の月例の集会日

廿一日（水）聖ベネジクト修院長

司教様は今日より一週間宮崎地方を御巡回

廿三日（金）聖母マリアの七つの御悲しみの記念日

廿五日（日）枝の主日

この聖週間は教会の典礼のクライマックスに当る。われわれを救うためにこそこの世にお出でになつたキリストは、御父の聖旨を果すために、十字架をにになつて、カルワリオの山を登り給うたのである。

今日われわれは、キリストが永遠のドラマの行われる、エルサレムに凱々と入城されたことを記念する。

廿九日（木）聖木曜日、聖体の秘蹟の制定記念日。

今日より三日間の司教列席の聖式は凡て大名町司教座聖堂で行われる）

聖香油祝別のミサ

聖なる晩さんのミサ

卅日（金）聖金曜日、（吾王御死去の記念日）

十字架の礼拝とミサ

卅一日（土）聖土曜日（聖なる安息日）

御復活前夜のミサ

教皇の月にあたつて

福岡司教ドミニコ　深堀仙右エ門

現教皇ピオ十二世聖下は今年八十才に達せられ、教皇在位満十七年を迎えられます。三月二日は御誕生と教皇選定、今十二月は教皇戴冠記念、四月二日は司教叙階記念三十九年となつています。この慶祥ある年を記念して、われらは教皇様の権威と尊厳を新たに讃美し、教皇様に対する信仰と信頼を固める一助としたいと思います。

ペトロの首位権

世の終いの為に人となつて降り給うた天主イエス・キリストは、救世の事業を完成して御父のもとに帰る已先立つて、自ら使徒信仰告白を一団として教会を創り給いました。従つて教会からシモンを選んでペトロと呼び、"岩"ペトロという新しい名を与えて使徒の中の首位の権をゆずり、救世の大業を世の終りまで続けるようにとお託しになりました。ペトロを御自身の代理者、兄弟達の長老人、真理の教師として教会を統率し、指導し、牧える権威を与えたことが知られるのであります。

ペトロの後継者

所がこの権威を一人にしてでてられた教会初代の首位ペトロ司教職と権威は、彼一代で終るのでなく、世の終り迄継続するものであります。キリスト使徒継承者ペトロ（ペテオ十八の廿）とおせに依り、天主の摂理は万国万代に伝えらるべきこと、御自身世の終末まで教会を支配することを約束されて、教会の永続性を明かにされました。所が教会は存続する間、その頭には聖権の象徴が必要であつて使徒信経でも聖ペトロの後継者を信ずべきものであります。この故にペトロの基礎の上に建てられた教会は、初代の殉教者であるペトロの死によつて倒れたり破滅されるようなものであつてはならないのであります。

ローマの司教がペトロの後継者である

聖座の上から既に明らかであるように、ペトロはその司教座をローマに定められました。従つてローマの司教はペトロの後継者として、主はこの御資格に於いて、全教会の最高の牧者、教師、導師であり給います。この最高の権威は、ペトロ個人の特権ではなく、実際に困難な務が伴なつているとは言えはしません。教皇が教会内外の一般問題を解決するに当つて、この権威を行使するのであります。教皇はこの権威を行使することに於いて、全教会の為に聖霊の援助を約束されたのであります。

教皇の教導職

教皇の教導職の一つとして、一年間の説教、訓話、メッセージ等を以て、信仰、道徳、典礼、社会的特権ではなく、教皇の単なる名誉的称号至高の教導権を行使されます。この最高の教導権の行使に於いて、教皇は不可謬権を行使するのであります。教皇が公式に全教会に対してその不可謬権を行使する場合は、多くの回勅や訓書、又は個人的な書簡や談話、メッセージ等を以てするのであります。聖ピオ十二世は、ピオ九世が無原罪の聖母の御宣言を以て聖母の栄光を讃えられたのと同じく、被昇天の聖母の栄光を讃えられ、聖母の御取次ぎを求められました。

聖母の御被昇天

聖母の御被昇天は、一九四五年十一月一日（万聖節）に当つて、ピオ十二世が無原罪の聖母の御宣言と同じく、被昇天の聖母の栄光を讃えられ、聖母の御取次ぎを求められました。

聖母の年と教皇

教皇の教導職の一つとして、一年間の説教、訓話、メッセージ等を以て、信仰、道徳、典礼、社会的特権ではなく、教皇の単なる名誉的称号至高の教導権を行使されます。この最高の教導権の行使に於いて、教皇は不可謬権を行使するのであります。教皇が公式に全教会に対してその不可謬権を行使する場合は、多くの回勅や訓書、又は個人的な書簡や談話、メッセージ等を以てするのであります。聖ピオ十二世は、ピオ九世が無原罪の聖母の御宣言と同じく、被昇天の聖母の栄光を讃えられ、聖母の御取次ぎを求められました。

聖母の年と教皇

聖母の御被昇天を記念に対する

禁書について

自然法と聖會法から見て（下）

J・P・ラベル

聖会法の一般の規定によつて禁じられる本は、十二種類に分類されるが、こゝではその中の九種類だけを説明します。この九種類は三つのグループにまとめることができます。

A カトリック教会の検閲がなく出版された本

(1) 非カトリック信者によつて発刊されている聖書の原文と、その凡ての訳文が禁じられる。正しいテキストによつたものであれば大神学生や司祭は読むことができる。

(2) 教会の許し即ちインプリマツールーがなくて、新らしい奇蹟や出現や默示や新らしい出現に就いて出版された本。例えば一年前に、聖痕をもつイタリー人ピオ師について書かれた本のうち、教会の許しのなかつた八冊が禁書とされた。之と反対に日本の岩波書店発行の聖テレジアの完徳の道は禁じられません。

B 信仰に反する本

(1) 異端、離教を弁護する本、真の宗教の土台をどんな方法ででも破るようにする本。

(a) 歴史の立場から昔起つた異端や離教を述べる本は勿論禁じられない。禁じられるのは、はつきりと理由を出して、理づめにするように努力をする本である、例えば信仰箇条を否定する本。

(b) どんな方法ででもあれ、真の宗教の自然的又は超自然的な基礎を攻撃する本。天主の存在とか意志の自由の問題など。

(c) 宗教を嘲り、直接、間接に宗教を攻撃する本、唯物論や合理主義などを弁護する哲学書

(2) 宗教又は道徳を故意に攻撃する本。

(a) 道徳の攻撃。例えば好色文学とか科学的な仮面をかぶつて避妊制限や堕胎を進める本。

(b) 教会の教えに反対する本

(c) 故意に、主要問題として取扱つたのでなくて、行きすがりに、少しだけ教えに反する箇所があつたり多少猥らなことがある位であれば、その本を読むことは禁じられない。

(3) 非カトリック者によつて、特別に宗教について論ぜられた本。但し何もカトリックの教えに反する事柄が述べられていなければ禁じられない。

(a) 宗教を論ずる本。例えば神学、聖書、典礼学、宗教と関係ある哲学書等。

(b) 特別に　とは主な題目にしてという意味。

(4) 教会の教に反する本。

(a) 色々の理由を出して信仰箇条を攻撃する本。

(b) 聖座から禁止されている誤を主張する本。例えば聖書委員会の決定に反する本。

(c) 天主、聖母、聖人に対する礼拝又は崇敬をけなす本。秘蹟に対する尊敬を破壊したり減少させる本。

(d) 教会の規則を破るように努力する本。司祭の独身制や破門の規則を攻撃する本。

(e) 教会の階級制度とか司祭職業をけなす本。

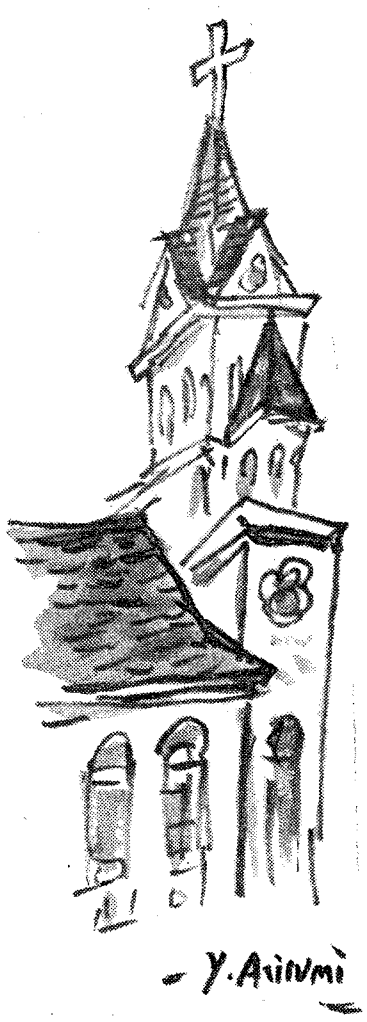
C 道徳と良俗に反する本

(1) 迷信や占や呪や降神術を教え、之を承認する本

(2) 自殺や離婚、フリーメーソンなどの結社を承認する本

(3) 好色文学即ち淫なことを故意に、主な題目として述べ教える本。例えばゾラの書いた本。

（文責編集者）



わが魂は死ぬるばかりに悲しむ
汝らここに留りて、我とともに
醒めてあれ
やがて葬衆われを取りかこまん
ときなんじらは逃げ去りて、唯われ独り屠られんために行かん
みよ時は近ずけり、人の子
罪びとの手にわたされんとす
なんじらは逃げ去りて、唯われ
独り屠られんために、行かん
（聖木曜日の交誦より）

……スールの死……

青柳武四郎

死には二つの意味がある。それはある人にとつては苦しみよりの脱却であり、他の人にとつては楽しみへの訣別を意味するうちつゞく苦悩に押しひしがれ打ち萎せる世の荒波にほんろうされ、運命と名づける暗い潮にもてあそばれる人にとつて、それは寔剣の一つきであがなえる安息とも見える事さえある。他方又快楽、権勢にある人々にとつて、それは冬の夜の楽しかるべきだんらんの集いをあじけなくする、どこからともなく洩れて来るすき間風の様に、一抹の暗いかげを心のうちになげかける、この様な人々にとつて、死はむけ所のない憤まんの源であり妨ぐすべのない恐怖の対象となる。

スール・マルタの遺骸に最後の告別をするためにひざまづいた私の心をとらえていた感情は懸命な理性の否定にも抱らず、かなり後者に近いものであつた一修道者の死、そこに劇的な美しさを期待していた私にとつて余りに平凡な、一輪の花の散り去る様な死は、意外でもあり、憂切られた様な感情さえ持たされた。この様な私に、死の部屋のあやしい迄の静寂さは、私の心をしめつけ、恐怖に近い思いを抱かせた。人生のあでやかな面に酔いしれていた私の若い心には、死は余りに耐えきれないにがいよもぎ草の様な味をもつていたのである。

それから二日、荘厳な告別のミサにひざまづいた時、葬列の先頭を十字架をもつて進んだ時葬地への道をたどりながらロザリオを誦えた時、私は一晃平凡な、変化のないスールの生活が地上の如何なる財宝をもつても織りなすことのできない、美しい綾織りのベールにおゝわれていたことに気がついた。

聖書の記述によるとマルタは主への奉仕のために心せわしく働き、たゞ坐して主の話に聞きほれていたマリアの姿をなじつた為、主よりたしなめられている。マリアは良きものを選んだのであり、それを彼女より取りはすべてをよくする。たゞ人が自分をその手中に全くゆだねさえすれば……

イエズスよ、愛の要求の一つ一つにその限度までゆくお恵みをもうため、と思う時にさえ、御恵みの各瞬間の可能性まで行く事を学ばしめ給え。

たとい、理解出来ずとも、御父なる天主の御計画の細部を私たちの中でおわらせねばならない

第十節　剝脱

私たちがあなたをお迎えする途にきまつて見出すもの、卑賤、屈辱、とにかく嫌なもの。私たちは臆病、勇気、そして美しい英雄の死を夢見る。だが、あなたは悲惨、恥辱、汚名、全裸で剝脱された心の深奥での振りきけるような苦痛の中でしか最後の完結をし上語られる。それがなくては何ものもお気に召さないかの如く……

おゝイエズスよ。私たちをとり込めて、あなたに属することをさまたげるこの衣を、マントの様にやすやす取のける訳にはゆかない。それは私たちの悲惨のあらゆる傷で肉にこびり付いている。

おゝイエズスよ、肉に死する前に、あなたの衣服は傷で付着した御肉体から剝ぎ取られねばならなかつたのか！

第十一節　磔刑

十字架に付けられ、御手足は釘でかしめられる。御血が御体と木を赤くぬりつぶす。そして、臨終の苦痛が、のろい足取りで最後の発作の頂点に近づいて来る。

あなたが大いなる望をたぎらせて待たれた洗礼！しかもあなたはその到来に戦慄される。血と裸なること、残忍な苦痛の中であなたの時がやつて来る世界の魂たちの秘めやかな陣痛があなたの中に行われる。私たちの最上の生命、たつた一つの真の生活の原理が、私たちにとつても此処にある。

この御血の中での救いに身をまかせること、この仕方でしか方法のない愛に身をゆだねる事こそ肝要である。あらゆるためらいの動きを殺して……

主よ、十字架の高みよりすべてを引きよせ給え。

第十二節　死去

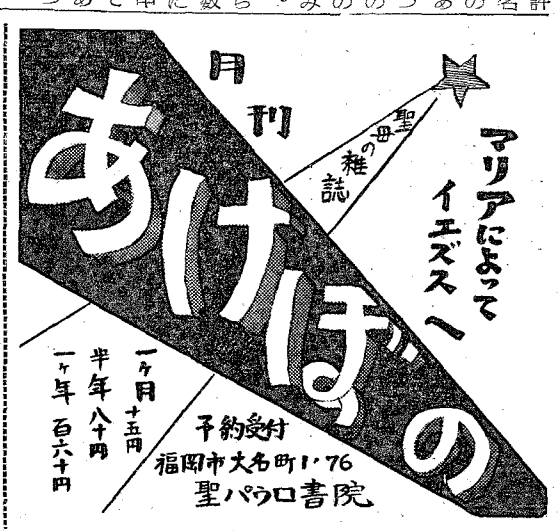
イエズスよ、あなたが妙なる死を自らの上に行い給うこの時、あなたの御言葉一最後のといわれるその御言葉の間をさまよつて、あなたの聖心の聖所に敢えて入らしめ給え

〃父よ、ゆるし給え。彼等は為す処を知らざれば……〃

私は死を苦しみよりの脱却と快楽への訣別と書いた。スールの死はその何れにも当てはまらない死、たとえればキリストの神秘体という美しい神愛の曲をかなでゝいたバイオリンの銀線が、その振動の激しさに抗しきれず突然切れてしまつた様な死とでも云わなければならない。

愛の中に生活していたスールは愛の曲を、もう絶対にきれない美しい銀線でなでゝいることであろう。私は今肉体の耳ではきゝとれないその美しい音楽に耳を傾けている。

（筆者は薬学園教諭）



斷想（十字架の道）（二）

第八留　女達の涙

女のなげき、同情の涙も罪と呼ばれる悪、はかり難く理解し難い憂苦の御苦難の前には価値も意味もない。実の処、イエズスの神秘的な罪の御理解の前には肉体の粉砕さえも何であろう。

イエズスの御苦しみの原因は傲慢で利己的な人間の心の中に根をもつている。私たちの生涯の毎秒毎に、イエズスにとつては苦中の苦となるべき悪が、弱さが、絶えざる拒絶がある。

やさしき主よ、お赦しを！、そして、私たちに出来ない部分を御血の力が完成して下さるように。

第九留　倒れること三度

愛がイエズスを駆つて、人としての可能性の極まで、体の力のつきるまで彼をもつてゆく。まこと、彼は極まで愛し給う。

そして今、もうこれ以上が出来ない。やがて時間が来れば、すべてが完結する。彼に今出来る事は最後まで御父の御旨をかしこむこと。

そうだ、弱さのなかできえ、愛



〃婦人よ、これがあなたの息子汝の母はこれへ。〃

〃実に御前に宣言する。〃今日私と一緒に楽園にいるだろう〃われ渇く。〃

〃事、成りおわれり。〃

〃父よ、御手にわが霊をゆだね奉る。〃

かくて頭を傾け、息をえさせ給う。

御言葉は默し給う。信仰のはじめ。

第十三留　御母の両腕の中

ぐつたりと、変貌した冷たい屍すべての希望が止る恐しい瞬間。最早、語るべき口がつぐまれ、友への眼差は閉ざされて、祝する御手もかざされない。すべては終つて、人々は埋葬と御墓のことを細々と語り合う。

マリアよ、信仰と苦悩につつまれた希望があなたの魂を守つている。すべてが立派に破壊されてしまつた時に、あなたはつゞきを待つて居られる。

使徒団でさえ、瓦解した死した彼は、生命ではなかつたのか？　ではないのか？

マリアよ、私たちの濃霧の中で絶望が迫る時、あなたの望徳の敵共は殺すだけで満足しない。御墓の平安にまで番人を配して監視する。衛兵が石の扉に封印をしたのだから、復活はあり得ない。すべては最後まで見とゞけられて終る。人の了簡では最早処理された一件。

イエズスよ、御墓の三日は私たちにとつて最高の希望の保証である。死と敗北を前にして私共の合言葉は「希望」となつた。私たちは死後あなたと同じく自らの破かいを激しく経験しなければならない。

あなたの神秘体も時おり、死の悩みの後に、埋没の沈默を経験する。勝ほこつた人々は封印さえする事を忘れない。

イエズスよ、あなたの教会に対して鍛えられた忠実さと不屈の信頼を、世に於ける真の生命の決定的な勝利に対する確信と共に、私たちに賜えかし

私たちは、それを心から信ずる

（一九五六年二月十五日）

第十四留　埋葬

力をおわけ下さい。その時こそ実は、生命が湧き出る決定的時間が迫つている。

イエズスよ、私たちに、信仰における望徳を！

カトリック
可　福岡司教館
深堀司教館内
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部十円

主の復活の証人たれ

福岡司教ドミニコ　深堀仙右衛門

我等にたすかりを得させんが為に、神人イエズス・キリストは十字架に釘つけられて真に死し給して三日目には真に復活をさいました。そして四十日の間弟子達や他の多くの人々に屢々現れて、自ら御復活を証明なさいました。〃汝等に平安〃とはその現れの都度主がまづ与え給うた御言葉であります。之はいわば主が〃我は汝等に前以て告げていた通りに、十字架に死して三日目に復活したイエズスである。汝等心を安んじて我を信ぜよ〃と宣う様であります。弟子達はよみがえり給うたイエズスを見、主の御言葉を聞き、主と共に語ることができて大いに喜びました。〃弟子達主をみて喜べり〃。主は又宣う〃汝等安かれ吾汝等を世に遣わす、往きてわれについて証明をなせ〃とし給して三日目には真に復活をさいました。そして四十日の間弟子達や他の多くの人々に屢々現れて、自ら御復活を証明なさいました。〃汝等に平安〃とはその現れの都度主がまづ与え給うた御言葉であります。之はいわば主が〃我は汝等に前以て告げていた通りに、十字架に死して三日目に復活したイエズスである。汝等心を安んじて我を信ぜよ〃と宣う様であります。弟子達はよみがえり給うたイエズスを見、主の御言葉を聞き、主と共に語ることができて大いに喜びました。〃弟子達主をみて喜べり〃。主は又宣う〃汝等安かれ吾汝等を世に遣わす、往きてわれについて証明をなせ〃と

我が復活したることを世に証明せよと云われる程の信頼に満ちた命令をうけた弟子達は、信仰の力を大いに強められ、うつぼつたる勇気が魂の奥底から湧き上ってくるのでした。そして彼等は御復活の主キリストを身を以て証せんが為に、世に出掛けたのであります。〃我等は皆その証人なり〃（使徒行録二ノ三二）

然るに我等はこのイエズス・キリストを信じ奉り、主に援がれた枝であり、我等の魂には主の御復活の光栄と喜びが通じているのです。使徒達が主の御復活を証する為に流した信仰の血と、捧げた生命は、我等の魂の底ににじみ入り、我等の信仰を生かしているのです。されば我等も弟子達と共に、主の御復活の証明を世になすべきものなのです。あゝ主は我等が、又この私が之をなすことを期待していられるのです。〃汝等も我につきて証明をなさん〃（ヨハネ十五ノ二七）然り、キリストを信じ奉る我等信者は、皆主の御復活の証人なのです。各々キリスト信者たる自覚を新たにし、主の証人にふさわしいものであるかを反省いたしましょう。

然し我等は何を以て御復活を証することができるでしょう。それはキリストが人となって世に降り給うた天主であることを信じ、その御教を守り生活の中に之を生かす事によって、主の証人となるのであります。即ち完全なキリスト信者でありさえすれば、それで主の御復活を最も明らかに証するものであります。そしてキリストと一つの体即神秘体を作るのであります。云う迄もなくその頭はキリストであり、我等はその枝であります。所が頭であるキリストは永遠の光栄の輝きの中に復活をさいました。であれば枝である信者も又主と共に永遠の生命に復活せしめられるはづであります。〃終りの日に之を復活せしめん〃（ヨハネ六ノ四四）とは御復活の主の約束なのです。

されば皆さん、今キリストの御復活のよろこびを歌うと共に、キリストに対する信仰と希望と愛を各々心の中に改めて宣言いたしましょう。

終りに臨み我が愛する教区信者の皆さんに、主に倣って甘味に満ちた主の御言葉「汝等に平安」を贈り、主の御復活が皆さんの霊肉の復活となり、永遠の喜びとならんことを祈り申し上げます。

「諸人よろこべ、そは我等の主イエズス・キリストは真によみがえり給いたればなり、アレルヤ」



主まことによみがえりアレルヤ

司祭異動

任福岡小神学校	田口康頼師	
任太刀洗教会助任	黒川博師	
任唐津修道院附	グロージャン師	
任新田原教会主任	小倉教会助任	アルチユス師
帰国		（本町）
任新田原教会主任	入代教会	

永久聖体礼拝

四月

第一日曜日　延岡教会
第二日曜日　今村教会
第三日曜日　黒崎教会
第四日曜日　女子パウロ会
第五日曜日

光の世

神と人

神と人との関係を父と子の関係になぞらえて説明することはキリスト教が特に好んで教えるものである。子をこの世にあらしめ、その幼い生命を育んで一人立ちできるよう、慈しみ深い保護を加えるのは父である。子は父の手中に凡てを托し、父の姿に益々肖るよう努める。子は父から独立した人格をもつが、然し或る意味に於ては父のものである。父と子を結びつけるものは、血縁に基く独特の尊敬と愛である。

人間が神の子たること、之は恐らく我々が考え得る限り又表現し得る限り、最も適切に神と人間との宗教的に現実なつながりを云い表している。それは人間にとって最上の光栄であり、その品位がこよなく高められていることを示す。人間を万物の霊長と呼ぶことは、全自然の上に君臨する者の偉大さを表わしているにせよ、尚〃神の子〃というつゝましやかな呼名に優るものではない。

然し、このキリスト教的呼称は、他の宗教又は哲学が教える所と時として非常に共通しているように見えるが、実際には黒白相いれないものであることを見究めなければならない。

宇宙を広大無辺なる神の部分であると説く宗教がある。宇宙とその中の一切のものが神の霊を具え、虫けらさえも神の一部だと云うのである。従って森羅万象等ひが神の顕現、権化ということになる。

この考えによれば神と人間とはきつぱりと区別できない。むしろ区別してはならないものである。人間はいつかは神の中に融け込むのである。その理想とする所は、神と人という二つの違った者が一致することではなくて、人間が神の中に没入し帰一することである。

この思想は一見すると如何にも素晴しいものの様である。人間は神そのものであり、現世にある間だけ切り離されている。死によつて肉体の呪縛から解放される時には自ら神の中に吸収されるのでなくて、神と同一なものである。これ以上に人間の尊厳を高めることができようか。

然し人間を神と同列に高めることが結局は、神を人間の系列に迄に引きさげることに外ならないということに気が付かないだろうか。

人間を神から区別して考えないこと、それは、存在するものは神だけであつて、神は〃私〃を人格者として眺めないことであり、その裏を返せば、今生きている私は神を独立して存する絶対的な者と見なさないことである。又同時に人間は自己意識をもたず「我」と「汝」という人格の区別をつけ得ないことになる。

こうなると有神論とか無神論とかの議論が起つてくる余地がなく、むしろ漠然とした無神論におちいる筈である。又個人であり人格をもつ「私」という責任を自覚した観念は生れず、いつも漫然とした〃我等〃という観念に支配される。「私の権利」を主張する根拠が薄くなり、恰も神に没入される様に〃私〃がそれ以外の無限にひろがる〃他〃の中に姿を消して了う。然も神は〃神なる汝〃と呼べる個性ある神とは映つて来なくなる。凡てが神であるとは、誰も神でないということである。

キリスト教で人間を神の子と呼ぶことは、以上の思想とは一見共通しても実際には根本的に違つたものである。

キリスト教で云う神は全宇宙から全く超越したものである。神と世界との間には同一点は少しも見出せないのである。宇宙は神によつて〃無〃から創造され、従つて〃神ならざるもの〃被造物なのである。

他方人間は人間たるの地位に安んずる。然も個々に創造されて〃我〃を〃汝等〃より区別する個性を自覚しているのである。この個人としての我意識の故に自分の権利を要求し、隣人を尊重し、神の絶対性の前に己を屈することができる。このような人間意識そして自己意識がしつかり認められていなくては、神に対する正しい宗教態度は生れない。

人間が神の子であると主張すること、之は決して人間が神となることではない。只神が御自分の姿に似せて造り給うた人間の霊魂に、特別の愛よりして更に神秘的な似姿をきざみ込み給うことを信ずるのである。若しそうであれば人間の神への関係は、最早造られたものの造主に対する他人行儀的な対面関係でなくて、同じ血の通つた父と子との縁故関係という以外に適当な表現が見付からないのである。キリスト教的神人関係の神髄はここにある。それは神の超越性を私の地位の自覚、この私を慈しみ給う父なる神の愛に対する確なる信仰に根差したものである。（深堀　敏）

祈禱の使徒会　4月

【一般の意向】聖職、修道生活の尊厳

司祭とはひたぶるにイエズスの聖心に倣い奉るものである。否それのみでなく、キリストの役者として、時間を永遠に、人間的悲惨を神的尊厳に結び、和ましめる仲介者に選ばれた栄ある器に外ならない。しかし今日、悲しむべきことは、多くの人々、信者の中にさえも、司祭職とその聖召についての正しい認識を欠いていることである。小説その他に取扱われる超自然性を無視した、罪と悲惨の泥沼に喘ぐ、あまりも俗悪に歪められた人間像が司祭の真の姿ではない。人々にキリストの悦ばしき福音を告げ、キリストの代理者として罪を赦し、悩み苦しむ者を慰め、世の罪のために聖父に犠牲を捧げる者。罪に死し、信仰に基づき、聖父の聖旨に謙りつゝキリストの愛に迫られて自らを汚れなきホスチア、生けるはん祭として捧げる第二のキリストたる司祭がすべての人々に正しく評価され、その聖召が尊崇されるよう、今月中、日々の祈りと働きとを捧げよう。

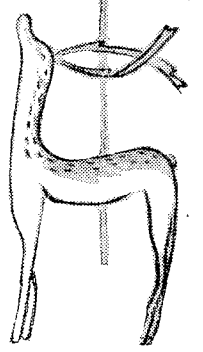
【布教の意向】韓国の宣教師の増加

韓国における聖会の歴史は数多い光栄ある頁に飾られている。殉教者の種は教会の旨ざましい発展となつてその果を結んで行つた。しかし打続く動乱のため、すべては荒廃に帰し、あまつさえ国土は二分されてしまつた。一方には迫害と殉教が迫つており、また一方は多くを失つて苦しむ信者達を牧する司祭達があまりにも僅かである。この混迷の中にキリストの御光を授ける宣教師やカトリック学校が今程強く要望されている時はない。

【布教委員会の意向】幼児教育における教育のため

四月

ALELUIA



一日（日）我主イエズス・キリストの御復活の大祝日
「彼は世の罪をあがなえる真の小羊なり。彼は死をもてわれらの死を滅ぼし、よみがえりをもて、われらの生命を恢復せしめ給えり」

司教荘厳ミサ（於大名町教会前・九時）

五日（木）聖ヴインセンシオ・フエレリオ証聖者
ドミニコ会、十五世紀最大の説教家、スペインだけで二万五千人のユデヤ人を改宗させた。一四一九年帰天、

六日（金）初金曜日

七日（土）初土曜日

西新カトリック幼稚園祝別式

八日（日）白衣の主日（御復活第一の主日）
昔御復活の日に受洗したものは、今日まで濯白のシンボルである白衣を身につけていた。教会は生れたての信仰のみどり児に限りない慈しみの眼をそゝぐ。

司教様は今日より一週間司教会議のため上京

九日（月）聖母マリアの御告の祝日
神の御子が人間の性をおとりになつた最初の瞬間を祝うと同時に、聖マリアが神の御母となられたことを讃美する。神に在しながら奴隷のかたちをとつて世に降り給うキリストと、神の母に選ばれ乍ら〃主の婢〃とへりくだるマリア。景むべき謙遜の模範。

十日（火）聖女ジェンマ

十一日（水）聖レオ一世教皇博士証聖者
ローマの教皇権を擁護し、宣揚した偉大なる教皇。フン族の首長アツチラの怒濤の如き侵入掠奪からローマを守つた英雄として有名、四六一年帰天。

十五日（日）御復活後第二の主日
〃我はよき牧者にして、わが羊を知り、わが羊又われを知る〃迷える羊を探す善き牧者たるキリストの姿を黙想する。

十六日（月）聖ベネヂクト・ラブレ証聖者
聖女ベルナデッタ童貞

十七日（火）教区司祭月例集会の日

廿一日（土）聖アンセルモ司教博士証聖者
スコラ神学の祖と呼ばれる、ベネヂクト会員にして英国カンターベリーの大司教一一〇九年帰天。

廿二日（日）御復活後第三の主日
今月の福音はイエズスと生きることの喜びを歌う〃イエズスがおいでにならなかつたら、どんなに汝は味気なく、困難になるだろう。イエズスを見出し奉る者は、よい宝、然り、あらゆるよいものに優るよいものを見出すのである〃とイミタチオは云う。

大分教会及別府キャンプで堅振

廿五日（水）福音史家聖マルコの祝日
大祈願祭。農作物の上に天主の御祝福を特にお願いする日。

廿八日（土）十字架の聖パウロ証聖者

廿九日（日）御復活後第四の主日

天皇誕生日
キリストは聖霊の来臨を弟子達に予告し給う。〃かの真理の霊きたらば、一切の真理を汝らに教え給わん。〃

伊万里教会で堅振

卅日（月）シエナの聖女カタリナ童貞

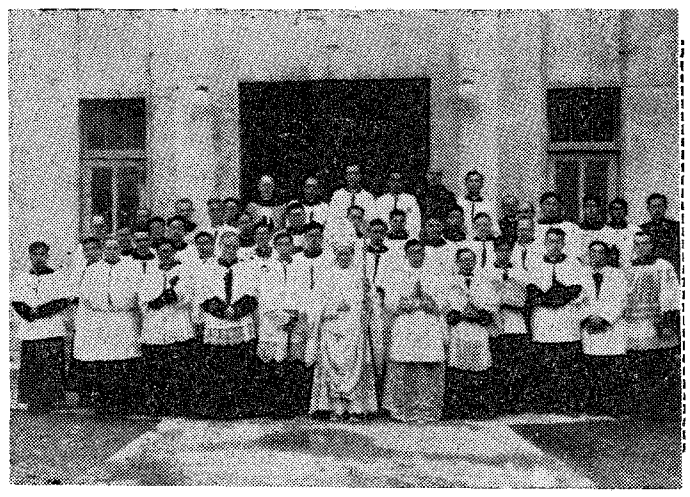
川口康賴師

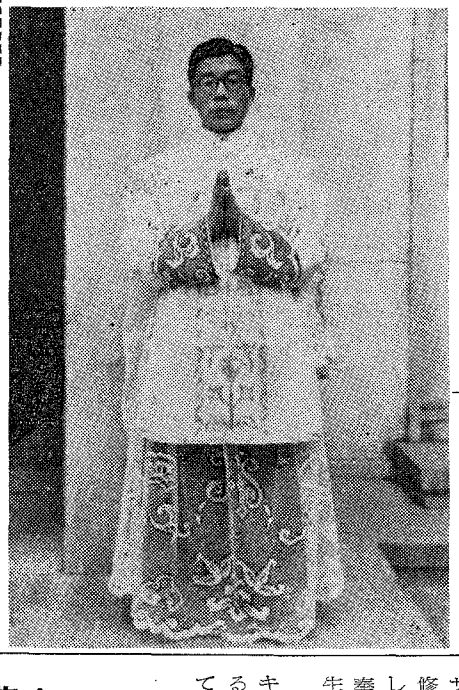
永遠の司祭職にあげられる
淨水通教會にて感激の聖典

三月十九日聖ヨゼフの祝日、福岡市淨水通教会に於て、川口康賴師の司祭叙品の聖典がいとも厳粛にとり行われた。

定刻十時教区各地から参集した司祭、修道者、信者約三百名の視線は、まさに永遠の司祭職にあげられようとする一人の若人の上にそゝがれる。荘重な助祭長の呼びに、歩をふみしめて司教の前に立つ司祭候補者の胸には、過ぎし永年の研鑽と苦闘の記憶が去来する。

やがて全生涯を神の御手に托せきつて、十字架のもとに平伏した彼の上に、信頼にみちた力強いコーラスの声の波が、天国の諸聖人の取次を切願する。今やすべての懸念も恐れも克服して〝神のもの〟となつた受品者の頭上に、司教は神人キリストの姿を刻むかのように、慎重に按手する。次いで参列する四十余名の司祭も、自分達と共に叙階の恩寵を高らかに誦える。司祭の聖位が永遠に刻印される神秘的な一瞬である。その時「汝はメルキセデクの如き永遠の司祭なり」とのユーラスの感激の歌声が堂内にひびきわたる。





このあと直ちに祭服の授与と両手の祝別、そしてミサ聖祭を捧げる権限が与えられて聖式の第一部が終了。引き続き司教との共誦ミサに入り、始めてパンとブドー酒聖別の言葉が発せられた。

ミサの終り頃、司祭のもう一つの特権、人の罪を赦す権限が附与され、かくて新司祭は両刃の剣を腰におびて、神の国の建設と人類の精神的征服の壮途に飛び立つ〝神の使徒〟となつたのである。

因みに新司祭ステファヌス川口康賴師は熊本県天草郡大江教会の出身。昭和十四年当時福岡小神学校であつた泰星中学に入学、戦時中応召。終戦と同時にシベリアに護送され、数年間捕虜生活の苦しみを味い、帰国後それが為に一時病床についたが、司祭職えの強い望みによつて凡てを克服、遂に今日の栄与に挙げられた。

尚初ミサは大牟田市倉永の明光学園で行われた。

（写真上は叙品式後司教様と川口師を囲んだ教区司祭、下は川口康賴師）

宮崎地方の堅振

【高鍋】三月十一日午前九時から深堀司教様より五十名が受堅。

【川南村】児湯郡川南村の宮崎国立療養所で同日午後四時より、四十名が受堅。

カトリック学園の卒業及入学状況

海の星学園（鳥渡教会）

卒	小学校	二一名
卒	中学校	二九
新入	小学校	五〇名
卒	中学校	二一

泰星学園（福岡）（マリア会）

卒	中学校	四十名
新	高等学校	一〇二
新	中学校	三一〇
新	高等学校	三一〇

雙葉学園（福岡）（サンモール）

卒	高等学校	一二七名
卒	中学校	一五〇
卒	小学校	三九
新	中学校	一〇六
新	高等学校	一五二

明光学園（大牟田）（カノッサ会）

卒	中学校	一二五名
卒	高等学校	八四
新	中学校	一三〇
新	高等学校	一六五

明治学園（戸畑）（ノートダム会）

卒	小学校	五八名
卒	中学校	九〇
卒	高等学校	八〇
新	小学校	九六名
新	中学校	一二三名
新	高等学校	八三

新西新カトリック幼稚園

福岡市曙町二丁目の西新カトリック教会（主任司祭青木功師）附属の新幼稚園は、一月廿日着工してこの程ほゞ完成、四月七日に祝別及開園式を行うことにきまつた。アルミニユームの平屋根の明るい建物で約六十坪、設計は菅種雄氏、建築は光和工務店一取締役社長宮原光蔵氏。定員は九十名。

トラピスチヌ修道院で無期誓願一名

新田原の聖家族の聖母トラピスチヌ修道院では、去る三月二十一日の聖ベネヂクトの祝日に二名の修道女の無期誓願式が行われた。修道女の氏名及出身教会は、左の通り。

メール　プラクセダ蔦島（新田原教会）
スール　アタナイス畑原（平戸教会）

パパ様のための靈白花束

	福岡地区	宮崎地区
ミサ奉献	610	12
ミサ拝聴	47.137	4.299
聖体拝領	29.242	3.333
聖体降福式	10.134	1.183
聖体訪問	40.794	2.960
ロザリオ	81.377(環)	2.660(環)
十字架の道行	16.975	1.549
教皇のための祈	80.786	1.829
射　禱	百万以上	10万以上
犠　牲	80万以上	10万以上

教区主催〝教皇のたゆのミサ〟
三月四日　大名町教会で

我等の教皇ピオ十二世聖下の御誕生第八十回記念日を迎え、全世界にそゝぐて様々の記念祝賀行事の絵巻がくりひろげられている折から、福岡教区に於ても三月四日四旬節の第三の主日に、聖下の為の特別司教座聖堂で、司祭叙品式の厳粛ミサが大名町司教座聖堂で、司祭修道者一般信者約八百名が参集して挙行された。ミサ及聖歌の奉仕にはサン・スルピス大神学生が当つた。

司教様はミサ中の説教に於てキリストがペトロを教会の見ゆる頭と選び給うたことから始めて、教皇権の由来を淳々とお説きになり、ペトロの後継者である教皇に対する信仰と信頼、更に子としての孝愛をますます深め、特にそのミサ中、我等の慈父の為に祈るようお諭しになつた。

之に答えるなのように満場拝聴者は、大神学生の唱うトウエス・ペトルス「汝は厳なり」「我等の大司祭ピオの為に祈らん」の荘厳なる聖歌に心を合せて、教皇に対する我等の信仰告白を新にすると共に、慈愛あふる、我等の父に豊かな恩寵を下し給う様、熱心なる祈を捧げた。

福岡小神学校一部改増築

新入十九名
総員五二名

福岡小神学校では教区の教勢発展にともない、小神学生の数が漸増して、今までの校舎では全員を収容できない状態となつた。一人でも多くの司祭を熱望する教区は、全志願者を受入れることができよう、旧食堂を改造して二階建八十八坪の新校舎を増築した。二階は食堂、階下は自習室に当てられる。

三十年度卒業生（高校）及出身教会は

三十一年度新入生及出身教会は

福岡教区

中一　平田清志（本郷）浦浜久一（行橋）平田誠（大刀洗）長澤聡（八吉）柳瀬英世（八幡）浦口和幸（生ノ浦）
中二　川添義助（桐）江村武志、江上博昭（新田原）
中三　矢野英信（浄水通）山口作幸（大牟田）牧山藤春（馬渡島）
高三　三木義昭（若松）

鹿児島教区

中一　久保政博

フランシスコ会

中一　片岡嚴視、矢野正信、竹内栄治（浦上）池田敏幸（田平）
中二　松下信行（田平）

仏海軍武官　司教館訪問

日仏親善の目的で博多港に立寄つた仏通報艦ラ・グラシユーズ号の艦長リオベ中佐と、大使館附海軍武官ラムール氏は、ヴアンドリユ師（ベネジリト会教区の副司教、及アンゼ・カトリック大学の教授をしている。

（写真は前列左よりラムール、リオベの諸氏、司教様、平田師）

大神学校でも叙品式

司祭叙品式の前日三月十八日恒例の学年末叙品式は、深堀司教の司式により福岡サンスルピス大神学校聖堂に於て挙行された。

剃髪
三　下級聖品　一
平山　高明師　副助祭　二
三村　邦明師　下二段　二
（共に福岡教区）　上二段

福岡のカトリック學生会のお知らせ

創立以来四年目を迎え、今春五名の卒業生を送り出した学生会は現在八名の会員より成つております。会員の資格は福岡に在る各大学の信者の学生（求道者も可）であります。学生会の空気を一新する意味で、是非新入会員の加入を希望致します。学生会の主な行事は隔週に一度、例会を開いて会員間の霊的向上や親睦を計ると共に年に四回の黙想会を、特に夏には大黙想会を実施して霊魂の浄化に努めております。

尚第一回例会は来る四月十四日（土）後二時、地行教会（市電地行西町、下車、東へ三分）で行われる予定です。

連絡先は
〇地行教会内
カトリック学生会
又は〇筑紫郡春日町春日
コート内

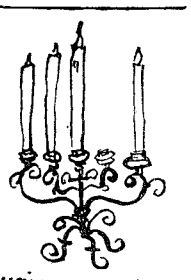
角田隆一

「教皇の日」の献金

福岡教区

（三月四日）

大名町	浄水通	二、六三〇円	
那珂町	高宮	三、二〇〇	
二日市	新宮町	一、〇〇〇	
久留米	西鉄	一、〇〇〇	
太刀洗	養地	一、〇〇〇	
大牟田	行橋	一、〇〇〇	
呼子	浄水通	一、〇〇〇	
馬渡島	大名町	二、〇〇〇	
古賀	大名町	三、〇〇〇	
佐賀	大名町	三、〇〇〇	
唐津	大名町	三、〇〇〇	
鳥栖	大名町	三、〇〇〇	
伊万里	大名町	三、〇〇〇	
門司	大名町	三、〇〇〇	
小倉	大名町	三、〇〇〇	
湯川	大名町	三、〇〇〇	
戸畑	若松	一、六三〇	
松脇	若松	一、〇〇〇	
巻崎	若松	一、〇〇〇	
方塚	若松	一、〇〇〇	
川原	若松	一、〇〇〇	
田原	若松	一、〇〇〇	
飯塚	若松	一、〇〇〇	
直方	若松	一、〇〇〇	
水巻	若松	二、〇〇〇	
黒崎	若松	二、〇〇〇	
八幡	若松	二、〇〇〇	
若松	若松	三、〇〇〇	
畑	若松	一、〇〇〇	
大牟田	若松	三、〇〇〇	
玉水	若松	一、〇〇〇	
人吉	若松	一、〇〇〇	
八代	若松	一、〇〇〇	
健軍	若松	一、〇〇〇	
手取	若松	一、〇〇〇	
新行橋	若松	二、〇〇〇	
田原	若松	二、〇〇〇	
ミッション本部	若松	三、〇〇〇	
不明	若松	一、〇〇〇	
計	若松	八六、六六〇	
宮崎	宮崎教区	二、〇〇〇	
都城	宮崎教区	二、〇〇〇	
高岡	宮崎教区	一、〇〇〇	
延岡	宮崎教区	二、〇〇〇	
富田	宮崎教区	一、〇〇〇	
鍋野	宮崎教区	一、〇〇〇	
日向	宮崎教区	一、〇〇〇	
別府	宮崎教区	二、〇〇〇	
大杵	宮崎教区	二、〇〇〇	
日中	宮崎教区	二、〇〇〇	
大津	宮崎教区	二、〇〇〇	
佐伯	宮崎教区	二、〇〇〇	
計	宮崎教区	二四、二四〇	
合計		二三、二四〇円	



「公教要理」（一）

秘蹟とキリスト教生活

伊東誠二

「私にとって、生きるとは、キリストのことである」（フイリッポ一の21）

「天主は、実に、私たちを、イエズス・キリストに於いて（神の家に）入籍された子どもとなすようにあらかじめ定められた」（エフエゾ一の5）

これらの原理は、聖パーロのダイナミックな表現で、キリスト信者の生態を、刻明に描写している。

キリスト信者が、生き、愛し、苦しみ、死するすべてのことがキリストの中で行われなければ意味がない。

天主は現世の諸要素の中で私たちを〝その御独子にあやからしめる〟（ロマ七の29）ために三倍位の生命を私たちの霊魂に通わせられる。秘蹟はこのための最も重要なみちの一つとして定められた。

イエズスは十字架上の死によって、原罪以来閉されていた聖寵の国を私たちのために開かれた。この国人は時空を超えた新しい生命の息吹を得るのであるが、救世の効果が一人一人の霊魂に適用されるのでなければならない。即ち、生命の泉は、三位の懐に湧き出づるだけでは、天主の望み給う新しい秩序は人人の間に打立てられる事は出来ない、又人がそれを渇望するだけでも実現されるものではない。

秘蹟が聖寵の導入管であるという説明は、聖伝が好んで用いる表現であるが、超自然を自然に結ぶ要因の必要を示しているのである。この中間を埋めるものを定めるのは、全能者の御意志以外には考えられない。

秘蹟の社会性

このように秘蹟はその適用の方法から見ると個々の霊魂に向けられるものであるが、その効果から見ると、個人的と言うよりは、むしろ、神秘体、或は教会と呼ばれる共同体の生命に関するものである。

従ってキリスト教生活の生態は宗教的個人主義の考えにしたがって自分のためにのみの信仰を営もうとする事とは似てもつかないものであることを心得べきである。あまつさえ、現代に於て、人間の社会性があらゆる分野に重要な価値を主張される時代に、救世の御計画の世界的な広さはキリスト者も忘れてはならない意味を持っている。

即ち、キリスト教のすべての教義は社会的な反響を持って居るが、就中、秘蹟に関する教えはキリストの神秘体への連帯性をなため、その発展の最も強力な道を私たちに示すのである。

「洗礼」キリストとその教会に私たちを結ぶ公式の典礼。キリスト者は独りでキリストとの関係を持っているのではないキリストが私たちに生命を与え給うのは神秘体の一致を成すためであり、神の国の歴史を通じてなされる実現の一環としての天主の御働きを意味する。

愛洗することは、同時に天主を父として持つこと、教会を母とすること、万人をキリストにおける兄弟とすることである。

従って、宗教改革以来の流行である個人主義的な敬虔は排斥さるべきである。

「堅振」天主の家における成人。教会の公認の擁護者として救世の使命を委任されるための秘蹟、であって世に向って教会の信仰を証明する任に当たらせられる。キリストの兵士はキリスト教団のために生き且死すべきである。

「婚姻」神秘体の生成と三位の礼拝者の増加をその使命として委任される秘蹟であって、この恵みのもとに、父となり母となるものは、キリストに於ける友愛の中で夫婦の愛を実らせ、キリストの神秘体の肢体を生長させる聖性の苗床の保管を委ねられる。

「聖体」一致を固める秘蹟であって、全教会をして同一のキリストへ結びその生命の流れを共有せしめる。一個の霊魂がキリストに一致する度合にしたがって彼は、キリストに属するすべての人に一致するであろう。〝主に於ける同心同意〟（使四の32）の状態は、平和と一致の保証となるためのものである。

「悔悛」神秘体の腐敗をふせぐ秘蹟であって、このお恵みの下に神秘体全体が復活と成形のよろこびにおどる。

「品級」教会の司祭職を通じてその共通善への一致が固められる秘蹟であって、これによって司祭は、キリストのペルソナに於て動き、教会の名に於て聖職を行う任務を委ねられる。

彼がミサを行う時、キリストの最高の司祭職が神秘体の為に行われる。この犠牲は、十字架の時の継続である。そこで神秘体は生命の最初の時間を与えられた。

司祭は実に、キリストの給仕者天主の奥義の分配者（コリント前四ノ1）として立てられる。秘蹟と祝福は彼の手をもって神秘体のために与えられる。

「終油」全教会は病者のために祈る。この秘蹟は人間の全生涯の本質的な時、即ち永遠への決定的な時に与えられる。各肢体は一人一人、天主の光栄を帯びて行くのであるが、終油は教会の唯一生を完結する力をあらわす。肉体の死によって消滅するが如き、個体の生活ではなくて、キリスト者の生活は天に於て永続する。戦う教会は勝利の教会に変化する。

天主は救世のすべての御計画をバックにして人々を愛される。イエズスは、私たちの霊魂一つ一つを、教会の中に於て救われ秘蹟を以て、救世の御事業を歴史の中に展開されるのである。秘蹟の教理は、キリスト者の生活態度に切実な意味を持たねばならない。

以下、順を追って私たちの生活の中にこそ置かれた天主の愛の生態を研究して見度い。

（続）

清貧の使徒

聖ブノア・ラブル

（四月十六日）

「義人は信仰によって生き」聖者は愛によって生きる。聖人の姿は、これを所謂聖人臭のする常人ばなれのした生活に求むべきではなく、その中に激しく燃えている天主に対する熱愛の中にこそ求むべきものである。

聖ブノア・ヨゼフ・ラブルの天主に対する聖愛は、純粋に清貧の便徒となることによって現わされた。彼はまことに、教会が生んだ異色ある聖人である。

ブノア・ヨゼフ・ラブルは、一七四八年三月二十六日、フランスのアメット村に、十五人の兄弟の長男として生れた。十八世紀中葉といえば、全ヨーロッパが享楽奢侈に流れ、殊にフランスでは、ルイ王朝が全盛を極め、上流社会では贅の限りをつくしたものである。こうした風潮の中にあって、ヨゼフが幼時から珍らしくも清貧の尊さを知り、信心の業を愛したのは、やはり天主の恩寵というべきであろう。信心深い両親の感化が与って力あったことは言うまでもない。

両親は、はじめ、彼を聖職者にするつもりで、伯父に当る司祭にその教育を一任した。たまたま、その村に伝染病が流行しヨゼフも誠意病人の看護に当ったが、彼の伯父は、不幸病気に感染して不帰の客となってしまった。そこで彼の司祭職への希望も頓挫してしまった。彼は、旦祈り、旦黙想して天主の聖旨を求めた。彼は、最もきびしい苦業を行う修道院の門をたゝいたが、三度目に漸くセト・フオンのトラピスト修道院に入会を許された。修練士となり、ウルベん修士と名乗ったが、間もなく健康を害って、そこをも後にした。彼は悩んだ、そして尚一層祈った。愛する為の聖い霊魂のあがきである。最後に彼は、すばらしい発見をした。祈りつゝ、乞食巡礼として生涯を青天井の下に送ろうという、奇抜な試みを始めたのである。それは彼自身の肉性に対する霊性の挑戦と勝利であったばかりではない、当時の奢侈な風潮に対する聖愛のレジスタンスでもあった。

彼は修道院を出る時もらった修練士の古着を身にまとっていたが、それには 虱がわいていた。首には大きなコンタツを下げ胸には大きな銅の十字架をかけ腰に縄の帯を締め、背中には小さな袋を背負っていたが、その中には、聖書、イミタチオ・クリスチ、聖務日祷書各一巻と少量のパンが入っていた。これがラブル家の長男の全財産だったのである。

乞食は何時の時代にも喜ばれない。余りものでさえも他人に与えることを何故か人は好まないのである。人は屢々施与を拒むばかりでなく、慈悲を要求する者を軽蔑する。ヨゼフ・ラブルも例外ではなかった。人人は異様な風ていの乞食巡礼を非難し嘲笑した。然しヨゼフは、口に祈や聖歌を口ずさみ、心に平和を保ちつゝ、ローマ、ロレット、コンポステラ等の聖蹟を巡礼し続けた。施与を受ければ感謝し、迫害を受ければ更に愛謝した。主の為に苦しむ機会を得たからである。

彼はその所有物に所有されなかった。否、かつて、彼自身の所有者御一人を所有した。こゝに清貧の効果があり、栄誉がある。〝マリアは最良の部分を選めり、そをうばわるましきなり〟（ルカ一〇ノ四二）ヨゼフはその最良の部分である天主御自身の姿を、霊魂の奥深く、しつかと抱きしめていた。彼は受けるばかりでなく大いに与えた。余分のパンは貧しい人々に与えた。屢々超自然のことについて語り合い、喜ぶ者と共に喜び、泣く人と共に泣いた。「聖人が歩む所には、天主も又共に歩み給う」と後にアルスの聖司祭は言ったが、ヨゼフも又、行く先先で天主の恩寵を時きちらしたのである。その力を彼は、聖体或は聖像の前で屢々ず終日の祈や黙想に汲んだのである。

灰の中に埋もれた火は熱を持っている。そして、かくされた火に触れる人人を焼きつくす。聖人の聖徳も何時かは之に触れる人人を焼き尽さずにはおかないのである。奇異を服装をした巡礼乞食は、何時の間にか次第に人人の心に、天主に対する愛熱の火をかき立てつつあった。始め、彼を軽蔑した人人さえ、後には彼を聖者として尊敬とする様になった。

然し、聖人は屢々地上では報われない。一七八二年の聖週間であった。ローマの聖マリア聖堂で四十時間の聖体礼拝が行われていた。ヨゼフは聖体の前で祈にふけっていたが、かねてから病弱であった彼は急に祭壇の前で昏倒し、附近の民家に運ばれたが、間もなく終油の秘蹟を受け、安らかにその霊魂は愛し奉る永遠の御父の御懐に旅立つて行った。四月十七日、聖水曜日のことである。

三十五年の生涯は短かかったが、清貧の中に生きていた聖愛のほのほは、永遠に彼の霊魂の中に燃え続けているのである。



カトリック学園の皆さん

御入学おめでとうございます

（教区機関紙カトリック）

その日の出來事の想定

―四福音書にしるされている復活―

伊東神父

日の記事にもとづいて、その日の出来事を時間的に構成して見ることは、この大玄義がふくむ感動を呼び起すために意味ある試みと思われる。

それで左に、ラグランジュ師の共観福音の研究ノートから学び得た事を紹介することにした。

一、イエズスの御復活は日曜日の夜明前、相当早く行われた。御墓の石扉は開されたまゝで復活された御主は、御母マリアの前に出現されたものと考えたいこの事は聖書には記されていないが、御母の御心痛に対して個人的に報いを与えるために、光栄の御姿を此処に現されるのは当然だと考えられるし、聖母マリアが、早朝墓に行った婦人達の間に居られないことにはこんな意味がありそうである。（詩篇九三の二）

二、地震、天使達がおり立つて石扉をまろばし除け、その上に坐すのを見て、番兵等は気を失い、墓の前の衛所を逃げ出す。（マテオ二八の2―4）隊長に報告しただろう。大司祭への報告は此の後になされたはずである。（マテオ二八の11）

三、香油を貯えていたマダレナは、夜明前から起き出で、（ヨハネ二〇の1）もう一人のマリアとサロメと共に墓へ行ったが途中で、マリアとサロメは香油を買うために町に寄った（マルコ十六ノ1）

四、マダレナは独りで先に墓につく。墓の口は開いていて空虚である（ヨハネ二〇の1）

五、そのうちに、サロメもマリアも、他の婦人たちも墓について驚く（ルカ二四の1―2）

六、マダレナはひとりペトロのもとに走り行き、急を知らせた（ヨハネ二〇の2）

七、婦人たちがいぶかりつゝ墓の中を見ると、二人の天使が現れて復活を知らせる（ルカ二四の3―7）

八、恐怖におそわれて彼等は家にかえるが、弟子達にも語るすべを知らない。驚愕は彼女等を無口にしてしまう（マルコ十四の八）

九、マグダレナの知らせを受けて、ペトロとヨハネに墓に急いで行き、（ヨハネ二〇の3以下）墓に入つて亡をしらべる。

ヨハネの確信（ヨハネ二〇の8）ペトロの慨嘆き（ルカ二四の12）聖骸布を持つて家にかえつただろう（ルカ二四とヨハネ二〇の10）

十、マダレナは再び墓に引きかえして御主を求める。そして墓の中にふたりの天使を、自分の背後から呼びかける御主を見る（マルコ十六の9、ヨハネ二〇の11以後）註、マテオ二八の9では他の婦人達にされた天使の告げも一緒にふくめて物語つている。

一一、婦人たちがやつと落着きをとりもどして、墓での事を弟子たちに告げる。彼等は女のたわごとの様にきく（ルカ二四の9以下）

一二、エンマウスの弟子二人エルザレムを去る。失望が彼等の心を支配する（ルカ二四の21）

一三、マダレナは弟子たちの処に来て〝主を見た〟と告げ、イエズスのメツセーヂを語る。

一四、イエズス、ペトロに現われる。これはエンマウスから弟子等が帰りつくまでの間の事である（ルカ二四の34）

一五、トマの不在中に弟子たちに現れるヨハネ二〇の19以下）

一六、一方にては此の間、司祭長等の緊急会議が開かれ、番兵に金が与えられて、死体は弟子達によつて盗まれたとの説明を流布させる（マテオ二八の11）

以上

愛の指揮者のもとに

アグネス　松村裕子

この大地、この宇宙、この一切の大自然と生きとし生ける万象は！太陽と月と星とは！果しなき時間と大空間は！四季のめぐりや、いと微細なるものに至るまでの統一された働きの秩序は！

おゝうるわしの大自然よ。

一つひとつ愛の囁きを含み、時の流れのように、従順に仕えていく一切の生物達よ。これらは、何故、謀叛を企てようともしないのであろう。そして各自は全体の一部分として何たる均衡を保ち、全体の完成の為に無心によくいている事であろう。

大自然は即ち一大シンフォニーの観がある。偉大なる何者かの愛のタクトに心眼を注いでひたすら持場を発揮する楽士の大楽団であるようだ。

団員は偉大と凡小を問わず、すべてタクトを揮うマスターを絶対に信頼し、尊敬し従順を誓い、わがままならない。と同時に又限りなく愛されることを望むものである。故に、疑なくてマスターは如何でマスターとなり得よう。彼において偉大なるは実に内に抱蔵する無限に与えて尚且つ、つきざる愛の心ではないであろうか。しかして団員集結の一大シンフォニーの生命は何か。おゝ、この楽団の生命こそ愛により固められる愛への献身、顕理ではなかつたのか。

団員は愛の源であるべき指揮者に依り満され、シンフオニーの生命は火玉となつて昇をつゞけるのである。この時団員は、無上の壮快さに悦惚として生の歓喜にむせびベストを尽して、余りある完全な幸福を味うことが出来るであろう。さればマスターと団員の絆は、一に愛を謳う。愛の指揮者より出るものは又、愛の外は迸り出得ずとも当然といわねばならぬ。

さて大自然に戻り、自個のポストに就く事にしよう。そこに於いて私共は指揮者であり得ない。大楽団の一員ではないか。故に私共は偉大なる指揮者に向つて一斉に無垢を燃やし、従順を誓うと共に無限の恵をひたすら乞い求めるのである。

かゝる大自然に於いて誰か、この偉大なる指揮者の在すことを否定し得るであろう。

この愛の源なる御者を私は遂に止むなく「我が神よ」と叫ばざるを得なくなつた。大自然の前に従順に佇む時、神の御業を感じない人間があるだろうか。神は私共が讃美しようとすまいと常に休みなく無償の恩恵を無言の中に、ゆるやかにふり注がしめ給いし如く又、とこしえに降り注がしめんとはから給うているのであろうか。

（大名町教会所属）

ことばのしおり

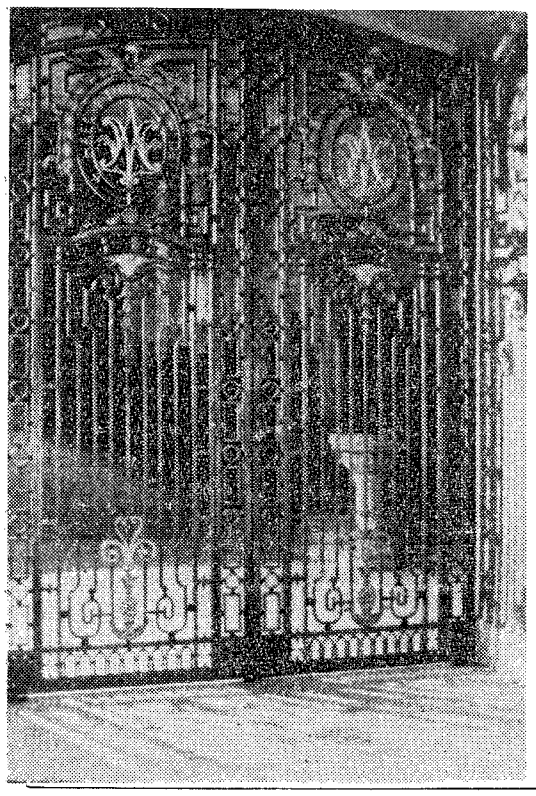
「日用の糧」＝主禱文中にある「日用の糧」とは、日々私達に必要な要魂と肉身のやしないつまり霊魂の健康を保つ聖寵や肉身の健康を維持する衣食住を意味する。

フルトンシトン司教の思い出

稲垣良典



ただ徒らに並べられた美辞麗句や、殊更な劇的表現でかざられた雄弁とは別に、事物の本質や人間の運命についての、深い直観を持つて居ることから出てくる雄弁がたしかに存在する。我が主が、自らを試みようとした人々に対して発せられた簡潔な答えは、この種の雄弁であるし、現教皇についても次の様な有名な逸話がある。テヘラン会談でスターリンがチャーチル首相に向つて「一体教皇は何個師団ぐらい持つて居るんだ」と尋ねたということだが、チャーチル首相が後で教皇にお会いした際その話をした所、教皇は彼に向つて「行つて我が子ヨゼフ（スターリン）に告げなさい。「お前は私の師団に天国でお目にかかるだろう」と申されたそうである。



私は今でも司教がワシントン記念塔下の広場で開かれたロザリオの大集会で、自由諸国と共産党諸国とを比較して「自由諸国の人々は、キリストのみを求めて十字架を見失つて居る。共産党諸国の人々はキリストなき十字架にあえいで居る」と述べられた時に感じた、大きな衝動を忘れることが出来ない。

シーン司教は、司祭になられてすぐ、私が四年間学んだワシントンのカトリック大学哲学部で学ばれた人であり、後にはそこで教授されたこともあり、私の主任神父だつたスミス神父は、また司教の先生でもあつたという事から、色々と司教についての話を聞くことも多かつた。学校においでになる時はいつもお話をうかがうことにしていたし、毎週のテレビ放送も出来るだけ見ることにして居た。いつも感心したことは、我々が教室で難しい用語を使つて考えていることを、どうしてあんなに平易に、興味深い例を用いながら、しかも正確さを失わないで、話すことが出来るのだろうと云う事であつた。

しかしシーン司教について最も感動をうけたのは、特に直接に司教の話を聴いて居る時に感ずる活々とした霊の世界の存在という事であつた。司教の話を聴いていて、司教がたしかに霊の世界のことを味わい、そこでの斗いを一自らのためよりは、むしろ我々のために一戦つて居られると云うことを疑うわけには行かなかつた。司教の眼は、この世で起るすべての事に於いて、神の国と悪魔の国との戦いを見る眼であり、些少に見える事柄にも間違いなく real の手を見る眼なのであろう。

最後に私は二年前のクリスマスに、司教からいただいた手紙の一節でこの一文を終ろう。日本は昇る朝日の国 Rising Sun と呼ばれて居る。この国はいつか、神の子 Son of God が自分達の為に生れ給うたことを認めるであろう。

（筆者は南山大学勤務）

讃美歌について

「聖音楽に関する回勅」より



わが国のカトリック教会に於ても、特に近年日本語の聖歌が、普及し、色々な宗教儀式やその他の信者の会合で、立派に聖歌が歌われるようになつたことは喜ばしいことである。

教皇ピオ十二世は、昨年十二月廿五日附をもつて聖音楽に関する回勅を発布された（カトリック新聞第一四四三号参照）。この回勅の中で教皇は、自国語で歌われるポピュラーな宗教音楽についても述べておられる。左にその教の主要な点を抜きとつて見ることにする。

一、ポピュラーな宗教音楽は、教会の公式典礼聖歌の精神に準じて作曲されて、各国民の感情や考え方にもつとよく合つている。

二、こういう聖歌が信者に霊的効果をもたらすには、信仰の教によくマツチしているだけでなく、それを正しく表わし説き明すようなものであり度い。

三、又やさしい言葉を使つた、歌い易い音楽を選び、美辞麗句で飾つたものは避けねばならない。然し、短いやさしい音楽であつても、宗教的な品位と荘重さ失わないように。

四、そういう聖歌であれば、単純な魂から自づと湧きでるものであるので、深く心に触れる力をもつている。信心深い感情を燃え立せることができよう。

五、宗教儀式に与る時に、信者全部が声をそろえて歌うことは、心を天上的なものに高める優れた方法である。

六、この種の歌は荘厳ミサでは歌つてはならないが、普通ミサでは聖なる犠牲に与る信者に大きな助けとなる。信者は黙して何もしない見物人の如くではなく、精神と声で聖なる祭につき従い、司祭の誦える祈に一致することができる。然しその為には、ミサの各部門とよく合つたすようなものであり度い。

三、又やさしい言葉を使つた、歌い易い音楽を選び、美辞麗句で飾つたものは避けねばならない。然し、短いやさしい音楽であつても、宗教的な品位と荘重さ失わないように。

四、そういう聖歌であれば、単純な魂から自づと湧きでるものであるので、深く心に触れる力をもつている。信心深い感情を燃え立せることができよう。

五、宗教儀式に与る時に、信者全部が声をそろえて歌うことは、心を天上的なものに高める優れた方法である。

六、この種の歌は荘厳ミサでは歌つてはならないが、普通ミサでは聖なる犠牲に与る信者に大きな助けとなる。信者は黙して何もしない見物人の如くではなく、精神と声で聖なる祭につき従い、司祭の誦える祈に一致することができる。然しその為には、ミサの各部門とよく合つたを眺めれば、矢張り十字の形をしていた、と考えられましょう。

此の問題がどうであつても、キリスト様の釘付けられ給うた十字架が、人間の考え出した最も残酷で、最も恐ろしい刑罰の一つであつたことは疑いの余地はありません。十字架の刑の苦しみの大きさは、私達の想像をはるかに絶することが、学者達の熱心な研究や実験などで、益々はつきりと証明されて来ました。苦しみの大きさは愛の大きさを示すものですから、私達も多くの犠牲を献げて、御主の御難悲に応え奉らねばなりません。

（東光町　畑原神父）

聖歌を選ぶようにすること。

七、厳密な意味では典礼に属しない色々の儀式、例えば行列、宗教的な大会、信心会の集りなどでも、ポピュラーな聖歌を使用することは非常によいことである。信者に真面目な信心を奨かせ、敬え、聖なる喜びを感じさせるからである。

八、各地の司教は自分の教区内でポピュラーな聖歌がよく歌われるようあらゆる配慮と方法をつくすようにする。信者がやさしく覚えて、自由に歌えるような歌を収集すること。

九、青少年の教育に当るものは、世間的な、彼等の純潔を汚すような危険な俗歌を駆逐する為にも、宗教的聖歌を教えるよう心掛くべきである。

十、布教地では、上に述べたようなことを全部実行に移すことはむつかしい。然し神の畑で働く宣教師は、外にも沢山の重要問題があるにしても、この問題に出来るだけ熱心な配慮を尽すよう希望する。信者達が聖音楽を尊重し、それによつて異教の礼拝に献げられた儀式をも超自然化するとは全く素晴しいことである。このことは布教の方法としては効果の大きいものであつて、宗教師たるものはゆめゆるがせにしてはならない所である。

御主の十字架

質問欄

【問】最近、ある本でイエズス様の十字架がT字型であつたかも知れない、ということを読みましたが、本当はどうなのでしようか？「カトリック」紙上にお答え下さい。（一信者）

【答】イエズス様の十字架が十字型であつたか、或はT字型であつたかは、学者達にもまだはつきりしない問題のようです。

或る学者は十字型であつたと云い、他の学者は、いやT字型ではなかつたか、と云つた状態です。ラテン教会の伝統的な習慣によれば、彫刻や聖画の中でも十字型の十字架が用いられて居ります。然し、フラ・アンジエリコの画いた十字架は、T字型のものです。ラグランジュ師に従えば、多分、縦の柱は前もつて刑場に立てられてあつて、罪人は横木をかついで刑場に行き、地上で先づ横木に釘付けにされ、そのまま縦の柱の上に上げられて釘付けにされたのではないか？ということです。若しそうなら、十字架そのものはT字型でありますが、縦の柱の上に付けられた罪札も含めて全体

これはたしかに通り一ぺんの機智や雄弁と云つたものではない。

シーン司教も又この様な種類の弁舌の賜を豊かに与えられて居る人であると思われる。

随想　はんせい

J・H生

三年ばかり前の競技会の時である。多分四月二十九日の平和台のリレー・カーニバルの時だつたろう。近所の子供達を二三人連れて、珍らしく競技会見物に出かけた。見学ではなく見物である。それ程、私はスポーツの実技とは縁遠いのだから。

扨て、競技は着々進められていよいよ五千メートルレースの決勝である。高橋選手以下天下の有名選手多数を含めて、三十数名が一せいにスタートした。白一色の一団が、同じく白いラインの外側を、なだらかなカーブを切りながら移動して行く。百米、二百米、そして五百米……。そのうちに、少しづつ先頭と後尾の差が開いて来た。期待の高橋選手は、終始自己のペースでレースを進め、着々と優勝への地歩を固めて行く。三千メートル位だつたろうか、最後尾を走つていた選手が、高橋選手にとうとう一周抜かれてしまつた。この頃は既に数名の選手がレースを棄てラインの外に出ていた。くだんの選手は、頭でつかちで背丈の低い、見るからにずんぐりした選手である。こんな選手は誰の目にもつき易い。とりわけ子供の感覚は鋭敏である。彼等に取つて、勝者は英雄であり、敗者は愚鈍にしか見えない。傍に居た子供の一人が云つた。

「あの人、もうやめたらいゝのに。頑張るなあ。」

これには私もうつかり同調してしまつた。

「そうだね。もう賞品にもならないのにね。」

ところがである。私のすぐ左前の所で、三十四五才位の会社員風の紳士と五つ位の男の子がレースを見ていたが、その男の子が父親に云つた。

「お父ちやん、あの人あんなに遅れたよ」

「そうね、大分おくれたね」

「どうしてまだやめないの」

「坊や、そんなこと云つちやだめだよ。あの人はえらい人だよ。お父さんはとてもあの人の様なまねは出来ないね。坊やは大きくなつたら、負けてもいいから、あの人の様に終りまで頑張りなさいね。」

「しまつた」と思つたが、もうおそかつた。子供の前で不用意な言葉をはいたからばかりではない。自分の見解の狭さに内心大いに赤面した。スポーツマンでないから、スポーツマンシップを知らないと云えばそれまでである。然し事実はそうではない。スポーツは単に身体を作るばかりでなく、意志を鍛練し清廉実直な心をはぐくみ、剛毅と忍耐の精神をかん養することなどは、私もこれを知つている。然もこの知識と実際の行動とが大いにちぐはぐであることを反省したことである。

高橋選手は、戦後最高のタイムでゴールインし、件の選手はそれから二周おくれてゴールインした。

天与の才分には差異がある。然し、誰もがそれぞれの天分を生かして最善の効果を生まねばならない使命を帯びている。それぞれの天分を発揮して、使命を完遂する所に、スポーツマンの精神の尊さがある。

私達の信仰生活に就いても、同じことが云えないだろうか。私達はすぐれた信仰をもつて居り、又これを自覚している。然しそれが単なる信仰に終るならば、果して何の益があるだろうか。「行いなき信仰は死せるなり。」と使徒聖ヤニボも云つた。天主の尊前で価値あるは、愛を以て働く信仰である。知識は実践によつて始めて生かされる。びつこにならぬ様につとめたいものである。

雑感

佐無田竦

厳しい冬が去つて春がやつて来ると、自然に動き始め、われわれをそれ美のしい景観によつて楽しませてくれる。

季節と共に移り変る自然も、ゆるぎない秩序に従つていることを知るにつけても創造の神秘を感ぜざるを得ない。

その中でも最も微妙なる世界は人間の世界であると思う。人間の世界は所謂自然より以上に複雑で私などには理解し難いことのみ多く、自然を歎賞するように単純に美しいなどと云えないのだけれども、たゞ人間の世界には〝愛〟という此の上もない宝があるようだ。

今から述べることは逸脱的なことになるかも知れない。私は此の二三年の間に教師として何回か教え子を世に送り出した。その度毎にどうしようもない淋しさに似た感情を味つた。勿論人は誰でも別れる時には或種の感傷的気分を味うのかも知れないが、そういうものと異つた何かを感ずるのだ。私にはそれがどうしてなのかよくわからないが、こういうことは私にとつては云えるようだ。それは教え子の一人一人を愛し得なかつたということ、換言すれば彼らに何物をも与え得なかつたということだ。すべてのことについても云えることだが、二つのものを結びつけるのは相互の愛であり犠牲であろう。教え子のために苦しみ、自分の意志を彼らのために捧げない教師があるとするならば、それは名ばかりの教師ということになろう。無限に愛し得ない苦しみ。愛されなかつた教え子たちは黙つてそれを赦すかの如く静かに私の許を去つて行く。そこに人としての淋しさをひしひしと感ずる。

イエズス様が人類に教えられた〝己の如く人を愛せよ〟という隣人愛の精神によつてのみ、人類の上に平和が齎らされる。愛は人間に与えられた得難い賜物であると思うが、愛することほど困難で苦しいことはないしい。それには必ず十字架が伴うからだ。

（筆者は福岡雙葉学園講師）

學生の爲福祉施設

福岡カトリック学生ホーム

主旨＝一、思想、道徳、経済等現下の学生が当面する多くの負担を軽減し、真摯な学問的探究に適当な場所を提供する。

一、カトリック精神に基く規則的共同生活によつて、キリスト教的人格の涵養を計る。

当学生ホームは、以上の様な主旨に基いて、真面目な学生の福祉を計る福岡司教区直属の社会福祉施設であります。

信者、未信者を問わず、以上の主旨によつて自己の向上を願う真面目な学生ならば喜んで迎えております。

尚、入寮御希望の方は、十円切手同封の上、左記宛御連絡下さい。

福岡市東光町四五
福岡カトリック学生ホーム
畑原神父





可認教司堀深
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏
定価一部十円

全国教区長会議終る

カトリック移民協会の設立等決議さる

定例の全国教区長、在日修道会、宣教会会長会議は、春たけなわの四月十日より十三日まで、四日間にわたつて東京のカトリック中央協議会館で開かれた。我が国のカトリック教勢のめざましい進展にともない、対外的にも対内的にも多くの困難な問題も増加して来ているが、その中で特に緊急に解決を迫られている問題がこの会議の討議にかけられ、次の事項が決議された。

(1) 日本カトリック移民協会が設立され田口大阪、深堀福岡、古屋京都の三司教のもとに、外国の同じような協会と連絡をとり、また政府に対し移民問題に関し提案する。(本会議中米国のカトリック移民協会より派遣された駐日連絡員が紹介された)。

(2) 汎太平洋カトリック社会運動協会の提案が受理され、これに日本カトリック中央協議会代表としてプライソン師が任命された。

(3) カトリック中央協議会の教学部の援助機関としてカトリック教育協議会が設置された。

(4) 広島で発行された、求道者のための公教要理、および嬰児島で準備された児童のためまたは小学一年生のための公教要理に対し、試験的使用が許可された。

(5) カリタス会がカトリック中央協議会の社会福祉部となり、部長と会長にそれぞれプライソン師とタシナリ師が任命された。

(6) カトリック映画倫理委員会が設置され、同委員に長江恵師伊東庄治郎師、およびイエズス会、パウロ会、サレジオ会から各一名が任命された。

(7) 新しい聖歌集の編さん委員会が設置され、古屋京都司教が委員長となり、同司教の選ぶその道の専門家たちがこの仕事に当る。

(8) 十二月第一日曜日を召命の増加のための邦人司祭養成デーとする。

(9) 今年の八月廿八日―廿日に東京の大神学校で司祭のための公教要理教授法の講習会を行う。

祈禱の使徒會

―五月―

【一般の意向】天地の元后のもとに万国一致の実現

一昨年の暮に、教皇聖下は天地の元后なる聖マリアの祝日を五月一日に行なうようお定めになつた。

イエズス・キリストの御母として、聖母の御位の弥高きことは今更取り立てて宣言する必要もない程であるのに、何故教皇聖下は新たに祝日としてお定めになつたのであろうか。そのわけは、聖母に対する崇敬と天父にとりつぎを願う幼児の如き祈りが疲れすさみおじけた現代の多くの人々の心を慈愛の絆で結び、平和の基を築く為の最も確実な道であることを特に強調なさりたいからである。

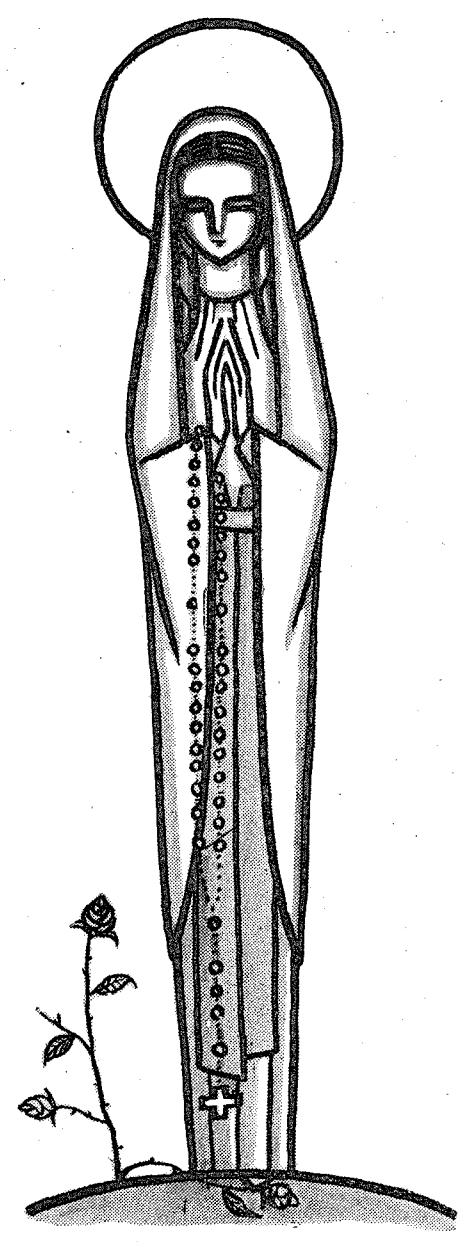
たしかに、精神的不一致とその基礎の不安定が、平和と文化の調和的発展を阻害している。聖母こそは、このむずかしい問題を解決し指導したもう方である。

今月われわれは聖母の月にふさわしく、教皇の御意向に合わせて祈ろう。そして、聖母とわれわれ人類の密接な関係が、カトリシズムの本質的部分を成していることを悟ろう。

【布教の意向】聖母崇敬が未信者を真の宗教に導かんことを

これを機会に、信者であるわれわれが一層聖母崇敬の重要性について反省しよう。現代聖母に関する祈りや信心や研究が盛んになつているが、―その結果たしかに多くの未信者を改宗させている―この目的は結局、マリアを通じてイエズス・キリストに人々を導くことにあるのだ。天主がどのような御摂理でこれを成就したもうかせんさくするのは止めよう。われわれはむしろ、聖母に対する崇敬を、天主がお望みであり、又この道を通じて人々を真の宗教に導き得ることを確信しているのである。

【布教委員会の意向】信者同志の結婚のため



永久聖體禮拜

五月

第一日曜　久留米教会
第二日曜　高鍋教会
ウルスラ会（鹿島）
第三日曜　八幡教会
カリタス会（別府）
第四日曜　隈府教会
カノツサ会（大牟田）
天使園（熊本）

司祭異動

トラピスト会員　トマ高畠師
任新田原トラピスチヌ修道院附

世の光

神語り給う

マスコムニケーションが今日のように異常な発達をとげてくると〝言葉の魔術〟がそろそろ恐ろしくなつてくる。

言葉というものは元来人間お互いが自分の意志や考を伝達するために使う道具にすぎない。われわれは口に出して物をいう前に、頭の中で考えて、考えがまとまるとそれを言葉につくり変える。次にこの言葉をきいた者は、そこから内容をひきぬく努力をせねばならない。

この前後二つの努力は時として非常にむつかしく感じられる考えでも、これを言葉で充分に述べることのできない人が多い。こういう人は言葉でよりもゼスチュアや表情で物をいう。口のよく廻らない子供がそうである。

しかし複雑でしかも深い思想を言い表わそうとする時、最適の表現が見出せなくてはたと行詰りを感じる。それが具体的な共通な問題であれば絵で、百万言を費す以上のことをいえることもあるし、単に感情の伝達であれば、音楽でデリケートな動きを表現することができるかも知れない。

表現の方法がなんであるにせよ、思想がそれに先立ち、そして支配していることが大切なのである。でも失言問題を起したり、立板に水式の雄弁をふるう連中は物事を考えないうちに口から言葉を発する輩である。自分で自分の雄弁に酔され、催眠術をかけているのである、ここに言葉の魔術がある。

所がきき手に廻つた方がもつとこの魔術の犠牲にされる。余りの雄弁にとう然となつて聞いていたり朝から晩まで一つの宣伝文句をきかされていると、言葉そのもののとりこにされ、気付かないでそれを行動に移して了うマス・コミの恐ろしさはここにある。之も一種の催眠術である。

言葉の魔術が恐ろしいからといつて言葉なしには生きてゆけない。若しわれわれが天使のように言葉なしにでも意志が通じるというのであれば、世の中はどれ程住み易くなるだろう。

言葉は―その他の表現をも含めて―人間の世界に特有のものである。しかし言葉は頭に考えていることの代用物であつて、その中に思想が含まれていて、きく方はそれを通じて話した者の思想に近付かねばならない。若しそれができないとすれば、それは表現が非常に拙くて思想を完全に反映しなかつたか、聞き手の方の精神がにぶくてその下に隠されている内容を発見できなかつたかのどちらかであろう。

思想を的確に完璧にしかも解り易く発表することが言葉の理想である。しかし思想が余りに深遠であるために〝筆舌に尽し難い〟ことがある、それでも人間お互いのことであれば、極めて複雑微妙なものであつても、大体推察はできる。

若しそれが人間の経験や推理をあくまで超越した別世界のことを示すとなると、人間の作りだした言葉の不完全さが越え難いさまたげとなつてくる。事は人間相互の思想の交換ではないのである。人間の限られた智慧や想像を無限に超え給う神が自らについて語り給うのである。

神たるものが人間に語り給うなど不合理なことだというかも知れない、しかし完全な智と意を具え給う神が、同じく智慧をもつた人間に一切論比較にならぬ程不完全なものであるが―自分の考を伝え得ない筈がない。神から精神に直接話しかけることもできるし、感覚的な言葉を以てすることもできる。

然も神がわれわれに何も語り給わないとするなら、神に対する信仰なるものは全然存しないわけである。われわれは人間世界から推察したり想像したりして、神を人間流に僅かだけ知るにとどまる。この認識は神自身の言葉に基く認識に比べて何と貧弱なものであろう。

神が語り給う場合、普通に感覚的な言葉や文字などを使用し給うが、それは人間の本来の性質―感覚を通じて物事を知ることを尊重し給うからである。その言葉は崇高な思想の不完全な代用物である、器はまことにお粗末であるが、そこに内蔵されているものはこの世の宝以上のものである。われわれがちつぽけな智慧だけでこの天来の言葉に接するならば、宝を見出すことはできない、神の言葉をきく耳は言葉を超越する者だけがもつている。神は多言や美文を嫌い給う、ここでもわれわれは言葉の魔術をさけねばならない。実にきく耳を持つ者のみきくことができるのである。

（深堀敏）

駐日教皇公使よりの御禮状

教皇聖下は、その御誕生第八十周年に当り、福岡教区および宮崎知牧区に於て荘厳な記念祝典が挙行せられた知らせを受け、お喜びになつておられます。

聖下は貴下および貴下を通じて、凡て祈りと讃美をもつてこの聖式に与つた各修道会、全信者に感謝を表明されこの恭順と愛情のあかしに対して、天主が豊かなお恵みをもつて報い給うよう願つておられます。尚この感謝の記しとして、慈父的愛情をこめて、教皇掩祝を贈りになりました。

又美しい表紙に飾られた福岡教区および宮崎知牧区の霊的花束を心から嘉納せられました。

この機会に私も、深甚な感謝と尊敬を貴下に捧げます。

一九五六年四月十九日

駐日ローマ法王庁公使館にて
教皇公使　フルステンベルグ
ドミニコ深堀司教様

五月　聖母マリアの月

一日（火）　勤労者の聖ヨゼフの祝日
われわれは憎しみと利己心を増長するために労働運動を展開するのではない。それは労働の神聖さをより一層自覚し、キリスト教的精神である愛と正義を労働者の間にゆきわたらせる為である。

三日（木）　憲法発布記念日
聖十字架発見の日
ローマのコンスタンチヌス大帝の母聖女ヘレナによつて発見、病人の奇蹟的快癒によつて真の十字架と認定された。

四日（金）　聖女モニカ寡婦　初金曜日
聖アウグスチヌスの母、子供の改心のために祈る母のかがみ

五日（土）　こどもの日　初土曜日
教区修道者会議（於司△館）

六日（日）　御復活後第五の主日
〝イエズスがこの世を去つて天に昇るのは、われわれにとつて悲しいことである。しかし去り給わないならば、弁護者たる聖霊は来り給わないであろう〟

教区主催聖体行列（午后二時より）

七日（月）　今日より三日間祈願祭
御子イエズスが天父の許に帰り給うに先立つて、われわれの願を御子に託する。この三日間土地の産物の上に天主の御恵みを懇願する。

十日（木）　我が主御昇天の大祝日
守るべき祝日
〝なんじら我を愛するならば、わが聖父の許に帰るを喜ぶならん〟
今日より聖霊降臨の大祝日まで、聖マリア及使徒達にならつて、聖霊の賜を豊かに頂くため、九日間の修行をすることが望ましい。

十一日（金）　聖フイリツポ　聖ヤコボ両使徒の祝日

十三日（日）　我が主御昇天の大祝日後の主日
天に凱旋なされたキリストを心からしたい、約束された聖霊のご来臨を切願する。　熊本手取教会で堅振

十五日（火）　聖ヨハネ・バプチスタ・ド・ラ・サール証聖者
キリスト教学校修道会（ラサール会）の創立者一七一九年帰天

十七日（木）　パイロンの聖パスカリス証聖者
レオ十三世より聖体大会と聖体の諸信心会の保護者と立てられた一五九二年帰天

廿日（日）　聖霊降臨の大祝日
聖霊は天主の第三位、御子イエズスによつて創立されたカトリック教会を、見えない力を以て教導し給う。聖霊の賜は聖籠によつて信者の心にさずけられた天主の生命を更に完成する天主のお恵みである。

司教荘厳ミサ（於浄水通教会午前九時）

廿二日（火）　日本の福者マカドのヨハネ・バプチスタ及被昇天のペトロ殉教者
一六一七年（元和三年）四月廿九日大村にて斬首。

廿七日（日）　聖三位一体の祝日
聖霊降臨を以てキリストの救世の大事業が一応完成した今日、われらの創造主に在す聖父、救主なる御子、聖化の主たる聖霊、この三位一体の天主を讃美する。　飯塚教会で堅振

廿八日（月）　聖アアウグスチヌス司教証堅者
深堀司教様の叙階記念日。

廿九日（火）　教区カトリック学校協議会（於明光学園）

卅一日（木）　聖体の祝日
聖体の秘蹟はキリストの愛の結晶。御自らをわれらの食物として与え給う。〝汝等わが肉を食し、わが血をのまされば汝等の中に生命なし〟

ろうあの乙女達に 信仰と自力のよろこびを

久留米聖母園

苦しむ人になぐさめを

耳もきこえず、ものも言えないという悲惨な運命をになってこの世に生を享けた人々の数は、この広い世界にどれ程多いことであろう。そしてかような薄幸の人々を温い心でうけ入れて、少しでも生の喜びちを頒与えようとする施設の数は、外国ではいざ知らず、わが国では嘆かわしい程に少ない。

ここ久留米市螢川町の聖母園には十数名のろうあの乙女達がジユウタン製作に精出している彼女達は技術の習得のみならず信仰のつきない喜びを見出して新らしい希望に燃えた日々を送っている。

最初これら不幸な人々の嘆きと家庭の悩みをきいて歎いていることができず、何とか自力の道をさずけて、明るい生活をさせて上げたいと念願して、四百年の伝統をもつ「鍋島ジユウタン」に話を持ち込まれたのが久留米教会主任の棚町正刀師であった。

この計画が実現のきざしを見せるか見せないかする中に、既に数名のろうあの女性達が、師にすがって来たのである。始めはお互い充分に意志も通ぜず苦しい血のにじむような毎日であったが、それもやがて酬いられる日が来た。不安な顔はいつしかその暗いかげ失って、晴やかな笑顔と変っていった。教会や修道院の聖堂用に注文されたジユウタンが、全部自分達の手で作り上げられて、次々と送り出される時の喜びは、又一しおである。音の世界から完全に隔離され余念なく、真心こめて織られてゆくジユウタンは、次第に世間のみとめる所となり、今では国内のみでなく海外からさえも問い合せを受けている。

時折、神父様や童貞様達が、その職場を訪れて励まして下さる。それが何よりの力づけである。彼女達に仕事を与えることだけが我々に課せられた凡てではない。神の御言葉をきかせて無限の愛にふれさせることが、更に大切なことではなかろうか時々休憩の折など、皆を集めて神父様の話をきかせる。ゆつくり話して貰えば口の動きを見て理解することができるのである始めて職場に入る時、彼女達は神父様から将来の前途を祝して祈禱文とロザリオをいただく。そして仕事の始めと終りに聖堂に入りロザリオを誦えるのである。祈にふける彼女達の姿は、見る者の心を動かさないではおかない崇高なものを宿している。之等ろうあの乙女達は天主と聖母の前にぬかづいて、果して何を祈り、何を願っているのであろうか。(吉島政人記)

(写真はジユウタン製作に励む乙女達)



親代りの愛情をこめて

米軍兵士馬渡島を訪れる

各地の施設に收容されているみなし児たちの親をさがす運動が全国的に展開されたお蔭で、これ迄親はいないとあきらめていた子供達で、生みの親のふところに引きとられた者の数は既に相当数に達している。それにしてもまだ瞼に浮ぶ父母を見出せない者、或は死別してよそに行く所のない可哀そうな子等の数は更にどれ程多いことであろう。

親の愛情を知らない純真な子供達の愛情につつまれて、すくすくと成長している。

所が博多キャンプの米国軍人数名がこの子供達のことをつてきいて、自分達のできることをして上げたいと温い援助に乗りだし、既に数ケ月前から金銀をみつけては子供の好きそうな贈物をたづさえて、島との間を往来している。彼等がお土産をもつて始めてこの遠い島に姿を現わしたのは昨年のクリスマスであつた。プレゼントの荷物を肩に、舟から上つてきたこの思いがけぬ珍客の到来に、島中はひつくり返えるような大騒ぎ。子供達のよろこびは一方ならず、言葉は通じなくてすぐに友達になつてしまつた。

この時以来今日まで、殆んど月に二回の平均で数名の兵隊が、施設に入用な物品を自分達の小遣で買い集めては、楽しみにこの島を訪れている。或る時には子供達を福岡まで連れてゆき、自分達の家に一週間も寝泊りさせたこともあつた。彼等の中には本国に帰還した者もあるが、愛の贈物は志を同じうする同僚達によつてリレーされ、港から聖母園への山道をたどるアメリカ兵士達の姿は今なお後を絶たない。

妹達の愛情につつまれて、すくすくと成長している。

所が博多キャンプの米国軍人数名がこの子供達のことをつてきいて、自分達のできることをして上げたいと温い援助に乗りだし、既に数ケ月前から金銀をみつけては子供の好きそうな贈物をたづさえて、島との間を往来している。彼等がお土産をもつて始めてこの遠い島に姿を現わしたのは昨年のクリスマスであつた。プレゼントの荷物を肩に、舟から上つてきたこの思いがけぬ珍客の到来に、島中はひつくり返えるような大騒ぎ。子供達のよろこびは一方ならず、言葉は通じなくてすぐに友達になつてしまつた。

この時以来今日まで、殆んど月に二回の平均で数名の兵隊が、施設に入用な物品を自分達の小遣で買い集めては、楽しみにこの島を訪れている。或る時には子供達を福岡まで連れてゆき、自分達の家に一週間も寝泊りさせたこともあつた。彼等の中には本国に帰還した者もあるが、愛の贈物は志を同じうする同僚達によつてリレーされ、港から聖母園への山道をたどるアメリカ兵士達の姿は今なお後を絶たない。

福岡市内合同委員会開かる

年に二回開かれる福岡市内合同委員会が、四月十五日午後二時より大名町教会に於て開かれた。この一年間の当番教会たる大名町教会の主任司祭研東師よりの挨拶の後、当番教会委員の代表により一年間の経過報告がなされたが、その主な仕事は福岡カトリック互助会が設立されたことであつた。この仕事はまだ軌道にのつたばかりであるが、教区内では初の試みとして、その将来が期待されている次回の当番は地行教会に引継がれることとなつたが、今後の委員会の運営等につき委員の間で真剣な討議がかわされた。そして結局、委員会以外に年に四回開かれている互助会の集会を、年に四回の合同委員会の中に含めて、この会の中で互助会の仕事をなすことに決定した。因みに当番の交代は御復活後の次の日曜日の集会に於てなされ、次回の集会は七月に地行教会で行われる予定である。

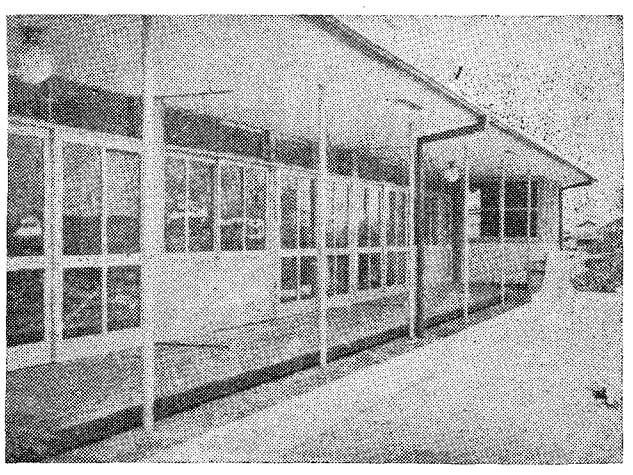
戸畑教会で四十二名受洗

戸畑教会では昨年十二月の新聖堂落成の折に四十七名が受洗したが、この度の御復活祭の前日にも四十二名が受洗。司祭信者が一体となつた布教活動の効果を如実に示している。

西新カトリック幼稚園祝別

開園式を挙行

この程西新カトリック教会横に新設された幼稚園（定員九十名）の祝別ならびに開園式は、桜花かおる四月七日（土）深堀司教様御臨席のもとに挙行され、市内外より多数の司祭および修道者、その他園児の父兄、地元有力者等が集つて盛大挙行された。



新築の西新カトリック幼稚園

布教委員会春季常会終る

布教委員会教区責任者の春季常会は、教区長会議に先立つて、四月四日、五日の両日にわたつて東京カトリック中央協議会で開かれ本教区よりは司教館附の平田勇師が列席した。同師は各教会から提出された布教に関する種々の提案をまとめて本会に提出した。この春季常会で決定された事項は左の通りである。

❶広く読まれている本をとりあげてこれを毎月布教誌に紹介する
❷研究者ならびに信者のために参考書の案内を作成する。
❸各小教区内に布教委員会を設立することを望む。例えば教会委員をその委員にあてる。
❹カトリツクの疑問に答える解答集（クエスチオン・ボツクス）の再版を依頼する。
❺信徒使徒職第二回世界大会の準備のためパンフレツトを作成する。
❻各教区の布教体験談を布教誌に毎月掲載する。
❼八月廿八、廿九、廿日に司祭のために公教要理教授法の講習会を東京大神学校において開催
❽次の布教委員会責任者の集りを八月廿一日に東京で開く。

宮崎だより

學生連盟發足の機運動く

【宮崎教会】三月廿六日男子九名、女子八名の高校生が集り、宮崎学生連盟結成を協議し、男子部と女子部を分けることにし、顧問に教会神父、指導者に先生、男女各部の委員三名が選ばれて連盟の結成希実をめざすことになつた

堅振と默想會

【宮崎教会】三月廿五日（日）深堀司教様を迎えて百廿名が堅振の秘蹟を受けたが、その殆んどが大人。別にカリタスの園で廿名が受堅。

司教様が宮崎教会に御滞在中の廿二、廿三、廿四の三日間夜、日向学院のドナアチ師指導の下に、毎年の信徒默想会が開かれて聖堂は連日超満員であつた。

司教様は熱心に默想会に列席する信者の姿にお喜びになり、連日四日間永遠の生命の本質についてくりかえし話された。折しも霊的生命の復活を告げるかの如く春雷がとどろきわたつたのも印象的だつた。

大分だより

大分教会の堅振

四月廿二日（日）大分カトリック教会では深堀司教様を迎え、午前九時の司祭ミサ後、堅振式が挙行され、六十余名が受堅。続いて附属海星幼稚園を会場に、司教様主任司祭モロ師、秋元師を囲んで歓迎と感謝をかねる家庭的集いを開催、モロ師の感謝の辞、信者を代表してラヂオ大分のペトロ福永俊之氏と受堅者の代表大分大学のフランシスコ佐藤敏也君の歓迎感謝の辞、受堅者で最年少のヨゼフイナ山崎由美子さんの花束贈呈の後司教はこれに答えて「皆様は今後尚一層キリストの強き兵士として常に善き牧者なるキリストと、その見える代理者教皇聖下を始め司教、司祭の指導に従を以て服従しながら、切支丹史に由緒深き府内大分の布教のため大いに尽力して下さい」と結び、正午の共同の祈を以て閉会した。

因みに司教様は午後二時別府の米軍キャンプに赴き、そこでも廿七名に堅振を授けた。

教育映画各地で好評

司教館の聖ヨゼフ会員平田信行氏は本年二月以来、教区内の十数ケ所の教会および学校で教育映画を巡廻的に上映し非常な好評を博している。特に教皇ピオ十二世聖下の第八十回誕生記念にタイアツプして、〝パストー・アンゼリクス〟（天使的牧者）聖下の御生涯をとりあつかつた「録映画」は写真内容ともに優秀なので、一般信者、学校生徒のために立派な教育効果をあげている。同映画は熊本信愛女学院や手取教会始め十四ケ所で上映、この外音が主の御受難を取材した往年の名画〝ゴルゴタの丘〟や最近の〝若草物語〟なども馬渡や呼子の諸教会で上映された。平田氏は優秀な教育映画の普及のため出来るだけ各方面からの要望に応えたいと語つている。

新田原トラピスチヌ修道院で着衣式

四月廿一日（土）トラピスチヌ大修道院聖堂で深堀司教様司式のもとに着衣式が行われた。着衣者の氏名及出身教会は

メール・セント・スザンヌ田中シゲ子（久留米教会）

十字架の使徒会

福岡市吉塚の三位一体の聖体宣教会に本部を置く十字架の使徒会指導司祭あて、昨年五月四日附で特別の条件のもとに、臨終の全贖宥の特権が与えられた。

二総長來福

跣足カルメル会総長

跣足カルメル会総長、セント・ロザリオ・アナスヂオ師は去る四月二十日、日航機で来福、市内神松園の女子カルメル会を視察して翌日上京された。

コロンバン外国宣教会総長

熊本県下で布教に従事しているコロンバン外国宣教会の総長チモティ・カナリ師は四月二十日来日したが、二十四日本管区長ドイル師同伴で来福、司教様と会談したのち、熊本県に向つた。約二週間滞在の予定。

長崎市に雙葉学園の姉妹校

今春より長崎市城山町の聖アウグスチス修道会管理の教会内に、小教区の設立にする聖マリア学院小学校が開設されたが、同校は教育修道会たるサンモール会の指導に委託された。校長以下教師陣はすべて同会の修道女で組織されている。尚同校は鉄筋コンクリート三階建三六〇坪。長崎県下で最新を誇る小学校である。

「レヂオ便り」

「アチエス」

レヂオでは毎年御告げの祝日に前後して、年次の奉獻更新の式が行はれるが、去る四月八日の日曜日にコミチウム傘下の全プレシデイアの指導司祭と全正会員は、大名町教会に会して恒例の式典を行つた。式は、開会の祈、ロザリオにはじまり、司教様が司教会議のためにお留守だつたので、指導司祭平田正書師が司教メツセージを読み、伊東師は「レヂオに於ける献身の精神について」説教し、ソラノ師司式で聖体降福式が行はれ盛会であつた。式後、引つづき四月のコミチウム集会がひらかれた。

「久留米クリア新設」

かねてよりの懸案であつた久留米地区のプレシデイアのためにクリア設立が実現した。

新クリアは、佐賀クリアの発展的解体と相まつて、佐賀地区のプレシデイアもふくみ、四月二十二日の日曜日、久留米教会で発会した。新鋭の気をたたえて第一集会は盛会であつた。

クリア指導司祭は棚町師。牧野、青木鮮次、楼井、青木の諸氏が役員に互選された。

教區主催の聖體行列

とき　五月六日（日）午后二時より

ところ　浄水通教会より泰星学園まで

皆様どうぞご参加下さい

神学講座のお知らせ

時　毎土曜日、午后二時より四時まで

所　福岡雙葉学園内

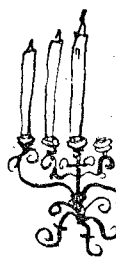
資格―希望者

会費　一講座（二十時間）二五〇円

申込先　福岡市浄水通三九　福岡司教館内　深堀敏神父

尚第二回講座は五月五日より始まります

科目　聖書入門（平田三郎師）　唯一神論（深堀敏師）



『公教要理』（二）

洗禮（一）

伊東誠二

この秘蹟は、キリストへの合体の秘蹟であつて、私たちを三位の家に導き入れる。

キリスト御自身の救いの最初の御手が私たちの上にかかげられる。救世主との最初の接触は私たちのなかで、三重の結果を生む。即ち——すべての罪と、永遠と有限の罰を赦して完全なる浄化、——三位の生命にあずからせて、私たちを聖三位の娘となさしめる養人の恵、と——地上、天上の諸聖人と一致せしめて、神秘体の活ける肢体として頭なるキリストへ合体、キリスト者は実に、キリストのおもかげを生きる他のキリストであつて、彼の唯一の関心は御父の光栄と、世の救済である。

——キリストに於いて新たに生れる。

イエズスの御言葉によれば、洗礼は何よりもまず、「新しい生活体の発生」を意味する。〝何人も、水と霊とによつて新たに生れるのでなければ、神の国に入る事は出来ない〟（ヨハネ三の5）

聖パーロは、古代洗礼の典礼を示しつつ、この新しい生命の発生を記述する。

受洗者は、水をたたえた池に、そつくり沈められる。

罪人なる人は、キリストの死とその救世の御血で洗われ、再び水面に出る時は、新しい生命がはじめられている。

斯様に、キリスト信者はその身にキリストの死と復活の姿をおびている。

〝キリスト・イエズスにおいて洗われた私たちが、誰でもその死になぞらえて洗せられた事を思つても見ないのか？私たちは彼の死に倣うとして、洗礼の時に彼とともに葬られた。これは、キリストが御父の光栄をおびて死者の中から復活されたように、私共もまた新しい生命を活きつづけるためである〟（ロマ、六の3―4）キリストの救いの玄義は、人るいの二重の連帯性にその根底をおいている。一つは原罪による悪の連帯性であり、他はキリストの救いによつて結ばれる善への連帯性である。

人祖は人類の運命をになつていた。もしも、彼が忠実でありさえしたら、人類が現在自らのうちに経験する道徳的、肉体的不均衡を知らなかつたであろう。感覚と病苦と死の反抗もなく、苦痛なく地上の楽園より天国に移された等である。原罪の結果はまさに彼にも私共にも否めない現実となつた。意志は悪に傾き、知慧は無知に苦しみ感覚ははめを外し易く、肉体は虚弱にうずくなど、人祖の子孫は祖父の過ちに関して連帯で責任を持つているのである。

悪への連帯性は、キリストの御母でさえ、キリスト御自身の贖いの功徳とゆるしなしには、無原罪であり得なかつた。

〝私共は、かつてその罪の中にあつて、自分の肉身の慾のままに生活し、肉と心との欲する事のみを行つて、他の人々のように、生来怒りの子であつた。しかし天主は御いつくしみのあまり、罪のために死した私共をキリストと共に活かされて、共に天に坐すようにされた。これは恩寵に由るのであつて、天主の賜である。私共はキリスト・イエズスにおいて新たにつくられたものである（エフエゾ二の1―9）洗礼こそ、私たちの中で、原罪の死を絹えて、キリストの生への連帯性をおびさせるものである。

聖トマスの大胆な表現を貸りれば〝受洗者はあたかも自分で苦しんだかの様にキリストの御苦難にあずかる。あたかも十字架で死んだかの様に…（神学大全三部、六九）受洗したキリスト者は、肢体が頭とともに一つの者であるように彼は洗礼のお恵みによつて、御父の正義の前に、贖いの無限な功徳を自らのもののようにして捧げる。人となり給うたキリストは天主より頭としての恵を受けて、之を肢体に及ぼすので、唯一の生命が体全般の生命の原理である様に神秘体の中に循環するのはキリストの生命である。そしてこの生命の原理は、償い、救い、功徳、祈禱、司祭職の領域にまで及ぶのであるかかる生命体の私たちの中での発生のためにこそ、キリストは私たちに生れるのでなければ、神の国に入る事は出来ない〟（ヨハネ三の5）

聖ボーロは、古代洗礼の典礼を示しつつ、この新しい生命の発生を記述する。

受洗者は、水をたたえた池に、そつくり沈められる。

罪人なる人は、キリストの死とその救世の御血で洗われ、再び水面に出る時は、新しい生命がはじめられている。

斯様に、キリスト信者はその身にキリストの死と復活の姿をおびている。

〝キリスト・イエズスにおいて洗われた私たちが、誰でもその死になぞらえて洗せられた事を思つても見ないのか？私たちは彼の死に倣うとして、洗礼の時に彼とともに葬られた。これは、キリストが御父の光栄をおびて死者の中から復活されたように、私共もまた新しい生命を活きつづけるためである〟（ロマ、六の3―4）キリストの救いの玄義は、人るいの二重の連帯性にその根底をおいている。一つは原罪による悪の連帯性であり、他はキリストの救いによつて結ばれる善への連帯性である。

人祖は人類の運命をになつていた。もしも、彼が忠実でありさえしたら、人類が現在自らのうちに経験する道徳的、肉体的不均衡を知らなかつたであろう。感覚と病苦と死の反抗もなく、苦痛なく地上の楽園より天国に移された等である。原罪の結果はまさに彼にも私共にも否めない現実となつた。意志は悪に傾き、知慧は無知に苦しみ感覚ははめを外し易く、肉体は虚弱にうずくなど、人祖の子孫は祖父の過ちに関して連帯で責任を持つているのである。

悪への連帯性は、キリストの御母でさえ、キリスト御自身の贖いの功徳とゆるしなしには、無原罪であり得なかつた。

〝私共は、かつてその罪の中にあつて、自分の肉身の慾のままに生活し、肉と心との欲する事のみを行つて、他の人々のように、生来怒りの子であつた。しかし天主は御いつくしみのあまり、罪のために死した私共をキリストと共に活かされて、共に天に坐すようにされた。これは恩寵に由るのであつて、天主の賜である。私共はキリスト・イエズスにおいて新たにつくられたものである（エフエゾ二の1―9）洗礼こそ、私たちの中で、原罪の死を絹えて、キリストの生への連帯性をおびさせるものである。

聖トマスの大胆な表現を貸りれば〝受洗者はあたかも自分で苦しんだかの様にキリストの御苦難にあずかる。あたかも十字架で死んだかの様に…（神学大全三部、六九）受洗したキリスト者は、肢体が頭とともに一つの者であるように彼は洗礼のお恵みによつて、御父の正義の前に、贖いの無限な功徳を自らのもののようにして捧げる。人となり給うたキリストは天主より頭としての恵を受けて、之を肢体に及ぼすので、唯一の生命が体全般の生命の原理である様に神秘体の中に循環するのはキリストの生命である。そしてこの生命の原理は、償い、救い、功徳、祈禱、司祭職の領域にまで及ぶのであるかかる生命体の私たちの中での発生のためにこそ、キリストは私たちに生れるのでなければ、神の国に入る事は出来ない〟（ヨハネ三の5）

聖ボーロは、古代洗礼の典礼を示しつつ、この新しい生命の発生を記述する。

受洗者は、水をたたえた池に、そつくり沈められる。

罪人なる人は、キリストの死とその救世の御血で洗われ、再び水面に出る時は、新しい生命がはじめられている。

斯様に、キリスト信者はその身にキリストの死と復活の姿をおびている。

〝キリスト・イエズスにおいて洗われた私たちが、誰でもその死になぞらえて洗せられた事を思つても見ないのか？私たちは彼の死に倣うとして、洗礼の時に彼とともに葬られた。これは、キリストが御父の光栄をおびて死者の中から復活されたように、私共もまた新しい生命を活きつづけるためである〟（ロマ、六の3―4）キリストの救いの玄義は、人るいの二重の連帯性にその根底をおいている。一つは原罪による悪の連帯性であり、他はキリストの救いによつて結ばれる善への連帯性である。

人祖は人類の運命をになつていた。もしも、彼が忠実でありさえしたら、人類が現在自らのうちに経験する道徳的、肉体的不均衡を知らなかつたであろう。感覚と病苦と死の反抗もなく、苦痛なく地上の楽園より天国に移された等である。原罪の結果はまさに彼にも私共にも否めない現実となつた。意志は悪に傾き、知慧は無知に苦しみ感覚ははめを外し易く、肉体は虚弱にうずくなど、人祖の子孫は祖父の過ちに関して連帯で責任を持つているのである。

悪への連帯性は、キリストの御母でさえ、キリスト御自身の贖いの功徳とゆるしなしには、無原罪であり得なかつた。

〝私共は、かつてその罪の中にあつて、自分の肉身の慾のままに生活し、肉と心との欲する事のみを行つて、他の人々のように、生来怒りの子であつた。しかし天主は御いつくしみのあまり、罪のために死した私共をキリストと共に活かされて、共に天に坐すようにされた。これは恩寵に由るのであつて、天主の賜である。私共はキリスト・イエズスにおいて新たにつくられたものである（エフエゾ二の1―9）洗礼こそ、私たちの中で、原罪の死を絹えて、キリストの生への連帯性をおびさせるものである。

聖トマスの大胆な表現を貸りれば〝受洗者はあたかも自分で苦しんだかの様にキリストの御苦難にあずかる。あたかも十字架で死んだかの様に…（神学大全三部、六九）受洗したキリスト者は、肢体が頭とともに一つの者であるように彼は洗礼のお恵みによつて、御父の正義の前に、贖いの無限な功徳を自らのもののようにして捧げる。人となり給うたキリストは天主より頭としての恵を受けて、之を肢体に及ぼすので、唯一の生命が体全般の生命の原理である様に神秘体の中に循環するのはキリストの生命である。そしてこの生命の原理は、償い、救い、功徳、祈禱、司祭職の領域にまで及ぶのであるかかる生命体の私たちの中での発生のためにこそ、キリストは私たちに生れるのでなければ、神の国に入る事は出来ない〟（ヨハネ三の5）

キリスト御自身の救いの最初の御手が私たちの上にかかげられる。救世主との最初の接触は私たちのなかで、三重の結果を生む。即ち——すべての罪と、永遠と有限の罰を赦して完全なる浄化、——三位の生命にあずからせて、私たちを聖三位の娘となさしめる養人の恵、と——地上、天上の諸聖人と一致せしめて、神秘体の活ける肢体として頭なるキリストへ合体、キリスト者は実に、キリストのおもかげを生きる他のキリストであつて、彼の唯一の関心は御父の光栄と、世の救済である。

——キリストに於いて新たに生れる。

イエズスの御言葉によれば、洗礼は何よりもまず、「新しい生活体の発生」を意味する。〝何人も、水と霊とによつて新たに生れるのでなければ、神の国に入る事は出来ない〟（ヨハネ三の5）

聖ボーロは、古代洗礼の典礼を示しつつ、この新しい生命の発生を記述する。

受洗者は、水をたたえた池に、そつくり沈められる。

罪人なる人は、キリストの死とその救世の御血で洗われ、再び水面に出る時は、新しい生命がはじめられている。

斯様に、キリスト信者はその身にキリストの死と復活の姿をおびている。

〝キリスト・イエズスにおいて洗われた私たちが、誰でもその死になぞらえて洗せられた事を思つても見ないのか？私たちは彼の死に倣うとして、洗礼の時に彼とともに葬られた。これは、キリストが御父の光栄をおびて死者の中から復活されたように、私共もまた新しい生命を活きつづけるためである〟（ロマ、六の3―4）キリストの救いの玄義は、人るいの二重の連帯性にその根底をおいている。一つは原罪による悪の連帯性であり、他はキリストの救いによつて結ばれる善への連帯性である。

人祖は人類の運命をになつていた。もしも、彼が忠実でありさえしたら、人類が現在自らのうちに経験する道徳的、肉体的不均衡を知らなかつたであろう。感覚と病苦と死の反抗もなく、苦痛なく地上の楽園より天国に移された等である。原罪の結果はまさに彼にも私共にも否めない現実となつた。意志は悪に傾き、知慧は無知に苦

いけにえの母

聖女モニカ（五月四日）

世の偉人賢者の現れるところ、屢々そこに偉大な母の後楯がある聖女モニカを語ることなくしては聖アウグスチヌスを述べることも出来ないであろう。世紀の大聖者アウグスチヌスは、母モニカの慈愛の涙と、祈と共に献げられた生涯の犠牲によつて生れたといつても過言ではないからである。

モニカは、北アフリカのタガステの町に、キリスト信者を両親として生れた。身分はあつたが、余り裕福ではなかつた。

生れながら完成にされた聖人はいない。彼女も又、月並みの人の持つ弱さを身に帯びていた。この点で我々は聖女に身近な親しみを覚えるのである。近寄り難いものの如く理想化された聖人の姿に我々に共通の弱さを見出すからである。然し、凡人が自分の弱さの中に溺れるにしながらその弱さの中に溺れるに反し、聖人は自己の弱さを知るや直に之を脱却する。ここに聖人の偉大さがある。モニカも若年ながら、不知不識の中に培つた悪癖があつた。彼女は何時の間にか酒をたしなむ習慣を身に付けてしまつたのである。然し、偶々彼女がこの悪癖の為に他人に躓きを与えたことを知るや、ふつつりと之をやめた。モニカに取つては最初の大きなシヨツクであつたろう。然しこもモニカが贖つて献ぐべき大きな犠牲のほんの小手調べに過ぎなかつた。

当時のアフリカの女性は、かなり若年で結婚した。モニカも当時の習慣に従つて、十代の若さを以て自分の二倍も年上の異教者パトリチウスの許に嫁いだのである。彼女の犠牲の生活は既にこの時に種時かれた。

モニカは間もなく二男一女をもうけたが、その中にアウグスチヌスがあつた。夫のパトリチウスは異教者なるが故に子供の真面目な教育の為関心を示そう筈もなく、モニカ一人子供達の為日夜心を砕いた。然も子供達は必ずしもモニカの期待通りには生長しなかつたが、殊にアウグスチヌスは、モニカの最も大きな心労の種であつた彼は土地の初等学校に学んだ後、マダウラに学び更にカルタゴに遊学したが、彼自身が告白しているように、学ぶよりも遊ぶことが好きだつた。この頃の彼は信仰を失い、母親の教訓を忘れ、益々その無軌道な生活に拍車をかけて行つた。モニカの心は甚くしめつけられた。折も折、この頃彼女は夫パトリチウスをも失つて全く孤独の中に取り残された形であつた。然し彼女は天主に対する信頼を失わず、絶えず祈り屢々巡礼し、旦餐しい中にも出来得る限り施与をなした。然も乞等のすべてがモニカに取つてはその子アウグスチヌスの改心の為の献物だつたのである。

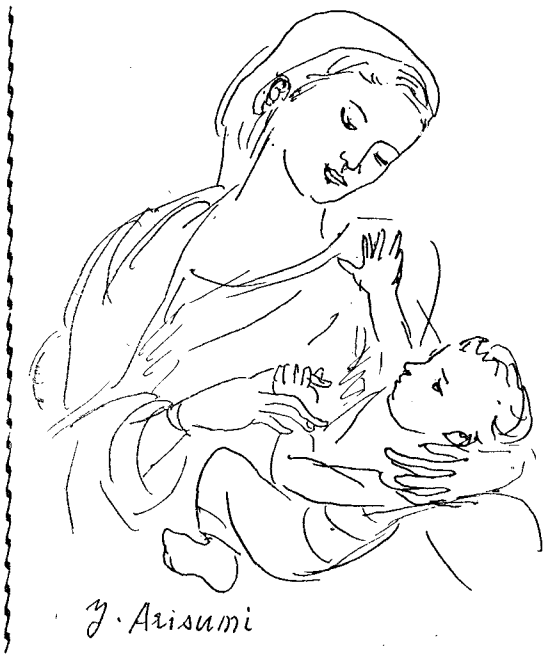
モニカはアウグスチヌスを責めなかつた。寧ろ温和に、彼が天主の御懐に帰り来る日を待つた。然し心の中では、彼女の涙の乾く暇はなかつたのである。苦しみに耐え兼ねたモニカは、或日タガステの司教の許を訪ねて、一切の事情を打明けてその意見を乞うた。司教は「御安心なさい。そなたの涙の子は決して滅びることはないでしようう」とやさしく慰めてくれた

然し、モニカの犠牲は尚も続いた彼女は全力を傾けて天主の迷子を求めたが、彼は天主の御懐にも母の手にも帰らなかつた。彼は寧ろ栄達と悦楽を求めて、すがりつく母の手を無情にも振切つてローマに旅立つた。モニカは愛する我が子の跡を追つてローマへ、そしてミラノへと赴いたが、ここに計らずも天主の摂理によつて、天主の恩寵と彼女の犠牲との勝利が彼女を待つていた。

タガステの司教の予言的な激励の言葉は実現した。アウグスチヌスはミラノの謙虚な聖司教アンブロジウスの許を度々訪れるようになつた。そして鱗てローマで、あの記念すべき奇蹟的な改心の日が訪れたのである。モニカの喜びは大きかつた。長いそして激しい苦悩の後に来る勝利の歓喜である。

モニカは、最早修道者となつて志を同じくする人達とつつましい生活を開始したアウグスチヌスの姿を目の当り眺めた。恐らくはあの聖者シメオンが幼児イエズスを見た時の同じ感謝と讃美の祈が、モニカの心に溢れ出でたことであろう。「主よ、今こそ主の下婢を安らかに逝かしめ給え、そは我が目主の救いを見たればなり」と。

モニカの勝利の歓喜は間もなく永遠の国にて更に満さるべき性質のものであつた。モニカも恐らく之を知つていた。一族がアフリカへの帰りを急いで、オスチア港で船出を待つていた或る日、モニカとアウグスチヌスは、共に天の一角を仰ぎながら聖なる観想にふけつていた。母は静かにその子に告げるのだつた「我が子よ、私に取つて私をこの世に引きつけておくものはもはや一つもありません。僅かの間でも此の世に留ることを私に願わせていた一つのこと、それは私が死ぬ前に、キリスト信者然もカトリツク信者になつているそなたを見たかつたことでした。然し天主様は、このことを私の念願以上にかなえて下さいました。ですから、私はもう此の世に生きて何をしましよう…」、事実、それから五、六日後彼女は熱病に冒された。容態は急に悪化した。アウグスチヌスを始め一族の者は、聖なる母の最後の枕辺に集つた。モニカは彼等に最後の勧告と願いの言葉を残して静かに息を引きとつた。時に三八七年五月四日、彼女が五十六才の時である。



短歌

聖母月　マリア・ヨゼフイン

時いまし五月となりぬ聖母（おんはゝ）を讃うる月よ花きおひ咲く

椿の若葉みどりさやらぐ蔭にして聖母（おんはゝ）の御像に映る木もれ陽やうに揺れおり風立つらしも

俳句

落瓦

老松の古きみきにも春の雨

花の雨園遊会は続きおり

今日佳き日新婚の人花のゆく

姉妹校打ちつれ花の階のぼる

たんぽゝの今日を占めきり

天主様には形がある

―形式的ということ―

生熊来吉

「どういう意味つて、言葉の通りの意味だよ。」

「わからんねえ、君のいうことが。」

「これ程単純なことがどうしてわからないかね。それとも君は学者知者だからわからないのかな。」

「痛烈だなあ。」

「失敬、失敬。」

聖母マリア

純身の玄義からマリアを除いたら玄義がなくなる。救世の玄義から純身の事実を否定した場合と同様に。

こんな皮肉を云つても彼は決して怒らない。

「だがね、これは単純なことなんだよ。つまり形のない天主が人の形をとり給うたということだ。天主の御独子がこの世にお降りになり、我々人間に親しみ易いような形をとり給うたのだ。」

「なる程、イエス・キリストのことだね。」

「そうだ。我々が眼で見、手で触れることの出来るような形をとり取給うたのだ〝我等の聞きし所、目にて見し所、つらつら眺めて手にて扱いし所、即ち生命なるもの顕れ給え〟（ヨハネ壱一の一、二）というのは君も知つている通り使徒聖ヨハネの確信に充ちた言だ。トマも天主たるキリストを眼で見、手で触れて確めた後に〝我が主よ、我が神よ〟と叫んだ。天主は、人間がその本性に適わしい方法で天主を礼拝し、且つ愛することが出来るように人の形をとり給うたのだ。天主の御独子の受肉ということから宗教的な造形美術が生じ、音楽芸術が生じ、典礼や儀式が生じたのだ。

それから君は、心は形がないから形式はいらないと云つたね。なる程そのものは眼に見えないが、心の動きは自然に外に表われて表情となり彩となる。心の表現に形が伴うことは自然だ。」

「ちよつと待つてくれ給え。感情や意志や願望が自然に外にあらわれたものは形式じやないよ。本人の意志からではなく、外部からの統制や約束によつて作り上げられた一定の型が形式というものだ。」

「そうだ、恋人に花束を捧げたり、勝利者に月桂冠を与えたり、母の胸にカーネーションを飾つたりするのもその例だろう。人間は天使のように純霊ではないのだから、人間らしい心の表現があるし又動物のようにいつも感情をむき出しにしないで優雅な形式を作り出すのだ。

特に集団的信心や礼拝の場合にその重要性は一層明らかになる。聖パウロも〝一切の事正しく且つ秩序を守つて行わるべきなり〟（コリント前一四の四〇）と云つて集会の時の混乱を戒めているが、形式を与えずしてどうして混乱を避けることが出来る。集団的信心は公けに天主を崇めることにあり公けの信心はカトリツク教会の信心の中で重要なものだ。カトリツクとは公けの意味だからね。このような信心はイエズス・キリストの意志になるものだ。〝我名を以て二三人相集まる処には、我其中に在り〟（マテオ十八の二十）と云つてイエズス様は団体を祝福し給うた。信者がこの団体に参加して秩序と一致の内に、一定の形式に従つて礼拝や祈願をする時、個人は更に大きな単位である共同体の中に融けこむ。聖堂建築の本来の様式は、御嘉に挙られたキリストの御体を象（かたど）つている。中央祭壇は頭で、両袖の小祭壇は御手であり、信者の二つの出入には御足を意味する。御聖体の安置された聖堂でミサ聖祭にあずかる信者の集り程象徴的なものはない。信者がキリストと一致し、又信者相互が一致している共同体は即ちキリストの神秘体である。キリストがゴルゴタ丘上において人類の罪の贖いの為に捧げた犠牲祭は昔から今日まで、そして世の終りまで延々として継続している。それがこの共同体によつて行われるミサ聖祭である。」

「形式についてはまだ聴きたいこともある。しかし後はこの次にして貰つて、今日の話をよく咀嚼し玩味することにしよう。」

二人は別れた。しかし心は一層近くなつたように感じた

學生の爲福祉施設

福岡カトリック学生ホーム

主旨―一、思想、道徳、経済等現下の学生が当面する多くの負担を軽減し、真摯な学問的探究に適当な場所を提供する。

一、カトリック精神に基く規則的共同生活によつて、キリスト教的人格の涵養を計る。

入寮御希望の方は、十円切手同封の上、左記宛御連絡下さい。

福岡市東光町四五

福岡カトリック学生ホーム

畑原神父

（一）教會は社會問題に關心をもつ

カトリック教会が社会問題、わけても労働問題にまで頭をつっこむときいて驚く人がある。宗教団体として人間の魂の救かりをはかり、この世の事柄を超越して来世にだけ目をそゝぐ等のカトリックが、労働者の賃金にまで口を出すのは畑違いだという印象を与えるのであろう。

しかし教会は放漫のことに没頭する余り、人間の地上生活に関することはなおざりにすると考えてはならない。真の宗教は来世の運命を現世の生活から切離して考えるものではない、また精神生活と物質生活を各々独立した二つのものとみなすことはしない。カトリック的人間理想像は、来世の福楽の準備のためにこの世の生活を秩序正しく営む者の中に見いだされる。実際われわれの精神生活たとえば宗教、道徳、文化的な生活が物質的な生活の裏付け、たとえば健康や安定した経済状態や外的な平和などをもたなければ、非常に困難なものになることは喋々するまでもないことである。

（二）教會の活動のはんい

このようなわけで教会は、社会問題について権威的な意見を述べる権利と義務のあることをよく自覚している。歴代の教皇、とりわけ過去百年間の教皇は、宗教道徳の最高権威者として、どのような機会ものがさずに、世界に向って正しい教会の社会理論を徹底させるように努めてきたのである。

教会が打ちだす社会理論は然しながら、実際的な分野にまで立ちいって技術的な指示を与えようとするものではない。之は宗教家の切っている。

労働には意味も価値もない手足の疲労、まして卑しい奴隷状態に過ぎない恐うこと程屈辱的な考えはない。労働は神の奉仕、人間にとっては生命のゆたけさと力とをもち、永遠の休みをもえさせる神の賜であることに思い到らねばならない。その為には労働に従事する者の人格が生産の奴隷とならないよう注意すべきである。

（三）教會は特に勞働を尊重する。

古代社会に於てさうであったように、近代に於てもなお筋肉労働を無意識のうちにでもさげすむ傾向が抜けきっていない。教会は聖パウロの教にもとずいて、この誤った考え方に真向から反対し、労働の品位を絶えず高揚してきた。

〝肉体の労働は恥しいことでなくて、むしろ人間に名誉を帰するものである。それは労働するものに生活を推持する高尚な手段を供するからである〟レオ十三世はいい、又ピオ十一世は〝労働は生命の最大価値の一つである〟といい、労働者の尊厳を高調している。

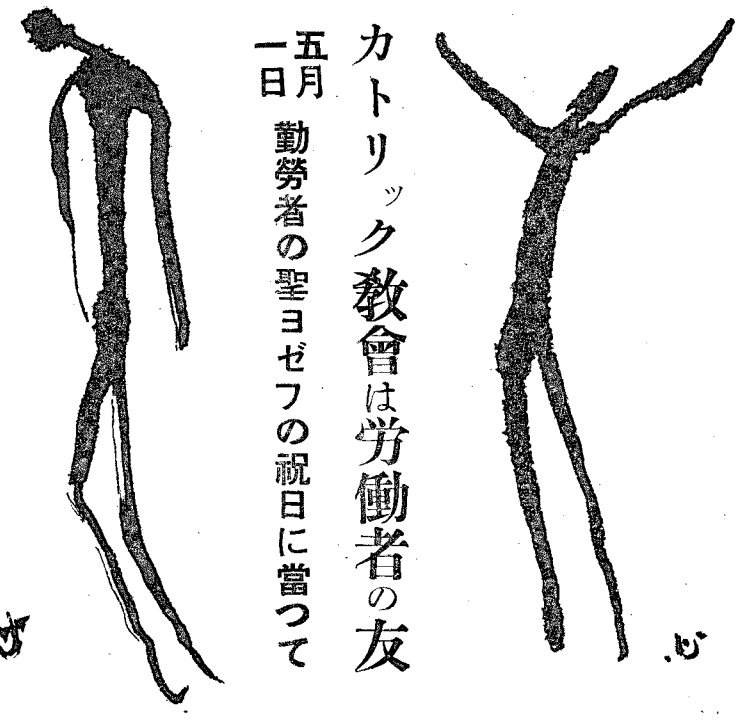
（四）勞働者の模範、聖家族

労働の義務、その神聖なることや〝マリアの子にして職工にあらずや〟（レオ十三世）の範を示して具体的にわれわれに教える。労働が非常に賤しめられていたローマ時代に、神の御子キリストは殊更に大工の息子と呼ばれることを恥とせず、自ら大工の職に甘んじて従事されたのである。〝ク労働者を前にして演説し、今迄は憎しみを基調としてくりひろげられて来たメーデーが、之からはキリスト教的正義による労働者の祝日となるよう悟された。そしてこの日を勤労者たる聖ヨゼフの祝日として全世界の信者が盛大に祝うようお望みになったのである。

教会は労働者の弁護者、保護者である。（ピオ十二世）

社会問題に関するカトリシズムの原理は、次第に人類の共同財産となりつゝある（ピオ十一世）（F）

××　××



質問欄

祭服の色に就いて

【問】ミサ聖祭の時、司祭はいろいろの色の祭服を着けていますが、これには特別の意味がありますか？

【答】私達の宗教的な感情を何かの形で外に現はそうとするのは当然ですし、又外部に現はされた色や形によって私達の宗教心が高められることも事実です。祭服の色もこの様な理由で教会の典礼の中により入れられたものです。

従って、初代教会からの今日の様な色彩上の区別があった訳ではありませんが、典礼の内容や性質に応じて一定の色が用いられるようになりました。今日の様に五つの典礼色が確定したのは、教皇インノチエンチウス三世（十三世紀）の時代といわれて居ります。

白色は純潔を意味し、又喜びをも現はすので、吾が主や聖母マリアの祝日、殉教者を除く聖人の祝日や献堂式等に用いられます。白色は綿蘭でも代用されます。

赤色は血の色であって、殉教者の祝日や殉教の記念日に用いられ又、熱と愛を意味するので、聖霊降臨にも用いられます。

緑色は中間色と呼ばれ、又希望をも現はすので、特別の特徴のない日曜日に吾主の御約束を希望する色として用いられます。

紫色は明るくもなく、さりとて暗過ぎもしないので、最も良く悔悛や大齋、苦業を表わす色とされ待降節や四旬節、又は大祝日の前日に用いられます。紫に進ずる色として桃色がありますが、苦しみの中にも喜びと希望を表はす色として待降節第三主日と四旬節第四主日に用いることが許されます。

黒色は死と悲しみを意味し、主の御死去の記念日や死者の典礼に用いられます。

以上の様に、祭服の色によって私達は典礼の性質や意味を理解することが出来るのです。

（東光町畑原神父）



イエズスはマリアによつて與えられる

マリアは聖霊の泉のかたわらにいます。われらのいのちの源にてましますイエズスは天主の賜物であるが、それは又マリアからの贈物でもある。われらの霊的生命をつくり給うたのもマリア。

マリアはイエズスをご胎内に宿し給うや、イエズスを与えようとエリザベトと洗者ヨハネの方に道を急ぐ。東方からの博士達に幼児イエズスを礼拝させたのもマリアである。

マリアは聖霊の泉のかたわらにいます。われらのいのちの源にてましますイエズス・キリストは天主の賜物であるが、それは又マリアからの贈物でもある。われらの霊的生命をつくり給うたのもマリア。カナの饗宴でイエズスの神性をあらはすチャンスをつくり給うたのもマリア。

いたるところでマリアはイエズスをあらわす。

〝彼等は幼児がその母と共に在るのを見出せり〟

福音の中にあきらかなこの法則を、教会ははじめからよく理解していた。聖ボナヴエンツラはその伝統的な教をつゞめて〝養子となるというわれわれ信者はイエズス・キリストによって実現キリストを見出すことはできないと云い、また〝マリアの居ない所にキリストを求めても無駄である〟と云っている。

マリアの使命はイエズスを与えることである。マリアはこの使命に常に忠実であるマリアはわれわれの中にイエズスを生み育てゝ下さる。その精神を吹き込んで下さる。その主義と犠牲を解らせて下さる。彼にみならうよう仕向けて下さる。イエズス・キリストによって神の子であり神そのものなる彼が世間の人眼には労働者の息子とみられその生涯の大部分をやとわれの労働に費しさえしたのである。彼は貧しき者となったのであり、神の実例で示してくれたものであって彼は人々を救うために、富める者にてましながら汝らのために貧しき者となったのであり、神の子であり神そのものなる彼が世間の人眼には労働者の息子とみられその生涯の大部分をやとわれの労働に費しさえしたのである。彼は財産に恵まれない者は、神の判断によれば、貧乏は恥ではなく、額に汗してパンをかせがなければならぬことに赤面する必要のないことを、教会から教えられる。これは救主イエズス、キリストがその実例で示してくれたものであって彼は人々を救うために、富める者にてましながら汝らのために貧しき者となったのであり、神の子であり神そのものなる彼が世間の人眼には労働者の息子とみられその生涯の大部分をやとわれの労働に費しさえしたのである。彼は財産に恵まれない者は、神の判断によれば、貧乏は恥ではなく、額に汗してパンをかせがなければならぬことに赤面する必要のないことを、教会から教えられる。これは救主イエズス、キリストがその実例で示してくれたものであって彼は人々を救うために、富める者にてましながら汝らのために貧しき者となったのであり、神の子であり神そのものなる彼が世間の人眼には労働者の息子とみられその生涯の大部分をやとわれの労働に費しさえしたのである。彼は

三月十一日の記念祝典にあづかつて

牧山聰（在ローマ）

永遠の都といわれるローマの町は、ローマ帝国の首都として繁栄したこと、又多くの殉教者の血を吸った聖なる都として記憶されるのは勿論、〝教皇の座〟をもつ都それ故にこそ真の意味に於て永遠の都として私達信者の耳になつかしいものです。歴史は亡び行く人間の営みの数々を朽ち果てる物質の形骸の中に残して行きました。聖ペトロ、聖パウロも通つたアツピア街道は今も昔の面影をしのばせてくれますし、コリゼオは激しかつた迫害を思い起させてくれます。今は所々の崩れをもつているにしても、尚堂々の日の感激と信仰とを証す古い聖堂の数々も、此所彼所に残つては居ります。けれどもこの消えることも又色うせることもなく存続している教皇座ほどに心をうごかすものはないでしよう。

三月十一日この日こそピオ十二世教皇の在位第十七年目を記念する大式典が聖ペトロ、聖パウロの眠る墓上でくりひろげられたのです。朝六時、開会の四時間も前から多くの人々が大聖堂の前に集つて来ました。この日ローマは大雪八時二〇分降りしきる雪を身に浴びながら大聖堂に急いだ私は、雪の日には信者の数も少いだろうと思つていたことが悔まれてなりません。教皇祭壇の側の席につくことが出来る良い入場券を持つていましたのに、余り遅かつたので最後列の席しか残つていません。ドイツ、ヴアヴアリアから来た人達で一杯なのです、この地に教皇様が教皇特使として派遣されたことがあるからです。さしもの大聖堂も人、人、人の浪でうめつくされています。

定刻十五分前大聖堂内の全電燈が点ぜられた時、それ迄神秘的な暗がりの中に息づいていた総ての聖人のご絵、ご像が一瞬のうちにおどり出して来ました。力強い信仰の告白、声なき信仰の叫びが歴史の闇の中から眼前で姿を現わしたと申してもよいでせう。四福音史家がクーポラからじつとペトロ枢機卿の声がきこえてきます。神秘的な沈默とサン・ピエトロの雄大なクーポラが一体となつて、私の胸の中に、ローマ以外では知ることのできない深い意味を与えてくれました。母なる教会の偉大さ永続性、教皇座の意義と力、信仰の崇高さ、これら凡てが唯一のものに結晶して迫つてくるのです。ここには理論もつまらない思索も必要でなく、如何にしてこの〝あるがまゝのもの〟を感ずるかゞ問題なのです。教会の普遍性はこの日、目に見える形をとつて教皇様のためにお祈りをしたと申してもよいでしよう。何十ケ国からの人々が一つの教会の中で、異れる言葉をもつて、唯一の御者に祈りをさゝげているからです。

聖ペトロ大聖堂内の全信者が外に出るのに三〇分もかゝつたでしようか、人波にもまれてやつと聖堂外に出た私は、ピアツザの前に陣取る人々の数に驚いて了いました。あの大きなピアツザも何となくちつぽけに見える程に、人々が一杯つめかけているのです。正午教皇様の私室の窓から教皇祝福と短いお話しがあるのが普通なので、その日も人々は寒いのにその時を待つていたのです。時間通り窓が開かれ、真白いお姿が目に入りました。我を忘れてハンカチを振る人々の姿は美しくもあり又、感動的でもありました。本当に子としての愛と情がにじみ出ているのを否むことができませんでした大きく開かれた腕、そして十字架の印。教皇様が祝福をお与えになるのを見て、感動しない者はないでしよう。真に超自然的な何ものかを感じさせるのです。それこそ父としての、又キリストの代理者としての品位と愛と尊厳ではないでしようか。

（筆者はローマの大神学校で勉学中の本教区神学生）

玄義

それが信ずべきは、矛盾だからでなくて、天主の啓示だからである。

よき讀書は心の油
ヂナ・サツフイリオ著
大滝玲子記
光のかよう道
聖パウロ書院
一八〇円
二四四頁
福岡市大名町カトリック教会横



深堀 司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀 敏
定価 一部 十円

イエズスの聖心の友となる

聖心の祝日制定百年に当り

福岡小神学校附　川口康頼

受肉によって示された神の御言の愛をよく識り、聖化の支えを見出そうとするものにとって、聖心の信心ほど大きな力となるものはありません。それは人類のために己れを犠牲として与えられたキリストの燃ゆる愛の表象としての肉なる御心臓を通じて、直接神人キリストになされる信心であるからであります。

人間に対してなされる尊敬も、霊魂と肉身の二つに分けてなされ得ないように、キリストをその神性と人性とに分けて礼拝することは妥当なことではなく、常に神にして人なるキリストを対象としなければなりません。心臓が生命の中心であり、生命の活力を支える真紅の血液が心臓を出て心臓に帰り、全身活動の中心機関であり、いわばわれわれの精神生活すなわち心の象であります。受肉によってわれわれと同じ人性をとり給うた神人キリストの聖心の信心に、キリスト御自ら心臓をその御心の象徴として好み給うたことは当然でありましょう。

永遠の御言なるキリストは、最も愚なこととしか思われない卑賤の中に人類救済の手段を自らとり給い、「人の子」としての地上生活を送られました。

キリストは、われわれと同じように喜び悲しみをも感ぜられ、童心の美にうたれては喜悦に小躍しつつ御父天主を讃美し、人の弱さ苦痛には同情し、罪のために泣き、不義には義憤を覚え給いましたキリストに於てこそわれわれは神の御心を理解し、人たるキリストもわれわれの心を理解し給うのであります。

常にかわらぬ愛にたかなるキリストの御心は、十字架上で最大の証をなし給いました。異教人には愚挙としかとれない十字架の秘義も、キリストの御心が最後の解答をあたえるのであります。

更にキリストの御心は、世の末に至るまであらゆる人々を生命の檻をもって養わんがために聖体の秘蹟を定め、至聖なるキリストの聖心はそのまゝ地上にとどまることを肯ぜられました。貧賤貧富の別なく、罪人のためにも義人のためにも、愛の饗宴を準備されています。聖心は愛の牢獄の中より、「我に来る人は飢えず、我を信ずる人は何時でも渇かざるべし」と群り来る人々に呼び掛けられます。

微弱な人智をもってしてはあまりにも深遠な数々の玄義におのゝく時、聖ヨハネが「神は愛なり」と喝破するその神の愛の「深さ高さ広さ長さ」を識ろうとする時、キリストの御心の中にこそ玄義の扉を開く愛の鍵を発見するでありましょう。

かくまでも人類を愛し給うキリストの御心に対する無数の忘恩冒瀆は、いたくその悲しみの原因となっています。愛には愛をもって応えることこそ当なことであるが、キリストの聖心ばかりは、人類の反逆罪によって苦しめられていないでしょうか。

一六七三年、パレ、ル、モニアルの修道院で聖女マルガリタ、マリアに「せめて汝は我を愛せよ」と訴えられた御言葉は、聖心が殆んど愛といわれるものを受けていないことを如実に証す歎息に外なりません。たゞ愛することしか知らない聖心は不義と侮辱の刃にてつらぬかれています。愛を求めて彷徨する聖心が遭遇するものは冷かな軽視であり、享楽の淵にうごめく罪であります。個人も家庭も社会もあげて聖心の座を抹殺し、或は少くとも冷やかな無関心を装って平然としているのではないでしょうか。

われわれはもう一度、「せめて汝は我を愛せよ」との聖心の訴えを傾聴し、それに十分応えているかどうかを聖心の月にあたって吟味しようではありませんか。

聖振のよろこび

【伊万里 教会】 四月廿九日(日)受堅者十三名、尚同日午後三時より武雄市の国立療養所で三名が受堅

【手取教会】 五月十三日(日)午前九時のミサに引き続き六十六名受堅。同じく午後四時喜嶋待労院で四十名も受堅

【大名町教会】 五月廿日聖霊降臨の大祝日の夜のミサの後、廿四名が受堅。

【飯塚教会】 五月廿七日三位一体の祝日のミサの後二十二名が受堅。

福岡大神学校で着衣式

福岡サンスルピス大神学校では五月十九日今春四月に神学科の課程に進んだ新神学生十五名のスータン着衣式が行われた。当日は司教様御不在につき校長オーブリ師が司式した。

世の光より大いなるものへ

文化活動の一つの形であるサークル運動がここ数年の中に全国津々浦々にまで急速に拡まりつつある。大学などの特定の人々を対象としたサークルは何等事あたらしいことではないが、今迄は「文化」という言葉から全く縁遠いと思われていた階級の人々の間に拡がつて丁度地下水のように、日常生活をうるおしていることが注目される。

サークル運動などというまり日本人の性格とは合わない活動がこれ程一般化したことは、我が国民の精神的成長を示すものだという人もある。

この運動の動きをよく見ると一概に物好きの代物とは言切れない、何かがつしりとした、内的な強い力がうかがわれる。各々が属しているサークルの種類は才能や環境や趣味などによってまちまちであるが、どれにも共通しているものは、自分に身近かなものを通じて個性を高めたいという念願である。

それは人間としての国民としての又現代人としての自覚にはじまり、その自覚を失わぜるようなものやその向上を妨げるものに対して戦つて、徐々に自己完成を実現してゆきたいとの意欲、その反面、個々の力の弱さと、唯物的な時代環境に圧倒されて一切の努力を抛棄する誘惑になやまれる為に、他の人々と手をとり合つて進みたいという所にサークル運動が生れた遠い原因がある。

誰でも程度の差こそあれ、弱さを経験する。その弱さというのは日常生活に於て感じられる苦しみ、例えば経済的な不如意や内的な煩もんや智的な悩みなどを自分一人ではどうやつて解決していけばよいのか解らないという焦れつたさ、孤独感に由来する。従つて同じような苦しみを痛感している人々がお互い助け慰め合つて、充分な解決策はなくとも皆で忍ぼうという気になるわけである〝一人で悩んだり苦しんだりしていずに、その悩みや苦しみを仲間のみんなで話し合い、考え合つて、原因をさぐり、解決をはかつていきたい〟という気持。又自分の苦しみをひとりでくよくよとあたためるのをやめて、みんなと一緒にどうにかしてゆこうという気持になつた時、あたらしく生きようとする姿勢が生れてきたとの告白もある。

出発点は人間の弱さの自覚である。そしてその弱さは劣悪的な理解ではなくて、現実に対した時、即ち日常生活の中で人間として生きる時に経験される弱さなのである。従つてサークル運動の目標は直接には現実に向けられている。技術の進歩のみを目指すサークル運動は度外視するとして〝級方の会〟の如きものは現実を観察し認識することによつて、理想との隔りをはつきりとつかむ習慣をつけること。そして欠陥だらけの世の中に生き乍らも、それに押しつぶされないために自分を内側から強めて、現実に対処する道を開くことである。

以上のようにサークル運動を分析して見ると、今日の社会に生きる人々が、個人としての弱さを自覚し、グループを通じて精神的な力を補い、目の前の欠陥、言い換れば社会悪に立ち向い、常に人間らしさを保ち、人間として更に成長し、立派な社会を作り出すことを目的としていると結論することができる。

こういう文化活動が根強く社会の隅々まで拡まるにつれて、どれ程現実世界を改造してゆけるか、その小さな努力の集積をわれわれは過小評価するものではない。然し乍ら、サークル運動のあり方をもう少し深く考えてみると、人間の弱さと社会悪の根本的な原因の究め方と、それに最も効果的に、そして適切に対処する方法の探求に於て欠けている所があるように思われる。勿論この種類の運動は文化活動の一端であつて、宗教的なものとは自ら区別されるものであり、この運動を以て宗教にとつて換えようとの野心は意識ないにしても、人間の魂の奥底から湧き上る永遠なるものへの渇望、現実生活の背後にあるものへの探求心を妨げてはならないのである。真の芸術が永遠なる美とのつながりを持つているように、真の文化活動もより大いなるものへの道を開くものでなければならない。

人の魂のやすらぎは、身の廻りの困難が、一つ一つ解決していつたからとて得られるものではない。人間の弱さは現実の困難に対した時にはじめて生れるものではない。人間の本性にまつわる弱さは、現実との対決による以前に永遠なる者との対決によつて補われなければならない。

サークル運動は〝生きる〟ことに無頓着であつた人々にも、人間をめざめさせ、自己改造を通じての社会改造の意欲を燃えたたせている、その功績はまことに賞讃すべきものである。然しそれが与え得る所のものは、人間の魂が世紀を通じて求め来たつているものからは遠かに隔つている。サークル運動に参加している人達がそこ迄考えを深め、自分達のやつていることを基礎として、より高きもの、より大いなるものの探求に迄努力をやめないよう希望するものである。

(深堀 敏)



祈禱の使徒會

六月

「一般の意向」聖心の信心の高揚

今年は、信者達の熱心な要望に答えて、聖心の祝日が制定され、全世界の教会により公にこの日が祝われるようになつて、丁度百年になる。聖心が聖女マルガリタ、マリアを通じて私達に求めたもつたものは愛である。聖心は愛であり、全世界の人々が困難に会うのを見てはこれを励まし慰めてこられた。聖心が如何に私達の大きな慰めであるかは、信仰あるものなら誰しも心の中に経験する。聖心のこのような人類に対する大きな愛に報いる為、聖心のお望みにお答えするのは当然であろう。愛する聖心は人々から愛されることを深く望んでおられる。しかし現実の世界はどうだろう。

あまりにキリストの愛から遠いものとなつているのではないか。私達はまず第一に自分が聖心を愛するものとならねばならない。それは同時に人々を聖心に引き寄せる人々に聖心の愛を感じさせる動機となる。聖心の祝日制定百年紀念を迎えるに当り、この信心が益々全世界に広くひろめられ、すべて悩める人々の為の大きな力、最上の慰めとなり、完徳に進まんとする者の糧となるように祈り、この祝日が制定される日の一日も早からんことを願つた私達の先祖の熱心を今、新たにしよう。

「布教の意向」インド諸国における司祭召命の増加

国家主義が日々勢力を増しつつあるインド諸国のカトリック信者は全人口の僅かの部分を占めるに過ぎず、多くの困苦に会い宣教師も自由は与えられているとはいえ種々の妨げの為に十分な活躍ができない。私達が対岸の火事のようにこれを傍観していることは許されない。インド諸国の精神的要求に答えるに十分な司祭をお送り下さるよう聖心に祈ろう。

「布教委員会の意向」プロテスタントのため

ハートネット師来福

米国ニューヨーク市に事務所をおくカトリック救済奉仕団(A・C・R・S)の最高責任者モンセイニュール・ハートネット師は、五月十八日同奉仕団の在日代表カーモディ氏を伴つて空路来福、県庁の社会福祉課々員の案内で県下炭坑労務者の生活状況を視察して翌日長崎に向つた。カトリック救済奉仕団は全世界の生活困窮者の救済を目的とするカトリック福祉団体で、師の来日は今度で三回目日本のため永続的救済を約束している。

永久聖体禮拜

六月

第一日曜　馬渡島教会
第二日曜　戸畑教会
第三日曜　人吉教会
第四日曜　日田教会
(最終)　マリア会(福岡)
鐘鼻教会
ノートル・ダム会
(戸畑)

六月　イエズスの聖心の月

一日(金)　天地の元后なる聖母の祝日

今から二年前の十月十一日、教皇は回勅をもつて毎年五月廿一日この新しい祝日を祝うよう定められた。(今年は五月廿二日に聖体の祝日がかさなつたので一日延期された)聖母は王たるキリストの御母であること、キリストの救世の大事業に特別の方法で参与されたことよりして、われわれの上に王的権利をもつておられる、キリストの兵士たる信者は元后たる聖母の下に結束してキリストと聖母の御国の発展のために働く。

三日(日)　聖霊降臨後第二の主日　聖体の主日の公式

聖体の秘蹟は天主がわれわれを御招待くださる晩餐にたとえられる。その愛の御招きを拒絶するもの、或はそれにふさわしい心構えを以てあずからないものは、天国の幸福を自ら捨てるものである。

戸畑教会で堅振

五日(火)　教区司祭月例集会の日

八日(金)　イエズスの至聖なる聖心の祝日

一六七五年聖女マリア・マグダレナに打明けられたイエズスの御希望によつて制定された祝日で、イエズスに対する全人類の無礼、瀆聖、冷淡、侮辱を償う

十日(日)　聖霊降臨後第三の主日

イエズスの聖心の祝日を祝つたばかりの今日、われわれにこの聖心の愛の深さを物語る。たとえ話が福音から引かれている。一失われた羊を肩にした牧者の姿以上に罪人の心を励まし慰める図が外にあろうか。

大牟田教会で堅振

十一日(月)　使徒聖バルナバの祝日

イエズスの七十二人の弟子の一人、聖パウロの伝導旅行の伴侶

十三日(水)　パドウアの聖アントニオ博士証聖者

ポルトガルで生れ、フランシスコ会員としてイタリアで活躍、民衆的な説教家、神学者として知られている。一二三一年帰天

十七日(日)　聖霊降臨後第四の主日

今日はキリストによつて始められたカトリック教会とその働き手のために祈る。漁師であつた聖ペトロは奇蹟的な大漁ののちキリストに従い、やがて使徒の頭、教会の最高指導者となつたわれらはペトロとその後継者の指導に服するときのみ真の平和を味わうことができる

吉塚教会で堅振

廿日(水)　日本の福音ランシスコ・パチエコ及びその伴侶等殉教者

イエズス会員で八名の伴侶と共に宝永三年(一六二六年六月廿日)に長崎で火刑をうけて殉教

八代教会で堅振

廿一日(木)　聖アロイジオ証聖者

純潔のほまれ高きイエズス会員で、ペスト患者の看護中感染して一五九一年帰天、二十三才、カトリック青年の守護者に立てられている。

廿二日(金)　信仰弘布会設立の記念

洗者聖ヨハネ誕生の祝日

聖霊降臨後第五の主日

教会は普通に聖人の死去の日、即ち天国へのがい旋の日を祝日とするが、聖マリアと聖ヨハネだけは誕生日をも祝う。聖マリアの御訪問によつて生れる前に聖とされ、又、キリストの御来臨を準備する先駆者たるの使命をもつていたから。

芦屋キヤンプで堅振

廿九日(金)　聖ペトロ、聖パウロ、両使徒の祝日

好天氣にめぐまれて
教區主催 聖体行列擧行さる
約三千五百名が参加

前日までぐずついていた天気も晴れて雲一つない五月六日の日曜日、教区定例の聖体行列は福岡市浄水通教会より泰星学園まで厳粛そのものに挙行された。

午後二時遠近の教会からぞくぞく信者、求道者が浄水通教会横の大通りに集合、神学生の齊唱するアドロテの信仰告白の聖歌をもって、愛の秘蹟をたたえる一大デモンストレーションが開始された。全員雙葉学園運動場に設けられた仮祭壇の前で整列して祈りを捧げたのち、十字架を先頭に行楽の市民が往来する浄水通りを経て泰星学園に向う。十字架のあとに制服の雙葉学園全生徒、それにつづいて市内信者、神学生と廿会名の司祭、聖体を捧持された司教の側には助祭深堀敏師と副助祭三村邦彦師が侍り、そのうしろに修道女、市外信者、幼稚園々児と延々たる行列がつづく。その数およそ三千五百、敬虔にそして信仰の誇りを輝かせながら唱和する祈りと讃美の歌声は、新緑につつまれた平尾の山にこだました。

目的地たる泰星学園運動場の大祭壇に安置された御聖体に向って最後の讃美を捧げたのち、深堀敏師の説教をもって聖なるよろこびの雰囲気のうちに、三時五十分祭典の幕をとじた。（写真は泰星学園での最後の聖体降福式）

教區修道者會議開かる
五月五日 学校問題について討議

毎年聖母月中に召集される教区修道者会議は、五月五日こどもの日に福岡雙葉学園の音楽室で開催された。教区内の各地で各種事業を通じて布教に従事している修道院の代表四十名が、司教様の膝下に集って有益なる一日を過した。

会議は午前九時十五分、まず司教様の訓話で始まり、修道者はキリストのお働きの手足となるべき使命をもつこと、そのためにはカトリック教会なるキリストの代理者の意志に服従し、その超自然的な目的達成のためには、自己の小さな意志を捨てるべきことを強調された。次で福岡サンスルピス大神学校の聖会法教授ラベル師が、教会の補助施設としての学校（一般教育施設をも指す）と題して目仏両語で演説、カトリック学校経営者と教会当事者との関係を具体的に指示した。午前のプログラムは司教司式の聖体降福式をもって終了。午後は記念撮影ののち、座談会にうつり、各修道会が直面している諸問題について検討し合って二時すぎ散会した。（写真は当日の記念撮影）

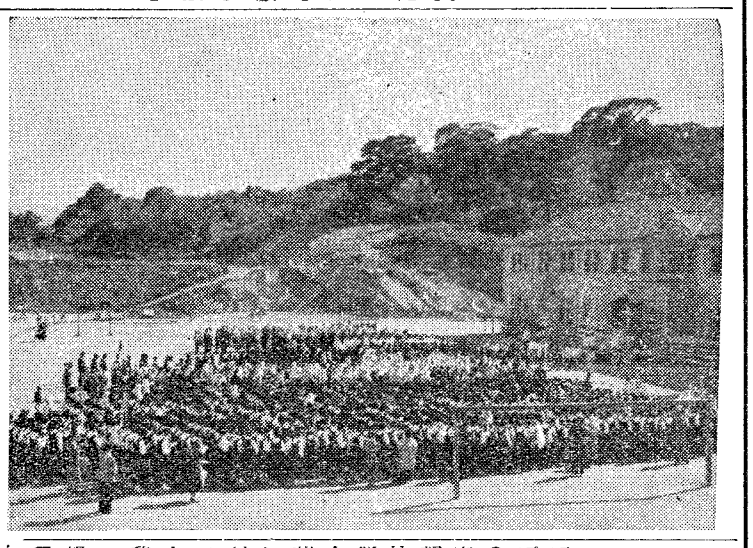


日南市(津)に新カトリック幼稚園

宮崎県下の布教を担当しているイタリヤ・ザベリオ外国宣教会では最近日南市に仮聖堂を建立、前延岡教会主任司祭ディナポリ師を任地に送っていたが、同師は聖堂横にカトリック幼稚園を新設。この程福岡市の高山工務店の手で完成した。祝別式は六月七日同会管区長カヴァルカ師によって行われる予定。

因みにディナポリ師はこの地を拠点として近隣地方の布教に大きな努力をしているが、月に一回鹿児島県霧島市の癩療養所にも巡回している。

久留米聖母園で
創立十周年記念の催し
幼きイエズス会の功績を讃う

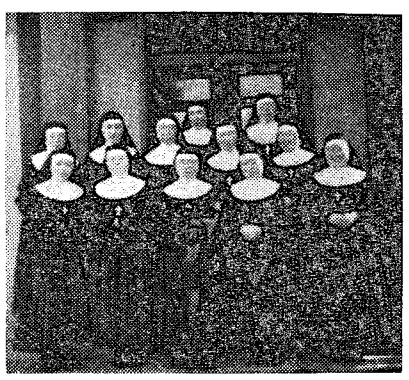


蘭風若葉の香りをたずさえて甘い心地よさを伝える五月聖母月の十九日、久留米市螢川町の養老養護施設聖母園では創立十周年の記念祝典が挙行された。

式典には官庁関係よりは県民生部長代理、杉本久留米市長その他多数、教会側よりは社会福祉法人カトリック福岡教区の理事長深堀司教様を始め、教区内の施設責任者、特に本園創立者の光輝をになうベルナルヂ師＝現在大分県中津教会主任＝ら直接間接の恩人四十五名が列席まず現園長棚町師が起つて時代の要求にこたえ、カトリック的愛の精神をもつて事業に尽された幼きイエズス会の修道女の滅私的な奉仕を讃えた。杉本市長は現代人が物質文明の進歩に目を奪われて、精神的なものを忘れ去っている点を指摘。次に創立者ベルナルヂ師が創立当初の悲惨な有様を回顧し、最後に司教様が人を造るのは精神であり、特に自己滅却した奉仕と犠牲的精神によることを本園に見られた実例を以て語り大きな感銘を与えた。

次で祝宴に移り、老人や子供達の劇が演ぜられ、殊に一年生の子供が二十六聖人劇を堂々とやってのけて万場の喝采をあびた。

聖母園は上記社会施設法人カトリック福岡教区の経営になり、昭和廿一年九月一日に創立、廿三年五月に知事の認可が下り、廿八年に福祉法人となった。現在老人四十三名、児童六十八名、現在迄の収容人員は二百廿八名に及び、社会に送り出した者廿四名、その中短大コースに進んだもの二名、高校三名となっている。（写真は久留米幼きイエス会修道女）



明光学園で
カノッサ会創立者のお祝い

五月十四日午前十時より大牟田市倉永の明光学園では深堀司教様をお迎えして、カノッサ修道女会（イタリヤ系）の創立者である福者マグダレナ・カノッサのお祝いを盛大に行った。本校講堂に美しく飾られた仮祭壇で行われた司教荘厳ミサには、福岡および久留米の青木保、畑原、金松の諸師が奉仕、全校生徒が参列した。

福者カノッサは一八三五年二月十日帰天した侯爵夫人で、イタリヤ女子青少年の教育に尽力。明光学園には邦人およびイタリヤ人の修練女十二名が働いている。

米軍より子供の家寄贈
別府白菊寮と熊本少年の町に

六月末本国に引揚げが予定されている第五〇八空挺隊ではキャンプ内のヒューストン大尉ほか六名の個有所有のかわらぶき平屋建住宅六軒一戸当り二十坪平均約三部屋＝を各中隊で買いとり市内の社会施設に〝子供の家〟として無償提供することになったが、四月十二日別府市大字鶴見の光の園白菊寮＝光の園修道院経営園長田シゲ童貞＝、熊本県菊地郡西合志村のカトリック少年町＝園長ベラス神父＝に寝室、床ノ間、食堂つき同住宅（二十坪）一むねずつが移転寄贈された。

白菊寮への移転にさいしては、朝早くからトラックに引かれ、鶴見地獄下から観光道路に出て実相寺山手前原十字路から右に下りて光の園に入った。トラクターに引かれた二十坪の家は八メートルの舗道からはみ出し、九電の電工さんがつきつきりで道路を横切っている電灯線を引上げ、道案内の立ち会いの下に無事通過した。

福岡教區布教會結成さる
組織的な布教活動のため

教区内全信者の布教活動の積極的な推進をはかるため、信者の総力の結集をうながすという司教様の御趣旨にもとづき、五月六日聖体行列のあと司教館で福岡地区の主任司祭および教会委員約三十名が集会。司教様の御要請により本教区内の各教会に布教会が設立されることになった。次の具体的な活動方法などについては尚数次にわたる集会で決定されてゆくわけであるが、福岡地区の布教会の規約の草案は一応次のようにでき上った。

一、名称　福岡教区布教会

二、趣旨　司教の指導のもとに教区内全信者の布教活動の積極的な推進をはかる。

三、会員の構成　会員は教区内全信者となし、各小教区に布教委員会を設ける。布教委員は主任司祭、教会委員および主任司祭が適当と認めた信者とする。

四、委員会　委員会は早急に小教区に布教区を設立し、信者の布教精神を鼓吹する。委員会の決議事項は小教区に於て実施する。

イ、役員、委員長、副委員長、書記、会計とする。

ロ、事務所会の事務所は福岡市浄水通三丸福岡司教館。会計事務所は大名町教会内におく。

ハ、集会　年に四回の例会（地区別）を開き、その中一回は全教区の総会とする。

五、会費　毎月一口十円とし、一世帯において最低一口を負担する。（司教認可）又委員会において秘密献金をなす。

備考　布教委員会の集会順序

一、開会の祈

二、訓話（五分程度）

三、出席点呼

四、会計報告

五、前回決議事項の実施報告

六、討議

七、閉会の祈（黙祷）

原則として例会は第四日曜の午後一時より司教館で開かれる。

准看護婦十名が卒業

三年前熊本市菅原崎に創設された聖母慈恵病院附属准看護婦学院（綜合病院で現在拡張中）と待労院（癩病院）で行われる。中学校を卒業して入学、フランシスケン修道女の優しい訓育のもとに日毎成長する学生の心の中には、信仰のよろこびが与えられてゆく。今回の卒業生の十名のうち五名が信者、この五月から何れもなつかしの学舎病院をはなれて任地におもむいた。東京聖母病院に二名、姫路の聖マリア病院に二名、長崎フランシスコサナトリウムに二名、人吉フランシスコ診療所に二名母校附属病院に二名、何れもカトリック病院において聖母の使徒、愛の天使としての天職がつづけられてゆく。

××

実習は慈恵病院（綜合病院で現在拡張中）と待労院（癩病院）で行われる。中学校を卒業して入学、フランシスケン修道女の優しい訓育のもとに日毎成長する学生の心の中には、信仰のよろこびが与えられてゆく。今回の卒業生の十名のうち五名が信者、この五月から何れもなつかしの学舎病院をはなれて任地におもむいた。東京聖母病院に二名、長崎フランシスコサナトリウムに二名、人吉フランシスコ診療所に二名母校附属病院に二名、何れもカトリック病院において聖母の使徒、愛の天使としての天職がつづけられてゆく。



八幡市から表彰

終戦直後の混乱期に八幡市大谷グラウンド横の製鉄武徳殿を借り受けて聖小崎育児園を開設、多くの戦災孤児を収容して愛育、教護に専念されたドル工師＝現在パリミツシヨン会所九州地区長＝に、このほど八幡市長より社会事業の功労者として表彰された。

ちなみに同育児園は現在ルリ工師によってうけ継がれ、市内本城赤坂の方に移転している。

馬渡島教会だより

【御下賜金】

天皇誕生日にあたり本教会経営の養護施設聖母園は御下賜金の栄にあずかり、木村師が佐賀県庁厚生部長室にて拝受した。

【表彰と受賞】

同聖母園の佐原順子さんは、この程佐賀県児童福祉協会より優秀児童として表彰された。尚同協会主催の児童展覧会に、同園より四名が出品し三名が受賞した。

久留米聖母園にも

御下賜金

昭和廿八年に次いで第二回目の御下賜金が伝達され、棚町師が県庁にて拝受した。

よき讀書は心の油

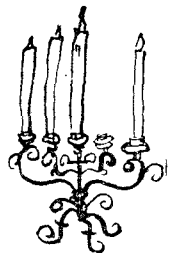
ヂナ・サツフイリオ著
大滝玲子記

光のかよう道

聖パウロ書院
福岡市大名町カトリック教会横
一八〇円
二四四頁

求高校歴史科教師

（福岡県勤務）
数年以上の経験者優遇す
福岡教区カトリック学校就職世話係
福岡雙葉学園内
小野



「公教要理」(三)

洗礼

伊東誠二

聖寵の妙なる業

洗礼は魂に罪をゆるして、之を浄化するだけでない。更に之を神化する。天主はこの中に住いを定められるばかりでなく、魂はキリストに合体せしめられて、神的な思考と、愛の新しい活動力が与えられて、日一日と聖三位の生態へ深く合致せしめられる。

〝キリストによって、神性にあずかり、神性とその運命を分つものとせられるほどの貴重な価を天主は私たちに得させたもう（ペトロ二、一の4）〟

洗礼の聖寵は、何よりも人の本性の神的秩序への高揚を来たす新生命の発生のことであって、魂は、その存在の世界でも、行動の世界でも天主の存在、行動の実態を帯びさせられる。

聖寵のことを理解するためには天主様の本性を注意深く見なければならない。

天主は光である（ヨハネ壱、一の5）、天主は愛である（同四の8と16）と聖ヨハネは説明する。

純霊的な存在の生命は、純粋な知性と意志の活動の中に躍動する。そして、その幸福は、存在の広大さと、思考のひろさと、愛の深さ程に大きい筈である。

天主のうちにある幸福は、御自分の永遠の美と宇宙の輝きを、永遠の一瞥のうちに観想される至福と被造世界の統治のうちに活動的な至福（之を公教要理はみ栄えと呼ぶ）を有せられる。この事より生ずる喜悦は、地上のあらゆる喜びをすべて含みながら、なお、無限に之からかけ離れ、天主の無限な聖性の内に満ちあふれるのである

更に、啓示は、この至福の内容を人智の前に披瀝する。即ち、天主は父であり、永遠に過ぎざる一瞬に、父は御自分の存在と行動

聖性と至福のすべてを子に通わせて、無限なる知性の途によって子を生み給う。

天主よりの天主、光よりの光、子は父と同質でありながら、父の光栄の輝きであり、父の思考、御言葉であられる。

子は父と共に、互いを同質に結ぶ愛の途から、唯一の原理からのようにして共同の霊を発出する。これを聖霊と呼び、聖霊は父と子と共に創られざる本性と能力と聖性を有して、単一の天主性の内にて三位の生命を完結する。

さて、聖寵こそはこの三位の内奥の至福に私たちを入らしめるのである。聖トマの神学的洞察の言を借りれば、「私たちは当に天主を知り、正しく愛する事が自由に出来るように、神の御言葉とそれより出で給う愛（聖霊のこと）にあずからしめられる」（神学大全一巻三十八の一）のである。即ち人の魂の実体とその諸能力を根本から実際に神化し、その存在を天主のすがたに変容し、人を天主の肖姿までたかめるこの聖寵の源もその理想の類型も聖三位に外ならぬのである。

楽園で、悪魔が人祖に用いた切札は〝神のようになること〟であった。（創世紀三の5）しかし神の定める途から外れる事によって人



純朴の使徒

パドアの聖アントニオ

（六月十三日）

高徳な聖人達に共通して言い得ることは、その言行に於ける単純さであろう。殊にそれは、アシジの聖フランシスコとその流れを汲む霊的家族の中で大きな輝きを放っている。単純の徳は、確固たる信仰と純愛に連る。それは、物事の深奥を透視する者の眼らざる確信の表現である。それは又、すべての物事を唯天主に於てのみ見、且考える人々、そして天主の生命に於てのみ呼吸する人々の共通した息吹である。彼等は凡人がする様に、天主を信じ愛する為廻りくどい理論を追かけまわしはしない彼等は唯「然り、然り。否、否」。と答える。そこには一つの迷いもない。彼等は自分の行動を弁護しない。すべてを天主の御裁きに一任する。

この様な聖者達は時として他の動物をも兄弟と呼び、魚や鳥にも話しかける。時には何の不思議もないかの様に極く自然に奇蹟をも行う。然しそこには超自然のものと通ずる権威が秘められている。

我等の聖者パドアのアントニオもこの様なタイプの聖人であった彼は、アシジの聖フランシスコの誕生後十三年目の一一九五年、ポルトガルの都リスボンで貴族将校の子として生れ、フエルヂナンドと命名された。十五才の時、近郊にあったアウグスチノ会修道院に入会した。然し貴族である上、実家に近い所から一族の来訪しげく大いに修道の障げとなったので、二年後には院長の許可を得てコインフラの修道院に移り住んだ。ここで神学と聖書に就いての深い造詣を貯え、又多分ここで叙品された。

フエルヂナンドの召命を決定的にしたのは、アシジの聖フランシスコの偶然の来訪と、同修道会の四人の殉教者の遺骨がアフリカからコインフラに持帰られたことであった。彼はその遺骨の前で祈り且黙想しながら、回教徒サラセン人の許に於ける布教と殉教に大きな熱意と感動を覚えた。彼は早速院長に乞うて、殉教の為もっと好都合なフランシスコ会に入会する許可を得た。

彼は同地のフランシスコ会修道院に移り住んだが、その聖堂の保護の聖人に因んでアントニオと改名した。布教と殉教への熱望は、彼を直にモロツコのサラセン人の許にかり立てたが、彼の天職はそこにはなかった。彼は中途で病を得て帰国の途中シシリー島に漂着した。丁度その頃、フランシスコはアシジに同修道会の総会を開催していたので彼も之に出席した。会が終って、ロマニアの管区長グラチアノは、任務のないアントニオを自分の管区に迎えて、モンテパオロの修道院付司祭とした。彼はここで隠修士の様な祈と隠世の生活を送ったが、恰度聖主が砂漠に於ける四十日の断食を準備し、又洗者聖ヨハネや聖パウロが、先駆者及び使徒としての使命を準備する為砂漠に隠世の日々を送ねた様に、彼は計らずもこの期間に使徒としての職責を準備することとなったのである。祈と黙想との隠れた生活の中にあって、彼の叡智と情熱とは益々浄化され、天主に対する信仰と熱愛とは益々高揚されて行った。

「愚鈍は弱きに於て完うされる」。屢々小さな器を以て偉大な光栄を現わし給う天主の摂理は、人々の間に全く隠れた存在に過ぎなかったアントニオをすばらしい使命の為に準備しつゝあった。

偶然の機会に説教者としての才を発見された彼は、長上から巡回説教師に任命された。彼はこの使命の為自己の知識を生活のすべてを打込んだ。彼が如何程旧新約聖書と神学的智識に通暁していたかは、彼の説教を聴問したグレゴリオ九世教皇が彼を「契約の櫃」と称し又翌一二三三年にはボロニヤ大学の神学講師に任命されたことによっても覗い知ることが出来る。

当時の巡回説教は、今日の日曜日のそれの様な定まった聴衆を前にする司牧的な説教とは違ったものである。アントニオは改心を要する神を求めて方々を巡回し説教したが、彼の説教はその地方に取つて一つの事件であった。何故なら、熱心な者は益々その信仰を高める為、異端者は反対者の口からかけに迷う事のないのが、彼のためには筋の通った世界なのである〝私たちの国は天主とともなる天にある〟（フイリツポ三の20）と聖ポーロはいう。

信仰が彼を見えざる世界へとりあげる。そして彼の思考は〝地上的なものでなく永遠なるものへ馳せてゆくのでなければ奏止千万なキリスト者となりさがつてしまうこの聖寵への人間の渇望をアウグスチヌスはいみじくも次の言葉につゞめた。

〝主よ、おんみは私たちをただおんみに向つてお造りになつた。それで、私たちの心は、おんみのうちに安らうまでは、不安の中にさまようのだ〟（告白第一章）。

一九五六・五・二〇

短歌

二丈アロイジオ

とりどりのレインコートもさわやかな学びの子らに五月の雨ふる。

玉石にとりまといてぞ広がれる松葉ぼたんの花さかりなり

病やいえて声が出そめしにようこびてともにアベマリアとなう

俳句

北条春光

ハリ戸越し若葉の光頬に受く

母の眼を受けて立つ子や衣更

庭木越しハタハタなびく幟かな

苔の庭卯の花くたし殊に映え

二階より若葉の杜に堵見えて

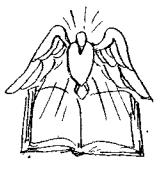
聖書と親しむこと

聖書は今迄ながい間宗教と道徳の指導書として誰からも尊重されてきました。ところが今日聖書を理解している人は何と稀なことでしょう。

聖書に対する一般的な無知や無関心を教会は深く嘆いております。〝新約聖書は字の読めるキリスト信者にとつては枕頭の書でなければならないのに、それに一度も目を通したことのない人がいる。下らない本は山のように買い漁つているのに、何物にも代えることのできない宝である聖書には手もふれようとしない〟のです（メルシエ）

新約聖書に対してすらこれですから、旧約聖書に対して尚更です。

それにしてもここ数年前から盛んになつた典礼運動のお蔭で聖書の抜すいに、だんだんと関心が寄せられるようになりました。でも抜すいだけでは前後の関係がよく解らないため、解説書がない限り、深くかくされている意味に迄達することができません。そして焦りが慶重なると天来の宝物を探すことを止めてしまうのです。



みんなのための聖書

(1)

何よりも望ましいこと、それは聖書と迄立入つて見るべきです。そのためには長くつき合いをし、時としては腹を打わつて話すことも必要です。

最初はなかなか親しみが持てなくとも、聖書との交りを捨てないことです。

日常生活においてもそうではないでしょうか。誰か未知の人と初めてつき合うようになつた場合、理解を深めるには、その顔かたち身丈や体のこなし態度、言葉つかいなどをよく外部から観察したり、その人の家柄や父母、出身地なども調べてみるではありませんか。これだけでは皮相な前知識に過ぎませんから、更に進んで趣味や強い傾向、関心などその人の魂に迄立入つて見るべきです。そのためには長くつき合いをし、時としては腹を打わつて話すことも必要です。

聖書をよく理解するためにもこれと同じようにすること、情熱をかたむけ、地味なしかしたゆまない勉強がなくては駄目です。

とつつきにくい印象をうけても、愛をかたむけて接するうちに、自ずと親しみがわいてくるものです。

形式にこだわるのはプロテンタストである

—形式的ということ—

生熊来吾

「形式論の続きを聴きに来たよ君、ルーテルが攻撃したところの免罪符だね。うゝん、わかつてるわかつてる。免罪符という言葉は聞違つた観念を植えつける重大な誤訳だつていうことね。そうだ、贖宥といわなければいけない。その贖宥に就いて君の説明を前に聴いたことがあるが、あれをきいているとやつぱり形式にこだわつているなあと思つた。」

「形式にこだわるのはむしろプロテスタントじやないかね。」

「というと？いやどうも君の話にはパラドツクスが多くて面喰わされるよ。」

「ハハハハ、チエスタートンに云わずれば聖トーマス・アクイナスにも顕るパラドツクスが多いそうだよ。兎に角プロテスタントはだね。形式的、形式的と云つてむきになるんだよ。そんなにむきになつて形式を否定しなくてもいいじやないか。そんなに形式が忌避すべきものならば、なぜイエス様は使徒達に権能を授けたり、奇蹟を行つたりする場合にある種のゼスチユアを用いるのだ。例えば、使徒達に罪を赦す権能を与えた時に息吹きかけた。息吹きかける動作と罪を赦す権能を与える行為との間にどのような関係があるのだ又、生れつきのめくらをいやし給う時に、地に唾きし、を以つて泥を造り、之を彼の目に塗つて、シロエの池に至りて洗えとのたもうた。一体、イエス様はめくらの眼をいやす為にこんなことをする必要があつただろうか。唯お望みになりさえすればそれで充分の筈じやなかつたか。イエス様すらお用いになつたものをどうして我々は捨てなければならないのか

更にその積極的な意義を考えてみよう。もしイエス様が使徒達に向つて息吹きかける動作もなく権能授与の御言もなかつたとすれば、どうして彼等は自分に与えられた力を見出したろう。又、めくらの眼を開くのに、何の動作も御言も用いられなかつたとしたら、めくらも又我々もその霊力がどこから出たのかわからなかつただろう。眼に見えない力や効果を知る為には眼に見える徴象が必要なのだ。暗宥や秘蹟もその効果が眼に見えないから可視的な徴象によつて初めて確信を得ることが出来る。」

「僕はそうは思わないね。その力や効果との間に直接的な因果関係のない徴表や形式よりも、自分の意志や望みや痛悔の方がもつと確信が持てるよ。」

「君のいうその内心の働きも必要不可欠の条件だが、それは主観的なものだ。もしそれだけによつて効果が決定されるとすれば、果して自分のその時の心の状態が適当なものであつたかどうか甚だ心もとない。しかし正しい権能によつて、この形式が正しく行われるならば必ずこの効果が生じると定められているならば、我々の確信の依所は主観的なものではなくて、客観的なものとなるのだ。形式が持つているこの心理的側面は、心に平和を与える。心の平和は霊的生活の基礎ではないか。

最後に蛇足かも知れないが、誤解のないように一言附け加えておく。カトリツクは形式を尊重するしかしそれは心を軽視することではないんだよ、プロテスタントはカトリツク教会の典礼や儀式を魂の抜けた形骸のようにいう。だが素直な心でカトリツクの信心生活を見給え。内的生活の深みに沈潜する人程、典礼や儀式や秘蹟や暁宥を重んじている。プロテスタントは信心の中から形式を除き去つた為に神秘主義もなくなつてしまつたではないか」

N君は深く肯いた。彼の尊意は僕の言の不足や論理の欠陥を補つてくれる。頑迷で揚足取りのファリザイ人や、懐疑主義のピラトや、又アレオパグに於けるエピクロス派とストア派の哲人のように、信ずることを拒否する人種ならばこんなまずい理屈などてんで受けつけないだろう。しかしN君は、フイリツポに聖書の意味を問うてエチオピア女王カンダケの大臣のように幸いな人である。聖霊が彼の心の中に抱いて僕の言を完全にして下さるだろう。

英米に於けるカトリック教育

平塚益徳

一

昨年三月から十二月までフルブライト交換教授としてアメリカにまた今年一月から四月までプリテイシュ、カウンシルの正式招待客としてイギリスに滞在を許され、教育についての研究、調査と共に日本の近代教育についての特別講義の時を送っていました私は、専門の立場から直接、間接にこれら両国におけるカトリックの教育について見聞する好機を多く与えられました。

アメリカではニューヨーク市にあるフォーダム大学を屢々おとずれ、学長及び有力な諸教授とアメリカにおけるカトリック教育運動について会談する時を再三恵まれ、またフアザー、フオードの、主宰する有名なカトリック学校の参観も許されました。「アメリカ教育に於ける国家と教会」という私の専攻分野の関係から、フオーダム大学の立派な図書館からもいろいろと研究上の便宜を与えられた次第です。特に多年親しくしているカーリー博士（日本の教育養成機関の充実に大きな寄与をされた学者）の御好意で立派なカトリック学者の多くとお目にかゝる機会を与えられました。

このことは独リアメリカだけに限りませんが、最近の同国におけるカトリックの教育運動は実にめざましいものがあります。約十年ぐらい前までは、一般にカトリック系の初等中等の学校のあるものは、その施設、内容において公立学校より若干劣っていたと伝えられますが、現在ではこうしたことは過去の語り草になりつゝあります。もちろん現在でも施設面では改善を必要とする点がのこっていますが、多くの心ある父兄は進んでカトリック系の小、中学校にその子女の教育を委ねているのですファーザー、フオードの学校はコロンビア大学の有名な教育学部のすぐ脇にあつて、その程度の高い教育と、優れた人格的感化とによつて有名であり、而も人種的差別を超えた学校経営の根本方針は、黒人、東洋人の子女らが白人のそれらと全く平等に取扱われ、現に私は彼等が全く一つになつて休み時間に嬉々として遊びたわむれている姿を度々見受けました。

二

この点はイギリスについてもまた大体あてはまるようです。イギリスの私立学校は一般的に言つて経営の面では資金難で、多くの私立学校が政府又は地方教育当局から援助を多かれ少かれ受けている現状ですが、カトリック系はその範囲にあつて比較的に独立性を堅持しているかに観ぜられました。幸い私はロンドンでイギリスカトリック教育協会の最高責任者であらるるワイン公に直接お目にかゝつてイギリスにおけるカトリック教育の最近のめざましい躍進についていろいろと具体的なお話をうかがうことが出来ましたが、残念ながら、正式にはそれらの学校を視察、見学する機を得ませんでした学校の見学は出来ませんでしたが、日曜日、カトリック教会には度々出席しました。ロンドンのウエストミンスター、カセドラルを始め各地の教会をおとずれましたが、甚だ印象的であつたことは、いつでも教会堂が信者によつて満ちあふれていたことです。私は殆んど滞に席が得られず、多くの人々と共に立つたまゝ説教を聴いておりました。（このことは、アメリカでもまたフランスでも同様でした。）

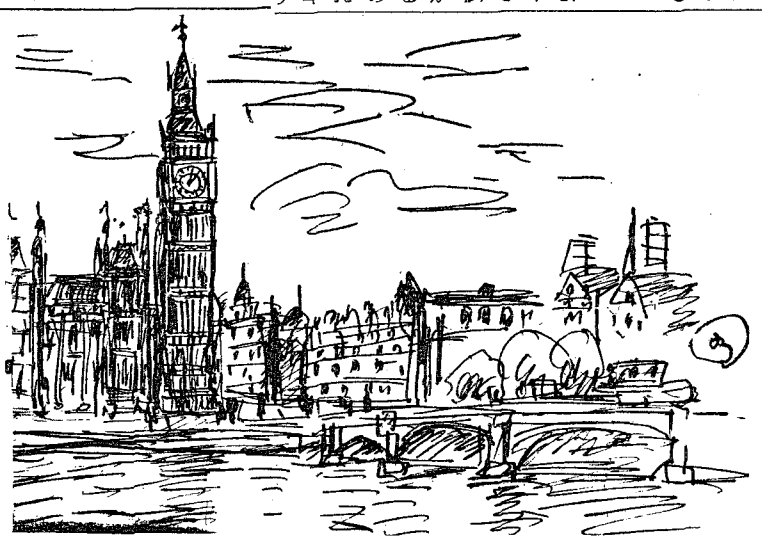
三

然らば何故カトリックの学校、そして教会はかくも力強い動きを示しているのでしょうか。私見を以つてすれば、それはカトリック教会が、人々に明確に、よき伝統の上に立つ権威を以て永遠、不滅の真理を教示しているからです。特にその教育機関においては、神に献身した方々が、正しく清い生活の範を生徒たちに常に身を以て示していることが、それら学園の中心的な雰囲気を形成しおり、父兄達は絶大の信頼感を以てその子女の大切な教育を託しうるからだと思います。換言すればそれらの学園は、人生において最も大切な精神的、霊的訓練を、確かな方法で十分に生徒達に施し得るものとの信頼をかち得ているからだと思います。

幸い私は、特に英、米両国におけるカトリック教育学者と親しくなりました。今後こうした方々の御援助を得て、本格的にカトリック教育の真髄を学びたいと念じております。

一九五六年五月

（筆者は九大教授）



「苦しみへのあいさつする」

東誠

「苦しみよ、今日は！」ある非凡人が、こんな事をいつた。

苦しみにむかつて、気軽にあいさつできるひとを、うらやましく思う。苦痛は、それ程に、私たちに近い現実なのだから。

ゆび先の皿まめのいたさを処置するだけでも、またいたい。処置のことを考えるのも、憂うつである。どうも、苦しみという奴は人生のあらゆる処に、主座の伴侶のように、つれそうているものらしい。

「苦しい時の神だのみ」だけでもあるまいが、宗教という宗教はみんな、苦痛よりの救いを約束してくれる。イエスも救済を語られた。彼の苦難と死去の価はかぎりなくて万人の罪を償つて余りある功徳である事はありがたい。

しかし、啓示の光のもとにアダムの無辜の状態を知つた頭は、何故救主の救いが、苦しみのない状態にまで、私たちをかえして下さるだけに御親切でなかつたのか、と虫のよいことを考えたがる〝苦しみは、救いの約束の喜びよりもつと手前にあつて、じかに身にこたえるものである。

肉体の弱さ、霊のちからの不均衡、天主に対面して人が感ずるよそよそしさ、人の渇望する光栄の姿に必要な要素は洗礼をもつても、自動的にそなわるものではないらしい。唯一の望みを洗礼にかけて信仰への道を努力した人があまり御利益がなさそうだといつて去つて行つた事も再三きいた。人間の勝手な了簡から来るものらしい。無辜の状態のことを啓示で言えば、歴史的には一般の法意識や民族の習慣、教会に於ては旧約聖書を初め聖伝によつても確立されております。理論的には、まず制度としての死刑は凶悪犯罪を防止します。正常な人なら誰でも冷静に死を眼前にする時、生命の尊さと死の厳粛さを知るでしょう第二に犯罪そのものに対して、国家は正当防衛の権利と義務とを持つております。死刑は共同社会の効果的保護の為必要であれば、正当防衛の手段となります。第三には、死刑は犯された罪に対する懲罰としての意味も含んでおります之に対して、十八世紀後半から十九世紀にかけてベツカリアその他の学者達によつて死刑廃止が唱えられて来ましたが、それは特に誤つて死刑を執行した場合もはや取返しがつかないからとの理由に基いております。今日ではこの理由から幾つもの国家が、制度としての死刑を廃止しております。

如何なる理由の下にも無罪の人が罰せられてはならない原理に基いて、人命を尊重する人に取つては、誤判や証拠不充分のまま死刑が宣告執行されたことを知つた場合当然死刑の制度そのものに対して疑問を懐くでしよう。然し、誤判が間もなく判明する様な事件では当然検事や判事の不充分な審理に対する責任が追求されますし、証拠不充分の場合には死刑を宣告することは不当であります。こう考えますと、このことは要するに制度に対する理論的問題ではなく、司法上の実際問題の様です。誠実な裁判官が十分な審理の後、明白な証拠に基いて誰にでも納得の行く判決をなすならば問題とはならない筈です。従つてこの問題を解決するには司法権の確立即ち最も誠実勤勉な人で誰からでも信任され得る人が判事として選任されることが先決条件でしよう。そして検事も判事も十分な審理の後、凶悪犯罪の構成事実が全く明白な場合にのみ死刑を要求し判決し得るのであつて、苟くも不充分な証拠のまま死刑を宣する様なことがあつてはならず、又死刑制度の基本的理由である正当防衛の枠以上に出てはなりません。それで、自分の行動に責任を取ることの出来ない未成年者や精神薄弱者は法の適用から除外されますし、改心の情の著しい者には情状酌量の余地もある訳です。

質問の第二点即ち犯人が後日改心する可能性があるとの理由に対しては、聖トマスが次の様に答えております。「悪人がその生存中に改心する可能性があつたとしても、死刑が正当化されることを妨げない。何故なら彼等の生存から受ける危険の方が、改心するかも知れないという理由で希望される善よりもはるかに悪質且確実だからである。尚彼等は死に直面して悔悛し天主に復帰することも出来る。それでも尚彼等が頑迷であり死と直面して尚その心が夢を離れないならば、彼等は決して改心しないと考える十分の理由がある」結論を申しましよう。

一、制度としての死刑を根底から覆す理論的根拠はありません。

二、極刑である死刑の宣告、執行の為には、之に該当する犯罪事実の人間的に最高の確証が要求されその適用は正当防衛の範囲を出でてはなりません。

三、実際問題としては、死刑制度の存廃よりも、死刑に該当する様な犯罪の防止と司法上の権威の確立こそ急務であります。

死刑は極刑ですから、ないことが最も望ましいものです。然し法の目的は社会の福祉と安寧秩序にあります。実際に経済生活が安定し、社会道徳が確立され、個人的教養も高い国家に於ては、死刑制度が存置されても、死刑に該当する犯罪者は殆んどないでしよう。反対に、社会の病気ともいうべき経済的、社会的、教育的乃至思想的病源が医されないならば、たとえ死刑制度を廃止したとしても国家社会の秩序と国民の安寧とを期待することは出来ないでしよう若し病源が医されるならば、死刑制度はあつても不用のものとなるでしよう。死刑制度を廃止した国で凶悪犯罪は増加しなかつたとよく言われますが、それは国民全体にそれだけの自覚と素養があるからであつて、日本にも一日も早く死刑制度の不用な時代が来る様祈りたいものです。（東光町、畑原神父）

質問欄

死刑の是非に就いて

【問】　死刑執行の場合、人間の裁判は誤りも可能であり、又、その囚人は後日改心するかも知れない。以上の理由があるにも拘らず死刑は執行さるべきでしようか（一高校生）

【答】　最近、誤判事件とか、証拠不充分のまゝの判決とかが新聞やラジオなどで広く報道され、是等を主題とした映画なども製作或は輸入されて、一般の世論に訴えている様ですね。専門家の間でさえ意見の一致を見ない困難な問題ですので、私に出来る範囲内で要点だけお答えしましよう。

まず死刑の制度そのものに就いて言えば、歴史的には一般の法意識や民族の習慣、教会に於ては旧約聖書を初め聖伝によつても確立されております。理論的には、まず制度としての死刑は凶悪犯罪を防止します。正常な人なら誰でも冷静に死を眼前にする時、生命の尊さと死の厳粛さを知るでしよう第二に犯罪そのものに対して、国家は正当防衛の権利と義務とを持つております。死刑は共同社会の効果的保護の為必要であれば、正当防衛の手段となります。第三には、死刑は犯された罪に対する懲罰としての意味も含んでおります之に対して、十八世紀後半から

ヘリコプター

鬼木保之

子供は動くものが好きである。とくに飛行機には限りなき興味を覚えるらしい。

ところがこの頃の飛行機、とくにジエツト機の如きは、形がスマートでも音は昔の形容でいうと、耳をロウせんばかりで、たくやかましいというだけで味というものは全くない。二十世紀後半の代表だけのことはあるそれでうちの子供は「やかましかー」という。しかし昔ながらのプロペラー機は、この点、二十世紀前半の遺物だけに、どことなくのんびりした気がする。これがさらにスローモーなヘリコプターになると！！もつともこれは二十世紀後半の産物ではあるが！！高度は低いし、どこからでも出れ、おりることが出来るというので、子供はじれて、縁に出て、花の咲いている庭を指さしながら、あそこにヘリコプターがおりておばが運転して先におり、おじがあとからおりて来たと説明する。子供には夢と現実の差がないらしい。何かその前日ヘリコプターが低く飛んで行つたことから、そんな夢を見たらしい。それにしても、こんなにはつきり夢の話をしたのは始めてである。

このことがあつて一月位たつた頃、「ヘリコプターに乗つて来たのは何時やつたかいな」と話を子供はむしかえし始めた。

夢の説明がむつかしく、子供は夢になつとくが行かぬらしい。全くわからぬものに対する説明のむつかしこと、すべてに共通であろう。路傍の人に対する布教もこんなものかな？とふつと思つた。

☆……

熊本信愛女学院
高校二年　竹野恵子

神に對する人の道

神様つて、一体この世の中に本当に、いらつしやるのかしら？、小学校以来、お友達と論じ合い、或いは結果も出ず唯々、疑問のまゝに今日まですごしてきた。ところが何のめぐり合せだろうか。つい一年前この学園で「宗教」という二字について学ぶことが出きたのである。そこで『宗教とは「神へ対する人の道」であり、常に神様を信頼し、讃美し感謝して心から祈り、私達としても良心に反しない生活を送らねばならない。そして万物の創造主たる神様と、自分の意志が一致してこそ人間の終極目的――永遠の幸福を得ることができるのだ』というような筋道を学んだ。勿論、はじめのうちは、神の存在の問題について興味はもつていても、宗教というものが如何に重要であり尊いかということを知らなかつたので、宗教は少しかた苦しいナと思わないでもなかつた。しかし、学んでいるにつれて何かしら私の心が、一点に集中し「宗教」という言葉が、私の心の底に、しつかりと植えつけられた。それは、風にも雨にも負けない一本の可愛らしい心の若葉であり、時間の経過と共に、若葉は美しい環境によつて、益々成長した。即ち、宗教の偉大さと、本当に心から神へ従順でなければいけないという感じが濃くなり、私の生活も、だんだん活気が現われて来た。どうしても良心に従つた生活をしないと気がすまないようになつて、うそをついたり、ごまかしたりすることが出来なくなつた。

うそをついたり、ごまかしたりすることは、神様の御心に反することであり、神様の御心に反することは、罪であるということを知つた。

罪は、神様の御心に反することであるから、罪を犯すことは、神様から遠ざかることであり、神様から遠ざかることは、永遠の幸福から遠ざかることであるから、罪を犯すことは、永遠の幸福から遠ざかることであるということを知つた。

罪は、第一にキリストの贖罪の無限な力をもたらす。自分自身の罪と兄弟たちの過失をあがなつて浄化の作用を働くのである。

〝キリストの苦難に缺けた処をその御体である教会のためにおぎなう〟（コロサイ一の24）と聖ポーロは喝破する。

第二に、苦しみが、世界を聖化する力をもつていて、私共の魂を神化してゆくように秩序づけて下さつたのは救主御自身なのである天主の御言葉が、苦難の御人性を受けられた時に、私たちのミゼールを光栄の道具にまでたかめて下さうた事を知れば、おのずと苦しみにあいさうする位の位置を与えても不思議はない筈である。

カトリツクの典礼はそれをやつている。〝O crux, AVE――直訳すればおゝ、十字架よ、今日は〟である。

ともあれ、苦しみが嫌なものであるからとて、あらゆる苦しみを逃避しようと焦る根情と共に、苦しみが何か楽しいものであるかのように空想する二ヒルな心の迷いから解放されていたいものである。その時には、私たち凡人にも、苦しみにむかつて、「今日は」という事を皆さんが許してくれるかも知れない（一九五六、四、二五）



認可　教司　堀深
発行所　福岡市浄水通　福岡教司館
発行兼編集人　堀深　敏
定価　一部　十円

服装にもつゝしみの美風を

―ミサ拝聴・聖体拝領にあたつて―

大名町教会　伊東誠二

キリスト信者の生活の中心は聖三位のうちにありますが、地上においては、肉身の諸条件の中でこの生活はいとなまれるのであります。

したがつて、からだも靈魂とともに、日々の御摂理の中で、その機能をあげて、み栄えに重要な役目を持つて居ります。

人の生活では又、からだは同時に魂の豊かな表現でもあります。この表現は、やがて、芸術に通ずるものを含んでいる訳でせう。聖ポーロは、コリント前書（六の20）に敢えて次の様に教えています〝あなた方の身体をもつて、天主に光栄あらしめよ〟と、一方において、からだと靈魂とは本性的につながつているために、からだが精神に、精神がからだに影響し合つて、双方の間に影響の堂々めぐりが行われている事を見逃すわけにはまいりません。

要するに、身体にまとはせる服飾にしても、出発点が精神であつて、肉身の姿がこの精神を如何に豊かに表現するかに、文化的な意味があるので、出発点が転倒していれば、思はぬ影響を精神に及ぼしている事も覚悟しなければなりません。

服装はからだに属すること、精神の靈魂とは無関係であるとして例えば教会が服装に関する考え方を信者の敬虔の立場から指導するような時に、これを形式的だ、官僚主義だと断罪する様な思潮に迷はされないようにすべきであります。

だらだらと汗を流しながら御ミサにあづかるのが理想的であるとはいえません、しかし涼しい事ばかりを考えて、上半身裸体に近い姿で教会に坐れば尚敬虔にお祈りが出来る訳でもないのです。御ミサの時間は、キリスト信者にとつては、重要な一つの精神的な時間であります。カルワリオのイエズスさまの犠牲に身をもつて参加するために聖堂にまいります。聖体拝領は、少くとも前夜から待たれた高貴な賓客をお迎えする時間であります。私たちは、これにふさわしい心の衣を着し、服装からでも精神の高揚をたすけられる位に用意するのが当然ではないでせうか。

カトリック信者が皆、流行外れの服装でなければならないとする事はつけいなことです。しかしたとい流行を身につけたとしましても、精神の主な営みが反映しない様な服装は、御ミサの集会から驅逐したいものであります。教会法もこの点について、服飾を排し、つゝしみの美徳をあらわすことを規定しております。

以下真夏の服装について、近年に見かける様式の中から適当と思われる二三の点をあげて参考に供して解決されるのはないでせうか、或る教会の女子青年会で、つゝしみある口紅のぬり方を、その道の専門の信者さんに実演してもらつて研究し合つているのを見たことがあります。

婦人会や、処女会の文化活動の一端として、服装についてもこんな研究会などを考えたら如何でせうか、御参考までに…

（一九五六、七月）

第一日曜　大分教会

永久聖体礼拝　七月

第二日曜　直方教会
第三日曜　水俣教会
フランシスコ会（高宮）
第四日曜　大真教会
ヨゼフ会（福岡）
第五日曜　天使の聖母会（門司）

〝永遠、無辺、全能に在し給う天主は、天に於ても地に於ても偉大にして測り知るべからざる事をなし給う。その驚くべき御業は到底探り知るべくもない。

もし天主の御業が容易に人間の理智に捉えられるようなものであるならば、感心すべきものでもなければ、絶妙だともいわれ得ないであろう。（イミタチオ、第四巻）

教皇公使よりお礼状

去る三月我らの教皇ピオ十二世聖下の御誕生第八十回記念に当り福岡、宮崎両教区では、全世界の信者と呼応して、ローマに労働者会館建設のための資金を募集、金十二万九百円也を日本駐在教皇公使を通じて聖下に謹呈したが、この程信者一同の熱誠に対して公使より叮重なるお礼状が届いた。

× × × × ×

道徳とは

世の光

ここ二、三年前から街の本屋に「新道徳講座」とか銘打つた色々な倫理学のむつかしい叢書や、高等学生の道徳教育などという教師のための手引書が氾らんしている。その内容は実に雑多で凡ゆる問題を網羅して至らざるはなく、引用された内外の倫理学者の名前や説に至つては枚挙にいとまがない。

本が沢山あるのはよく売れるからであり、よく売れるのは多くの人がそれを必要とし、それに興味をもつている証拠だといえる、が一寸皮肉ないい方を許して頂くなら、道徳問題について今迄なおざりにしていて急に近頃目覚めて来たからだともいえる。或は今迄通用していた道徳でなくて時代に即応した新道徳を探し求めているからかも知れない。

いづれにせよ道徳問題について真剣に話し合う人や機会が多くなつたこと自体は、喜ばしい変化である。然しこういう傾向に全く相反したことをいい出す人もある。道徳の興廃を時代の流れに逆う旧思想への復帰だときめつけて、しやにむに之に反抗しようとする、今ばやりの何とか族とかいうのは既成の道徳を根こそぎぶつこわして一種の「道徳革命」をもくろんでいる様にも見える。

この反逆児の無道徳的道徳に対する批判は全く意味のないことなのでふれないことにするがもう一方の側にある人々の著書を通覧してみて感じること、批判したいことが多々ある。

その中で最も気になること、それは真面目に国民の道徳精神の向上を目指している人々が、道徳の本質を何と解しておられるのであろうかということである。道徳問題について古今東西を通じて百貨店式に何でもとり揃えてあるのに、読後、なにか望む所が得られなかつた寂しさを感じるのは何故だろう。

少しうかがつた考えをするとこの中心点は彼等にとつていわばタブーの如きものではないのだろうか。〝道徳とは何か〟という根本問題を解明しようとする時に、彼等が触れてはならない問題が必然的に頭をもたげて来るのを怖れるからではないだろうか。

道徳とは世界の平和や社会の秩序、家族制度の美風や個人間の信義を推持するために生れた拳なる約束ではない。人間の法には実際生活の経験から生じたものがあつてそれは一種の約束であるといえるし、社会の変化と共に変つてゆくものである。之も道徳といわれるが我々が真に問題とすべき道徳とは、以上のようなものを指すのではなくて、その背後にあるもの、いい換えれば人間の本性に基いた法時代や場所によつては変ることのない人間性にまつわる法なのである。

道徳とは実に「人間をその最高の目的に導く方法又は手段」なのである。

人間社会の秩序の方便的な産物でなくて、社会を作り上げている個人の人格につきまとう法である。こういう根本的な、不変の道徳が確立されていてこそ社会の正しい在り方を示し、その進歩と歩調を合せることができるのである。

道徳の本質を本当に理解するためには、我々の人間性を先づしつかり把握してからねばならない。こゝで問題になるのは人間の価値は何に存するかということ、人間の理想は何であるということの二点である。人間の目的、それへの手段が云々される前に、我々はその出発点たる人間の価値について知らねばならない。

所が人間の価値とか理想などという言葉の意味、その内容は詩人達の幻想や夢の結晶物でないことは確かである。科学による人間の分析によつて結論され遂に綜合されたものでもない。

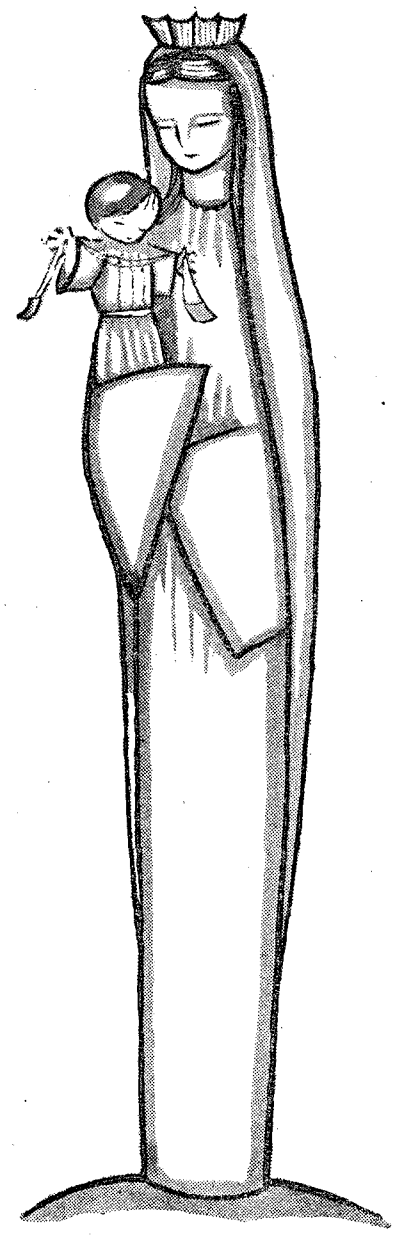
人間の価値を教え、その理想を不動の確信と明白な知識を以て指示するものは正しい真の宗教以外にはあり得ない。故に正しい宗教のない所には正しい道徳もなく、確固たる宗教的実践の行われない所には、堅固な道徳もない。又深い宗教的信念のない所にはゆるぎない道徳精神も湧いて来ないわけである。哲学と違つて宗教のみが人間の目的への手段を教え且つ、それに従つて生きる内的な力を与えるこの一種の強制力は哲学の中には見出せない。

このわけで人間の価値を充分に納得させる正しい宗教のない国には、普遍的な道徳が生れる可能性はない。同様に宗教の教を殊更に排撃して、人間の価値を人種や血液の純潔性にのみ求める政策をとつた国では、人民の道徳心が低下し、或は全く姿を消して了つたのである。

宗教なくしては道徳はあり得ない、正しい宗教によらなければ、人間の目的を知ることも出来ない。生きた宗教でなければ目的を達成させる力も与え得ない。

宗教なき道徳は屍である。

（深堀　敏）



祈禱の使徒會

七月の意向

「一般的の意向」体育とスポーツがキリスト教的道徳に従わんことを

今日、体育ならびにスポーツはめざましい発展をとげてきた。昨今発行されるスポーツ新聞、雑誌、また放送の数をみても、スポーツが青少年のみならず、多くの人々からどれだけ愛されているかがわかる。しかしそれらのスポーツは、本来の目的をもつてなされているであろうか。生命を危険にさらし、学問や仕事をおろそかにし、家庭を破壊し、あるいは名誉心を満足させるような競技は決してスポーツの名を受けるに値しない。スポーツの目的は第一に体を鍛え、第二にその健康な体に健全な精神を宿し、第三にその理想的な肉体と精神の調和をもつて人間の全活動が神に向けられることである。第三の目的こそスポーツの最高の目的であるから、スポーツはすべてこの目的に向けられておらねばならない。スポーツが真に意義あるものに高められ、またそのためにこそ、スポーツは行われるよう熱心に祈ろう。

「布教の意向」唯物論の侵入しつつあるアフリカのために

アフリカ人の七、五%のカトリック信者は今、回教と共産主義の渦の中で戦つており、天然資源に注目するヨーロツパアメリカから機械文明は急速に導入され、その圧迫による原住民たちのヨーロツパに対する反感は、国家主義者たちの煽動によつて益々つよく、これが反キリスト教的思想になつて彼らを一そう神から遠ざける原因となつている。われわれは彼らが直面する危険から救われ、天上の生命へと導かれるよう、熱心に祈ろう。

「布教委員会の意向」仏教徒のため

最近列聖されて有名になつた貞潔の殉教者、汚濁に沈んだ現代にふさわしくもない香りをはなつ一輪の白百合、カトリック処女の保護者

七月

一　日（日）　我が主のいとも聖き御血の祝日
聖靈降臨後第六の主日
我々のために流され給える主キリストの御血に感謝を捧げると共に、贖われた我々の靈魂の価値を改めて自覚する〝聖靈を以ておのが汚れなき身を神に献げ給いしキリストの御血は、活き給える神に事へ奉らしめん為に、死せる業より我らの良心を潔むべきをや〟（ヘブライ書）

二　日（月）　聖マリアの聖エリザベート御訪問祝日
愛とは自分を与えること、然し、キリスト教的愛の特徴は自分と共にキリスト自身を隣人に与えること。救主イエズスの御母となり給うたマリアは、エリザベートを訪問して不自由な老人に奉仕し、キリストと共に生きるよろこびを分ち給うた。

三　日（火）　教区司祭年の黙想会（於福岡大神学校）
コロンバン会司祭年の黙想会の日

六　日（金）　初金曜日
聖女マリア・ゴレッチ

八　日（日）　聖靈降臨後第七の主日、
善業は聖徳の実であり、天国の福楽を購う金である。〝我に主よ主よという人皆天国に入るにはあらず、天に在す我が父の御旨を行う人こそ天国に入るべきなれ〟

十四日（土）　聖ボナヴエンツラ司教博士証聖者
セラフイン博士と呼ばれ、中世で最も有名な神学者の一人。フランシスコ会員

十五日（日）　聖靈降臨後第八の主日
聞的人物と靈的人物との対立。
前者は、はかない低の浅い子供らしい物に満足を求める小人物後者は神を自分のものにしようとの大それた野心をもつ者、現世の快楽では満されない程心の広い大人物。

十六日（月）　カルメル山の聖貞聖マリアの祝日。
カルメル会の第六代総長シモン・ストツクに聖マリアが御出現になり、御保護の記しとしてスカプラリオをお与えになつた。スカプラリオは多くの修道会の服装にとり入れられているが、在俗の信者も、その簡略化された聖のものを身をつけることができる、ローマ聖省は之をつけている信者に特別の贖宥を与えている。

十八日（水）　学生会黙想（於馬渡教会）

十九日（木）　聖ヴインセンシオ・ア・パウロ証聖者
ヴインセンシオとは勝利者を意味するが彼は愛徳をもつて世界を征服したといえる。カトリック慈善事業の父と呼ばれる。

廿三日（日）　聖靈降臨後第九の主日、
神の聖籠に信頼し、自分の行動に注意を怠らない人は倒れる心配はない。然し神の聖籠をないがしろにし、神を試みる人は必ずエレザレムの街のように滅ぼされるであろう。

廿五日（水）　馬渡教会で堅振
使徒聖ヤコボの祝日
聖ヨハネの兄弟、「雷の子」「大聖ヤコボ」とも呼ばれる。

廿六日（木）　聖マリアの御母聖アンナの祝日

廿九日（日）　聖靈降臨後第十の主日
〝自らたかぶる人は下げられ、自らへりくだる人は上げられべし。

卅一日（火）　ロヨラの聖イグナチオ証聖者イエズス会の創立者

第九回福岡カトリック學校協議會

大牟田明光学園で開かる

定例の春季福岡カトリック学校協議会第九回会議は五月廿九日（火）午前九時より今回の当番校大牟田明光学園で深堀司教様御臨席のもとに開催された。

出席者廿六名（別府明星学園は初参加）まず司教様御訓示と、前年度の報告ののち左の四点が協議された。

❶生徒の要望をよく知るために取られている方法。
❷教科別研究会を開催する件。
❸双葉学園の研究発表に対する質疑応答。
研究題目「本校における道徳教育の試案について」
❹学校自体としての布教活動を強力に推進する件
因みに本協議会は秋に臨時会議を開いている。

（写真は学校協議会の記念撮影）



初の教科別研究會

歴史問題を検討

さきのカトリック学校協議会で決議されていた教科別研究会開催の件は、内容の重要性にかんがみ歴史科研究を皮切りとして六月十八日（月）午前九時より福岡司教館の大広間で実行に移された。総計廿五名の歴史科教諭＝泰星（三）雙葉（六）明治（三）明光（五）信愛（一）白百合（四）別府明星（二）延岡緑ケ丘（一）＝に深堀司教様と平田勇、畑原、深堀の三師が列席、今回の議案のまとめに当った信愛女学院で準備された十三議題のうち、宗教改革とルネッサンスの問題が小野氏の司式で徹底的に検討されたが、各学校がそれぞれの難点と経験を具体的に披瀝し合ったり、質疑応答なども活発に行われて予想以上の効果をあげることができた。

尚正午には司教様を囲んで全員会食し、午後四時半散会した。今秋第二回会合を開く予定である。

教区社会福祉事業　責任者の集会

五月廿一日午前十時より福岡吉塚カトリック保育園に本教区内の社会福祉事業責任者廿二名が集って久留米教会主任綱町師の司会で初の協議会を開いた。

会議は司教様の訓話ではじまり平田清正氏が五月十五日より三日間長野市に於ける全国福祉事業大会の報告を行い、その後施設を通しての布教その他の具体的な問題について話し合い、午後四時散会した。

アメリカ兵隊さんのお蔭で整形手術

馬渡島教会附属の聖母園＝養護施設＝の少女山本ヒデ子さんと葛羅原セイ子さんの二人は、この程福岡日赤病院で、上半身の火傷の整形手術をうけて経過良好をたどっているが、この手術を勧めてそれの費用一切を支払ってくれたのは度々お土産を持って同聖母園を訪れる博多キャンプのアメリカの兵隊さんである。

教区布教会　第二回総会

さきに結成された福岡教区布教会の第二回総会は、六月二十四日（日）午後一時より福岡地区と筑後地区の代表者約四十名が司教館に集合して開かれた。

カトリック学士会の　北九州五市　支部発会

福岡カトリック学士会は深堀司教様の発案で数年前に結成され、毎月一回の懇親会や年数回の黙想会を開いて、相互の親睦、信仰心の昂揚、智的向上などを図っているが、このたびその北九州五市を含む支部が、戸畑明治学園玉事福島順三氏の肝入りで発足することとなった。第一回集会は七月一日午後四時、福岡から司教様ほか数名の旧会員を迎えて戸畑教会で開かれる予定。

六月中の堅振式

三日（日）戸畑教会
前晩受堅者および代父母のため司教様の霊的講話
午前八時半よりの司教荘厳ミサ（聖体に奉献されている戸畑教会のお祝いに当っているため）のあと九十三名が受堅（うち女子約四十名）。午後地区責任者および母の会が別々に司教様をかこんで座談会、午後七時より司教司式荘厳聖体降福式
十日（日）大牟田教会
朝ミサのあと廿五名の堅振式。
午後幼稚園々児父兄および信者のため司教様より聖地巡礼のお話し。二時間
十七日（日）吉塚教会
朝八時半のミサに引き続き男子廿二名女子廿一名の受堅式。式後茶話会。尚堅振準備のため十五、十六の両日の夕方伊東師の指導で黙想会を行った。
廿日（水）八代教会
朝九時半のミサの後廿六名が受堅。尚この式のため国立療養所豊福園の患者七名は特別許可を受けて教会の式に参列した。主任クリーン師は月一回当園に巡回ミサを行っている。
午後白百合学園高等部の二、三年生に司教様の講演
廿四日（日）若松教会と声屋米軍キャンプ
若松教会では、朝のミサの後二十六名の受堅、同日午後五時より声屋キャンプで二十名受堅。

（写真は戸畑教会堅振記念撮影）



天地の元后を讃える　聖母行列

佐賀教会と戸畑明治学園で

佐賀教会では六月三日午後六時半より天地の元后を讃える聖母行列を挙行し、約四〇〇名の信者、幼稚園々児とその父兄たちが参集各自ローソクを手にしロザリオを誦い、聖歌を高唱しながら教会より街路を一巡して、ドの洞窟前にもどり、助任サルヴィ師の説教を以て八時式を閉じた。

戸畑明治学園でも五月廿六日の午後全校生徒約千名で聖母行列を行った。

さっき晴れの空の下樹の木立のあいだに仰ぎ給う聖母像のみ足辺は、バラの花でうずめられ、ひときわかがやくよう。十字架、校旗を先頭に、校庭を横切り、みどり深い森の小径をぬいながらとなえるロザリオの祈りは森をこだまして天たかくのぼっていった。

やがて聖母像の前に輪になった全校生は聖母月中まごころこめてはげんだ祈りと犠牲の霊的花束と香りもゆかしい野の花々をマリア様に捧げた。そのあと生徒代表が愛のシンボルとして作られた生きたバラの花冠を聖母に捧げた。

ついで全校生一緒に聖母に身を捧げる祈りをとなえて、聖母を学園の女王と称え、感激にみちて天にとどけとばかりアヴェマリアの讃歌をうたった。式は助任ラバルタ師の祝福を以て終ったが、この日包うバラの花冠をいただきほほえみ給う聖母が生徒たちの心の奥深く注ぎ給うた清いよろこびは、ますます深まることであろう。

（写真は明治学園の聖母行列）



小出師（イエズス会員）　熊本信愛女学院で講演

熊本信愛女学院では六月二日イエズス会司祭エリザベト音楽短大教授小出哲夫師を招いて講演会を開催した。

午前十時より一時間「思春期の課題」と題して全校生徒に、午後二時より保育および授業参観のため来校した幼・小・中・高の父兄五〇〇名に一時間半にわたり「前思春期より思春期の子女の性格指導について」興味深い話が述べられた。尚会の後で紹介された同師の著書は忽ち売れつくされ、又早速子供のことで同師に相談をもちかける母親の姿もみられた。

因みに同学院ではこの種の講演会を年二回開いている

〝このミルクで丈夫に〟　別府米軍　白菊寮へ乳牛を贈る

「この牛の乳を飲んで丈夫な子供になって下さい」と帰国を前にした米軍から見事な乳牛一頭が六月三日別府市白菊寮＝福音の光女子修道院経営＝にプレゼントされ思いがけぬ贈物に子供は大よろこび。この日昼過ぎオート三輪にゆられて「生後一年七ケ月のホルスタイン乳牛一頭が玄関前についた子供たちは歓声をあげて出迎えた

昨年の春、五〇八空挺隊所属のローアン神父が同寮を訪れ、子供たちと遊んださい「子供たちの生育にはミルクがもっともよいのだが……しかし買うのは大変、私が世話するから乳牛を買いなさい」と約束した。

キャンプに帰ったローアン神父はこのことをエカンバニィの兵士たちに相談したところ自分の小遣を貯めてプレゼントしようと決った。そして五月の初めまでに七万円以上のお金が集った。

そこで子供たちにも乱暴しないおとなしい牛を…と鶴崎市高田の某氏から七万五千円で買う契約ができた。だが牛小屋の改造がおくれて約二十日余も延び延びになっていたが、このほど立派な小屋が完成、三日はるばる鶴崎市から運ばれたものだった。

十月には子牛も生まれ乳も一日に一斗以上は出るというが、約四十名の子供たちは早くも名前をつけようと考えており、毎日学校の行き帰りに交代で草を刈ったり水をやるなど世話をすることになっている。もう以前からすっかり仲好しになっているヤギに加えてまた一つ自慢のふえた子供たちは「神父さんが帰国する前にこの牛を画いて贈るんだ。早く子牛が生れて乳が出ないかナ」と楽しそうに語り合っている。

福岡カトリック学生会　年の黙想会のお知らせ

福岡カトリック学生会では三十一年度の大黙想会を左記の通りに開くことになりました。学問研究と修徳に日々御精励なさる学生諸君が年一回のこの絶好のチャンスをお逃しにならないよう、御通知申し上げます。

記

一、指導　深堀司教様
一、場所　佐賀県馬渡島教会
一、期日　自七月十八日夕刻
　　至七月二十二日朝
一、資格　カトリック信者の男女大学生および教職員
一、費用　米二升持参
　　副食費一日百円
　　旅費福岡＝馬渡間約五百円

参加希望者は十円切手同封、左記宛七月十三日迄に御連絡下さい。

福岡市地行東町
カトリック教会内
カトリック学生会

八代での竹田、南両家の殉教

八代プレシジウム訳

一六〇三年の出来事。加藤清正は当時肥後の国の領主であったがその肥後に八代という町があったので、清正はこの宗教をなくなさねばならぬと願い、主な信者を僧の所へ連れて行き、法華宗の本を頭の上にのせる式（これはこうすることによって法華宗を信ずる標となるのであるが）により宗教を捨てて仏教信者にさせよ。もし従わなければ殺す様にと命じた。信者の中で特に熱心なヨハネ南と、シモン竹田の二人の貴族があった。シモンは特に熱心で人々から尊徳の模範とみなされていた。

八代の奉行の一人、角左衛門はシモンの親しい友人であったのでその友に何とかして清正の望みに従う態度を表わす様頼んだ。たとえ命令通りでなくともいいからと次の三つの方法をすすめた。

第一、自分自身この式を受けなくとも、代理人をその式に与からせること。第二、旦立たないように町の一人の奉行の家にゆき、僧に会って式を受けること。第三、国の習慣に従って、みやげものをもって、宗教の話はしなくともいいから僧の所へゆくことであった最後の考えは、数人の信者が天主の掟に背かないから、差支えないだろうとすすめた。がシモン竹田はこれに反対しこの様な態度は宗教をなくしようと目論んでいる清正に協力することであるから承諾しかねると断った。ヨハネ南も又堅い信仰の持主で、同じ態度をとり、奉行の使に向って「たとえあなたがたが私の手と足の爪を取ってしまっても、又私の体を切りきざんでも、私の考えは変らぬことを承知してくれ」と頼んだ。

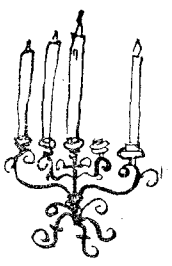
角左衛門はこの熱心な二人の心を変えることのできぬことを見て清正に告げるべく熊本に向った。

その留守中一人の奉行は家来をつかわしヨハネ南を僧の所にひっぱらせた。妻マグダレナは彼を見送りながら叫んだ。「どうか決して承知さらないように、本が頭の上におかれることを承諾しないで下さい、もしもそれを承知なさる事がありましたら、私は貴方を夫と認めることはできません。お別れいたします」とはげましの言葉をかけたが、ヨハネ南にはこの勇気づけは必要ではなかった。

奉行の安田善助は僧に尊敬を表わすようにすすめた。しかし南は頭上に迷信の本がのせられるよりも、御不浄のもので頭をよごした方がよい」と答えた。

南は僧の座にあげられた。彼は手足をしばられていたので、本の上に二度唾をはきかけた。無理にさせられたことについて何か言い出した時、口をしめられた。角左衛門はヨハネ南が自発的に僧の所に行ったと思い祝の言葉を述べた。これに対して、「私は無理についられて行った。私は僧にも本にも敬意を表しなかった。私は信者として死にたい。これを清正に報告して下さい、貴方は、いくら誘われても信仰を持ちつづけた私について証明する天使である」と。角左衛門が早速報告書を書いた時ヨハネ南も鎌をそえた。本当のことを彼に伝える為、自分自身からも宗教を捨てないことを公言したのである。清正はこの二人の熱心さを聞いて立腹した。そこで二人の首を切り、家族を十字架にかける様命令した。二人の家族は八代で殺された。けれども南、竹田は苦しませる為に熊本につれて行かれる様になっていた。熊本につくと角左衛門は南に云った「今迄清正公の本当の命令ははっきり伝えなかったが、今申します、貴方があまり頑固であるので、貴方と貴方の妻と子供の命を失います」しかし彼は妻や子供の勇気を信じていたので少しも驚かなかった。

それから大きな部屋につれられてゆき、刀をとり上げられた。幕のうしろから刀をさげた二人の武士が入って来た、ヨハネはひざまづき頭をさげてイエズス・マリアの御名を呼びながら、四度の刃ではねられた。一六〇三年十二月八日無原罪の祝日であった。



「公教要理」（四）

洗禮の項（おわり）

伊東誠二

（洗礼式の典礼は、この教理の意味を豊かにふくんでいるが、近く典礼文が邦文にされるときくので、その時にゆずらして戴く。）

聖三位の居住

信仰の光のもとで洗礼の実相をながめると、つくづく天主の恩恵のひろさに心をうたれる。

洗礼の時をかぎりではじめられた御恵みはただ一時的な感激だけではない。受洗の時こそ、はじめての聖三位との接触がなされるのであるが、三位は私たちの生涯を通じて片時も私たちから離れない。聖父は新たに御自分の子とせられたものの側に常にとゞまり給う——その御摂理の能力をたづさえて……。

聖子も、彼の、兄弟とならしめたものから離れない。そして天主の家の躾けを教えられかれを憲より護り給う。聖霊も、彼のうちにとどまって地上の悲惨の中にあっても、ひとが永遠の愛の一致へ導き入れられるために、聖父と聖子と共なる愛のうちに絶えずかれをとりあげ給う

聖三位の協力

聖三位は、その力強い翼で私たちの上を覆い、私たちのうちに止り給うのである。

イエズスはおっしゃった。〝もし誰かゞわたしを愛するのなら、その人はわたしのことばを守るだろう。そうしたら、私たちは彼のうちに住居をさだめるだろう〟（ヨハネ十四の23）天主が私たちの中に住いたもうと言っても、そこで無為に過ごされるためではない〝父は絶えず働き給う〟（ヨハネ五の17）そしてこの御働きこそ霊魂の超自然の品格を保持しているのである。

なるほど、完全を志す魂は、時として血のにじむに思われる努力をしなければならない。そしてこの協力は、キリスト者にとつて必要なのである。しかし、私たちの聖性は、絶えざる聖霊の動力、聖三位のうちに溢れる天主の御働きによる事を忘れてはならない。天主の内にある御生命の動きが外部に不可見的に派遣せられて（聖霊によつて）霊魂を三位の御生命にとり入れられる。御父は生む事によつて御子に生命を通はせ給う。そして、この二つの位格は唯一の原理からの如く愛の霊を発出して三位を一体のうちに結ばれる。

私たちの聖性とは、霊魂を御自分の生命のうちに同化される天主の御働きのまゝに委ねる事にある天主は御自分三位の生命の中に魂を引き入れられるのである。

私たちの生涯の如何なる瞬間でも御父は御子を霊魂のうちに生みつゞけ給う。そして、同じく、御父と御子とは聖霊の御巡遣によつて、御自分の生命に肖らうとする霊魂を至福の生命の中にとりあげ給う事が現実に行われてゆくのである。

勿論、私たちを天主の子と成す能力を聖父に、私たちを照らす光の恵を聖子に、私たちを聖化する御業を聖霊の御業とみなして考える事はゆるされる。しかし、私たちの成聖は御子の御托身と同じく聖なる三位に共通する御働きの結果である。天主の三位を誰も分離することはゆるされない。

受洗者の霊魂の中では、聖三位が住いたもうことによつて、たえなる変容が絶えず行われているといえよう。そして、この御恵みによつて、彼の魂の中に生ずる活力は超自然の機能が具えられ、それによつて天主とともに住う事がゆるされる。即ち、対神徳と超自然的倫理徳は、聖霊の賜物に助けられて、人をして三位のいづれの位格とも親密な交渉のうちにあらしめられる。

信徳は、魂のために超自然界への視野をひろげる。望徳は、新しい世界の中に信頼をかためる。愛徳は、天主を観念の冷い壁の彼方に肯定させるにとどまらず、三位を身近かに感ずるまでの新しいセンスをもつて、昼夜、受洗者の魂の中に働く。この天主との特殊な親密さは、地上のあらゆる出来事を通じて、お恵みに従順な魂の中でその度合をましてゆき、いかなるものも之を引きとめる事が出来ない。

超自然的倫理徳は霊魂を、原罪以来のすべから護つて、聖寵に従順な器を形成する。キリスト者が地上の生活の現実面と自分の魂との接触において、キリストと共に世に勝つうえに、その最小限度は是非必要である。

聖霊の賜物は、上述の魂のすべての動きを、天主の様式にまで高めるための超自然のたすけである



聖イグナシオ

熱火の騎士

ロヨラの聖イグナシオ

（七月三十一日）

ロヨラの聖イグナシオの生涯はその侭近世の教会史を象るものと言つても過言ではない。それ程に彼は近世に生れ、近世と共に生き、そして近世の教会と共に大成した聖人である。

イグナシオは一四九一年スペインの東北ロヨラ城に、領主の末子として呱々の声を挙げた。信仰厚い家庭と環境の中で人となつた彼であるが、封建制度の華やかな頃とて大いに武芸に志し勝れた騎士となることを夢見ていた。後に「天主のより大なる光栄」の旗印の下に、異端と戦う勇猛な騎士となろうとは誰が予測したであろう

彼が三十才の時である。スペインはフランスと戦端を開き、イグナシオも一軍の将としてパンプロナの要塞を守つた。彼は勇を鼓舞し軍を激励したが、衆寡敵せず、味方は敗れ、彼も亦片足に重傷を負つて捕はれの身となつた。聞もなく和睦成つてロヨラ城に送還された彼は、二度の手術を受けて療養中、つれづれの侭に書物を求めたが、彼に提供されたのは一冊の聖人伝とキリスト伝とであつた。

勇猛な騎士には一途に武勇と精進の夢がある。そして他のものには興味を感じない。彼も又最初は興味もなく与えられた書を読んでいた。然し、彼の霊魂には未だ全く開拓されない一つの沃野があつた。よき上に時かれた種子は百倍の実りを上げる。思籠は聖なる読書を通じて、イグナシオの素直な心の沃野にも種蒔かれ始めていた彼はふと自分の中の未知の世界に気付いた。そして之を見直し、むさぼる様に読書し且反省した。未知の世界を知ること、それは喜びであると共に又戦いでもある。騎士としての自分の夢を貫くべきかそれとも一切を棄て、キリストに従うべきか？彼は祈り、黙想し、戦い、再び祈つた。そして恩寵が遂に勝利を収めた。彼はキリストに従うことを決意したのである。

霊の世界に目ざめたイグナシオは全快をも待兼ねてモンセラトのベネヂクト会修道院聖堂に参詣し聖母の御絵の前で一夜を祈り明かすと、マンレサ市に近い或る洞屈に退いて、祈、黙想と苦業の生活に入つた。此の頃著した「霊操」は、彼が既に達していた霊的生活の高さを示すと共に、優れた霊的案内書として、今日に於て益々その光輝を放つている。十ケ月の霊的修業の後に、彼がどの様にしてキリストの御跡に従うべきかも大約明らかになつた。彼は一の修道会を起したかつた。それは、一切を天主のより大いなる光栄の為に奉献しつゝ、教皇に特別の従順を誓い、キリストの王国なる教会の為に如何なる困難をも排して戦う騎士団である。

彼はこの決心を実行に移すに先立つて聖地巡礼を試みたが、それが不可能であると知つて故国に帰り、三十三才にして中学の課程から司祭となる為の勉強を開始した然も此の間にも志を打明けて同志を糾合したが、この様な態度がプロテスタントに対して殊更神経を尖らしていた一部当事者を刺戟して誤解を招き、鎖に繋がれたことさえあつた。彼はよくこの忍苦に耐え、ソルボンヌ大学に学ぶ頃ペトロ・ファーベルとフランシスコ・ザビエルの二人を、又後に他の四人の同志を糾合することが出来た。彼等は一心同体となつてその志を完徹する為、先づイグナシオの指導の下に黙想を行い、一五三四年八月十五日、パリ・モンマルトルの聖堂で誓願を立てた。

大学を卒業したイグナシオは、同志と共に再度聖地巡礼を志したが、今度は病気の為延期のやむなきに至つた。スペインに帰つて静養し、軈て健康を回復した彼は、イタリアのヴエニスに赴いて同志を招集し三度聖地巡礼を計つたがトルコ人の迫害の為之を断念し、方向を転じて修道会の認可を教皇に乞う為ローマに向つた。時の教皇パウロ三世は快く彼等を迎え、早速口頭で新修道会の設立を認可なされたが、正式の認可まで尚一年の日時が要せられた。当時の宗教運動を警戒し、新修道会の設立を好まない一部の高位聖職者もあつたからである。然しそれから一年を経た一五四〇年九月二十七日目出度くその認可を下され、かくてイエズス会は、真理の為万難を排して戦う騎士団として発足することゝなつたのである。彼等は、かのマルチン、ルーテルが極端な個人主義を唱え、権威に反抗して多くの信者を教会から離反せしめたことに対して敢然と戦いを挑み教会の損失を贖うことを誓い合つた。由来四百年、この修道会は実多大の功績を教会に残しているのである。

イグナシオは十五年間、教皇の直命によつて会長の地位に留つた彼は度々謙遜から之を辞退したが果されなかつた。その間会長としてその度合をましてゆき、いかなるものも之を引きとめる事が出来ない。

超自然的倫理徳は霊魂を、原罪以来のすべから護つて、聖寵に従順な器を形成する。キリスト者が地上の生活の現実面と自分の魂との接触において、キリストと共に世に勝つうえに、その最小限度は是非必要である。

聖霊の賜物は、上述の魂のすべての動きを、天主の様式にまで高めるための超自然のたすけである

短歌

枝の幹につながるがごと聖主の永遠の生命に活きる身の幸福

聖主の御言葉ぶどデザートの葡萄の房をとりて眺めぬ

神秘体に活くるよろずのはらからと共に譲えん主の御光栄を

つつがなく務果せりアンジエルス静かに響きて今日も暮れ行く

聖書の生い立ち

先づ聖書は一体どこの国で生れたのでしょう。

これはなかなか一口では答えにくい問題です。でも一つだけはつきり言えることには、エヂプトの深い教養を身につけて人民の有力な指導者となつたモイゼが、シナイの沙漠で聖書の最初の形をつけたということです。

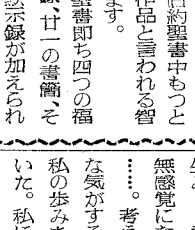
旧約聖書中のはじめの五つの書はイスラエル人の立法者であつたこのモイゼが始んど全部の主な点を書いたのであつて、その決定的な編さんに当つても彼の影響が特に強いのであります だから聖書はキリスト前千四百年から千二百年頃に、アラビア半島で生をうけたと申せますその後聖書はずんずん生長してゆきました。その成長のおのおのの段階を的確な歴史的年代にあてはめることは必ずしも容易なことではありません。大さつぱに言つて、聖書の故国は〝聖地〟と呼ばれる光栄の国パレスチナであります。

こういうわけで、聖書はユヂヤ人の歴史と切つても切れない関係に結ばれています。丁度子供たちが家に起る色々の事件を心の奥底に刻み込むように聖書もユヂヤ民族の興亡盛衰のあとを見事な浮彫のように見せているのであります。

例えば神の選民なる彼等が外冠に敗れ、捕われて異境の地にひかれていつた時（紀元前五八七年）聖書も彼等と行を共にし、チグリス・エウフラテス西河の流域にあるメソポタミヤ地方の空気にもふれたのでありますそして不自由な捕われの生活中にも更に成長して、エゼキエル予言書によつてますます優れた内容をもつものとなつてゆきました。

長い試練が終つて祖先の地に戻つてからは（五三八年）更にその偉容をあらわしてまいりました。（この時期に歴代史略、エストラス、トビア、エヂット、エステル、マカベなど多くの書が書れました）西暦前二世紀には文明の中心地であつたアレキサンドリアで旧約聖書中もつともよく整つた作品と言われる智書が加つています。

最後に新約聖書即ち四つの福音書、使徒行録、廿二の書簡、それにヨハネの黙示録が加えられて、聖書は完全な成長を遂げたのであります、これからはもう大きくなることも、年老いることもなく、又決して滅びることもありません。



みんなのための聖書（2）

四疊半

マリア・ヘレナ

少し中休みの観を呈していた雨は、夕方になり猛烈な勢で降りはじめた。時々吹く一陣の風にザアザアという音をたてゝ絶えまなく続く。軒を打つ雨だれは適当な間隔をおき、且つ時を刻むそれの様に規則正しい。普通ならば「いやだ」と思うこの梅雨のうつとうしさも四疊半のお茶室に久々に端座した心にはいいようのない静かさとその一瞬だけは何ものにも侵されがたい平和な気持を与えてくれるのだつた。それは同時に疊の上に正座した時に感じる安定感の一つであつたか知れない。忙しい日々、時間にひつぱり廻されている様な生活、その中で正座する安定感が改めて自分自身をふりかえつてみる心のゆとりを生み出すのであつた。

今日、昨日、そして一週間前、一体私はどうして過して来たのだろうかと暗不思議に思うのである日々の繁雑さが私に機械的になる事を要求し又それを楽しむ事を教えた。そういう生活の中に自己陶酔をし奇異を感じる事は更になかつた。まるで自己陶酔の惰性それが人生であるかの如く…。でも酔も又覚める時がある様にこうして考えてみると自己陶酔は寝起の悪い夢に過ぎなかつた。繁雑さは厭うべき事でしかあり得なかつたしそれを楽しむ事は己の苦みをますます他ならない。更に驚くべきは自分の持つている精神的なものそれすら繁雑さという口実のもとに影をうすくしつゝある事だつた。観念的に、形式的に時間に後押される歩みであつた。それは驚く以上に恐るべき事だつた。惰性が惰性を生み……更に惰性を生む。はては無感覚になりその先に来るものは……。考えるのさえたまらない様な気がする。忙しさが知らぬ間に私の歩みを後向きにしてしまつていた。私にとつて生活の繁雑さは精神的なものへの圧迫である。それを欲するならば己の精神の内にこそ求むべきものであろう。外的生活と内的生活の不一致が様々な矛盾を生み、その事に気が付いていても安易な妥協に流される。もう一歩の後退、そしてそこからの出発が私には必要なのだ。二歩前進して一歩さがる。その生活の繰返をいつまでも続けるのが私の生涯の様にさえ思えた、そうあつてはならない事ではあるが。

早稲田大学政経学部教授　西野入徳著

私は産児制限に反対する

避妊は國を亡ぼすといふこと

この論文は河出書房の好意により「知性」昭和三十一年三月号より転載

定価　一部五円

発行所　大阪市外布施局区内
永和一丁目二四
カトリック思想普及社
振替大阪八八八九一

定価・一部五円　五十部・二割引＝二〇〇円
百部・三割引＝三五〇円

体育とスポーツがキリスト教的道徳に従わんことを



ここ数十年のスポーツの興隆は全く目をみはらせるものがある。オリンピックに参加する国の数、選手や競技種別の増加や、またそこで果される記録の驚異的な上昇などを見ても、スポーツが現代生活で重要な位地を占めていることがうなづける。わが国のような貧乏国でも競技の設備のために投資される金額は莫大なものであり、また選手の国際交歓を支持する国民の熱意なども、スポーツがどれ程広く一般に愛されているかを示すものである。

スポーツが個人および社会に与える影響については長々と記す迄もない所である。スポーツを通じて深められつつある国際親善の見事な成果については、ここでは述べないにしても、スポーツや体育によって個人の肉体が鍛練され健康が増進され、いわゆるスポーツマンシップによって形成されてゆく精神的な特徴は、個人にとっても社会にとつても大きな恩恵であるに違いない。終戦後の、打ちひしがれた人々の心に、明るい社会の建設に向つて、新らしい勇気と希望とを抱かせたスポーツの功績は誰もが認める所である。

真面目にスポーツを愛する人々は、肉体の健康だけでなくて、人格の完成に必要な諸徳例えば、熱心、淡白、勇気、団結、正義、純真などの実行によつて、知らず知らずのうちに意志の鍛練を受けることが出来る。スポーツを抜きにした青少年の実際教育は、現在では殆んどナンセンスである。彼等は言葉や模範をもつて教えられる所を、行動を通じて体得していくものである。そのためにスポーツがどれ程ためになるか、経験にてらしても明らかなことである。例えば彼等は純真であるだけに正義を愛する。この正義観念は、ルールによつて勝敗を決し、少しも我侭を許さないスポーツの世界で実際に理解され、習慣づけられる。またスポーツマンの眼は澄んでいると云われる。仕事の合間にスポーツに専念することによつて、邪念にとらわれることが少いからでもあり、またスポーツによつて意志が強められ、悪い誘惑に対する抵抗力が養われているからである立派なスポーツマンに対して世の人々、特に青少年達が尊敬を払うのは、技の美しさに反映されている人格の美しさに魅せられるからであるということができる。

こういう理由からもカトリック教会は、スポーツの振興に精神的な後援を惜しまない。理論めいた説明はここでは避けるが、教会の伝統的な教えからしても、教会がスポーツを罪悪視しているとか、霊魂と来世のこと――のみを目指すので、スポーツなどには無関心であるとかいうことは絶対にあり得ないことである。スポーツが信者の人格教育にもたらす効果については、教会は誰よりも確信をもち、それを振興し、利用することにおいては人後に落ちるものではない。例えば体育を通じて青少年の教育を助けようとするボーイスカウトのような組織も、教会から喜んで迎えられ、カトリックボーイスカウトの万国大会には、ローマから特使が派遣されている程である。

ところがこれ程スポーツに関心をもつているだけに教会は、最近スポーツがその正しい道から逸脱するような徴候を現わしていることに気付かないではないのである。

われわれがちよつと注意しただけでも、スポーツ愛好家の間にいろいろな行過ぎがあることに気づく。それはスポーツマン個人の過ちであることもあるし、周囲の責任であることもあろう。例えば、スポーツに熱心すぎて学業や仕事をおろそかにするとか、勝負にこだわつて礼節を欠くとか、勝つて傲り負けていじけるなどのおよそスポーツマンらしくないことをよく見ききするのである。更に嘆かわしい傾向は、スポーツがその身近かな目的だけを重視して、その高い目的すなわち、スポーツに内的価値を与えている目的を、忘れ果てようとしていることである。スポーツや体育の振興に双手をあげて賛成している教会が、警戒を怠らない点、それは肉体の訓練を追及する余りに、霊魂の価値を無視したり犠牲にしたりする自然主義的なあるいは快楽主義的な傾向なのである。

どの競技でも各々のルールに従つてなさるべきであると同様に、人間の行動も創造主にして万物の終極目的にて在す神の与えたもうたルールに従つてなされなければならない。スポーツマンだけが自然の掟、教会の掟の遵守から免除されているとはいえない。肉体の訓練を口実に精神や人格を汚し、害うようなことは断じて許されない。肉体は精神に、そして精神は神に従わねばならない。これがキリスト教的倫理の根本である。

故にこれに反するようなスポーツのやり方たとえば、肉体美の誇示のために服装に慮しみを欠いたり、せん情的な姿勢や行動をしたり、健康や生命さえもおびやかすような激しい、危険な運動に従事すること、家族を省りみない程にスポーツに没頭すること、当然なすべき業務を怠ること、日曜日の信者としての務めをないがしろにするなどは、すべてスポーツ至上主義や、肉体を人間の最高唯一の価値と見なす物質主義の表われであり、創造主に対する反逆ということが出来る。

神の掟にもとるスポーツのやり方は、同時にスポーツ精神の下落であつて、それは又、スポーツそのものに対する侮辱でもあることを忘れてはならない。

スポーツは実際教育の方法として全くすばらしい効力をもつている又神に対する立派な讃美でもあることが出来る。しかしそれはスポーツが正しく神の掟のルールに従つて行なわれる時だけである。

正しいスポーツの精神が何時でも、何処でも保たれるように努力するのは、われわれキリスト信者の義務である。（F）

～推薦図書～

光の通う道

ジナ・サツフイリオ著

大滝玲子訳

人生は詩である。それは、喜悲哀楽交々のあやを以て織成された美しい詩である。そこには喜びあり楽しみもあるが、又憂い、悩み悲しみもある。そしてそれは永遠の世界に連つている。

然しこのことを卑に甘つたるい感傷のみを以て眺め過してはならない。否、現実に文化の発展と共に益々多様化した物質生活にしばられ、人生に美しさと優しさを添える為真面目に心の燈火を求めている若き女性も多いことであろうこの様な若き女性に親身な理解と愛情とを以て接する書は、残念ながら今日まで数少なかつた。

本書は幸に著者の高い人格と経験から湧出た適切な指導によつて、若き女性の人生航路に必ずや燈火を点じ、光を与え、未来を照し出してくれるであろう。著者は、自ら序文に語つている様に、気の進まない勉強に没頭する女子学生に激励を与え、華やかな夢を未来に描く女事務員や女教師に正しく進むべき道を示し、更に大きな自由を享楽しようと画策する家庭の子女に正しい自由を教える。著者は思春期の少女と共に夢み、傷々しい現実に傷ついた心に同情し、正しく導くことが何であるかを解り易く説明する。悩む者と共に悩み苦しむ者と共に苦しみ、そして苦しみの真の価値を教える「神に達する道には限りがない。しかし一番多くの足に踏まれたのは苦しみの道である。苦痛の時、それは神の時である。……十字架を通じて光へ。」

本書は貴女の生活に信仰と愛の真の光を投ずるであろう。又修道女とならか世俗の生活を選むかの岐路に立つ貴女にも、本書はきつと立派な標内著となるであろう。豊なカトリック的ヒューニズムに貫かれた本書が、若き女性の生きる道に新な光を投げることを確信して、敢て推薦するものである。（H）



質問欄

親に対する子の務

【問】近頃、新聞によく「親子心中」とか「子を売る親」とか出ていますが、この場合、天主様の代理者たる親に対して子供はどう考えるべきでしようか？（一高校生）

【答】私達は、自然法によつても又天主の第四誡によつても、両親を敬愛しその正しい命令に従う義務を負つて居ります。それは両親が私達の恩人であるばかりでなく、天主の代理者であるからと公教要理は教えて居ります。

然し、両親がその親権を越えることや不正なことを命じた場合もこれに従わねばならないでしようか。

答は否定的です。公教要理には父母や長上の命令が明らかに天主の御旨に反する場合は之に従つてはならないと教えています。何故なら私達は上位の秩序に従わねばならないからです。

それ故、自分の子供を売つたり親子心中を計つたりする親の命令に、子供は従う義務がないばかりか決して従つてはなりません。何故なら、その様なことは親権を逸脱するばかりでなく、子供の道徳や生存権を侵害する明白な大罪だからであります。

ではこの様な時、子供は親に対してどの様に振舞つたらよいのでしようか。「子を売る」或は「親子心中を計る」様な親は、いやしくもカトリック信者の間に居る筈のものではありませんが、若し不幸にしてこの様な親を持つカトリック信者の子弟があつたならば次の様な方法を取るべきでしよう。

先ず第一に子供は親のその様な命令に従つていけないばかりでなく、生命の尊さ、道徳や人格の重大さ、特に天主様の前に於て私達一人々々がどの様に尊い使命を帯びている者であるか等を反省して頂いて、極力両親の誤つた行為を阻止する様にしなければなりません。第二に、親がこの様な行動を取ろうとする場合には、精神病以外には殆んど何時もその陰に経済的な困窮と言う大きな原因があり又時として、肉体的及び経済的或は精神的な苦しみを解決する精神的な慰めが見られないことが原因である場合があります。この様な場合には、親子相寄つてその困難を打開する方法をよく相談すると共に勇気を以てその実行に当らねばなりません。勇気さえあれば、何かの方法がある筈です。その後ですべてを天主様に一任することです。御携理に信頼する時、何も恐れることはないでしよう。支那の賢者も「人事を尽して天命を待つ」ことを教えて居ります。そして又、今日の日本では社会保障も未だ十全ではありませんが、社会の力に頼る方法も残されているのです。

要するに、子供は親の不正な命令に従つてはなりませんが、尊敬と愛情を以て親に接し、力を尽して親の困窮を救つて上げねばなりません。（東光町　畑原神父）

山椒大夫を讀んで

八代白百合学園　中二年

浦山夏子

私は、今まで多くの本を読んでみたが、この物語ほどに、感激した物語はなかつたが。およそこの本を読んで、心になにも感じなかつた人はいないと思う、私はこの物語はなんべん読んでも、あきなかつた。実際四、五へん読んだのだ、私が読もうと思つたのではない、本が私を読ませるのであつたそれほどにまで、作者鷗外の筆は作中の人物を又、その感情の動きを巧みに表現しているのである。この物語の主人公、安寿とその弟厨子王、「後の名を正道と云う」見て喜ぶ人と、トゲを見てなげく人とある。ドーナツの廻りを甘味しくいただく人と真中の穴が大きすぎると不平を言う人とある〝と日常生活を考えて見るに、この例にもれない、何かするのに出来るだけやつてみましようと努力する人と、とても出来ませんとはじめから言う人と。同じ分量をいうのにこれだけありますと、とこれだけしかありませんと、等々とにかく自然性による衝動、感じ方を制え、冷静に信仰の眼をもつて物を見る時、不平やなげきは、一変して感謝の気持となる。

幼きイエスの聖テレジアは〝天主様は笑顔をもつてお仕えする人をお喜びになります〟とおつしやつた、この短い人生において日常の瑣事に御摂理を認め明るく天の故郷めざして進みたいものと思う。

ひとりごと

マリアアグネス

何時降り出したかも忘れてしまうくらい降つたり止んだりのうつとうしい天気がつづく。

梅の実の熟する頃降るから梅雨というとか。

或はかびの雨という意味であるとも何かに書いてあつた。

〝五月雨〟など言つて和歌や俳句に詠まれると何か風流に感じられるこの雨も、現実になるとうんざりする。書架の隅に忘れられている本や、靴箱の奥に片付けられている皮靴などにはかびが生え、時には頭のどこかにまでかびでも生えたかと思う位勉強に気がのらない。でも考えてみればこのいやな梅雨期も農家にとつては稲の植付の絶好のチャンス、なくてはならない雨の時である。

台風の方になると〇〇号と名のりをあげつつ進路をあらかじめ知らせ、もつたいぶつて日本に近づく。これもあまり有難くない存在であるが我国にとつては大きな贈物だ、七、八月の水不足は補給され電力の源となる。

こう考えてくると、物事は何でもとりようにより考えようによつて善い方面があるものだ。人間の性格は多種多様であるが、大体二つらぐいになるらしい、物事の明るい方面を見る人と、暗い方面を見る人と、物事をいつもよい方に解する人と、悪く解する人と。

或る本にこんな事が書いてあつた〝バラの花を見るのに、その花をからであります。



深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通　福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏
定価　一部　十円

アクシオ・カトリカに就て

大名町教会　伊東誠二

聖霊降臨の直後から、聖なる教会はキリストの御国の建設のために聖霊の大能にみたされて、御主から委託された使命を、一日も休むひまもなく続けて来ました。そして、早期から、一般信者も共に、御主の切実な望みに動かされて、使徒達の活動に参画して行きました。聖パウロは彼等の事を〝軛を共にする忠実な友、わが助力者、福音のために働くもの〟（フイリツピ四の21）と申して彼等は教会において尊ばるべきことを教えております。

中世における騎士修道会など騎士道にもとづいた確たる組織をもつて、教会の活動に大きな援護の役目をはたしたし、教会当局もこれに賛助の労を惜まなかつたのであります。

宗教改革の思潮は、当時の教会の生活に広範囲な影響を及ぼしました。教会はイエズスより委託された教職について、御主の考えを保全するために、ペトロの上に定められた教権を強調する処から、信者の使徒職への参画の性質についての伝統を保持しながらも、これを特に取扱う暇がなかつたかのようです。

しかしながら、信者の使徒職はもともと、イエズス様の御教えの中にその基礎をもつているのであります。即ち、活けるキリストの神秘体である教会では、教階制の外にある一般信者も、この体の本質的な構成分子を成していて、これに所属し、その使命に参画する権利と義務を、神法によつて与えられ、それを相応く行うために必要な能力の保証を堅振の秘蹟によつて与えられているのであります。

聖ペトロがその書簡中に（ペトロ前、二の5）〝『聖なる司祭衆』として天主の御意に適える霊的犠牲を献げよ〟と言つているのは、信者の基本的な召命にかかわる問題なのであります。

アクシオ・カトリカが私選に提唱するものはこの等の使徒職に外なりません。アクシオとは「行動」とか社会的な「運動」とかの意味でありますが、教会のアクシオとは、すべての人々をキリストの福音に活かしめるための使徒業であることはいうまでもありません。

イエズス様は使徒の職務をその権能と共に御自分の使徒達にお与えになりました。ペトロを教会の頭とすることによつて、明かに聖職をお定めになつて、この頭のもとで教会は地上の使命をはたしてゆくものであります。

広義に言つて、アクシオ・カトリカは職識者の活動を含み、これを前提として一般信者の活動で補充するものであります。

前教皇ピオ十一世は、信者の使徒職を定義されて、この時からアクシオ・カトリカは、平信者の使徒職についてのみ呼ばれるようになりました。これを要するに、教会当局の指導と委任に基づいてなされる聖職的使徒職への平信徒の参画ということが出来ましょう。そしてこの使徒業は、聖職者、信者間の積極的協力によつてのみ可能なのであります。

左にこの定義から従つて来るアクシオ・カトリカの特質について二、三のべて見ましょう。

一、A・Cは真正の使徒職である。即ち、キリストの福音を人々にもたらし、キリストの御体の建設に向う一つのゆだねられた職務であつて、すべてのキリスト者のものである。

二、A・Cは教会の使徒的、司牧的事業の中に有機的に組入れられて、教階制の指導の下に立つている。

キリストの定め給う品級の秘蹟と教会によつて定められる修道会などの団体より区別されるが、この活動が向う処は教階制の指導の下に教会そのものの目的達成である。

三、A・Cは平信徒の組織の下にのみ可能である。

即ち、一カトリック信者の良心に従つて個人的になされる種類の活動はA・Cとは呼び得ない。

四、A・Cは信者のあらゆる階層に共通な、唯一の使徒職である。

従つて、かかる使徒職は計画的活動によつてのみ達成せられる。但し、実際的構成としては、時と年令と性別などによつて異る適応性を有するものである。

五、A・Cは司教様の指導の下においてなされねばならぬ

イエラルキヤ（教階制）とは神聖なる権能を持つている人々の総称ではあるが、この権能は神法によつて教皇と司教に、教会法によつて教皇、司教より権能の委嘱を受けたものに与えられている。信者の使徒職は神法による使徒職の参画であるために、A・Cは教皇及び司教の指導の下に行われる。現教皇ピオ十二世は各司教の下に実際にこれの指導権をゆだねられた

六、A・Cは宗教的、且つ社会的な活動である。

即ち本質的に霊的な目標の下に活動される。しかしキリストの御国への道程となるべく人々の社会の中に働くことがなければならない個人的な救霊の活動はこの活動の中にふくまれない。

以上をもつて、大まかに、アクシオ・カトリカといわれるものを理解出来ると思うが、教区内で処によつて結成された布教会等の活動の真価を理解する上に何等かの役に立てば幸いである。



世の光

自由

交芸家の石川達三氏が朝日新聞夕刊紙上で、ソ連・中国視察から得た感想を述べている。この種の帰朝談は殊更に珍らしいものではなく、内容も大体見当のつくことであるが、一般人がこれをどのようにとつたか、特に日本の知識人がどのように石川氏と共に「反省」したかは想像できないが、少くとも石川氏自身はこの旅行から貴重な経験を得て、極めて率直な気持で、日本の知識人として自分の心を整理しなくてはならないと考えているようである。この反省と経験から彼の今後の歩みがどんな変化を示してくるか興味あることである。

五回にわたつて述べられた彼の意見は、まだ充分に掘り下げられていない第一印象の羅列であるかも知れないが、既に相当の教養を身につけている知識人の本心からの判断として、一応はわれわれの批評のおもてに立つてもよいものであろう。

記述の中心思想は、ソ連・中国という二大社会主義国家における自由のあり方に関するものである石川氏は新進国家として世人の驚嘆の的となつている中国が、今まで自由主義国家と呼ばれていた国々一日本も含めての自由の考え方と根本的に違つたものを持つていること、この新らしい自由思想に基づいて民衆を指導し、強大な国家を形成しつつあることを述べている。

中国で許容されている自由とは「何の方針もない、ただ自由ならんがための自由、目的をもたない自由、自分一個の安全を守ろうとするけち臭い自由、人格とは関係のない、単に観念的な、または機械的な自由」ではなくて、「良き意志、良き行動への自由、積極的で、人格の反映である所の自由、方針をもつた自由、即ち国家の巨大な意志に向つて結集され、総合された民衆の意志」に外ならないと結論している。たしかに自由とは、一般に誤解されているように凡ゆる拘束を免れた、何でもすることができるというような、例えば「酒をのんでくだを巻くことの自由さえ確保しよう」とすることではない。人間が真に自由であるためには、このような「当然ないしは下劣な自由を放棄して、がらくたのように沢山持ちかかえている自由を整理して、本当に必要な自由だけを確保するように」考えこういう言い方をするのに、個々の人格より優れた、より価値あるはずである。では人間は国家よりも更に高い価値を求めるだろう。所で中国では、国家を超越したものを求める自由は認められているだろうか。人間を物質の面だけでなくて、精神面にも満足させてくれるものを求めてはならないのだろうか。いけないとすれば人格の反映たる自由は確立されているだろうか。人間というものは、精神の自由を物質よりも、また生命よりも大切にすることを、中国のインテリは知らない程に非現実主義者なのか。

長年物質的貧困から立ち上れなかつた中国が、めざましい進展をとげつつあることは頼もしい。しかしこういう変化を全面的に歓迎しないで「自由」のために生命を潔く捨てている多くの中国人のあることをわれわれは知つているのである。（深堀敏）

☆　★　☆

所が自由が多くの国民の間で、人格の反映でなくなつていることは確かである。例えば、言論の自由を行使するに当つて、何でも言いたい放題のことを言つて、何の責任もとらない人が余りにも多いまた労働争議権にしても、自分達のことだけ考えて、全体を省みない、即ち共通の善に対する責任を感じない人も多い。

彼等は自分の中に、自分の行動の明らかな理由を見出さないでいるのである。行動の根本原理である人格そのものを更に価値あらしめ、高める目的をいうのである。人格を低めるような自由行動が、誤つた自由であることは言をまたない。

しかし問題になるのは、人格を高めるとか、低めるとかいうことがどうしてきめられるかである。

人間苦、悲しみも悩みもなくなるのだろうか。

こういう国家の意志だけではどうにもならないものが、必ず残るであろう。

人間が人間である限り、新興宗教や迷信は決してなくならないであろう。

われわれカトリツク信者がこういう病弊にとりつかれないようにするには、信仰の教を能力に応じて出来るだけ深く勉強し、道徳的にも堅固な精神をやしなう以外に道はない。

日本にますますはびこつて、害毒を流しつつある新興宗教や迷信の力が、おさえられるように今月祈りと犠牲を捧げよう

【永久聖体礼拝】

八　月

第一日曜　訪問会（新田原）
第二日曜　飯塚教会
聖母扶助会（別府）
第三日曜　佐賀教会
三位一体会（吉塚）
第四日曜　懲獄援助会
別府教会
（最終）

【祈禱の使徒会】

八　月

【一般的意向】新興宗教と迷信の防止

新興宗教にしても迷信にしても真の宗教と異るところは、人間の下等な欲望を全く現世的な利益をえさに一般民衆を引きつけることにある。科学的論証によつた充分な裏付けを問題にしないで、人間の本能におもねりながら信者をあやつり、教祖と小数の取り巻きの懐を肥すことしか考えない。

【教皇意向】日本の青少年教育の改善

日本の将来を考えて最も恐ろしく感じられるのは、現在の青少年教育の欠陥である。日本のあらゆる階級の人達がこの点に最善の方法を講ずることができるように祈る。

【布教委員会の意向】日本における教育

八月

二日（木）　リゴリオの聖アルフオンソ司教博士証聖者
レデンプトール会（贖罪主会）の創立者、一般民衆の教導に一生を捧げた。一七八七年帰天。

三日（金）　初金曜日

四日（土）　聖ドミニコ証聖者
教会の信仰を振りおこすためにドミニコ会を創立、フランシスコ会と共に中世時代の最も力強い修道会、異端を打ちやぶるためにロザリオの祈りを普及した。一二六七年帰天

深堀司教様の霊名の祝日。
教区司祭月例集会の日。

五日（日）　聖霊降臨後第十一の主日
〝我が今の如くなるは　これ神の　恩寵によるなり、かくてその恩寵はわれに於て空しからず〟（聖パウロ）われらは恩寵なくしては何事もなすことができない。恩寵もわれらなしには何事をもなし得ない。

六日（月）　我が主イエズス・キリストの御変容の祝日。
タボル山でのキリストの御変容はわれわれの復活の時の光栄の姿の前徴である。今日の霊的生活の実践がこの喜びの日を準備する。

九日（木）　聖ヴイアンネ証聖者
フランスの寒村アルスの最も不熱心な信者を祈りと犠牲で回心させた主任司祭、一八五九年帰天。

十日（金）　聖ラウレンチオ助祭殉教者

十二日（日）　聖霊降臨後第十二の主日
善きサマリア人の喩キリストこそ御自分の血を以てわれらの傷口を医し給う。

十五日（水）　聖マリア被昇天の大祝日
今日の祝日では聖母の御死去の記念、即ち天国への誕生と凱旋、次に諸聖人の元后としての聖母の戴冠式、最後に、聖母の御肉体も天に挙げられ給うたことをお祝いする。

十六日（木）　聖マリアの御父、聖ヨアキム証聖者の祝日

十九日（日）　聖霊降臨後第十三の主日
感謝は美わしい、しかも稀な徳である。天主にお恵みを願う人は多い。しかし感謝する人は少ない。忘恩とは自己愛の表現に外ならない。

廿日（日）　聖ベルナルド修院長博士
シトー厳律修道会（トラピスト）の創立者　一一五三年帰天

廿一日（火）　シヤンタルの聖女ヨハンナ寡婦
サレジオの聖フランシスコの指導のもとに訪問修道会を創立した。一六四一年帰天。

廿二日（水）　日本の最上位の保護者童貞聖マリアの汚れなき聖心の祝日
現教皇ピオ十二世聖下はファチマの聖母の明らかな御希望に従つて全世界を聖母の汚れなき御心に奉献された。

廿五日（土）　日本の福者ミカエル・カルヴアリヨ等殉教者

廿六日（日）　聖霊降臨後第十四の主日今日は「御摂理の主日」と呼ばれる。御摂理にまかせるとは、この世の生活のなかに、神の御手の働きを認めて、一切を神の恩召につき従わせることをいう。

廿八日（火）　聖アウグスチノ司教博士証聖者

今や実行あるのみ

福岡地区　布教委員会足なみそろう

福岡地区の布教委員会の第三回集会は、市内各教会の司祭および布教委員約四十名列席のもとに、六月廿四日（日）司教館で開かれた。

まづ全日本布教委員会福岡教区代表委員である平田勇師のあいさつの後、前回に作成した規約案について改正点を討議して、別項の如く決定。この決定にしたがつてたゞちに役員の選出が行われ、会長に小野敦（浄水通）副会長に林初三郎（大名）と青木栄雄（高宮）書記に鬼木保之（高宮）の各氏が選ばれた。

つゞいて、具体的な活動について各教会より布教会の結成状況の説明。

ひきつゞき、各教会より活動方法の提案がなされて、左記の諸項が決定。

❶布教のための祈―教皇様の御絵のある「信者使徒職の完遂を求むる祈」を誦える。

❷教区機関誌「カトリック」に対し、布教用にも使用し得るよう編集して貰うよう要望する。

❸布教のための展覧会を考える。

❹全日本布教委員会よりの寄問を協議すること。

尚次回は九月廿二日午後一時より司教館でひらく。

福岡地区布教会規約

一、名称　福岡地区布教会

二、目的　司教様の御指導のもとに、各小教区に布教会を設置し教区内信者の布教への積極的参加をはかるを目的とする。

三、小教区布教会、

（イ）小教区布教会は、小教区の信者全員をもつて構成する。

（ロ）小教区布教会は主任司祭の指導のもとに、それを助け布教にあたる。

（ハ）小教区布教会の組織と活動は各小教区の実状による。

（ニ）小教区布教会はその代表を選ぶ。選出方法は各小教区の実状による、代表は地区布教委員会に出席の義務を負う。

四、地区布教委員会。

（イ）地区布教委員会は指導司祭および小教区布教会の代表たる委員をもつて構成する。

（ロ）地区布教委員会は、地区の布教の打合せ、研究、連絡、合同布教などを行う。小教区布教会は主任司祭と一体となり、委員会の決議、決定をできるだけ尊重して行動する。

（ハ）地区布教委員会は互選により、委員長、副委員長、書記会計をおく。

（ニ）、役員は司教の認可のもとに就任する。

（ホ）役員の任期は一年とする但し、再選は妨げない。

（ヘ）地区布教委員会は年に四回定期集会をひらく、但し、必要に応じ臨時集会をもひらく。

五、会計

（イ）布教会費。布教会費は毎月一口拾円とし、一世帯最低一口以上を負担する。

（ロ）会費は小教区の布教用にこれを使用する。

（ハ）下位の機関は上位の機関の費用を負担する。

筑後地区布教委員會

七月八日　久留米で初集会

去る五月十三日平田勇師を迎えて筑後地区布教委員会（久留米、太刀洗、本郷、大牟田各教会の代表による）を結成することを申し合せていたが、七月八日午後二時久留米教会に司祭および代表廿二名が参集、役員選出と議案の真剣なる検討を行い、六時散会した。同委員会は地理的条件を考慮して事務所を久留米教会内に設置役員も同教会の代表がそのまゝ当ることになり、結局、委員長に柴田宝、副委員長に井手一郎、書記に池田千代之助、会計に松尾寅十郎の各氏が任命された。

筑後地区布教委員会の活動方針

❶霊的活動―信者は司祭の指導のもとに自分の霊的完成を目指し内に貯えられた力をもつて布教活動に挺身するようにする。

尚、ピオ十二世教皇聖下御自作の「信者使徒職の完遂を求むる祈」を各家庭また教会で誦える。

❷講演会―一般の人々はカトリック信仰に生きた科学者の講演を歓迎するものである。大牟田教会母の会では既にこのような講演を三回開いたが、本地区にも適任者がいることだから、今後要請ある場合、これに応じて欲しい。

❸其の他―報道活動、視聴覚活動について熱心な討議が行われたが、報道、印刷物には余り深入しない方がよいとの平田師の注意があり現存する印刷物を大いに利用する方針をとる。例えば現在本教区の機関誌「カトリック」に、ローカル色が強くなれば、もつと親しみ易く、且有効に、布教および信者相互間に利用できるだろうとの結論に達した。

若し「カトリック」編集者にこの意向が受け入れられた場合は、各小教区の布教委員会で、布教に関して討議された諸問題を当事務所に送附すれば、そこで取捨選択して「カトリック」誌に提出するようにしたい。

ちなみに、次期委員会は十月第二日曜日同地で開く。

小教区役員会のメンバーは左の通り。

大名町教会

役員会　会長　田熊　瑞穂
副会長　松尾　守
書記　鶴崎　慶吉
会計　服部　直好
委員　渡市、砂山

布教活動

布教のための祈として次の二つを決定

暁の星なる聖母に対する祈

不信者の改信を求める祈

未信者のミサ　礼拝時　の指導者（聖堂案内者）を選出。

原則として毎月一回集会。臨時集会も開くことがある。

高宮教会

役員会　会長　青柳武四郎
副会長　伊藤　敏子
庶務会計　西川　勇
顧問　今井　昌子

活動方法

小教区と地域事情を参考として十四地区に分割（屋形原病院地区、筑紫病院地区を含む）各地区に責任者をおき、全員連絡をとり、未信者の布教に当る自分の地区以外の知人にも布教することができる。

毎月第四主日を布教の日とし、司祭、信者一緒に布教のための祈をし、特に差支えない限り全信徒布教活動に伴う。

古賀　教会（未定）

二日市教会

役員会　会長　山口　薩男
会計　齊田　務

活動方法

毎月第一日曜日を集会の日と定め、一ケ月のための具体案をねる。

那珂町教会

役員会　会長　角田　種三
書記　百田　勇

会計　小出トシエ

活動方法

司祭と信者が協力して街路に進出し、レコードやパンフレットなどを通じて一般に布教する。

引揚寮を訪問し、幻燈や教理研究をする。

ポスター廿四枚を掲示する。

吉塚教会

役員会　筑紫、日置、江藤、村上

牧上氏ら全教会委員が当る

活動方法

個人的には全信者が求道者を一人でも多く見つけるよう努める

一般新聞に教理研究会の広告をだす。

ポスター十五枚を各所に掲示し

家庭訪問を推進し、日曜学校（教会内と教会外一ケ所づつ）の指導を強化する。

信者一人で未信者一人以上獲得運動。

二週間毎に信者総会

袁島教会

役員会　会長　田熊　瑞穂
副会長　松尾　守
書記　鶴崎　慶吉
会計　服部　直好
委員　渡市、砂山

布教活動

布教のための祈として次の二つを決定

暁の星なる聖母に対する祈

不信者の改信を求める祈

未信者のミサ　礼拝時　の指導者（聖堂案内者）を選出。

原則として毎月一回集会。臨時集会も開くことがある。

高宮教会

役員会　会長　青柳武四郎
副会長　伊藤　敏子
庶務会計　西川　勇
顧問　今井　昌子

活動方法

小教区と地域事情を参考として十四地区に分割（屋形原病院地区、筑紫病院地区を含む）各地区に責任者をおき、全員連絡をとり、未信者の布教に当る自分の地区以外の知人にも布教することができる。

毎月第四主日を布教の日とし、司祭、信者一緒に布教のための祈をし、特に差支えない限り全信徒布教活動に伴う。

古賀　教会（未定）

二日市教会

役員会　会長　山口　薩男
会計　齊田　務

活動方法

毎月第一日曜日を集会の日と定め、一ケ月のための具体案をねる。

那珂町教会

役員会　会長　角田　種三
書記　百田　勇

会計　小出トシエ

活動方法

司祭と信者が協力して街路に進出し、レコードやパンフレットなどを通じて一般に布教する。

引揚寮を訪問し、幻燈や教理研究をする。

ポスター廿四枚を掲示する。

吉塚教会

役員会　筑紫、日置、江藤、村上

牧上氏ら全教会委員が当る

活動方法

個人的には全信者が求道者を一

都塵を離れて瞑想と祈り

カトリック学生会　夏季黙想会

恒例の福岡カトリック学生会の夏季黙想会は去る七月十八日（水）夜より廿二日（日）朝まで、深堀司教様の直接御指導のもとに、佐賀県馬渡島教会で開催された。参加人員は福岡、戸畑、佐賀、などの学生会員のほか、学士会員、それに同島海の星学園の教諭ら約四十五名で、四年前の同地における黙想会に劣らぬ盛会振りを示した。

十六日朝司教様と共に博多駅を出発した学生達は、午後一時木村堰両師、海の星学園生徒、全信者の盛大な出迎えをうけて上陸。男子は教会横の分教室、女子は聖母園とそれぞれの宿舎に落着いた。

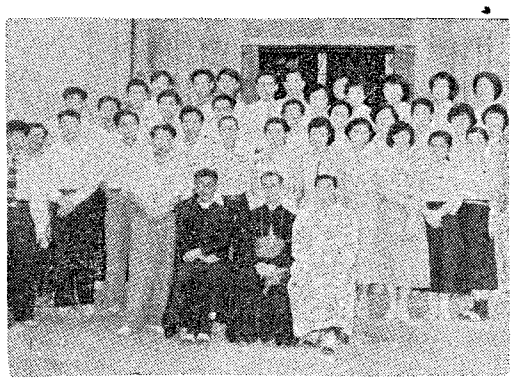
夕食後八時の聖体降福式をもつて黙想会に入り、町の騒音と日常の繁務を全く忘れて、思う存分神との対決に三日間を過した。一日四回の司教様の厳格なるなかにも温情こもつた講話、聖体の前での祈りと瞑想を通じて、一同深い霊的生活のよろこびを味いながら、尽きせぬ力を貯えた。

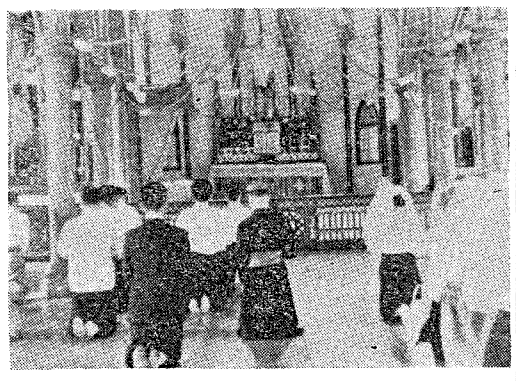
一日の業を終え、寝に就くまえにうたわれるイン・マンヌス・ツアス（わが霊を御手に托せ奉る）の聖歌は特に忘れられない印象を与えた。

三日目土曜日の朝は、馬渡島の子供達の初聖体、そして夕方にはローソクを灯して山道をたどりながら聖体讃美の行列が、黙想参加人員を交えて敬虔に行われた。最終日の日曜日八時から男女児童五十二名の堅振、旧信者達の信仰あふれる態度は学生達を強く感銘させた。

そのあと島の青年会、聖母会員と共に、海の星学園でソフトボール、ピンポン、テニスに興じ、特にソフトボールは司教様の始球式を以て始まり白熱戦を展開した。同日夜教会前の広場で「聖テントニオ」の映画が一般に公開され、島民を喜ばせた。

廿三日司教様御離島ののち、学生達は青年会員達と水泳、島周り漁釣りで楽しい一日を過し、夜学生達による人形芝居が上演され、廿四日島の人々に深い感謝を捧げながら、別れがたい心を抱きながら家路に向つた。（写真上は記念撮影、下は教会での祈）





吉塚教会にレジオ、マリエの新プレシジウム

福岡市吉塚天満町のカトリック教会に六月廿四日を期してレジオマリエのプレシジウムが新設され会長日置孝次郎氏のもとに結集した十名の新会員が活動を開始した、新プレシジウムは、「天主の聖母」の名称を与えられ、福岡コミチウムに属するもの。

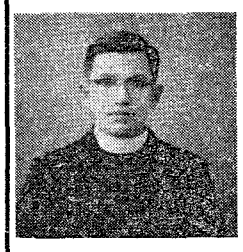
カルメル会で着衣式

福岡市神松園の聴足女子カルメル会では六月廿四日洗者聖ヨハネの祝日と七月二日聖母御訪問の祝日に、左記二名の着衣式を行つたイエズスのマリア、バブチスタ、金川　叔子（山口教会出身）御告のマリア　小野敏子（東京高円寺教会出身）

二師を招いて修養講座

別府明星美容専門学校で

別府市老松区仲間通りの明星美容専門学校―経営者平山政十氏―では、去る七月十四日夏季修養講座を開き東京清戸学園のマリア会前管区長田川師と福岡司教館の深堀師を招いて講演をきいた。平山政十氏は美容学校の経営を通じて日本女性の両教育を目指すと同時に、カトリック布教のために老躯に抱らず壮者をしのぐ活動をつづけている。





四神学生海外留学

モントリオール2　ローマ2

福岡サン、スルピス大神学校では今夏四名の神学科学生（福岡教区二名、長崎教区、鹿児島教区各一名）をローマおよびモントリオールの大神学校に留学させる。

三村邦明神学生（副助祭）福岡教区所属、カナダ、モントリオール大学。

三村神学生は広島市出身、大正十四年生れ、広島一中、広島高校を経て、昭和十五年広島文理科大学理学部物理学科を卒業、広島高校在学中に受洗。大学卒業と同時に福岡大神学校に入学。今年三月副助祭に叙せられた。

岩永義人神学生（神学一年）―福岡教区所属、カナダ・モントリオール大学。

熊本市出身、昭和九年生れ、福岡小神学校を経て昭和廿八年四月福岡大神学校に入学。

大野和夫神学生（神学一年）鹿児島教区所属―ローマ、プロパガンダ大学

杉本巌神学生（神学一年）長崎教区所属―ローマ、プロパガンダ大学

ちなみに、三村、岩永両氏は八月十五日羽田出発の予定、大野、杉本両氏は八月六日頃横浜から出帆することになつている。

（写真（上）三村、（下）岩永の両神学生）

聖ペトロの献金（七月一日日曜日）

福岡教会				宮崎教区	
大名町	五、九〇〇	古賀	九五〇	宮崎	二、〇〇〇
浄水道	三、〇〇〇	佐賀	二、二〇〇	高鍋	四〇〇
地行町	二、一八八	唐津	四〇〇	田野	六〇〇
西新町	八五〇	鳥栖	三三〇	都城	一、二三二
糟屋	一、七八六	伊万里	三〇〇	延岡	一、五〇〇
高宮	四、〇〇〇	門司	一、五四三	富高	六〇〇
吉塚	五〇〇	小倉	三、二〇〇	日南	四〇〇
那珂町	一、五〇〇	湯川	七〇〇	中津	五〇〇
二日市	五二〇	戸畑	八、二五〇	大貫	三、一〇〇
久留米	五、七五〇	若松	一、〇〇〇	佐伯	一、五〇〇
今村	三、八〇〇	八幡	二、〇〇〇	日田	七〇〇
本郷	一、五三八	黒崎	五〇〇	杵築	二〇〇
大牟田	一、一〇〇	水巻	一、一〇〇	玉名	一、八〇〇
呼子	一、六四九	直方	五〇〇	隈府	五〇〇
馬渡	八九五	飯塚	二六〇	坂ノ市	三〇〇
		田川	三〇〇	本渡	四五〇
				大江	一、五〇〇
				別府	一、〇〇〇
				臼杵	三、〇〇〇
				合計	九〇〇
				合計	一九、二三二

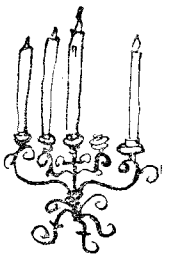
大牟田教会	
会長	町田　文子
副	矢納　勇
書記	祇上　愛子
会計	南　花

久留米教会	
会長	柴田　至
副会長	井手　一郎
書記	池田千代之助
会計	松尾寅十郎

太刀洗教会	
会長	久次　善吉
副会長	青木　繁敏
書記	平田　清正
会演計	久次　政雄

本郷教会

会長	平田　忠告
副	重石　幸一
会計	瀬山　千太



「公教要理」（五）
御聖体の考察 ①

伊東誠二

〝これわが体なり　これわが血なり〟

此処に横わる現実は、感覚の対象ではない。玄義は理性をも超えている。天主の啓示の確かさだけが、信仰の途によって、私どもに真理の判断を可能ならしめる。

〝十字架に於て、天主性だけがおおわれてあった。此処では人性もまた、私どもの肉眼からかくされてあるのだ〟（アドロテ）

聖変化の奇蹟以後、この白いオスチアの形色のもとに、キリストはそっくり、彼の御体、御血、人間的霊魂と天主性を位格に於ける一致に保ちながら、私どものうちに現存し給うのである。

イエスの現存。これは私どもの思想をくつがえす程の玄義でみちている。

使徒たちを訓されるイエズス、マグダレナのイエズス、放蕩息子のイエズス、タボールとゲツセマニのイエズス、歴史のキリストは又永遠のキリストの玄義を帯びて現存する。光栄の国に輝くイエズスの霊魂の諸能力は、ホスチアの中でもその活動を止め給わない。即ち托身された御言葉のすべての感情は三位の直視と全宇宙の智覚に培われて御父への無限な愛の焔となってオスチアのうちに燃えさかっている。

三位の他の位格と能力、智恵、憐みにおいて同質な御言葉は、御父と聖霊と共に、決して分つ事の出来ない本質をもって此処に住い給う。御父は御子のうちに御子は御父のうちに心を安ぜられ、この二つの位格は愛なる聖霊のうちに一致して天主性を完結し給う。

〝フイリツポよ。私は父のうちにおり、父は私のうちにおる事を信じないのか〟（ヨハネ十四〟）

「聖体は、教父の教える処によれば、托身の延長として考えらるべきである。そして聖体によってこそ托身せられた御言葉の実体は一人々々の人に結ばれてカルワリオの犠牲は神秘体に於て続けられるのである」（レオ十三世の回勅）又聖トマは、「キリストは人間を個別的に聖籠の生命でみたすのであるが、この生命は托身によって見える姿で世に来り給う事によって人々のうちに通わせられた」（スンマ三の79）と教える。

同一の原因は同一の結果を生むものである。秘蹟のキリストへの接触は福音書の奇蹟の如く、信仰さえ純粋であれば現代に於ても日常の事となり得よう。

彼に近ずく事を望むことばかりでなく、彼が救い給うにまかせる事こそ肝要なのである。

〝誰でも私に近ずきたいものがあれば私は一人でもしりぞけはしない〟（ヨハネ六37）

〝誰でも渇きを持っているものは私の処に来て飲むがよい〟（ヨハネ七37）　問題は渇きを持っている事である。

他の秘蹟は個有の聖籠を私どもにもたらすが、聖体は世の終りにいたるまで救霊の聖籠の普遍的な源そのものである。

天主は人を神化するために人と成り給うた。御言葉は私どもを彼にかたどるために肉を取り給うたこれが救世の玄義の根本的な原理である。

御聖体の主要な効果は、魂の中にキリストに対する熱愛をかきたてる事である。

さて愛の常則は愛するものを愛する者に変えてしまう事にあるが、聖体は、何よりもまずキリストと私たちの友愛の秘蹟であるイエズスは彼が愛し給う人々（信者未信者を問わず）と共同生活を実現するために懇々制定されたものである。

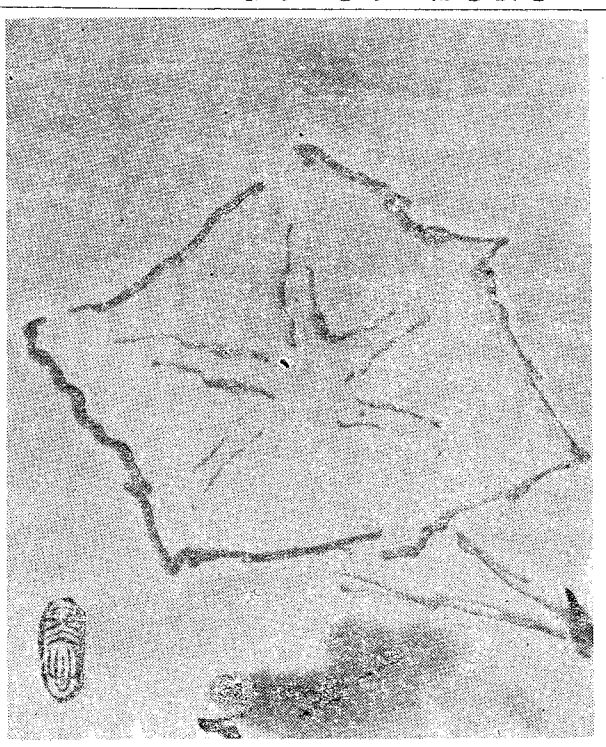
人々との絆愛を深めるために聖体の現存を案出された底知れぬ愛は、私どもの中で愛がゆきつくすべてのさだめを通じて、われらを霊肉ともに御自分に同化させようとされる。地上に於て、天主との一致は聖体のうちに完成されるのである。

もしも、御聖体がなかったとしたら、地上の教会は、味気ない期待に終つて了う。洗礼によって初められ、堅振によって生長の途に置かれたにしてもキリストへの一致は地上で完成される事がなかった。

天主は御子を通じて、創造の秩序を地上にも回復し給う。

「御子は万物の先に存し、万物は彼のために存在する。御父は充満せるすべてを御子にやどらせて、彼の十字架の御血によって、地上のもの天上のものを和合せしめようと望まれたのである。（コロサイ一の17と21）

一九五六、七、七



夕顔　田中冬心筆

子供の聖人伝
アルスの主任司祭

昔、フランスのリオンの片田舎に、幼いころから孤独と神さまを好んでいた少年がありました。



バリーのえらい人々は大革命をおこして、人々にお祈りすることを禁じてしまいました。それで少年はマグサ小屋の片すみで、たまにしかごミサにあずかる事が出来ませんでした。

神父さま方は、こつそりかくれて聖務をとつておられましたが、もし見つかりでもするとすぐさま首を切られることになつていたのです。

そのためでしようか、小さいジヤン・マリ・ヴイアンネは司祭になろうと考えはじめました。

ところが、お祈りはよく知つていても、勉強はさつぱり駄目だつたのです。それは少さい時から幸の番をしたり畑の手伝いばかりしていたからです。

ひとよりも年を取つてから神学校に入学しましたが、試験にはどれもこれも失敗ばかりしていました。

それでも、司祭が少なかつた時だつたので、司教さまは彼を祭壇のためにおとりあげになりました。

アルスの主任司祭にすえ置かれて死ぬまでそこにおつたのでした。

フランスで一番つまらない村の一番つまらない主任司祭。

しかし彼は此処で百八十人の主任司祭だつたと言えるのです。

フランスの最下等の村はフランスの最上等の主任司祭をめぐまれたのでした。

そして国中がこの神父様を見るために動きはじめました。

神父様は来る人来る人を改心させてゆきました。そしてもし死んでいなかつたら、全フランスを改心させたことでしよう。

神父様は霊魂と一緒に体も癒しました。丁度本でもひらいて見るように人の霊魂の中をおよみになつたそうです。

聖母マリアも時々神父様の部屋に来られました。悪魔は三十年間もしのび込んでその足をひつぱりました。

しかしこの方が聖人であることをさまたげる事は出来ませんでした。

司教様は神父様に名誉参事会員の衣をおくりました。

皇帝は勲章をおくりましたが一度も身につけずお棺のむなしい飾りになつた位です。

教会は聖人の位にあげましたしかし神父様は生きている内には自分では何のためにそんな風にあつかわれるか理解出来ませんでした。

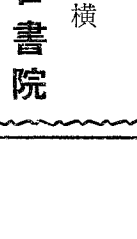
これこそ、神父様がどれ程、偉かつたかの証拠です。

これは人々の頭脳が人のねうちについてやかましく議論していた十九世紀に行われました。

天国ではこの時代をアルスの主任司祭の時代と呼んでいるかも知れません。

少くとも、わたしたちカトリック信者はこの神父様が人の値打を一番よく知つていたと信じています。

おわり（1）



生命の神秘

日本には自分で生命をたつという事が非常に多いといわれている。それは日本が経済的に貧しいからであるという人もある。しかし統計的に一番多いのは貧乏人のいない国スエーデンである。彼等が死へのショックは決して物質的なものではなく、精神的なものにあるのである。彼等は生きる手段は完全に解決したが、生きる理由の問題を解決し得なかつたのである。

私達は自分の良心に対して判断を的確に働かせるようにしなければならない。

（バスクの星、四十七頁より）

物心のバランス

内村義弘

科学と技術の進歩がえがいて来たゆるやかな上昇線は戦乱毎に飛躍的なカーブとなり、二三百年前から放物線的カーブに変り、原爆に至つて始んど垂直線となつたかに見えその偏極に来たかとさえ思われる寧ろ恐ろしいほどの発展ぶりである。

由来科学の進歩は技術と相まつて向上の一途をたどり、人間に限りない利便と幸福を与えて来たのであるが、科学そのものは必ずしも功利を目的とせず、否寧ろ功利を離れて所謂科学のための科学としてひたむきに探究のメスがふるわれ、人間業とも思われぬほどの業績が過去の歴史をかざつて居りそのひたむきな努力と業績は誠に尊い。しかしかくして得られた成果が人間によつて悪用されるときそこには誠に大きな罪悪がかもし出されて来た。かくして科学の功罪がしばしば云々される。しかし「科学に罪なきか」を問う前に所謂「物心両面のバランス」ということこそ切実に考えられなければならないのであつて科学の進歩即物の面の発表に対してこれを利用する側の人間の心の面は果してこれと並行して進歩して来たかどうか。この面で払われて来た精神科学方面の努力或は宗教の貢献は極めて大きい。

こうして今日までのところはどうにかこうにかあぶなげながらそのバランスがとれて来たと言えなくもないが今日そのバランスが大きく破られそうな危期に立つているといえないだろうか。

そこでこの危期を如何にして突破するか。今日の人間に課せられた極めて重大な課題であることは最早や誰一人疑うものはないと思う。原子力の平和的解決運動、という一本の道に向つて全世界は大動きに動いているわけだがこの政治的動きだけでかたづく問題であろうか。

科学と技術が直接所謂悪をめざして居ない限り、これは止めようがない様にも思えるが、その第一線を行く人々に対して今までの通りでよいのかどうかをこゝで考え直してもらうことにしたい。すると残る問題は心の面の発展速度を急速に高めること只一つである。

こゝで先ず第一に宗教がもつともつと大家の中に浸透して行かなければならないのではあるまいか次に教育ももつと大地に根を下さねばなるまい。私はときどき考える。余りにも分業化した今日の教育に思わぬ欠陥が知らぬ間に醸成されてはいないかと。教科担任の分業制がよいという結論の上に立つ教育である以上、我々は虚実に各教科の使命の達成に真けんな努力を払うべきことは今更いうまでもないことである。しかしそれだけでよいのか。教育の使命は生徒個人の人格完成の基礎に培うという窮極の共通目標に立つて居る筈であるが、これが忘れられているとはいはないが、おろそかになつてはいないか。又学ぶ側の生徒諸君の方でも教科を近眼的にのみ見つめては居ないか。もつとその奥を見つめて真の学習に精魂を傾けなければならない時ではあるまいか。今日では所謂試験勉強式の学究では教科そのものの理解だけでもなかなか容易ではないし、まして今日の重大事態の解決の鍵は実に今日の若人の双肩にかゝつていると思われる。全世界の学生生徒は一人ももれなく同一歩調で邁進すべきではないかと思う。

民主々義もかけ声だけでは力は生れて来ない。偉大な指導者の出現も望ましいが、それにもまして大衆の自覚の量的発展の方が真の解決への道であると思う。こゝらで学校も社会も国家も世界も世を上げて考え直すときではあるまいか。

かくして心が物に追いついて真のバランスをとりもどすとき、原子力時代の世界の将来は試にすばらしい文化に飾られるのではあるまいか。

みんなのための聖書
(3)
聖書の名称と言葉



聖書は〝ひとの口より生れたる言葉は〟いとも美わしき、こよなくやさしきことのは〟と嘆称されているギリシヤ語であります。

マテオ福音書を除くほかの福音書、使徒達の書簡、使徒行録、黙示録の記述に用いられています。しかし聖書のギリシヤ語は、アテネ文化最盛期の、クセノフオンやデモステネスらの古典的なギリシヤ語ではなくて、一般の会話に用いられていた通俗的なギリシヤ語だつたのであつて、遂には標準語となつたアラマイ語で物されています。（イエズス様も御在世中はアラマイ語をお使いになりました）。アラマイ語は、聖書の祖国ともいうべき中部アジアの数々の言葉を圧倒して、外交と商業の用語となりました。トビア書、ユヂト書、マテオ福音書の原文などがこれで綴られました。

聖書に使用されている第三の言葉は〝ひとの口より生れたる四十二、

子供の教育

—理解と愛をもつて指導すること—

メール・セント・エンダ

現代の若い人々の教育は、非常に真面目な課題であります。両親と教師の負う責任は重く、一層効果的に教育するためには、両者が緊密に協力する必要があります。何時の世にも教育の基礎的原理は変りませんが、その方法は時代と共に進みます。もし学校や家庭において自由やわがままを許すならどんなに悪く育つても小さい子供には全く責任はございません。子供達の欲求やきまぐれな出来心には終りがありません。もし両親が断乎たる態度を取らずその子供達に神を敬え、愛させ仕えさせるように自分の義務を果さないならば……。

子供の最初の、そして最も物事に感じ易い幼年時代は両者のひざもとにおいて過ごされます。全能の神様は子供達がもつとやさしく注意深く育てられるようにと、各人の心に母性愛や父性愛を注いで下さいました。この世に生れ出る総ての普通の子供は三つの、即ち心的、肉体的、道徳的な能力を恵まれており、その心がまだ柔らかくロウのような時に、終りまで消えない印刻をその上にきざみつけるように努めなければなりません。テイーン・エージヤーを誘惑のわなから保護するためには先ず第一に両親は子供達を理解してやるようにしなければなりません。この事は子供の要求を何事も認め許さねばならぬという意味ではございません。理解とは子供の欠点或は長所をみつけ出し、導き、まどわす事なく彼らを信用し、家庭生活に対する強い愛を彼らに植えつけることでございますそして有益に役に立つように最後まで責任を果すように教えます。

悪い映画やテレビ或はまた邪悪な文芸作品など……はこの若い魂には有毒であり、それらは道徳力をにぶらし近代社会を退化せしめるものでございます。のち程上級学校に進学する時にも両親の義務は、やはり立派な能力ある教師と学校を選択すべく残されております。両親は自分のかけがえのない宝を彼らに托すのです。教育と環境が生徒及び信仰あついキリスト教徒、ひいては誠実な慎みある市民を作るということをよくお考えなさい。

最も良い学校は宗教を中心に神様の存在を感じさせ、真理を求める心に美なるものに対する愛を植えつけ、心は愛と綿切と純潔でみたされ、その霊は喜びをあふらせるよう教える学校でございます。

（筆者は福岡サン・モール修道院々長）

智的生活

みつめて、探せ
熟考して、見出せ
祈つて、求めよ
観想して、活きよ
びあと



短歌

二丈　アロイジオ

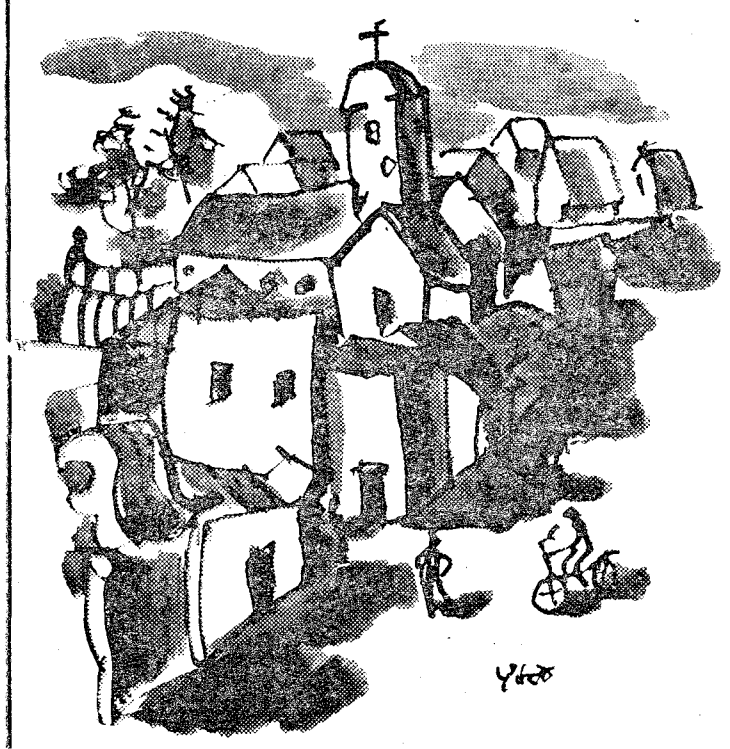
のぼるべき山くもにかくれいらだたし地図を見つめて道をば思う

夕近しうすむらさきにかげりたる山のふもとに湯気立ちのぼる

牛の乳房そのちちくびのかずなどを話してたどる牧場への道

なだらかな丘の起伏よその果の阿蘇の五岳に雲のかかれる

（以上九重高原にて）



母親のための教育講座

明治学園で月二回

戸畑明治学園では全生徒の母親のため、毎月二回定期的に教育にかかわる講座を開いているが、それは家庭および学校での教育を密接につなぐことを目的としている。そのため生徒をもつともよく知つているクラス担当の修道女がクラス毎に分けて行つている。ただ高校生の分は一人で全部を受持つている。

学園夏季黙想会三つ

【福岡雙葉学園】

第一学期終了に引きつづき七月十七、十八の両日、高校生希望者と中学三年信者生徒百十二名の黙想会を開いた。

【戸畑明治学園】

中学生のため七月廿六、廿七日の両日、高校生のため廿八日より三日間、信者生徒のみの黙想会、指導司祭は雙葉、明治両学園とも深堀師。

【大牟田明光学園】

七月廿二日、カレツヂのプレシジウムとして最初のレヂオ会員黙想会を行つた。参加人員二十名。指導司祭は畑原師。

なお会員一同は同月廿六日司教館と福岡大神学校を訪問。

暗より光へ

死刑囚の手記　①

私は大罪を犯し死刑の宣言をうけ、〇〇刑務所の独房で心静かに赦されたる安けさの裡に主にあいまつる喜びと感謝をもつて、小さな犠牲を捧げ残された日を一日一生と、誠心から祈り暮している一カトリツク死刑囚であります。死刑より処刑までの法規上の最大限の期間を過ぎて正に五年、かくも恩寵により生かされております私の、今日まで辿つて参りました道程を誌してざん悔といたします。

話は今から八年前にさかのぼります。知人に頼まれた商談のため私は目的地に急いでいました。その時の同行者が実は多年恨みかさなる仇であることが、世間話の中に判明し、覚かの口論の末、激昂した私は一瞬にして二人の尊い生命を奪つてしまいました。

人殺し、このような恐ろしい事はかつて夢にも思つた事も、考えたこともありませんでした。それだけに自分が人殺しをしたと気づいた時は、ただもう茫然として虚脱の状態でした。そして狼狽し悔み悩んだあげく、この上は死んでお詫びする外なしと考え、猟銃を手にして山中に入り、死に場所を選び、幾度となく銃口を喉にあててみましたが、その都度幼い二人の子供のあどけない姿や年老いた両親の姿が瞼に現われ、遂に果せずして未決監に收容される身となりました。唯一の道と決意して計つた死から切りはなされ、冷たい獄舎で独り生ける屍の捨て場に苦悶しました当時の心境は、とても私の重いペンをもつては書き現わすことが出来ません。

人をあやめた者の報いとして、死刑は当然のこと、これには微塵の不平も不満もありませんが、幼い子らの行末、年老いた両親の悲しみを思うと、身を八つざきにされる思いで絶望の淵に苦悶するのみでした。突然に、しかも余りにも大きな出来事に縲紲の者も知人も、皆呆然としてなす所を知りませんでした。

悔いてもかえらぬ自己の罪業にさいなまされ、更に縲紲一同が世間の人から冷い目で見られ、暗い茨の道を歩まねばならない事を思つて、私の心は一段と悶え苦しむのでした。

その頃まだ私には面会も交通も禁じられていましたが、ある日私は検事の前に呼び出され検察庁の用紙一枚に走り書きした一通の手紙が手渡されました。それは次のような文面でした。

「私たちは一人で生きているのではないことを考えて下さい。一つの大きな力によつて一切が支配されていることも考えて下さい。この暮い時に、読書とはまた、すらりと勢揃いするが、大きな霊の息吹によく統一されているので、ちつとも嫌味を感じさせない。しかも、その表現の妙は、所謂小説家式の美文ではなく、広い学識と深い黙想から、生れ出でたものだけあつて、思わず快哉を叫はしめる。まことに司教をして現代のアウグスチヌスとはいわしむくもいつたものである。ルナンの父はその当時随分騒がれたといわれるが、この人間から発したものであつたならば、弟子達が最も強調したのは、十字架ではなくて、真福の山であつたに相違ないのに、事実キリスト者が、師の知慧と王の尊厳とのみを強調することなしに、人間の眼には明らかに失敗としか映らない、あのカルワリオにおける数時間を最も誇りとしているという点に、単なる人間のみのものでないことは明白である。

終りにかくも瀟洒な装いで出版されたユニバーサル文庫の縲紲が、これに劣らぬ内容のものであることを期待して結びとする。中央出版社刊。定価は百円。（M）

◇ぶつくがいど◇

キリストノ生涯

フルトン・シーン著

五十嵐　仁訳

この暮い時に、読書とはまた、すらりと勢揃いするが、大きな霊の息吹によく統一されているので、ちつとも嫌味を感じさせない。しかも、その表現の妙は、所謂小説家式の美文ではなく、広い学識と深い黙想から、生れ出でたものだけあつて、思わず快哉を叫はしめる。まことに司教をして現代のアウグスチヌスとはいわしむくもいつたものである。ルナンの父はその当時随分騒がれたといわれるが、この人間から発したものであつたならば、弟子達が最も強調したのは、十字架ではなくて、真福の山であつたに相違ないのに、事実キリスト者が、師の知慧と王の尊厳とのみを強調することなしに、人間の眼には明らかに失敗としか映らない、あのカルワリオにおける数時間を最も誇りとしているという点に、単なる人間のみのものでないことは明白である。

終りにかくも瀟洒な装いで出版されたユニバーサル文庫の縲紲が、これに劣らぬ内容のものであることを期待して結びとする。中央出版社刊。定価は百円。（M）

ベトレヘムはカルワリオの為の暁でしかなく、サタンの試みは結局主から十字架を奪わんとする誘惑であり、真福八端は単なる道徳家の理想ではなく、十字架において初めて厳粛な現実となるものである。司教の表現を借りれば、もしもイエスの伝え給うた御教えが、単に一人ひとりが最も強調したのは、十字架ではなくて、真福の山であつたに相違ないのに、事実キリスト者が、師の知慧と王の尊厳とのみを強調することなしに、人間の眼には明らかに失敗としか映らない、あのカルワリオにおける数時間を最も誇りとしているという点に、単なる人間のみのものでないことは明白である。

終りにかくも瀟洒な装いで出版されたユニバーサル文庫の縲紲が、これに劣らぬ内容のものであることを期待して結びとする。中央出版社刊。定価は百円。（M）

質問欄

天主の予知と愛

【問】イエズス様は全知でいらつしやるから、ユダが罪を犯すことを前以て知り給うた。愛の神がどうしてユダを人間として創り給うたのでしようか？（福岡市一求道者）

【答】度々耳にする問題です。それで、問題を区切つてお答えしましよう。

一、天主は愛によつて人類を創造し給うたこと。存在を与える（創造する）こと自体が立派な愛の行為ですが、更に天主は、人類に理性と自由とを与えることにより、高度にその存在を楽しむことをお許しになりました。そして更に、全人類の超自然の幸福のために御子イエズスを地上につかわして救世の事業を完うし給いました。

二、ユダが地獄に行つたという確かな証拠は一つもないこと。大罪を犯すということについては、他の多くの人達（私達も）当然同じ問題の場に立たされるでしよう。しかし、ここで問題をユダだけに限つて考えても、ユダが地獄に行つたという確実な証拠はありません。主イエズス様は「生れざりしならばむしろ彼に取りてよかりしものを」と仰せられておりますがそれはユダの罪の恐ろしさについて仰せられたもので、これを永遠の苦罰の証言であると断定することは早計でしよう。またユダが惨めな死に方をしたのは、先ず私達に対する罪の戒めであつて、主イエズス様はユダの為にもまた御死去になつたことを忘れてはなりません。

三、天主の予知と予定とは人間の自由を束縛しないこと。天主は時間と空間とを超越して全知全能に在すので、時空に妨げられないですべてのことを予知し予定し給うのです。ところで問題は、天主の予定が人間の自由を妨げないかということです。もし人間の自由が妨げられるとしたら、それは人間に与えられた自由が名目だけにすぎなくなるので天主の叡智に反するでしよう。しかし天主は、人間がその自由をどのように用いるかを予知し給い、且つこれを許し給い、この予知に基づいて他のすべてのことを予定し給うので、人間の自由は妨げられません。

四、私達は天主の御計画を批判出来ないこと。聖パウロは、焼物師が同じ材料で貴い器や賤しい器を作るのに、作られた器が不平をいうのは愚なことであると言つていますが、私達も自分の小さな理性を以て天主の叡智の力に対抗することは出来ません。私達なりに考えられた「愛」の尺度で天主の超越的な全智全善の御業を計ろうとすることは冒瀆でさえあります。天主は私達より善であり、また自由であります。

五、従つてユダについていうことは、私達の側から見た結果論であること。既に実現した悪結果に対しては、それに先立ついろいろの条件が仮定され得るものです。ただ一つ忘れてならないことは、ユダが裏切の罪を犯した時も彼は常に自由であつたということです。振返つて私達自身について申しますと、自分に恵まれた能力と自由とを善に最善の為に用いて、ユダの轍をふまないように注意することが大切です。

福岡教区聖ヴインセンシオ会例会

七月廿二日に熊本教会で

貧民救済を目的として全世界的に活動を展開しているカトリック福祉団体である聖ヴインセンシオ会の福岡地区理事会定例会は、去る廿二日（日）熊本手取教会の司祭館で十時三十分より開かれた。熊本、福岡、佐賀三県より約十五名が参加、会議は上村氏の司会で進行、福岡特別理事会会長の井手氏と指導司祭棚町正刀師の挨拶、ついで手取教会主任司祭コイル師の霊的訓話がなされた。

午後の部では入会、水俣教会の新入会、明光学園の活動を称讃、次に議案の検討に移つたが

❶東京の中央理事会に会員を出席させること

❷中央理事会長を招待すること

❸全国理事会に提出すべき議題などが議決された。

死なねばなりません。そして来世でも親子一族がまた楽しく天国で逢われるのに、あなた一人が地獄の苦しみを受けている姿を見なければならないかと思うと、それが悲しまれます。……中略……よく気持をおちつけて考えて下さい。私は朝に夕にそればかり祈つております」

それは以前から熱心なカトリックの信者だつた一人の姉が認めた手紙でありました。

暗黒の深淵に立つて悶えつづけていた私の絶望の魂に、この姉の便りは安らぎと光をもたらす端緒となりました。（つづく）



深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏
定価　一部　十円

婚姻の尊厳をあなたの生活に堅持せよ

司祭　伊東誠二

過去十年間、私たちの国では大きな希望を孕んだ様々の言葉が国民思想をゆり動かしていました。自由が叫ばれ、人権が問題とせられ、人間の品位に対する関心がこれ程全般の人の心にゆき渡つた時代はないと思われます。そして、長い間改革さるべくして改革されなかつた悪習が、敗戦という渦の中で古い殻を破られて当然あるべき姿にのび始めたものも多くありますが、その反面には、人々が尊いものとして護つて来た善い習慣まで、古い時代のものというだけで唾棄される様な破目にあつたものも決して少くはありません。人間社会の風俗、習慣などに現れる現象の奥には、事実の上に考える人間がはじめにある事を忘れてしまつたらどんな事になるでしょう。

近時、いちじるしい現象となつて私たちの社会を毒しているものの一つに、流行の結婚観があります。思想としては、さ程新しいものでもありませんが、戦後の人口問題も緊迫した経済問題に加えて、永くからこの種の悪習に染つている人々への急激で無智な擁護は、神聖なるべき婚姻の法則を、その根本をなす貞潔の精神と共に忘れ、それはかりでなく、天主の定めを古き道徳として、科学、政治、文芸、甚しきは教育の名に於て攻撃する程の状態にあることをキリスト信者は明かに弁えて置かねばなりません。

この様な重要な問題に於て、社会から遅れていると思われたくない為に、思潮に迎合するが如き態度は厳につつしむべきであります。婚姻は、人間の手によつて制定せられたものでも、改正されるものでもありません。勿論、天主はこの宝を貴い人間の自由意志によつて用いる事を定められました。しかし、この自由とは、結婚生活を欲すること、一人の配偶者某とこれを欲する自由であつて、婚姻の本質は人間の自由意志とは全く無関係なものであります。従つて天主の定め給える婚姻の法とその本質的規範に従つてはじめて私共の結婚はその美しい全容を保ち天主の祝福が与えられるのであります。今、この正しい婚姻のあり方について、主要な諸点を想い起して私たちの生活の中に婚姻の尊厳を確立し、社会に天主の御恵みを呼び降すべき礎となるように努め度いと思うものであります。

一、子女は婚姻が目さす宝の第一位を占めること

人類の創造主は、生命の繁殖に人間の協力を用いて聖なる天主の家人（エフエゾ二19）を起し給う婚姻の制定によつて人は理性の優超性からして、天主の礼拝と知覚と愛をもつて、天主の幸福に入らしめられるべくその全能の協力者として立てられている。人間のこの尊高なる品位を低めるあらゆる結婚観は叫われてしかるべきである。又如何なる理由からしても子供を生活の重荷と考える忘想から遠ざかるべきである。子女を生む天主は、又、これを教育する権利と義務を婚姻のおきてのうちに与え給うた。

二、婚姻が目さす第二の宝は夫婦の貞節であり、相互の完成である。

〝夫婦の貞節は、両人が聖にして清い愛によつて結ばれることを要求する。その愛は相愛者の愛の如きものに非らず、基督がその教会を愛し給える如き愛でなければならぬ（アウグスチヌス）

〝家庭に於ける夫婦の業は、ただに相互の扶助のみならず、夫婦相携えて日に増し内的な人となり、これを完成する事を主要の目的とするべきである（聖グレゴリオ）

斯る家庭生活には当然、愛の秩序が行われねばならない。夫の統轄の主権、妻の愛の主権は、一致貞操、崇高なる従順を含んでいる

三、婚姻の冠は秘蹟である。

結婚の不解除性とその相互の契約は基督が祝聖され、聖寵の有効な印の品位に上られている。従つて、秘蹟の聖寵は婚姻の生活にそれが継ずる続かぎの保証されている。家庭生活のあらゆる困難や誘惑の怖れから、（この聖寵に協力する望さえあれば）護られ、助けられている事を思うべきである

斯くの如く、天主の御定めにのつとつて、私たちの生活を、自分のためにも、子供のためにも打立てて行く信者は、キリストによつて約束せられた「福なる希望」を地上に得て、世の光となる事が出来るでありましよう。



日本教会の保護者聖ミカエル

世の光

宗教心

キリスト教に限らず何かの宗教に入る動機は、人によつて色々とちがつている。高尚な理由による人もあるけれども、幾分こりやくの気持から宗教に頼るようになる人もある。自分の病気や肉親の病気、失業などの生活苦から免れるために、または商売繁昌のために入信する人も多い。他に精神の安定を得るためとか、精神修養、死後のこと、罪悪の問題などに心の支えや光明を求めて宗教に近づく人も少くない。

病気や災難のような、いわば物質的な動機から宗教に入ることがすべていやしい態度だとは一概に言い切れない。病気中の内的斗いや精神的な反省のおかげで、宗教への目が開かれることが度々であるからである。

専ら病気治療や商売成功のためになんとも得体の知れないものを拝むのは、信仰をもつものではなくて、迷信に惑かれているのである。

まじめに信仰を求める人は、病気その他の災難がきつかけになつたにせよ、最後には精神的なものを求めて入信するようになる。

病気治療を宣伝するいかがわしい宗教が現代の非人間的な社会の落し子であることは否定できない生存競争が熾烈で強食弱肉の時代であれば、溺れる者はわらをもつかむの境地から前後の見さかいもなく、口のうまい宗教にとび込んでゆきたくなるだろうし、医者に見放された病人であれば、加持祈禱にでも頼りたくなる。

しかし乍ら幾つかの宗教の発生が社会悪の結果にあるにしても、人間の宗教心そのものまでが科学的根拠をもたない、無知と「恐るべき社会」の産物に過ぎないとは言えない。

支配階級がなくなつて凡てが平等になり、社会保障がゆきわたつた社会主義的な社会では、宗教はだんだん無用となり、いつしか姿を消してしまうと言うものもいる。

科学が進んで生産力が高まり、社会的な繁栄がもたらされると迷信的な宗教が幾つかなくなることは当然である。しかし乍ら、或る人々の無智に便乗した迷信は少くなつても、人間の宗教心そのものまで無くなるというのは余りにもひとりよがりな断言である。

原始社会より今日までの長い歴史を通じて人間精神の最大の脊柱となつてきた宗教は、社会構造のような外的環境の変化によつて生滅する程に皮相なものではない。

宗教は科学的精神が生れる前の一時的現象として存在を許され、科学の進歩と共に席をゆずらねばならない代用品ではない。

宗教はまたある精神薄弱者のなぐさみものでもない。

宗教の現実をこのように簡単に片付ける者こそ、人間の精神史を偏見にとらわれて深く堀り下げなかつた、非科学者なのである。物質的、社会的基礎が変ればその上部構造たる精神も変つて、宗教は要らなくなるとは、この主張こそ自分勝手な宣伝ではないか。

フランス医学界の泰斗と仰がれわが国でもよく知られているアレキシス・カレル博士は、その晩年の書の中で〝人間はその精神構造よりして神を必要とするものである〟と述べている。彼によれば宗教を求める心は、人間に生れながらに備つた傾向だと言うのである。

もしそうであるならば歴史が移り社会組織が変つても、科学が宇宙の神秘を一つ一つ説き明かしてくれても、これのことに無頓着に人間は神を求めるのである。そして実際に物質文明が、高度に発達し、すぐれた文化を生んでいる現代においても、立派な哲学者、政治家、芸術家、科学者が、まじめに宗教を求め信仰を固執してはばからないのである。この他物質的に恵まれたブルジョアもその日ぐらしの労働者も、老幼男女、凡ゆる階級、年令の人々がひとしく神を信ずる喜びを味つているのである。

切ではない。われわれは宗教心をどのように自覚し育てるかを真剣に考えねばならない。

（深堀敏）

彼等は自分の職業、年令、健康状態という特殊の立場から神に帰依しているのではなくて、人間と

入信の動機になるものは左程大

祈禱の使徒會

九月

【一般の意向】夫婦間の貞節の尊重
【布教の意向】布教地のカトリック出版事業
【布教委員会の意向】漁村布教のため

第一日曜　西新教会
第二日曜　新田原教会
第三日曜　光の園（郡司町）
第四日曜　田野教会
第五日曜　マリアの宣教会（入吉）

永久体聖禮拝

九月

神学講座のお知らせ

一、日、時　九月十五日（土）より毎週土曜日　午後二時―四時（二講義）
一、会　場　福岡雙葉学園
一、資　格　カトリック信者希望者
一、会　費　二五〇円
一、科　目　基礎倫理学（平田正喜師）　三位一体論（深堀敏師）

希望者は九月十三日迄に左記宛御申込み下さい。

福岡市浄水通三九　司教館
深堀敏

天草カトリック殉教記念祭

主催　カトリック福岡司教区
式典　司教荘厳ミサ聖祭
場所　本渡市千人塚
日時　九月十六日后三時
後援　本渡市天草観光協会

九月

日本聖殉教者の月

二日（日）聖霊降臨後第十五の主日
今日より八日まで司祭年の黙想会
教区邦人司祭（於福岡大神学校）
パリ、ミツシヨン会司祭（於八幡ミツシヨン会本部）

三日（月）ヒエロニモ城、アントニオ右田寛永九年七月十九日長崎で火刑

七日（金）トマス登明寛永四七月廿七日長崎で火刑
ミカエル中島、寛永五年十一月廿日雲仙熱湯池に投殺

八日（土）**童貞聖マリア御誕生の祝日**
聖マリア、御誕生の祝日が、その母性によつて救いの初穂をえた人々の平和をまさんことを

九日（日）聖霊降臨後第十六日の主日。

十日（月）カロロ・スピヌラ、元和八年八月五日長崎立山で火刑

十二日（水）**聖マリアのいとも聖なる御名の祝日**
〝おんみにより頼みて捨てられし者なし〟（聖ベルナルド）

十三日（木）アポリナリス、元和八年八月七日大村近傍の山中で火刑

十四日（金）**聖十字架称讃の祝日**
〝われはわが主イエズス・キリストの十字架に於ての外は決して誇ることなかるべし〟

十五日（土）**聖母マリアの七つのお悲しみの祝日**
聖母マリアの使命は御子イエズスと共に生涯世のために苦しむことであつた。

十六日（日）聖霊降臨後第十七の主日。カミロ・コンスタンゾ、元和八年八月十日平戸附近の田平が火刑

十七日（月）アシジの聖フランシスコ聖痕の祝日
〝愛の火が消えたこの世において、われらの心をおんみの愛の火で燃やすために、聖フランシスコの身体に御受難の聖るしるしをとゞめ給うた〟

十九日（水）**福岡大神学校で教品式（午前九時）**

廿一日（金）使徒福音史家聖マテオの祝日

廿三日（日）聖霊降臨後第十八の主日
本郷教会で堅振

廿九日（土）**日本の守護者大天使聖ミカエルの祝日**
カトリツク教会の自由と尊厳を犯そうと狙つている敵の攻撃に対して聖ミカエルの力強い仲介を祈る

卅日（日）聖霊降臨後第十九の主日。
久留米教会で堅振
久留米教会主催　聖体行列

着実なる信者増加

福岡・宮崎両教区年度統計を発表

この度発表された福岡、宮崎両教区の昭和卅一年度教区統計によれば、先ず福岡教区では信者総数が一八・八七五名で、昨年度の一七・四九七名に対して一・三七八名の増加。昨年度の増加数は一・二八八名であるから今年度は約一・〇〇名上廻っている。特に大人の受洗が年々増加していることが頼しい。

なおこの一年間に新設された教会は吉塚、伊万里、行橋、水巻の諸教会で将来の発展が期待されている。

司祭数は総計的には殆んど変化がみられない。

特に著しい上昇を示しているのは女子修道者（立誓願修道女のみ）で、昨年の三〇六名に対して、今年は三八七名に達している。十八修道会中、カルメル会、トラピスト会、聖体礼拝会を除いてはみな活動修道会で、教育および社会福祉事業を通じて大きな貢献をしている。

次に宮崎教区で信者総数は四三六九名で昨年に比べ四〇三名増加昨年度の増加数三六一名を上廻っている。

本教区の特徴は信者数に対して女子修道者数が非常な高率を示していることで、教育および社会福祉事業ですばしい活躍を続けている。

統計表には挙げてはいないが、福岡教区神学生は、大神学生が廿名、小神学生が卅五名で日本教会のためにも頼しい限りである。しかし近い将来に於てカトリック教会の活動範囲が著しく拡大されることを考えれば、決して充分とはいえない。信者各位の反省と協力が望ましい。

×× ××
×× ××

福岡教区信者状況

1656年6月30日現在

教会		洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終外 小供	洗礼 臨終時 大人	洗礼 臨終時 小供	求道者数	堅振	告白 年の務	告白 信心	聖体拝領 復活祭	聖体拝領 信心	婚姻 信者	婚姻 混宗	終油	転入	転出	死亡	信者総数 1955年	信者総数 1956年
邦人司祭地区	大名町	15	11	6	13	21	24	208	3,209	206	17,613	4	3	3	17	183	22	631	488
	浄水通	19	5	2		192	6	243	4,225	243	33,100	1		2	11	5	4	306	334
	地行町	10	6	1		11	36	307	7,343	307	44,542			3	34	28	2	427	448
	西新町	6	15			5	27	162	950	162	3,940	3		1	28	18		276	307
	蓑島	6	2			6		65	497	65	1,910	2	2		18	20		143	149
	高宮	25	5	46	6	40		188	1,957	188	12,270	2	1	5	36	31	56	217	248
	那阿町	9	7			18		98	1,290	98	10,690	4	7		36	12		158	198
	吉塚	47	2	1	1	18	41	75	575	75	4,155	3		2	85	3	2		131
	古賀	12	14	3		12	1	35	369	35	4,036	1	3	4	58	10	2		75
	二日市	1	2			7		30	245	30	723				15	6		51	63
	今村		39		1		30	840	5,766	849	39,492	8		9	2	698	9	2,016	1,351
	本郷		17		1	4		426	2,760	426	11,661	6		5	644	10	7		645
	久留米	28	18	6		40	49	410	4,020	410	29,222	6	1	4	30	5	10	895	962
	大牟田	47	4	2		74	37	191	3,247	188	14,325	3	2	4	10	13	4	275	321
	呼子	1	23		1			420	1,900	420	5,990	9		8		42	9	591	565
	馬渡島	2	37	1		1		776	5,165	776	22,343	10		7	8	117	9	1,130	1,052
ミラノ会地区	佐賀	18	10	8		45	30	250	2,020	250	7,500	1	1	8	61	11	11	381	456
	鳥栖	9	6	8		8		49	433	48	1,500	1			2	7	8	58	68
	唐津	12	10			8	21	95	650	95	1,170	7			35	15	1	174	215
	伊万里	2	14			5	13	46	284	46	1,339	2			96	38	1	119	192
パリ・ミツシヨン会地区	門司	26	8	1		31		218	2,231	218	7,088	2	2	2	25	17	2	280	321
	小倉	41	27			60	3	635	3,715	635	16,185	10	8	11	124	69	13	1,078	1,188
	川湯	1	15			2		270	1,615	269	5,615			1	37	12	1	368	408
	戸畑	101	13	2		105	92	437	4,225	437	22,210	2	3	1	35	14	4	555	688
	若松	18	3			20	26	96	650	96	3,560	2		1	6	16	3	187	195
	八幡	14	8	1		12		195	1,450	195	6,080	2	4	1	10	5	8	436	460
	黒崎	29	28	1		25		329	2,947	328	17,095	4	6	5	21	233	4	814	652
	飯塚	1	1	2	6	17	22	138	812	138	1,805	3	1	3	12	6	10	339	345
	直方		4		1	11		77	312	77	600				8	37	1	175	150
	田川	3	6			4		96	280	95	550		1	2	33	9	1	161	193
	行橋	1	8			10		136	545	150	2,300				310	18	1		300
	新原	6	49	1	3	5		790	6,030	753	24,590	3	2	15	29	10	20	1,452	1,510
	水巻	3	10			13		132	953	132	2,228	3	3		268	4	4		273
コロンバン会地区	手取	27	15	8	72	57	88	640	5,053	669	34,704	2	4	5	4	53	8	898	963
	健軍	7	3			9	44	127	1,119	127	7,782		1		12	32		197	187
	琵琶崎	18	5	23	5	132	45	305	11,484	305	65,505			6	16	32	38	372	369
	八代	7	5	33	5	9	36	196	3,615	196	17,390	1	1	2	2	54	23	355	330
	人吉	29	5	11	6	18	5	207	3,525	207	20,928	2	2	6	10	14	14	325	358
	水俣	3	1			5	15	50	981	50	4,218		2		3	2		73	78
	玉名	12	2	1	2	7		26	362	26	2,125				1	5	3	30	40
	隈府	13	3		1	8		127	1,845	127	10,636		3	4	26	12	3	170	198
	本渡			2		10	5	29	330	29	1,158		1	1	8	1	3	42	48
	大江	1	20	1	1	7	71	350	2,890	350	6,438	4		10	1	2	15	873	885
	崎津	6	15			4	30	235	2,584	235	6,028	3	4	4	1	14	4	469	468
合計		636	501	171	125	1,096	797	10,764	106,458	10,761	544,339	116	68	145	2,228	1,943	340	17,497	18,875

増加数　1378

宮崎知牧区信者状況

1956年6月30日現在

教会		洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終外 小供	洗礼 臨終時 大人	洗礼 臨終時 小供	求道者数	堅振	告白 年の務	告白 信心	聖体拝領 復活祭	聖体拝領 信心	婚姻 信者	婚姻 混宗	終油	転入	転出	死亡	信者総数 1955年	信者総数 1956年
ザベリオ会地区	宮崎	64	24	11	7	105	123	680	16,400	680	60.380	3	2	7	28	12	28	1,102	1,196
	都城	20	9			20	42	150	1,600	150	3,100	1	4	2		40	3	252	238
	田野		9			4		120	776	120	5,303			1	8	6	1	153	163
	高鍋	86	9	5		45	73	144	2,103	145	2,630	3	2	2	5	17	6	294	376
	日南	1				37		15	80	15	320				36		2		35
	延岡	18	7	2		36		96	1,008	96	3,923		1		10	7		156	186
	富高	13				10		49	342	49	630		2	1	3	9	1	70	76
サレジオ会地区	大分	45	4	10		30	64	250	3,000	250	7,500	2	3	8	5	19	17	362	390
	別府	62	7	33		70	3	500	12,550	500	83.078	5	7	12	10	53	39	845	865
	中津	31	3	1	1	27		171	1,148	171	2,985	4	5	1	21	24	3	233	263
	大貞公園	34	9	3		32	3	236	3,643	236	19,248	1		7	36	49	9	264	288
	日田	7	3			4		48	410	57	1,900		4	1	12	4	1	54	71
	臼杵	4	1	1		2		24	201	23	1,062	3				16	1	64	53
	坂ノ市	18		2		18	2	50	1,300	50	5,000	1		1		11	1	50	58
	杵築	3	1					32	322	32	1,310				4	4		67	71
	佐伯	30	2	2		23	1	33	125	33	728			1	11	2	3		40
合計		436	88	70	8	422	310	2,498	45,008	2,597	199,097	23	30	44	189	273	115	3,966	4,369

増加数　403

福岡教区

司祭

	名
教区邦人司祭	24
パリ・ミツシヨン会	23
スルピス会	9
コロンバン会	17
フランシスコ会	5
ドミニコ会	1
マリア会	1
パウロ会	2
トラピスト会	1
ミラノ会	6
スカボロ会	2
聖母献身会	2
計	93

男子修道者

	名
マリア会	10
パウロ会	11
トラピスト会	1
計	12

女子修道者

	名
幼きイエズス会	54
マリアの宣教者会	81
シヤルトルのパウロ会	15
訪問会	16
サン・モール会	22
煉獄援助会	16
ノートル・ダム会	21
ピエ・デイセポレ会	13
女子パウロ会	16
カノツサ会	14
ヨゼフ会	4
カルメル会	31
ウルスラ会	25
天使の聖母会	4
福音の光会	15
三位一体の聖体宣教会	8
聖体礼拝会	3
トラピスト会	29
計	387
邦人	303
外人	84

社會福祉事業

	名	
孤児院	11	600
養老院	6	150
癩病院	1	70
病院	5	
診療所	8	

教育施設

	名	
高校	6	2285
中学校	7	1700
小学校	4	710
幼稚園	29	4610
職業学校	6	790

宮崎知牧区

司祭

	名
教区邦人司祭	5
サレジオ会	28
ザベリオ会	10
計	43

男子修道者

	名
サレジオ会	16

女子修道者

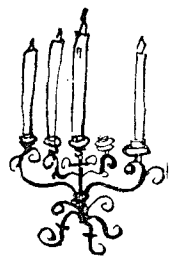
	名
扶助者の聖母会	88
カリタス会	104
福音の光会	4
ウルスラ会	9
計	205
邦人	187
外人	18

社會福祉事業

	名	
孤児院	4	600
養老院	3	150

教育施設

	名	
短大	1	
高校	3	780
中学校	3	310
小学校	2	170
幼稚園	4	300



「公教要理」(六)

聖体拝領について

伊東誠二

御聖体を、いただく。うける。などの私たちの常用語からは、比較的に聖体の恵みの弱い印象しか受け得ない。

教会がこの行為のために使用することばの意味は、もっとダイナミックにひびく。即ち「コムニオ」と呼ばれ、或る生命への合致を意味するのであります。

聖体拝領とは、御主の御体と御血に合致せられ、その聖なるあらゆる状態を私たちのうちに通わせる一つの行為をさすのであります。

〝このパンを食べるひとは、永遠に生きるだろう〟

〝私が父によって生きているように、私を食べるひとも、私によって生きるだろう〟（ヨハネ六57）などのイエスの御言葉から推しても、御聖体は手みやげのようにして、或る一定の時に頂くお恵みというよりも、私たちの生命が御主イエス・キリストの生命に合わされて、一つになって生きることが問題とされる行為なのであります。

生き給う全キリストに合致せられて生きるためのこの聖体拝領のお恵みを、よく理解するために秘蹟におけるキリストの現存の御状態を思い返しながら、私たちに許される考察をつづけて見ましょう。

洗礼によって、私たちの魂の中には、全くキリストにまで成長する変化の動きの原理が置かれました。そして私たちの人間性全体がこの渦中に浸されたのであります。

キリストがキリスト者へおよぼす聖変化の影響は、まず、魂の深奥ではじめられ、そこより感覚にまで及び、終りの日の光栄の姿を帯びるのであります。

〝主なるイエスは、私たちの貧弱な、取り柄のない肉体を、御自分の光栄ある肉体に変えられる。（フィリッピ三21）

天主は世を救うために人々の感覚の対象として御子の御托身を行われました。イエスキリストはその御体と御血を食物の形色のもとにひそませて霊の糧を用意されました。私たちは聖体拝領によって、生き給うキリストに肉迫する訳であります。

そこでは、痛悔する大罪人も、謙遜と愛とをもって、マダレナのイエスに近づく時に、罪の勢力が潮の様に引きさがる事を自分のうちに感じられるでしょう。又、正義の太陽が諸聖人の清さを彼の上に照らし出るのが感じられる筈であります。教会が、聖体拝領を結婚の主要なまもりである事を教え信仰の先達がこれを生涯かけて証明しているのも、もっともな事であります。

更に、天主は救霊が、イエスキリストによって、十字架の上でしか行われない事を定められました。人となられた天主の御独子はこの呪われた木の上で、贖いと浄化の二重の御業を成就されましたが、聖体は拝領者の内で同じ御業を継続されるのであります。即ち原罪によって、すべての人間が置去りにされたあの悪への不健康な傾きの中で、人々はたやすく天主に反抗を画て、重なる罪とその罰を身に帯びているのでありますが洗礼後も、罪のあとは私たちの天主への熱情をしつこく削除し、心に倦怠をもよおさせるのであります。

私たちの弱さからの失墜、自己中心の憂のあの目茶苦茶な衝動、この世の諸々の価値の中で或は多忙に、或は不安におし流されておかす小罪、単なる誘惑が、目的のほんやりした努力、あせり、すべてを考えにのぼせると、キリスト者と雖も、自分の善意に基く決心にかかわらず、キリストへの全き一致は絶望に近いものとせられるのですが、聖体拝領の聖霊はこの絶望から私たちを救い、この状態のら浄められる力を与える糧なのであります。

〝わが肉を食せず、わが血を飲まざれば、汝のうちに生命を有せざるべし〟

イエスのおのぞみは強硬的であります。

勿論、私たちの弱さ故にこの浄化は瞬時に成るものではないが、度々の拝領は徐々に、キリストの御業の効果を来たすであろうし、完全に用意された魂にあっては時として瞬時の完成も可能なのであります。

御体を食するひとは、御主の御霊魂にも合致させられます。永遠に生き給うキリストの御体はその御霊魂と合されても早、分たれる事がないからであります。

天主性の充満と救済の富の全部が宿されてあるキリストの御霊魂は御子のペルソナに、そして御子のペルソナは三位の生命に拝領者を導き入れる門となりましょう。

即ち、御聖体のイエスの智慧は充満せる天主の御智慧で拝領者の智を照らし、聖心の妙なる宝は聖霊の賜物を通じて、私たちのうちに信望愛の動きとなって、天主への一致の道へ急がせるのであります。

学者も、使徒的活動家も、隠れた名もない召命の信者達もその聖徳を御聖体より得た事の証拠を聖人伝が私たちに立証してくれています。

それがイエスの愛に基いたお望みにであり。キリスト者の勝ほこつた叫びなのであります。

〝わが肉を食する人はわれにとどまる〟〝わが愛のうちに止まれ〟（ヨハネ十五4）

〝も早生くるはわれならず、キリストこそわがうちに生き給う（ガラチア二の20）



秋の山

何か偉大なものを秘めているような色彩と静寂さをましてゆく秋の山は、夏の山よりも考えさせる。緑のジュータンを敷いたような這松の広がる辺に、風あたりのないような一角を選んで張つたテントの中からのぞく大空を流れゆく雲、夜空にきらめく星に、ジット見入っていると、わけも理屈もなく雲と星に話しかけ、祈りたくさえなる、山の冷気にひたりながら歩いていると、何かしら透徹した感が底知れず湧いてくる。雪渓を渡るサクサクの音、ピツケルのひびきにさえ静かなリズムを楽しみお花畠の一輪の花々にさえもの言いかけたくなるものである。

目まぐるしく変りゆく人の世に、動かす変らぬ感をあたえ、永遠への憧れにまでわれらを誘うものは、秋の山の魅力か？動かぬ山は変りやすく動きやすい人の弱さ、人生の傷多い自己、その傷多い身をおういい隠さんとするみにくい虚飾の自己までも見えしめる。権勢と栄誉、財宝と快楽をおしあいへしあいしながら漁りまわる人の世のせま苦しさ、人間のあわれさ、浅ましさにまで考えつかせるものは、山の精神の力か暗示の業か？

感じのするどい魂ほど、山に入れば感じやすくなる。月の光に冴えて立つ巨峯槍の穂先を仰いでは、誰しも身に迫る冷厳さと小さく弱く、しもかそれでいて嬌慢にみちた自己のみにくさの感に打ちひしがれるであろう。心は純にして謙遜なれと教えられるであろう。

このように山を味いうる山の子ならば、山頂をきわめて征服感やいたずらに爽快さを喜ぶような浅いものではなくて、山によって考えさせられ、自然被造界の広大無辺、構成配列の美妙さに、驚嘆の目をひらかれ、遂にこれをかくあらしめた造り主を仰ぎしめられるに至るであろう。彼は恩寵ぶかい賢者とせられるであろう。実に彼は山で味いとつた精神的喜びと感激を、生涯忘れることはできないであろう。



日本の殉教者達

「（殉教者の）血はキリスト信者の種子である」と言ったテルツリアヌスの言葉に裏書きされるまでもなく、不可思議な天主の恩寵に助けられて、平和の中よりもむしろ困難と迫害と苦しみとの中に於て、教会は強くたくましく発展して来た。

徳川三百年の迫害において、無慮幾万の殉教者を出した日本の教会に於ても、信者は之によって益々その信仰を固められ、塗炭の苦しみにあえぎながらも、み教を保持し続けた。特に日本の教会の光栄は、これら幾多の殉教者の中から、教会の公式の典礼中に記念される二十六名の聖人と二百五名の福者を有することである。今、日本の教会は、その両の腕に、これ等殉教者達の子孫と、殉教者の血の称りともいうべき幾多の新しい教会の子等を抱擁している。今これら殉教者達の祝日の最も多い九月を迎えて、先祖たる信仰の勇者達の足跡をしのび、その遺徳をたたえその熱き信仰に誇ることは私達の責務でなければならない。

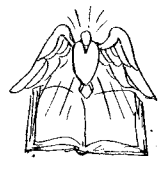
太閤秀吉によって教会の上に放れた迫害の火の手は、その後一時下火になったけれども、一六一一年徳川幕府の新な禁教令によって更めて熾烈になった。多くの宣教師が捕えられて、或は斬首され或は国外に追放された。然し、主イエス・キリストの真の教を、東洋の勝れた民族に一人でも多く知らせたい熱望は、国籍や修道会の如何を問わず、数多の宣教師を禁を犯して国内に潜入させたのである。日本の衣服に身をやつし、粗食に甘んじ、昼間は隠れて夜歩き各地を廻って信者に秘蹟を授け、未信者にも密かに教えを伝えて洗礼を授けた。二十年、三十年の間この様な労苦の中に、唯み教え一すじに働き続けた宣教師達の労苦は誠に想像に余るものがある。

この間にも幕府は、密偵を使って宣教師の隠れ家を探し、宣教師を捕えて斬首或は火刑に処したばかりでなく、家主或は宣教師に便宜を与えた者をも捕えて容赦なく投獄し或は刑場に引立てた。このような殉教者の数が長崎や大村地区で最も多かったのは、この地方が宣教師の潜入に都合よく、信者も多く、従って幕府の警戒もきびしかったからである。

捕えられた宣教師や信者達は、殆んど同じような取調べや拷問を受けた。教を棄てさせる為に甘言を以て巧みに誘惑したり、或は水責め、火責め、関節責めなどなど言語に絶する拷問を受けたが、彼等はお互に励まし合いながら、天国の為に喜んでその責苦に耐えるのであつた。中でも最も陰惨を極めたのは雲仙獄の熱湯責めである硫黄の煙のもうもうと立ちこめる地獄谷で、刑吏は教を棄てるまでじりじりと熱湯を浴びせる。皮膚は剝げ、肉は爛れて目も当てられぬ惨状を呈するけれども、殉教者達は思いをカルワリオの主の十字架にはせつつ、黙つて言語に絶する苦痛に耐えるのであつた。或る者は之によって気絶し、或はそのまま殉教する者もあつたが、多くの者には、前よりも一層悲惨な獄舎の生活が待つていた。そして天国の光栄を希望しつつ心静かに殉教の日を準備するのだつた。

今、一九二二年九月十日に殉教したカロロ・スピノラ師等五十五名の殉教の跡を辿つて、当時の殉教者のおもかげをしのぶことにしたい。

いよいよ殉教が十曜日と決つた受刑者達は、前日金曜日には、獄中にも拘らず一同大斎をなし、祈を唱え、聖歌を歌い、殉教に対する最後の準備をととのえた。恰度長崎に潜伏中のヴアスケス師が、御聖体を捧持して密かに獄中を訪れたので、一同大きな喜びをもつて最後の聖体拝領をなし、心からなる感謝の祈を捧げるのだつた。明けて九月十日、既に二十六聖



みんなのための聖書

(4)

聖書のメツセージ

この率直な信仰宣言の故に聖書は古代のすべての文書の中で、特殊の地位を占めていると見られます。歴史的研究に照らしてみても、聖書ほどにはつきりと信仰の宣言をしている神などと種々の名称が挙られていましたが、それは多神教を示すものではありませんでした。聖書の民も、周囲が全く多神教の腐敗に汚されていたためになかなかきわどい所まで誘惑されたものでありますが〝存在し給う唯一の御者〟に対する信仰だけは、犯されることなく保ち続けることができました。

一寸説明し難いこの事実を見ましても、ヘブライ人の書、即ち聖書が他の書物とはちがつた部類に入るものであることの証拠になると思います。

八月十二日（日）のミサ聖祭の説教に始まり、午後二時からお盆が始まつている市営墓地内の教会墓地三〇〇坪の一斉清掃を三十五度の炎天下に行つた。十三日、十四日は午前五時半よりミサ聖祭、説教、告解があり、子供を除いて大人二百名ばかりが、出勤前早朝の一時間を静かに祕蹟にあづかり、連続説教の聖母の謙遜、聖母の信仰、聖母の愛について聞き、身近かな各人の生活を聖母マリアの模範にてはめることを反省させられ、日々の生活環境の聖化に努力し神の光栄を讃美するべく決心を新にした。

十五日聖母被昇天の大祝日を祝い、この日の荘厳ミサは数年間停止していた宮崎カトリツク学生連盟が復活しそのコーラス奉仕によつて捧げられた。又この日大人十四名の受洗者があつたことは大きな喜びであつた。

十六日は教会墓地に於て早朝ミサ聖祭が死者のためにささげられ百五十名ばかりの人々が、世の終りに復活する血を分けた肉身の眠る墓石の間にひざまづき、或は煉獄の霊魂のために祈り、或は凱旋の教会の霊魂に祈り、身近かにカトリツク教会の神秘体を感じながらミサ聖祭を拝聴した。折柄台風第九号の接近による強風が次第に風速を増し始める中を各々の職場へと急ぎ、かくてこの夏に於ける一連の錬成会を終つた。

宮崎教会で

夏季錬成會

宮崎教会では宮崎市内を十三地区に分けて各々代表者、副代表者が任命され、毎月一回代表者会議と各地区毎に信者の家で集まつている〝聖母の集い〟が二年前の聖母聖年を機会に発足し、信者の信仰を強めるために、離れた信者を再び教会に導くために、又布教のために続けられて来たが、この聖母の集いを通じて信者の方から夏季にも錬成会の開催を希望された ダニエリ主任司祭指導の下に、殉教者の尊い血を吸つたここ長崎立山の刑場には、朝から数十本の火刑の柱が立てられていた。受刑者達は整然と列を正して刑場に向う。彼等も人の身、その心中にはいろいろのことが去来したに相異ない。然し既に一切の覚悟は整つている。目指すは一つのみ。この悲惨の後に続く永遠の栄光。中にはこの日の為わざわざ晴着をまとつた者もある。人々は道々に祈り、讃美歌を歌い、そして群る人々に教を宣べた。刑場に着くと、刑吏達は先づ宣教師、修道士、及び教会の為特別に働いた人を火刑の柱に荒々しくしばりつけ、その面前で他の人々の斬首の刑が始められようとする。カロロ・スピノラ師は愛する信者達に最後の祝福を与えた。いよいよ斬首の刑が始まると、師の口から詩篇「ラウダテ」が歌い始められ、一同之に和したその歌声は、並居る群集と谷間にこだまして、感謝の讃美となつて天空高く天主のみ許に消えて行つた。いよいよ新に火が放たれると火刑を受ける殉教者達は、最後の熱烈な祈を天主に献げ、或る者は群衆に対して最後の説教を試みたそして長い苦悶の後「イエス・マリア」の御名を唱えながら、静かに息を引き取つて行つた。

長崎奉行は殉教者達の遺物が残らないように、遺体を残らず灰にして海中に捨てさせた。

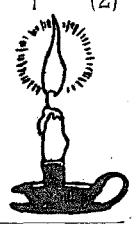
肉体は滅びた。然し殉教者の尊い血は今も日本の土に深くしみこんでいる。キリスト信者の種子となつて豊饒な稔りをもたくすために！

（H）

私たちは日常生活のうちで、何の不思議なもないような顔をしてくらしています。風が吹いたーあそうか。日が照ったーああそうかー。バラノ木ニバラノ花咲ク。何ゴトノ不思議ナケレド。という詩があります。まさにその通りです。しかし不思議と思っていないものを何故と考えたら、どうなることでしょう。バラノ花がなぜ咲くのか。恐らく生長ホルモンの作用でしょう。ではなぜ生長ホルモンがーこれは今、学者たちが探求しています。これが生物学なのでしょう。

これと同じように、私たちのことを考えてみましょう。夜ねる、明朝、人は必ずさめると確信しているから、安心してねむり、朝になると、あーよくねむれた。といつて起きて来ます。しかし、本当にあたり前のことでしょうか。一体、明朝必ず自

暗より光へ (2)
―死刑囚の手記―



家族の中から一人の犯罪者が出ると、誰でも恥しくて世間に顔向けができぬようになります。殊に田舎程この傾向は強く、犯罪者の身上を安じつつも世間態を先に考え、自己保全策に頭をなやます者も多く、世間に顔向けができぬようにされたと悪口し怒り、果てはそつぽを向いて身内であることすらひたかくしにし、関係のない者であるかのようによそうのが犯罪者の家族に多いのです。

私の場合もまた大同小異でありました。しかし幸いなことには数多い親戚の中にただ一人、カトリツクに入信していた姉がいたことは、今日あるを知り給うた神が私のために備えて居給うたのだと、今は新なる感謝で祈つています。仏教徒の家柄である私共も、姉がカトリツクであることは別に問題にしていなかつたが、主人をなくしたあと女の細腕で四人の子供をよく育て上げ、それぞれ恥しからぬだけの教育を仕上げたことは信仰によるものだと皆なカトリツクに対しては好感さえ持つていました。しかし一つの難をいえば、何事にも地味で表面に出ることを嫌つていたので、例えば祝い事があつても時間を無駄にせず、冗費と思われることには同意しないで用事が済むとさつさと引揚げて行くのが、田舎の根強い因習にこだわる人達には喜ばれていなかつたのです。

全く突然の私の犯行には皆な驚き、家族も友人もただ呆然としていました。新聞は先を競つてある事ない事書き立てるので、世間の人の悪評の声は日毎に高まり、家族一同愈よ処置に迷つておりました。

ところがこの時、すべてにひかえ目であつたカトリツクの姉は皆の口をふさぎ、「弟の世話は私が致します」と自ら進んで引き受けたので、その毅然たる態度に皆の目を見張らせました。

まだその頃の私は検事の取調べがすまず、面会も通信も全く禁ぜられていたのですが、姉は単身係の検事室の戸を叩いたのです。「私は弟を救わねばなりません、御無理とは存じますがどうか面会させて下さい」と姉は検事に懇願しました。すると検事は「救うとおつしやつても、これだけ証拠が上つては貴女にそれが出来ようとは思えませんが……」と答えるので「いいえ、私が救いたいと申しますのは法律に関することではありません。弟に、犯した罪を明確に認めさせ、自らを静かに反省する心の眼を開けてやりたいためでございます……」と二回、三回と願い出ましたが、検事は容易に聞き入れてくれませんでした。

姉は何度拒絶されてもひるまずしつこいと思われる程に懇願し続けたので、流石の検事も弟を思う姉の必死の願いに心動かされ、「どれほど言われても面会は今のところ許す訳には行かないから、この用紙に用件だけを書きなさい。差支えなければ私が本人を呼び出して読んで聞かせてあげよう……」といつて与えられた用紙一枚に、鉛筆で走り書きしたのが前に述べた姉からの便りでした。

検事は私を呼び出して右の事情を語つて姉の手紙を渡しました。この手紙を読んで私の態度が変つて来ました。警察官に対する感情から黙否権を使つて取調べを残々手こずらせていた私も、検事にだけは少しずつ話すようになりました。

しかし姉はこれで満足出来ず更に検事の所に日参し熱心に面会を懇請するので、とうとう検事室での特別面会が許されました。

これ程の思いで姉のいることはまだ私は知らず、訳もいわずに検事室に呼び出された私は、其処に姉の姿を見て驚きそして頭を深く垂れました。姉の目には涙が光つていました。それは私の犯行を神と人とに詫びるものでありましたが、まだ信仰を知らぬ私は、それは私の罪に対する無言の抗議としか受取られず、きつい意見を聞くものと覚悟をきめていました。しかし姉は自己の信奉するキリストの御教えを諄々と語るのみで、私の犯した罪に対しては責めないのみか一言も触れないので、私の犯行も知らない者のようにただ愛の数を説き聞かせるばかりでした私は姉の語るキリストの教えにもまして、重罪人のこの弟を持つた悲しさを色にも出さず、多忙な身で熱い愛情を注ぎ続ける姉の誠心に心打たれました。検事の前で臆することなく信仰の道を語る姉の勇気に驚きました。信仰に生きる者の何ごとにも動ぜぬ、たくましい魂を私は姉に見ることが出来たのであります。そしてかよわい姉を、こうも強い者に育てたカトリツクに対して、驚異を感じ心を惹かれるようになり、別れを告げ検事室を出ようとする姉を追い縋るようにして私は「姉さん私も早く聖書が読んでみたい……」といいました。この私の言葉が翌朝の新聞紙上に発表され、それを見た一人の未知の信者さんから、聖書と数冊の本が送り届けられました。

その頃まだ読書を禁じられていた私は、無理に願つて聖書だけが許され、文子通りむさぼり読みました。こうして闇の子は姉がもたらした光に眼を開き、信仰を求める身となりました。（つづく）

不思議なことだらけです

鬼木保之

しかしもし自分がそうなつたら、

不思議と思うところから、学問が始まり、科学が目を出し、宗教が生れます。

宗教というと普通、科学を無視すると考えられるようですが本当の宗教はそんなものではないと思います。真理を求めるものーこれが宗教です。科学も勿論そうです。そして真理が一つならば、それを求めている宗教も科学も矛盾するはずはありません。もし矛盾するとすれば、それは本当の、真の宗教とはいえぬだろうと思います。迷信、邪教といわれるもの、判断はこれからもつくでしょう。

ですから、不思議だなあ、と思う心をおこすことが第一に必要なことです。これを全くもたぬ人はまあ、気の毒ですが、酔生夢死の縁なき衆生でしょう。そしてこんな人々は、その日その日を生活し、金と名誉と地位にあくせくして、二度とない人生を終つてしまいます。

人は生れる時はだかですからがあけるでしようか。或いはドロボー、或いは台風、或いは火事、その他いろいろ。

人間というものは、その場合他人はともかく、自分は大丈夫と思つているようです。十人中九人は死ぬ場所に行つたとしても、自分は或いは生きてもどれてくると思つているようです。

死ぬ時もはだかです。あくせくして得た金、名誉、地位は、或いは葬式を立派にし、造花屋をよろこばせるかも知れませんが、ただそれだけのことです。

ただそれだけで、二度と来ない人生をすごして良いでしようか。もつたいないと思いませんか。

身のまわりを見て、不思議と思いましよう。子供のように、すべてのものに「何故?」と考えてみましよう。そうすれば、何か新らしいものが見えるはずです。

求めよ、さらば与えられんたずねよ、さらば見出さんという言葉が思い出されますそして一層深く入つて行けばたたけよ、さらば開かれん科学の上にたつ真理への道、宗教の道がそこにあるのを見出すでしよう。

★……　……★

学究への誘い

まず新しい真理の音律。
だが、ちようと待て。
君を夢中にしているのは、
真理なのか、
新しさなのか、

あせちか

質問欄

霊魂の不滅と動植物の生命について

【問】公教要理に、霊魂がなくならない理由の一つとして、「霊魂は複合体でないから分解することがない」とあります。動物の生命も単純不可分と思います。草木、鳥類、動物などの生命について説明して下さい（福岡・一高校生）

【答】生命とは自己運動を意味します。自己運動にはいろいろの段階があります。例えば、植物には生長生命があり、動物には感覚生命があり、人間には精神生命があり、更にその中にもいろいろの種類や様態があります。

生命とは、このように外部に現われた自己運動の現象でありますから、そこには当然、生命の原因が存在しなければなりません。その原因、つまり生命原理が魂と呼ばれます。植物の特徴は生長生命（植物的感覚も含めて）にあるので、その生命原理を生魂と呼び、動物はこれに更に感覚的生命を加えるので、その生命原理を覚魂と名付けております。草木、鳥獣など動植物の生命現象をよく調べますと、それらが物質的機械的であつて、物質的機械的な一定条件の下にしか存続しえないことに気づくでしよう。或る生物が生息するには、温度、湿度、酸素の濃度などの外部的条件と、生物の肉体的機械的構造が完全であるという内在的条件を必要とします。つまり例えば摂氏六十度では普通の生物は殆んど生息出来ませんし、また視覚機能が破壊されると視覚生命は弱るか或は死滅します。以上の事実から、動植物の生命は、物質的機械的な一定条件の下にのみ生存しうる複合的生命であることが理解されます。

肉体的生命だけを取上げるならば、人間についても同じことが言えるでしよう。視聴覚或は、意識記憶、想像などの内外の感覚器管や、消化、呼吸などの器管に至るまで、他の動物と同じく一定の有機的条件下にのみその機能を発揮し、その条件が失われると、機能は停止し生命は地上だけで、死後の世界など存在しないと考える人があるのも、或は反対に、人間の魂が不滅であるならば、動物の魂も不滅であると考えるのも、動物と人間との外部的な生命現象だけしか考えず、その相互の近似性に幻惑されているためです。

では何故人間が人間であり、また来世にまで遭る生命を有するかと言えば、それは霊魂を有するからです。霊魂は天主に像られた霊で、人の生命と精神的作用の根源であると公教要理は教えます。

ここで精神的作用とは理性や意志の作用を意味しますが、この作用のために人間は他の動物と根本的に異つております。それは単なる程度の相異ではなく本質的相異です。例えば、抽象、判断、推理などの理性の働きや、そのもたらす学問的進歩、或は希望し、意図し、選択する意志の働きやその結果たる責任や道徳など、人間に独特のものであつて、人間の霊魂と動物の覚魂との本質的相異を証明しています。この相異は、覚魂が物質的生命原理であるに反して、霊魂が霊的生命原理であることに由来します。例えば人間の抽象作用を見ても、感覚を通じて捕えられた物質的事物の映像から、非物質的相感覚的概念を作りますが、この事実から推論しても、人間の生命の営みには、その根源に相感覚的霊的な、従つて単一の（複合ではない）生命原理（＝霊魂）の存在が明らかであります。何故ならば物質的なものから非物質的なものは生れませんから。

他の動物の場合と同様に、死によつて人間の感覚的生命は失われるでしよう。しかし理性と意志との根源である霊魂は、不滅のまま霊の世界に残るでしよう（畑原）



霊魂の不滅と動植物の生命について

【問】公教要理に、霊魂がなくならない理由の一つとして、「霊魂は複合体でないから分解することがない」とあります。動物の生命も単純不可分と思います。草木、鳥類、動物などの生命について説明して下さい（福岡・一高校生）

【答】生命とは自己運動を意味します。自己運動にはいろいろの段階があります。例えば、植物には生長生命があり、動物には感覚生命があり、人間には精神生命があり、更にその中にもいろいろの種類や様態があります。

生命とは、このように外部に現われた自己運動の現象でありますから、そこには当然、生命の原因が存在しなければなりません。その原因、つまり生命原理が魂と呼ばれます。植物の特徴は生長生命（植物的感覚も含めて）にあるので、その生命原理を生魂と呼び、動物はこれに更に感覚的生命を加えるので、その生命原理を覚魂と名付けております。草木、鳥獣など動植物の生命現象をよく調べますと、それらが物質的機械的であつて、物質的機械的な一定条件の下にしか存続しえないことに気づくでしよう。或る生物が生息するには、温度、湿度、酸素の濃度などの外部的条件と、生物の肉体的機械的構造が完全であるという内在的条件を必要とします。つまり例えば摂氏六十度では普通の生物は殆んど生息出来ませんし、また視覚機能が破壊されると視覚生命は弱るか或は死滅します。以上の事実から、動植物の生命は、物質的機械的な一定条件の下にのみ生存しうる複合的生命であることが理解されます。

肉体的生命だけを取上げるならば、人間についても同じことが言えるでしよう。視聴覚或は、意識記憶、想像などの内外の感覚器管や、消化、呼吸などの器管に至るまで、他の動物と同じく一定の有機的条件下にのみその機能を発揮し、その条件が失われると、機能は停止し生命は地上だけで、死後の世界など存在しないと考える人があるのも、或は反対に、人間の魂が不滅であるならば、動物の魂も不滅であると考えるのも、動物と人間との外部的な生命現象だけしか考えず、その相互の近似性に幻惑されているためです。

では何故人間が人間であり、また来世にまで遭る生命を有するかと言えば、それは霊魂を有するからです。霊魂は天主に像られた霊で、人の生命と精神的作用の根源であると公教要理は教えます。

ここで精神的作用とは理性や意志の作用を意味しますが、この作用のために人間は他の動物と根本的に異つております。それは単なる程度の相異ではなく本質的相異です。例えば、抽象、判断、推理などの理性の働きや、そのもたらす学問的進歩、或は希望し、意図し、選択する意志の働きやその結果たる責任や道徳など、人間に独特のものであつて、人間の霊魂と動物の覚魂との本質的相異を証明しています。この相異は、覚魂が物質的生命原理であるに反して、霊魂が霊的生命原理であることに由来します。例えば人間の抽象作用を見ても、感覚を通じて捕えられた物質的事物の映像から、非物質的相感覚的概念を作りますが、この事実から推論しても、人間の生命の営みには、その根源に相感覚的な、従つて単一の（複合ではない）生命原理（＝霊魂）の存在が明らかであります。何故ならば物質的なものから非物質的なものは生れませんから。

他の動物の場合と同様に、死によつて人間の感覚的生命は失われるでしよう。しかし理性と意志との根源である霊魂は、不滅のまま霊の世界に残るでしよう（畑原）

◇ぶつくがいど◇
カトリック生活
ドンボスコ社刊

文芸春秋や中央公論には毎月目を通す習慣のある者も、カトリツクの雑誌となると、手に取つてみることさえ少ないことが多い。

それは、カトリツクの雑誌が世間の店頭に出ないということも一因かもしれないが、まず、読んでもあまり面白くないという先入観があるためであろう。取りて読め、思つたより面白いものである。勿論世間の雑誌のように時事的な評論は多くはないが、流れる時の動きを永遠の光の下にみたものであるだけにその中に、充分不動なる真理を感得せしめるに足るものがあり一読して捨て去りがたいものが多い。

それぞれの向きに応じて編輯された、これらのカトリツク雑誌の中でも、特にカトリツク生活はその白眉といつてよいであろう。近頃視覚教育が非常にやかましく叫ばれて、雑誌の中にも絵や写真が豊富に取り入れられるようになり、朝日グラフや世界画報、その他映画や演劇のものに至つては枚挙に暇なく、近年頓にその需要が伸びているということである。その中にあつて、カトリツク生活はこれらの時代の要求にぴつたりあつた雑誌といえよう。毎頁に豊富な写真や挿絵があり、しかもこの種の本にありがちな、安きに流れ浅きにつくの弊を、説明によつてよく補つている。六月には現教皇、七月には司祭、八月には当世青年気質という風に、毎月主題となるものを設けて、記事が散漫になることを防ぎ、その説明とともに、各方面からの人の意見をただして、内容をいよいよ豊富にし、公平にし、興味深くせしめている。特に特輯の頁に関しては、有益なものが多く、司祭の箇所などは、読んでいるうちに思わず男泣きに泣かしめられた。これらの文は充分保存にたえるていいのものであり、布教の会などにかいつまんで話すのには、蓋し絶好であろう。八月号には、あなたのユーモア感覚拝見というのがあつて十の質問がでていたが、面白い試みだと思う。このような記事が毎月掲載されるのも楽しい。また表紙裏の映画案内も、現在のわが国においてはこの種のものが皆無であるだけに、映画を観ていやな思いをしないための貴重な一頁だと思う。誰か、病院や会社、銀行などの待合室にそつと一部置いていくだけの奇特な人はいないものだろうか。定価は三十五円。

（F）

○・C全研に参加

カトリツク青年労働者連盟第四回全国研究会は八月十八日から三日間、男子組合員は横浜聖ヨセフ学園、女子組合員は雙葉学園を会場として開催されたが、九州地区からも約七十名のジヨシストが指導司祭七名と出席。なお福岡司教代理として平田勇師が列席した。



映画「聖アントニオ」
琵琶崎で上映

八月二十二日夜熊本市琵琶崎待労院と聖母愛児園で映画「聖アントニオ」を上映。幼稚園父兄および附近の信者約五〇〇名が観覧した。

上映希望者は司教館に

映画「聖アントニオ」全二巻（上映時間約一時間半）は聖アントニオの生涯を描いた信者向き映画。上映希望者は司教館の平田信行氏までお申込み下さい。

糸永武夫師九大入院

二日市教会主任糸永武夫師は右足部の傷のため八月十七日福岡九大病院第二外科に入院、近日中に手術をうける予定。なお同師の不在中には畑原師が毎日曜日のミサその他の聖務を続ける。

宮崎地区にレヂオ・マリエ

延岡・富高にレヂオ・マリエが発足した。七月末、福岡コミチウムより訪問して、レヂオの説明をしたが、九月の上旬再度訪問し、その結果、正式に承認の予定である。

福岡のレヂオ・マリエの現況

福岡コミチウムは熊本、大分、北九州、久留米の各クリアを含んでいる。プレシディウム数は、シニア三七、ジユニア八、カレツジ一、未承認三、合計四九である。

浄水通教会で堅振

八月五日（日）八時半のミサで浄水通教会信者十七名が受堅。

司祭異動

新田原教会主任アルチユス師は九月上旬より十二月中旬までフランスに帰国する。その間呼子教会助任牧山重光師が臨時に信者の司牧に当る。

コロンバン会
E、ホーガン師
M、マロニー師
任手取教会助任

ミラノ会
C、サツツアルヂ師
M、リツカルド師
任佐賀教会助任



可認敎司堀深
通水浄市岡福　所行発
館敎司岡福
兼　敏　堀　深　人集編発
定価　一部　十円

科學と宗教

（講演要旨）

九州大学教授理学博士
桑原万寿太郎

二〇世紀の人間の生活は科学、特に自然科学の驚くべき進歩によつて大きく特徴づけられているといえるであろう。人々は限りなくみえる科学の進歩による恩恵に目を見張り、科学への信頼は日増しにつのつている。

まことに、現代生活は科学なしにはあり得ないし、科学なしに人類の今後の発展は考えられないだろう。自然の理法を更に深く極め、自然力を更に有効に駆使することは、人類の発展にとつて不可欠であり、それなしに資源の枯渇も救い得ないであろう。私も亦この科学に一生を捧げて悔ゆる点はない。

だが、然し、科学を万能と考える思想が正しいか。科学万能の現代に宗教等は古くさい、それは科学とは相容れぬものである、といつた思想は正しいか。

人は科学によつてすべてを知り、すべてを征服し、全能であり得るのかと反問せねばならぬ。目下世界人類の最大関心事である原水爆の脅威を考えてみるだけでもよい。原爆も水爆も科学の成果である。原子核を破壊すれば物凄いエネルギーが得られる事が理論的に考えられ、原爆の実現によつて正にその物質の究極に関する科学の理論の確実性が証明されたようなものである。

われわれは科学のこの成果の裏に将来のエネルギー問題の解決に大きな期待を持つと同時に、誰もが切実に知る如く世界人類はそれによつて亦不安のどん底に追い込まれている。之を救うものは唯科学自体であり得ない。人類の道義の問題なのである。国家、民族を超えて世界中の人間が、人類共通の生存の目的は何であるかを深刻に考える必要に正にせまられている。科学はそれには答えてはくれない。

科学は時間と空間のわくの中であるがまゝの現象をとらえるだけである。自然そのものの存在の目的について何も語る資格はないのである。われわれは自然を超えてすべてを創造し、すべてを司配するものゝ意志に直接間わねばならない。そしてそれは早私共の理性の能力の限界を超えるのである。

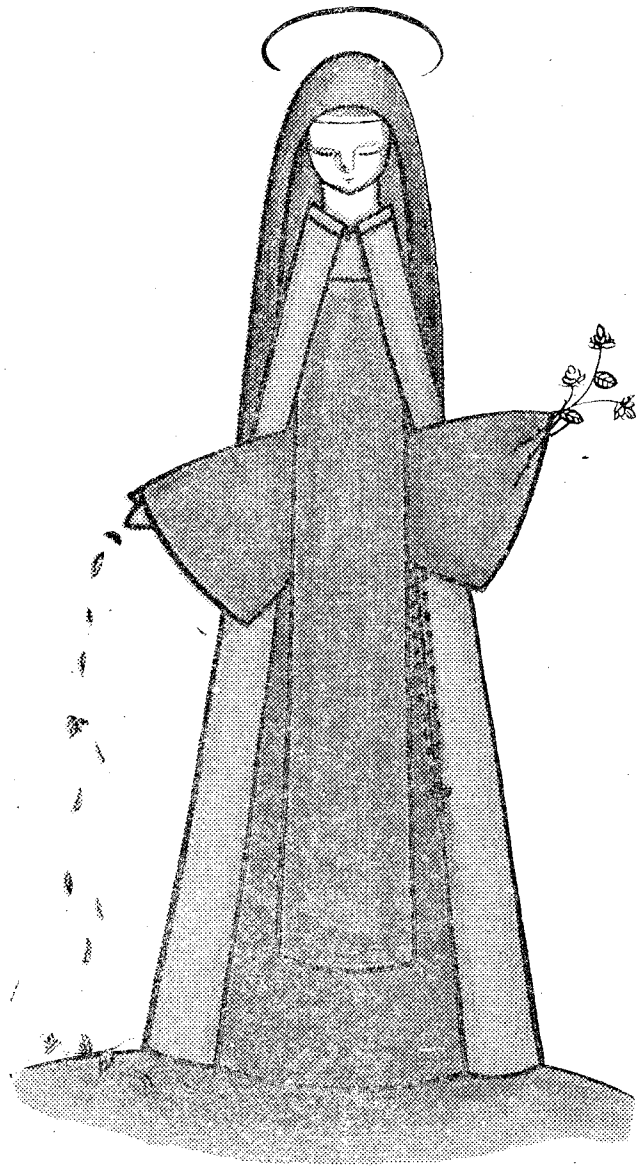
信仰を経てのみ到達し得る世界なのである。絶対なるもの―神―に二つはあり得ない。唯一の神はその最高の創造物である人間に明かに唯一の道を示し給うのである。世界人類はその一筋の道を発見し得ずしては絶対に真の平和への道を歩み得ない。

唯物的思想は人間を物質に迄ひき下げようとする。成る程われわれの身体は生物学的にいつて物質の複合にすぎない。だからといつて人間そのものは物質に尽きるのだろうか。われわれの肉体を構成している物質は瞬時もたえる事なく交代している。脳髄の細胞についても同じである。そこにはもつともはげしい物質の交代がある。したがつて一〇年前の私を構成していた物質は骨の一部くらいをのぞいて全く今の私の中に存在をとどめてはいない筈である。それにもかゝわらず一〇年前の私は今の私と同一の私である事を何ものにも増して確実に知つている。この私は何であるか。

私の感覚も意識も物質的肉体の構造に依存している。それと共に亡びるであろう。然しながら、明かに物質を超えて私の中に単一である霊的な私を発見しないわけにはゆかない。之は超自然的存在であり、科学の及び得ない実体である。時の流れの中に亡びるものでなく、科学がその存在を否定する資格も亦証明する資格ももたないものである。

宗教は霊の世界にかゝわるのである。科学が如何に物質界の法則をきわめても、一指だに干渉し得ない世界なのである迄に科学の知識は、人間の地上に於る生存の真の目的が、正しい信仰の光によつて、明らかに照らされた時にのみ人間にとつて宝刀たり得るのである。科学を進めていく理性の動きは信仰とは無関係でなければならない。然しその成果は理性が正しく働かされる限り、信仰の世界に於る正しき神の啓示と矛盾する筈もないし、得られた成果は信仰の光に照らされてはじめて、行動を誤らせない道具ともなり得るのである。

原、水爆の問題も皮相的な政治的な立場などから云々されてよい問題ではない。世界人類が根本に返さかのぼつて、真剣に反省せねばならぬ大問題をはらんでいる事を私は強調したいのである。



布教の保護者　聖女テレジア

苦しみの意味

世の光

「私は私の苦悩にふさわしくなくなることだけを恐れた」。このドストエフスキーの言葉をしばしば頭に浮べて「その苦悩にふさわしく」あるように努めたウイン一心理学者の手記、即ち第二次世界大戦中のドイツ強制収容所における体験記録「夜と霧」を読むと人間精神の偉大さに今更のように感銘させられる。

それは小説家が純理論的に又は想像にたよりながら物した〝いかにもありそうな〟物語ではなくて〝最もありそうにない〟体験事実を客観的に良心的に記述した、恐しい、でも内容の違いこそあれ矢張り苦しみにあえいでいるわれわれに強い希望を感じさせる記録である。

著者が手記を発表したのは、収容所の地獄さながらの生活の真相を、最大限の形容詞を用いて第三者に納得させようとしたのではなくて、絶望と闇暗の中におかれても尚人間はそれを克服する精神力を持ち得ることを述べようとしたものである。

しかし彼はここで心理学者として観察し、結論しており、そういう事実を述べながらも決してその力の高い源泉についてはあきらさまに触れていない、それは彼の立場を越えることであるから。

ここに記された文字を一語々々味うように読んで驚きを感じさせること、それはこのような戦慄すべき運命に対してさえ著者が感謝していることである。著者と少数の人々はひよわい五体を圧倒するような外的強制に屈せずに勝利を収めているのである。一見説明のつかないこの感謝の気持は〝以前の日常生活で恐らく決して到達したことのないだろう人間的偉大に達することのできた〟ことに対する喜びであり、感謝なのである。

著者はここで収容所内の或る人たちが実際に達することのできたある倫理的な高みが、どういう風にして達せられたかを心理学的な立場から説明し証明してゆくのである。それは結局一つのことに約るのであるが、具体的に列挙してゆくと次のようになる。

先ずこういう外的な困難におかれてそのみじめな犠牲者とならないためには――即ち人間の高貴さを失つて奴隷根性におちないためには、内面的な拠り所をもつことである。

影のその身に従うように一生われわれをつきまとつて離れない苦しみの状態において、内的な拠り所をもつことが何を意味するか想像に難くない所である。大海原に投げ出されて水平線上何物も見えない難破者の心境を考えて見るがよい、腕に力を入れて泳ぐことと泳いで行く方向をきめることとどちらが先決問題であるか言わずと知れている。

若しそれがどうしても決まらないならば彼は泳ぐ力をもちながら精神的に参つて了う。それは体力の問題でなくて、むしろ精神力の問題である。収容所内でも最後まで生き残つた者は体力に自信のあつた者でなくて、むしろ虚弱であつても自分達の生きる目標をもつていた者であつたと著者は言つている。

従つて生活目標をもつて苦しみの意味を悟ることによつて始めてわれわれは生きる力、苦しみの力を得ることができる。目的をもたなければ未来に望みをかけることはできない。未来がなければ過去に生きるか、現在にのみ生きるかの外はない。過去に生きるものは苦しみの価値を認めることができないし、現在にのみ生きるものはわれわれが人生から期待しているものも、人生がわれわれから期待していることのできた心理的治療であるが、彼が心理学者としての立場に良心的に留るために故意に発言をさし控えた分野が残つている。

著者自身そうであつたように、時々刻々苦しみの矢面に立つているわれわれは、学者に個有の客観的立場から自分の苦しみを観察することでは済まされないのであるわれわれが欲しいのは方法の認識でなくて力そのものである。人生目標の必要よりも目標そのものを知り度いのである。目標を見定めることができて始めて、苦しみの意味も犠牲への勇気も湧いてくるのである。

われわれの著者はそれを知つていた筈である、だから彼は囚人として苦しみ、そして人間として勝利を得たのである。彼が絶対の信頼をかけていたのは自分の作つた心理治療法に対してでなくて、それを越えた全能者であつたのであろう。

×　×

（深堀　敏）

永久聖体礼拝

十月

七日　呼子教会
十四日　崎津教会
廿一日　臼杵教会
カルメル会
廿八日　高宮教会
手取教会

祈禱の使徒会

十月

【一般の意向】子女教育における両親の権利

両親の子女に対する教育の権利と義務は神からのものであつて、結婚の最も大切な目的でもあります。

子女の教育の目的は精神と肉体の発達をはかつて完全な成人たらしめることであり、超自然的には洗礼によつて再生したものが完全なキリスト信者となるよう導くことであります。そしてそれには三つのことが含まれている。❶肉体的配慮―健康―❷智的配慮―学問―❸道徳的配慮―宗教と道徳。

❶健康について、肉体的な衛生だけでなくて、精神衛生にも心がける。テレビで夜ふかしする癖のある子供のことを考えるがよい。

❷学問について、学校と家庭とのタイアツプを計る、家庭でよく勉強できる環境を整えてやる。能力にあまる学校にむりに入れるようとしないこと。

❸道徳教育について、親の生きた模範が第一、次に子供の意志を強固にするよう努めること。

今月はむつかしい子供をもつて苦労している親のために祈る。

【布教の意向】布教に必要な近代的設備が信者の協力によつて補充されんことを

【希教委員会の意向】新興宗教のため

十月

ロザリオの月

二日（火）　守護の諸天使の祝日

三日（水）　布教の保護者幼きイエズスの聖女テレジア童貞

布教のためにはイエススの手となり足となつて働く使徒も必要であるが、テレジアのように聖主の愛となつて、イエズスを人々に与えることもできる。

四日（木）　アシジの聖フランシスコ証聖者

七日（日）　聖霊降臨後第廿の主日

いと聖きロザリオの祝日

〝ロザリオは世界の悪徳に対する偉大な治療手段である〟

那珂町教会で堅振

九日（火）　教区司祭月例集会の日

十一日（木）　天主の御母なる聖母マリアの祝日

天主の御母にて在すことは聖マリアの数多い称号の中でも最も高いものである。われらの祈りも讃美も凡ては聖母が天主の御母にて在すが故に捧げられるのである。

福岡ピエ・デイセポレ修道院落成式

十四日（日）　聖霊降臨後第廿一の主日

カトリツク信者とは甘い感傷にひたりながら祈り三昧にふけるものではない。目に見えない敵は虎視たんたんとわれらを狙つている。神の武具をつけて戦おう。

今村教会で堅振

十五日（月）　アヴイラの聖女テレジア童貞

女子跣足カルメル修道会の改革者、大神秘学者、「完徳の道」などの著がある。

十七日（水）　聖女マルガリタ・マリア童貞

十八日（木）　福音史家聖ルカの祝日

十九日（金）　アルカンタラの聖ペトロ証聖者

廿一日（日）　聖霊降臨後第廿二の主日

布教の日

〝すべての人が救いを得、真理を知るに至ることをのぞみ給う神よ、願わくは、主の刈入れに働き手をおくり、彼らに、全信頼をもつて御言葉を告げさしめ給へ。主の御教えが、全世界にひろまり、尊ばれ、万民が、唯一のまことの主、そのつかわし給うた御子、われらの主イエズス、キリストをみとめんことを〟

今日の献金は全部ローマの布教聖省に送られる。

レヂオ、マリヱ八幡コミチウムの集り

司教ミサ（前九時）

廿四日（水）　大天使聖ラフアエルの祝日

廿八日（日）　聖霊降臨後第廿三の主日

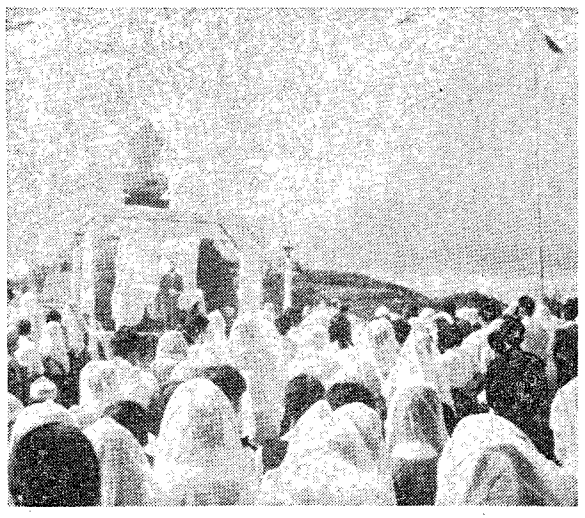
王たる我が主イエス・キリストの祝日

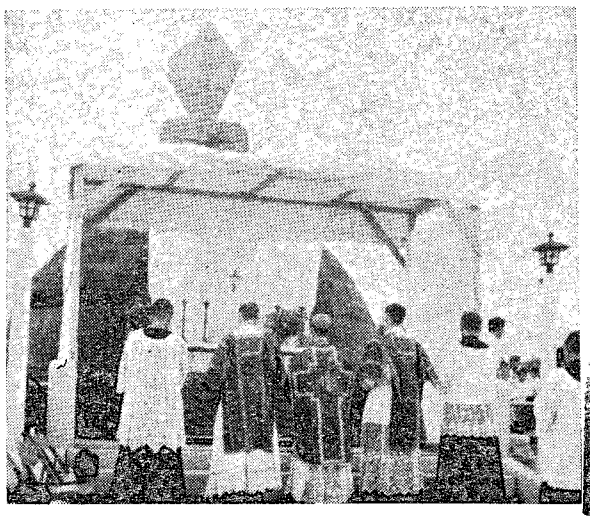
〝全能永遠の神よ、御身は、かれにおいて、また、かれによつて、すべてを改めるために、愛し給う御子を宇宙の王と定め給うた。願わくは、罪の傷になやまされるすべての国を、イエズスの甘美な覇権の下に服させ給え〟

新田原教会で聖体行列

廿九日（月）　聖シモン聖ユダ両使徒の祝日

本渡千人塚で
天草カトリック殉教記念祭
講演と司教荘厳ミサ





カトリツクの信仰と文化とが渾然一体となつて栄えていた天草の地に、今を去る三百年まえ大禁教会が布かれて以来始めてと思われる宗教祭典たる天草カトリツク殉教記念祭―福岡司教区主催、本渡市天草観光協会後援―は長雨のあがつた九月十六日（日）午後三時より地元および全熊本県下より参集した約八百名の信者、本渡市民多数列席のもとに、本渡市城山公園の千人塚で荘厳にとり行われた。

この日どしや降りの悪天候をおかして熊本市地域、八代、水俣地域の信者が、それぞれ貸切の船で本渡市に上陸。大江、崎津の信者数百名もバス四台で続々つめかけた。正午過ぎ思いがけず雨が上つて晴れ間が見え始めたので、本渡高等学校を出て最初の予定であつた城山公園に向う。

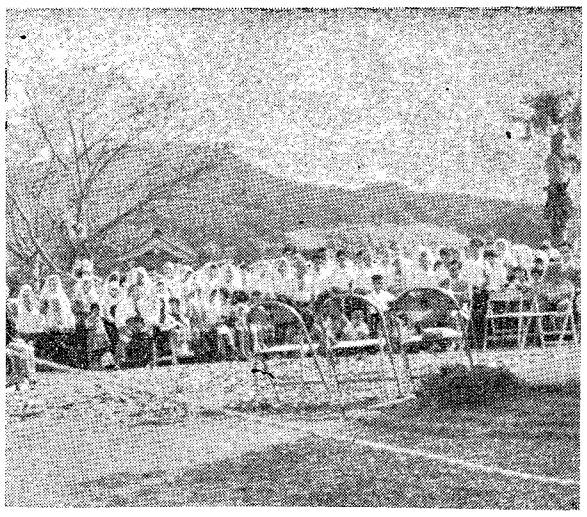
定刻三時全員整列した中で国歌斉唱、国旗掲揚、石井熊本教会教区委員長の開式の挨拶につづいて市長メツセージが読み上げられ、長崎純心女子大学の片岡弥吉教授と九州大学理学部の桑原万寿太郎教授がそれぞれ「天草とキリシタン」「宗教と科学」と題して講演を行つた（別項掲載）

やがて熊本信愛女学院聖歌隊が「エツチエ、サセルドス、マニユス」を合唱するまに深堀司教司式の荘厳ミサ聖祭が始められ、日本が生んだ偉大な聖殉教者、特に天国に在つて、われらを見守る天草島の信仰の証人たちに讃美と保護を熱願した。時あたかも司教説教中に本渡の海上にかかつた虹は、天と地とをつなぐ友情のしるしであるかの如くに見られた。

ミサ後全信者が力の限り斉唱した日本聖殉教者の讃美歌は夕霧の立ちこめるキリシタンの聖地天草の山々に何時もこだました。

ちなみに殉教戦千人塚の碑は、カトリツク教会のいう真の意味の殉教の聖地ではない。

（写真上は講演中の片岡教授、その右は司教ミサ、左下は天草殉教者に祈る信者）



天草とキリシタン（講演要旨）

長崎純心女子大学　片岡弥吉

明媚な風光によつて人々の眼をよろこばせる天草は、十六世紀以来こゝに咲いたキリシタンの信仰の美しさに、内外の人々の心をひきつけている。天草キリシタン史は❶信仰弘布期❷殉教期❸潜伏期❹復活以後現代に至る期間、の四期に区分される

❶信仰弘布期は一五六六年アルメイダ修士（府内に医療事業を興したイエズス会員）の志岐布教にはじまり、一六一四年の大禁教令に至る四十八年間で、時により教勢の消長はあつたがその最盛期たる一六〇〇年に、志岐の本部にはセルケイラ司教が臨時司教座を置いており、河内浦、本渡、上津浦には常駐教会、天草各地四十五ケ所に教会堂があつた。この年、天草諸島には司教一、司祭六、修士十名があり、住民殆んど全部がキリシタンであつたという。

一五九一年にはコレジオが印刷所と共に加津佐から天草に移り、修練院もまた同所にあつたコレジオは西欧のすぐれた学制の上にたつていた大学で、関東の足利学校、京都五山などが、東で東洋学の根拠地であつたのに対し、コレジオは西陲の地天草で西洋学の中心となつていた。

一五九二年の名簿によればコレジオに学ぶ者三十六名、その中に西欧諸国巡遊八年の旅から帰つた少年使節四人（伊東祐益マンショ、千々石清左エ門ミゲル―以上正使、中浦ジュリアン、原マルチノ―以上副使）の名が見える。

印刷所では日本最初の全金属活字による活版印刷を行い、一五九七年長崎に移るまでの間に出版された書籍のうち、九種の伝本が現存し、貴重な文化財となつている。

❷一六一四年の大禁教令は天草でも迫害を呼び、六月五日に全国の各教区で職場名簿をつくり、同一職場の信者が十分連絡とれるようにしたい。各教会では、目ぼしい職場の信者の名簿を十月末迄につくり、全国布教委員会がそれをとりまとめ布教の資料とすることになつている。名簿には次の諸項を記載して頂きたい。

氏名、性別、年令、住所、勤務先、部課名、勤務先の場所

備考

なお中心的人物と思われる者にはチエツクする、また本人でなくて家族だけが信者の場合には別記とする。

平田勇神父の提案により、今から十二月迄三ケ月間の求道者の増加の状況を次回に報告すること。

❸クリスマス運動について。

十二月十日を期してクリスマス運動を展開する。ポスターはりや街頭でのパンフレツト配布などを行う。クリスマス用のポスターの必要枚数を十月十四日迄平田勇神父に申込むこと

尚クリスマス運動の趣旨を全信者に徹底させるよう各布教会で努力すること。

❹会計、信徒布教会の費用について

毎月平均一万千三百円の布教会費が集つている。委員会の費用をどの位とするかで討議があり、結局事務費五分を含め三割と決定。但し布教費が五百円程度徴収できる教会では、二割でもよい。

次回集会の時に九月―十二月迄の分（三割出し）と七、八月分（五分出し）を本部に収めること

❺次回集会

十一月廿五日午後一時より司教館で行う。

尚左の如く各教会の布教会実行報告が行われた。

大名町教会―信者各人すくなくとも一名求道者をつれて来ることこれにより現在九名の求道者を得ている。また市内の書店にカトリツク関係の図書の販売を依頼している。

高浜教会―年間に十人の求道可能者を発見すること。

地行教会―幻燈器を購入し、各地区で活動中、

浄水通　教会―「カトリツク生活」を市内の銀行など人のあつまる所に配布した。これは那珂町教会、大名町教会でも実行しているので今後全体の問題として布教委員会でとり上げることになつた。

平山高明師、助祭に叙品

教区神学生平山高明師は去る九月十九日四季の水曜日に福岡大神学聖校堂で、深堀司教より助祭の聖位に上げられた。

無期誓願式

熊本市琵琶崎のマリアの宣教者フランシスコ修道院で九月十七日無期誓願式が行われた。

福岡地区信徒布教会
第三回委員総会を開催

先程結成された福岡教区信徒布教会の福岡地区委員総会の第三回集会は九月廿三日午後一時より司教館で開かれ、市内および附近の各教会主任司祭、委員約廿五名が列席した。

先づ各教会よりの提案につき、各項毎に理由の説明があり、小野会長より重要なものから討議するよう提案あり一同了承、

❶視聴覚布教について、

幻燈　などはそれぞれの教会で行つているがフイルムが足りぬため困つている。各教会で主任司祭の許しを得てお互いに融通し合うことが望ましい。但し損傷など十分考慮せねばならない。布教会ではフイルムを購入してライブラリーをつくる方向にもつて行きたい

❷職場布教とその拡大について

深堀司教司式のもとに被昇天のマリア・チト童貞（武田清見、宮崎県串間市福島今町出身）の無期誓願式が行われた。

!!讀書シーズンの　ために良書を!!

フートン・シーン著　五十嵐　仁訳　中央出版社
キリストの生涯　￥一〇〇

フートン・シーン著　巽　豊　彦訳　中央出版社
見よこの女性を　￥一〇〇

エルリンハーゲン著　小林　珍雄訳　春秋社
現代の実践倫理　￥二〇〇

ヘルマン・ホイヴェルス著　春秋社
神への道　￥一六〇

小出哲夫師（イエズス会員）教区内を講演旅行

広島エリザベス音楽短期大学教授イエズス会員小出哲夫師は、九月廿五日以来次のような旅程で講演旅行を行つた。

廿五日　福岡双葉学園―学生と幼稚園・小学校の父兄のため。

廿六日　大牟田明光学園生徒のため

廿七日　熊本信愛女学園生徒　八代白百合学園生徒　人吉マリアの宣教者フランシスケン修道院。

廿九日　鹿児島教会のため

福岡カトリツク学士会　プリオツト師を招いて懇談

福岡カトリツク学士会は九月の例会に京都聖トマス学院のドミニコ会員プリオツト師―京都大学哲学講師―を招いて懇談、師は現在フランスの思想界で活躍しているイエズス会のダニエルー師の最近の著書を紹介した。

高鍋教会だより

宮崎県高鍋町より奥地に約三里木城町に約廿名の信者がいるがその一人深水さんは自費で自宅の敷地内に、木造モルタル九坪の小聖堂を建て、八月末に献堂式を行つた。この美挙に感じた一医師は祭壇の寄附を申出で、信者一同はオルガンを寄贈することになつた。かすみたなびく尾鈴山に、天主を讃美する歌ミサの調べがこだまする日も近い。

宮崎教会だより【子供黙想会】

八月上旬約百五十名の児童を男子と女子に分けて各二日間、教会に於て黙想会にはげんだ後、楽しい青島海水浴に一日を過した。

【レヂオ・マリエ黙想会】

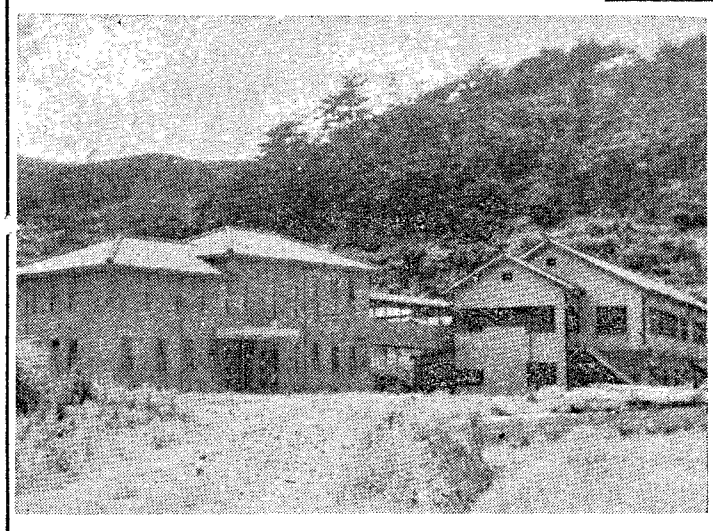
場所を日向市に移し、富高教会に宿泊し、八月廿三、廿四の二日間黙想会を行い、祈りと犠牲とにより今後のはつらつたる活動を約束した。

延岡緑ケ丘学園でバザーとカトリツク展示会

延岡緑ケ丘学園高等学校では九月三十日（日）校内でバザーを開く機会を利用して、一般父兄にカトリツク教会を認識してもらうためのカトリツク展示会を催した。

本郷教会の堅振

九月廿三日（日）本郷教会で教会誕生以来最初の堅振式が行われ廿五名が受堅。



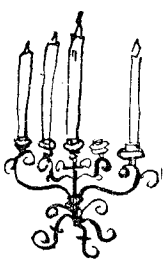
門司天使の聖母修道院落成

五月廿七日、祝別さる

門司市　大里新町の笹尾山々麓で育児園を経営しつゝ布教に当つている天使の聖母修道院では、廿四坪の美しい聖堂をふくむ約百坪の新修道院を新設、去る八月廿七日（月）午後五時より深堀司教の手によつて祝別された。つづいて近隣の司祭、修道女および信者、園児ら列席のもとに新聖堂で司教ミサが捧げられた。設計は曾種雄氏、工事は森建設会社が担当した。

六年前から事業を始めた門司修道院ではカナダ人と日本人修道女四名が約六十名の幼児をあずかつて養育に当つている。

ちなみに天使の聖母修道会は一九二〇年カナダのケベツクで創立され、現在二百名の修道女を擁している。創立者聖心のマリア童貞は今もベルーのリマ市で布教に当つている。支部はカナダ七、米国一、南アメリカ三、太洋洲タイチ島一、アフリカ二、香港、マカオ三、日本では静岡と門司の二ケ所主なる事業は邦人修道女を通じて一般女子の教育と職業指導、その他カテキスタ学校、病院、診療所、育児園など必要に応じて部つている。（写真は新築の天使の聖母修道院向つて左）



「公教要理」（七）

ミサ聖祭の世界について

伊東誠二

イエスス・キリストのみ教えをよくわかるためには、救世のために托身された天主の御子ご自身とそのみ教えとを関連させて考察する必要があります。

そうすることによって、私たちは、イエススの胸中にあつて（イミタチオ一巻一の二）すべてを理解する事がゆるされるのであります。

ミサ聖祭は、「信仰の奥義」と呼びならされていますが、之を理解するためにも是非そうする事が必要かと思われます。

御聖体の秘蹟は、十字架の犠牲を継続するために制定されました〝これは、汝等のためにわたす私のからだである〟（ルカ二十二章）〝これは、汝等のために流される私の血による新しい契約である〟（ルカ二十二章）眼に見えるしるしが、聖寵を与えるために秘蹟として定められるのは全能者の意志にかかります。イエススの十字架上の御苦難、御死去はすべての秘蹟の力を含ませられて居つた最も完全な秘蹟と言われましょう。

イエススの全能な御意志は、晩さんに於けるしるしと、祭壇に於けるしるしとを、十字架の偉大なる秘蹟に結びつけられました。十字架のいけにえの本質が、御聖体によるいけにえの本質と全く同じであつて、その効果も時空を超えて新しく設けられた同一の秩序の中で実を結ぶようにされたのは、イエスス御自身の御意志なのであります。

ミサの典礼は、叡徴詩人のたわごとではありません。又「私のかたみとしてこれを行え」（ルカ二二の19）との御言葉は敬虔な檜舞台で、彼のいけにえを演出する芝居のふれ出しでもないのです。それは実に、全能者なるイエススが秘蹟の外観の下で唯一のいけにえの本質に呼びかけられる談々としたる至上命令なのであります。

〝あなた達は、その度毎に主の御死去を告げるのである。彼がかえり来たもうまで…〟（コリント前一一の26）と聖ポーロが信者をさとすのは、ミサにあずかる信者は秘蹟に接することによつてイエススの救世のための死に直面し、そこからカルワリオの実質的な聖寵の流れの中に置かれている事を忘れるなというのであります。

十字架のキリストの御業は同時に四重の効果を有つておりました即ち一、すべての罪のあがない二、全人類の救済と幸福をもたらす聖寵の価、三、天主に対する限りない御子の礼拝、と四、感謝とであります。

もし、天主に対する被造物の関係が、その礼拝と、天主に光栄あらしめる事だとしたら、ミサ聖祭は人類が持ち得た最上の宗教行為だといわねばなりません。しかもこの行為の中には、人間がその罪より清められ、天主の子として高められる唯一の聖寵をふくんでおる訳であります。

「この秘蹟のなかには、われらの救いに関するすべてがふくまれている」（スンマ三巻八三・4）といいでは誰でも畏敬の念を起さしめられる。特に見きわめもつかぬ高山、深山、幽谷をつつむ夕べの薄暮は人を瞑想に誘い、自己の小ささを自覚させる。そして人の心に語る〝汝、己がいかに小さく賤しいかを悲え。汝の正体は果して何物ぞ。虚無ではないか。せいぜいちりより出てちりに帰る以外の何物でもないではないか。しかし地上に人の智と術と技に絶する偉観を作り給うた御者は、自然界の傑作とは比較すべくもない偉業を盛無なるわれらの中になし給うた。即ち御自分の生命をわれに与えわれを生かし、わが中に住み給う。さればわれはもはや虚無な意味なき存在に非ずして、永遠の生命に生きているのだ。ああ広大全能なるわが主わが神、われ主を拝礼し讃美しまつる。そはわれに大いなる業をなし給いたればなり〟。

聖トマが言っているのも軽く見すごせない一行だと思われます。実に、聖体の秘蹟によってでなければ、新約の唯一の犠牲は不可能になつてしまいます。

御ミサは、キリスト敬慕の本質をなすものと言えましょう。

今しも世界中の何処かで、司祭が聖変化の言葉を発音している筈です。そしてイエススは秘蹟の世界で―即ち御自身の明かな御意志で定められたしるしの下に―御父に対する礼拝と感謝が、贖罪と功徳によつて多くの人々を真の礼拝者の資格に高めつつ、十字架のあの時と同じく捧げられているのであります。

イエススは死を再現されるのではありません。〝イエススは甦つて再び死なない（ロマ六9）しかし人類の救済のための奉献と犠牲は御聖体と御体の分離によつて秘蹟の世界で行われているのであります功徳と贖罪の時間は十字架の時間ですしかしこの適応は世のおわりまでミサが何処かで捧げられる限り続けられるのであります。

私の夫は雙葉の小学生を見ると抱ツ子したくなる程可愛いと云う。何時もしかめつ面してかんしゃくをおこして奇人と評せられる人柄であり乍らどこにそんな愛情があるのかと疑いたくなる。自分にもその子があの大きな校章を胸にする日をまちのぞんでいるのであるが少しぼんやりしているその子の性質の事はとんと考慮に入れてないらしい、私は或日その性質を心配してこれで入学したら先生なかせだと話した事がある、その時夫の答は全極簡単で「いや成績などかまわんよ、カソリツクの精神だよ」と速答した。プロテスタントの永い信者であり乍ら子供への教育はカソリツクを与えたいと思う意図はどこにあるのか知らない、子供が若し入学出来たならば恙なくカソリツク精神にはぐくまれて成長する訳であろう！、何も知らない子供達は父母の環境から教会の存在を知つている。そして大変よいところだと信じている。然し未だカソリツクの教会堂に入つた事はない、カソリツクとプロテスタントの現存の理由は勿論知らない、そしてその娘の兄は毎日お水をつけて小学校へゆく、修道女の方に理由を話して頂いた聖水をひたいにつけて貰えば一日無事でいられると信じて忘れると又門をたたいてつけさせる、此の子等が成長する段階に……と考える時必ず母の立場を今の侭では駄目だと感じるのである

一人の母（N・H）

日常の会話

……

カトリツクのお祭りは何時も同じ事だとある新聞記者を嘆かせたそうですが何時も同じでなかつたら、それこそ無意味なお祭りになる事を十分に知りたいものです。

ミサ、それは十字架のまままそつくりふくんだイエススの行為なのであります。

一九五六・九・二三

聖心のいけにえ

マルガリタ・マリア

（十月十七日）

華美をきそうフランス十七世紀の半ば。しつかりした中産階級の家庭で七人兄妹の五人目。ルネサンス趣味の家の天井にはいたずらものキユーピツトが描かれていて若い人の夢を目覚める人間性へとあこがれしめる。頑固なヤンセニスムがキリスト教の信心から温かさを奪つていた時代に、この屋根の下で偉大な聖徳が芽生えていることを想つて見る。天主が直接に霊魂をみちびきたもうことを無視したら、この聖人の生涯はなものとなつてしまう。

〝もの心つくかつかぬかに、御主は罪のみにくさを示されて、いさかの汚れもたえ難いと思う程に恐れさして下さつた〟と彼女は述べている

「私の魂は感覚も、すべて御主の中に浸つて、気がちることを知らなかつた。また何をしているのか意識せずに心がもえて一日でも過すことが出来た」と八才の時の想い出の中にしるされている。

このことを除いては、平凡の二字で言いつくされる程、彼女は生涯のあらゆる出来事を平凡に苦しみ、平凡に楽しもうとする。生れつきにぎやかなことが好きで被造物の罪のない美しさを理解するセンスは人一倍持ち合せていたが、彼女の周囲に御摂理の御手は不遇な少青年時代を配された。彼女はこのままではのびそうもない筈であつた。

父の死に続いて、十五才の頃母が病気になるし自分も神経痛で苦しんだ。十八才の頃二人の兄が続いて世を去つてから不自由をしのんでいる母を見るにつけても、マルガリタは、自分が当然結婚して母を養う義務さえ常識として感じたそして、適当な求婚者が出る度に母の勧めは願願の調べを帯びる。

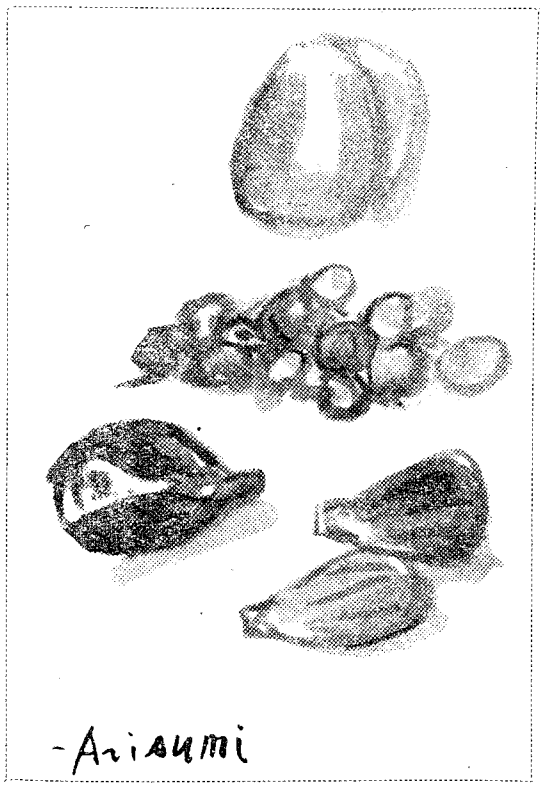
修道生活への幼時の望みは深くても、はたして自分が修業に堪えるだけの気力があるものかと疑いたくもあつた。そして誰もが一度はなめねばならぬ魂の孤独の中で苦しいときに朗かさを保つには勇気を要し、苦しみが長引くときに勇気を保つには、朗かさが必要である

フーゲレー

「自分は出来るだけ、世間の交りや、虚栄を正当づける考え方に、真面目になつて気をまぎらわそうとした」と言つている。

しかしながら、心の中の御主のお招きにはごまかしはきかなかつた。ただ決断のつかぬまま今すぐは修道院に入ることが出来ない事実に満足して、世間で修道者らしく暮すことにきめて不たしかな霧の中にひとり止つた。

二十才になつた或る朝、聖体拝領のあと、御主は優しい姿で自らを示されて、〝もしそんなに侮辱を与えるなら、私は永久にお前を離れよう。恵実でありさえすればお前の力となつてあげる〟との声をきいた。この時から彼女の道は心に小さく賤しいかを悲え。汝の正体は果して何物ぞ。虚無ではないか。せいぜいちりより出てちりに帰る以外の何物でもないではないか。しかし地上に人の智と術と技に絶する偉観を作り給うた御者は、自然界の傑作とは比較すべくもない偉業を盛無なるわれらの中になし給うた。即ち御自分の生命をわれに与えわれを生かし、わが中に住み給う。さればわれはもはや虚無な意味なき存在に非ずして、永遠の生命に生きているのだ。ああ広大全能なるわが主わが神、われ主を拝礼し讃美しまつる。そはわれに大いなる業をなし給いたればなり〟。



世界の大峡谷



北米アリゾナ州の原野と沙漠の中を三百哩走り果して、世界の大峡谷グランド・キャニオン中の人となつたのは日も西に傾く頃であつた。峡谷は長さ三百十七哩、東西に流れるコロラド河を底にしてその河の両側に高さ一哩の断崖をなしてそびえている。科学者は峡谷が今日の形状を造るには、絶えず流れるコロラド河の激流と風雪の力をもつてしても九百万年の歳月を要したが、その工事は未完成で世の終りまで続くであろうと言つている。これを知つただけでも天地悠久の深さをおぼゆるではないか。

景色はすべてが雄大であるというより巨大、目はスケールの大きさにただ迷うばかりである沈みゆく夕日がなげる斜光に、見きわめもつかぬ遠い山々と、果てしもない深い谷は、濃紫紺の暮色につつまれてゆく。折りたたみ屏風のように重なり合つた巨岩と巨岩、積みあげられた石と石、谷と谷とに相反射する陽光は言葉やキヤンバスでは表わすべくもない色合をただよわして、峡谷の感をいやが上にも深刻にしてゆく。

宇宙の偉大な建築者がコロラドの流れと自然の風雪を用い九百万年を費して地上に作り出したこの設計と作品の前に立つては、人はただ天地をみたす偉大な何物かに圧されてしまう。実に夕日に映ゆる峡谷は世のいかなる芸術家もとらえる術を知らない美術であり、自然界最大最美の作品である。

この巨大な自然の芸術品を仰

みんなのための聖書

(5)

メシア待望



メシア思想は旧約聖書全体を綴つています。モイゼ五書についてさえ〝モイゼはその書きし（四章）

セム族に属し、ヤコボの血統をうけ、処女から生れ、自分のいのちを賭けて万民救霊の王国を建設する王者の姿、聖書記者はこの王者を示すに当つて詩的に描写をしています〝ヤコボより一つの星出で、イスラエルより一つの王笏起り、モアブの長等を打ち、セトの子等を悉く滅ぼさん……〟（民数紀略廿四章）

メシア思想こそ聖書の中心思想であつて丁度磁場におかれた鉄屑が磁石に従つて動くように聖書に出てくる事件、人物また細かい儀式の規定にしてもすべてはこれを軸にして廻転しているのであります。パスカルも随想録の中で（七四〇番）〝イエスス・キリスト、彼を二つの聖書は、旧約はその希望として、新約はその模範として、いずれも中心とみなしている〟と云つております。

別のたとえをもつて申しますと聖書の最初の部分はほのぼのと明けそめる東の空に似ておりやがて白々と明るくなつて太陽がのぼり、遂に時満ちてイエススが来り給う時に真昼の輝きとなつて、万物の上に陽の光を溶せるのであります。

× × ×

聖書のつたえるメツセージは唯一神に対する信仰だけではありません。

二千年の長きにわたる聖書の歴史は、又一見つながりをもたない諸断片のつぎ合せでもありますが、決していい加減な編集によつたものではありません。よく見るとそこに一定の流れがうかがわれるのであります。

その内部には一つの生命のひそかな息吹が感じられ、それが諸事件を有機的に構成して、お互の間に深いつながりをつけているのであります。

創生記第三章を開くと、人間であると同時に超自然的存在、悪魔の対抗者として婦人より生るべき人物が神秘的なほの暗い光の中に登場して参ります。彼は人間ではあるが、人類共同の敵に対して戦を挑み霊的解放の立役者となるというのであります。

その顔の輪郭は時が進むにつれて少しづつ表われてきます。

所で常にキリスト（メシア）について述べている〟と云われています。

メシア思想こそ聖書の中心思想であつて丁度磁場におかれた鉄屑が磁石に従つて動くように聖書に出てくる事件、人物また細かい儀式の規定にしてもすべてはこれを軸にして廻転しているのであります。パスカルも随想録の中で（七四〇番）〝イエスス・キリスト、彼を二つの聖書は、旧約はその希望として、新約はその模範として、いずれも中心とみなしている〟と云つております。

別のたとえをもつて申しますと聖書の最初の部分はほのぼのと明けそめる東の空に似ておりやがて白々と明るくなつて太陽がのぼり、遂に時満ちてイエススが来り給う時に真昼の輝きとなつて、万物の上に陽の光を溶せるのであります。

× × ×

愛によつて生きる

明治学園高等学校二年生　平野章子

私はただ生命だけを生きる為に生まれてきたのではなく、何かをする為に生まれてきているのにちがいない、何をする為だろうか。机の前にすわつた時、ふとそんなことが頭にうかんだ。そして私は愛に生きることが最も良い生き方であり、また最もむづかしい生き方ではないだろうか。と考えた。

私は聖人が行つたような愛徳はできないけれども、小さな小さなことならできる。たとえば、貧しい人、困つている人達のために、私のさいふから、お金を出して与えるとか、小さな祈りを捧げることぐらいなら。……

「どんな小さなことでも、愛さえあれば、世界中を一変させることさえできる。」と、ある聖人がおつしやつたように、皆がその気持になれば、愛によつて戦争をやめる日がくると私は信じる。世界は決して戦争によつて救われるのでなく、愛によつてのみ救われるのだ。又、いつかは愛が世界を治める日が、きつとやつてくるにちがいない。

色々考えている時、愛に生きるむずかしさを感じ、どんな小さなことでも良いから、愛によつてすることができるようになりたいと思う。小さな祈りで自分だけでなく、他の人を救つてやれるようになりたい。天主様の行われる奇蹟も、天国も、地獄も、霊魂もまだはつきりとは信じられないけれども

禁ずることならば、彼等の意志をこそ重んぜよ。お前はお前の心を私に委ねよ〟との答えを得た。お蔭で、平凡を愛した修練女はわづかの晩年を除いては絶えずこの二つの意見の板ばさみのようになつて、言われるままに双方の間を無駄足をふむようにゆき来した。聖心の驚歎すべき啓示が与えられ、その信心業が教会に行きわたるまでになつたのはこの期間の聖女のいけにえの力にあずかつている。

御主が彼女に驚くべき使命を示して〝汝の心を与えよ〟と言われた時、おそるおそる一つの条件を申しあげた。「軽べつする以外に人が私を思出さないようにして下さるなら……」というのである。御主はこれをよしとせられた。

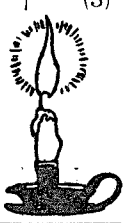
若年の指導司祭コロンビエル師によつて聖心の信心が教会にゆきわたる頃には、さすがに誰一人としてマルガリタに軽蔑の眼を向けることもなくなつていた。

一六九〇年の大黙想の前晩から病気で床につかねばならなかつたが〝私はもう長くはいないでしょう苦しむ事がなくなつたから〟と病室係の修女にもらしたとか。終油の秘蹟をおえて

〝もう天主様の外に何もいりません。永遠に聖心の御傷の中にかくれるだけ〟と言い十月十七日、四十三才の地上の数奇な生涯を天主の御前にとじた。

暗より光へ (3)

—死刑囚の手記—



高い所に小窓一つしかない旧式の監房は昼でさえ薄暗く、夜は高い所に取りつけた五燭位の電燈がぼかし出すその房で、私は父字通り血眼になつて聖書の真理を探りました。夜を徹して読みつづけた事も幾度となくありました。役人達は極度に充血した私の目を見てその様に無理をすると眼は潰れて仕舞うぞ、いう事を聞かぬと夜は聖書を取り上げるぞとまで云つて何度か注意されましたが、私は肉眼は潰れても魂の救いを得る迄はと決心をひるがえさず、役人を拝む様にして断り読みつづけました。

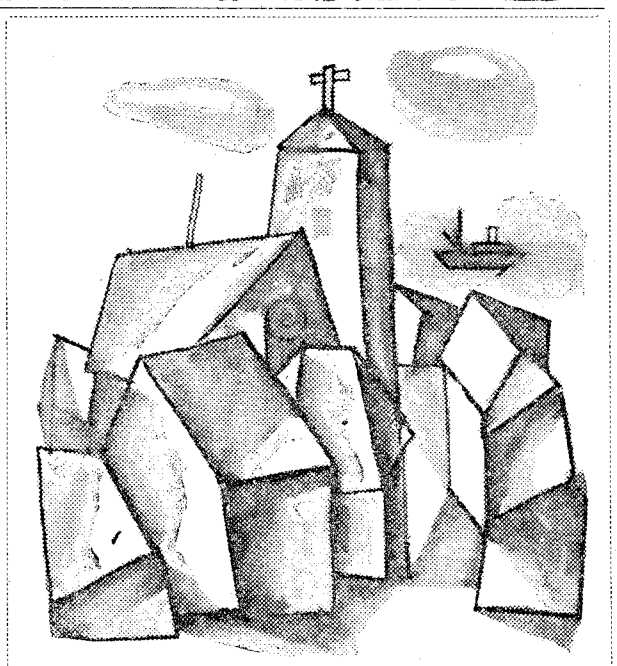
その頃はまだ面会も通信も許されず、特別に許されたのは聖書一冊だけで、カトリツクの入信に最も必要なのは公教要理である事など、当時の私は全く知らず、その一冊の聖書によつて自分で永遠の生命を摑まねばなりませんでした。繰り返し聖書を読んでいますと深く自己の罪を痛悔し、全く悔改め、天主を信ずる者は救われるという事は判りましたが、私の様な重罪を犯した者は、到底人並の事では救われる筈がないと考え、深い失望に驅られる事もしばしばありましたが、その都度聖書の何処かに私の如き罪深い者の為に、何か特別な償いの道が教えてあるに違いない、そこを探し出そうと勇気を出して読みつづけました。

ところがある日のこと、私はルカ福音書二十三章二十九節から四十三節の記事に接せられました。……そこに於いて、イエズス様と共にあの惨酷な十字架につけられた盗賊の一人は「我らは己が所為に当る酬を受くるものなれば当然なれど、この人は何の悪をも為したる事なし」と云つて、又イエズス様に向い「主よ、御国に至り給わん時、我を記おくし給え」と訴えています。それは正に私の魂の叫びそのものでありました。続いて「我誠に汝に告ぐ、今日汝我と共に楽園にあるべし」との慈愛溢れる主の御声が、私の魂の奥底にまでひびきました。かくて私は自分の様な極悪人でも全く悔改めて神を信じ、深き痛悔の心を以てイエズス様に取りすがるならば、無条件の赦しを与えられる事を知り感謝と感激の余り、同囚の前も忘れ、恩わずその場にひれ伏して泣きながら祈りました。それから間もなく面会や通信や読書の禁も解かれ、公教要理を学ぶ事が出来る様になり、姉の面会も繁くなり、洗礼を願い出ることになりました。

当時、未決監に於ける被告人の洗礼は前例がなく、色々と困難もありましたが私の熱心な求道が認められ一九五〇年五月十三日未決監に於いて類例のない初の洗礼式が許され、在日四十年という〇〇〇神父様に依つて待望の洗礼の秘蹟が授けられました。奇しくもこの日はポルトガルの国フアチマの高原コーワ・グ・イリアのくは地で、三人の牧童に聖母が尊い御姿を現わし給うた第一回の記念すべき日でありました。次いで六月二十九日の聖ペトロ、聖パウロの両使徒の祝日には、初聖体を拝領しキリストと完全に一致するの光栄に浴し、欣喜して私は当時の日誌に「噴、私は救われたのである。湧き切つた我が魂は、吾主イエズス・キリストから流れてつきぬ生命の泉をむさぼる様に飲んだ……斯くて今までに曾てない喜びが湧き、平和が宿り、そして絶望が希望と変り真に救いの喜びを体験した……」と認めています。

洗礼によつて光の子となつた私の心は、平和と歓喜に満たされました。内に満たされた私は始めて周囲を見る余裕が出て参りました。私は先ず近き者の救霊について考えました。そして妻と子供を神の御子及び世の救主に在す四福音書たけが直接に天主の御子で世の救主に在すイエズス・キリスト御自身の御言葉と御行為とを伝えているからです。

も一度申しますと、単に聖書という時は七十三部を含みますが、福音書とは、その中の四部の書を指すに過ぎません。（畑原）



台風十二号　フランシスコ

電燈の明滅見上げ台風急

ロザリオを握り台風に耐えており

子等も亦祈りしという台風の朝

台風一過リンリンとちちろ聞く夜かな

手をあげて神父様も屋根に台風禍

質問欄

聖書と福音

問「聖書」と「福音」とは違うのでしようか、同じでしようか？違うのでしたら、どのように違うのでしようか？（大牟田一高　校生）

答　公教要理第十条には「聖書とは聖霊の神感によつて天主の御言葉を書きしるした書物であります」と記されております。従つて天主の特別の助け即ち聖霊の神感によつて書かれた書物は皆聖書と呼ばれますが、約二千年間イエズス・キリストの正しい御教を保ち続けて来たカトリツク教会では、初代教会から旧約聖書四十六部及び新約聖書二十七部計七十三部を聖書として認めております。その中には四部よりなる福音書も含まれております。

公教要理第百三条を見ますと、「福音とは、イエズス・キリストの御教、即ちイエズス・キリストが天主の御子及び世の救主に在す四福音書たけが直接に天主の御子で世の救主に在すイエズス・キリスト御自身の御言葉と御行為とを伝えているからです。

も一度申しますと、単に聖書という時は七十三部を含みますが、福音書とは、その中の四部の書を指すに過ぎません。（畑原）

プロテスタントの人への手紙

工藤昭夫

心生活を学んで下さい。私達が何をどの様に信じ、願い、祈つているかということを

イエズスの弟子となろうとする人は、自分でイエズスのもとに歩みより、従わなければなりません。群集の中に沿つているだけでは足りません。若しかしたら教会に属している人達の不完全さだけが目についてしまうかも知れません。

然し欠点も多く又教えに対して不完全な理解しか持つていなかつたにも拘らず、一途にイエズスに従つて旅を続けて行つた十二人の弟子達の様な素朴な心を持つ様にして下さい。

時には自分一人がとり残された様な淋しい気持になるかも知れません。そんな時には聖人伝を読んで下さい。あの文学的には実になつていない聖人伝の中から汲み取れる、聖人達のまさりけのない喜びがこの世に存在することを信じて下さい。そして神はすべての人にその喜びを与えることを望み給う寛大な心の持主でおられることを信じて下さい。

あなたは御聖体についても御存知でした。心が刺ない時には御聖体の前にひざまづいて、心を開いて、神に話しかけてごらんなさい。内攻的になつてはいけません生きたイエズス様がそこにおられることを確く信じて話しかけて下さい。

神様がどの様にあなたを取扱われるかは誰にも分らないことです。信仰に至る迄には沢山のつらいことがあるでしよう。そして一番つらいことは憂鬱に取りつかれることです。然し今あなたの持つている気持と意志を大事に持ち続けるならばきつと自分が神の御摂理の中にしつかりとつかまえられていたことが分るようになるでしよう。

明日のミサの祈りの中に

「主によらざれば我々は主のみむねにかなうあたわざるが故に御いつくしみのみわざによりて我々の心を導びきたまわんことを」

という祈りがあります。明日の日曜日には特別にあなたのために祈りましよう。

★〈〉〈〉☆

六つのお祈り

大名町　マリア　セシリア



私に一つの秘密があります。母にも誰にもいつていない、ただ天主様と聖人方だけが御存じです。家の人はみな眠りについてしまつた、しーんと静まりかえつている夜。私の手にしつかとにぎられた小さなロザリオ、これは毎日御ミサに行つた御ほうびに神父様が御自分で作つて下さつた物です。ロザリオは一くぎりに玉が三つ、それが六つくぎりあります。不思議なメダイユときれいな可愛らしい真珠の玉。十字をきり、目をつぶつてマリア様にお祈りしました。一くぎりはお父様のために。なぜならばお父様は信者ではありません。早く信者になられて一家みんなで教会に行き一生懸命お祈りしたいのです。次の一くぎりは私の大好きな受け持ちの先生のために次は煉獄で苦しんでいらつしやるれいこんのため。次はびんぼうな人々のために。次は前からかわいがつていただいている平山さんのために。この方は来年の春には神父様におなりになるのです。最後の一くぎりはこの前自動車にひかれてなくなられた小学生のお母様のために。時間にすれば僅かなお祈りは少ないのですが一生懸命心をこめて毎日繰けています。天主様はいつかはきつと私のお祈りをお聞き入れ下さるでしようと信じながら。

おべんきようと

イエズスさま

二年　こしむらまりこ

八月十一日のばん八じごろ、おべんきようをしていたら、おかあさまが「もうおそいからおやすみなさい。」とおつしやつたので、ねようとおもいましたが、しゆくだいがまだできていないから、このままねると、おもいました。でもイエズスさまのことをかんがえて、すぐねました。もしおかあさまのいうことをきかないでおべんきようをしていたら、イエズスさまはたいそうおかなしみになつたでしよう。わたくしは一つ、よいことをしたのがふえました。これからもきようみたいなよいことをしたいとおもつています。

しんぷさまのために

二日市　大江幸子

八月のなかばごろから、わたくしたちのきよう会のしんぷ様が足がわるくて、びよういんににゆういんしていらつしやいました。ときどきお友だちがびよういんにおみまいにいらつしやると、私はいけなかつたので、おうちでたくさん、おいのりを、いたしましたこのまえの日よう日にお母さまが「しんぷさまは、もう、たいいんなさつたけれど、こちらのきよう会には、しばらくかえつていらつしやらないので、ほかのしんぷさまがごみさをたてくださいますよ。」とおつしやいました。私はたいいんなさうたときいてうれしいでした。

▷ぶつくがいど◁

聖母マリアに対するまことの信心

聖グリニヨン・ド・モンフオール著　尾方寿恵訳

イエズス・キリストのみでたりるのであつて、殊更マリアに対して信心をもつ必要があるのか、その必要があるとすれば、どうしたらこの信心を有することができるのか、又聖母に対する信心はイエズス・キリストに対する信心をなおざりにせしめるのではないか、というような疑問をもたれる方には、この聖グリニヨン・モンフオール著の聖母マリアに対するまことの信心という本をひもとかれるようおすすめする。

此の本は聖母信心書に関する古典中の古典ともいうべきものたるにとどまらず、全カトリツク教会に於て名実共に第一級の信心書として尊ばれているものである。著者は一六七三年フランス西北、ブルターニュのモンフオールという村に生れ、サン・スルピスの神学校を卒業の後司祭としてフランス西部の布教に挺身し、三種の修道会を創立した後、四三才で帰天した聖人である。

いずれの本でも、聖人の筆になるものは何でもないような些細な箇所にも愛を感ずるものであるが、特に此の書は聖人の聖母に対する愛が、行間にまで充ちあふれていてはみでているようにさえ感ずる。

イエズス・キリストが三十年の間御母に服従し給うた事実は大奇蹟によつて全人類を改心させる事より以上に、御父なる神に光栄を帰させる事であつた。我々がこの模範に従つてマリアに服従するならば、げに、いかばかりの光栄を神に帰することになるであろうか。

このような、聖母信心の中枢ともなるべき言句が至る所にちりばめられておりその上千数百年来の幾多の聖人方の、聖母に関する愛と感謝と讃美の言葉が随所に引用されていて、恰も天使聖人達の聖母讃歌の歌声が天国に於てとよめくのを、聞いている感を与える。

ある修院長の方から、この本をくりかえしくりかえし読んで遂にぼろぼろになつてしまつた

という話を聞いたことがあるが一読しただけでは、きらきらと光るものを感じながらもその文章の表面的な固さの故に放棄しがちになるのであるが、辛抱して二度、三度重ねて読んでゆく中に、おのずとその真価が分つてくるような書物である。

イエズス・キリストは、マリアを通して此の世に下つたのであるから、我々がイエズス・キリストに達するにも、やはりマリアを通してでなければならぬ

著者がイエズス・キリストに至る最も平易で、安全で、確実な道だという、マリアを通してイエズスへという此の基本的な信心の線は全篇を貫いており、聖母信心の必要から本質を述べた後、聖母への献身の効果、及内的、外的の信心業の仕方に至るまで述べ、まことに手を取り足を取つての指導は懇切を極めている。

終りに附録として聖母への献身の準備が十二日間、黙想が三週間で黙想の時どのような書を読めばよいか迄記述されておりその後聖母に対する献身の宣誓文を読んでそこに署名できるようになつている。

聖母月の黙想書には誰し最適のものと信ずる。定価は百三十円（K）

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第22号



可認教司堀深
所行発　市浄水通岡福
館教司岡福
兼人行集
編発　敏　堀　深
定価　一部　十円

クリスマス浄化運動
全教区を擧げて参加決定

すでに本誌前月号で報じたように、わが福岡教区では深堀司教の承認のもとに、各地の信徒布教会や教会で全教区民を総動員してクリスマス浄化の全国運動に呼応することになった。

全国布教委員会はこの全国運動展開に当って、クリスマスの本当の意味をわが国の民衆一般に広く知らせるために、全カトリック信者が積極的に協力するよう強く寄望している。

その主旨は戦後急速に流行化したクリスマスが〝あくどい商業宣伝と大衆のお祭りさわぎに利用されて〟その本来の宗教的な意味が忘れられていることは全く嘆かわしいことなので〝クリスマスをキリストに還す〟ために運動を行おうというのである。

その具体的方法は、教区司祭を通じ、又特に教区信徒布教会を通じて決定しているが、十二月十日を期して布教委員会発行のリフレット〝あなたとクリスマス〟を教会周辺に配布すること、クリスマス・ポスターをできるだけ多く人目につき易い所に貼布したり、クリスマス・カードを用い、封筒に全く意味のない体裁だけのクリスマス・カードを友人に送るなどが挙げられている。

以上のほかにも各教会に従って適当と思われる方法を活用して、少しでも多くの人にクリスマスの正しい認識を植えつけるように努めることができる。

そのためには、信者各位が布教の熱意に燃えて、まず自分の家庭から始めて隣近所に、また職場や行きつけの商店や病院などに、ポスターを貼ったり、馬糞を飾ったり、リフレットを配布するなど進んで努力することが望ましい。

ごく廉価で販売されているリフレット〝あなたとクリスマス〟（一部五円）を送ってあげた方が先方にもどれ程喜ばれるか知れない。

このリフレットは三色刷の十四頁で、内容はクリスマスとは何か、キリストとはどういう御方かカトリック教会は何をするかなど写真入りでわかり易く説明してあって、カトリック教にはじめて接する人々に与えるには、けだし恰好のものである。

教会としては、クリスマスの歌を合唱公開したり、カトリック幼稚園、保育園、学校などの学芸会に、宗教劇を多く加えたり、また〝その学芸会プログラムにカトリック的クリスマスの標語を刷り込むことでもできる。

以上のような一般的布教方法の外にも極く親しい友人、隣人を一人か二人、クリスマスのミサに誘うこともすばらしい方法である。

この度の全国運動は、信者一人々々の積極的な協力がなくては、所期の目的を達することはできない。信者数が二十二万に過ぎないわが国カトリック教会の現状では一人一人の活動が重大な役割と責任を負うことになる。

われわれを救うためにマリアの御手の中に降り給う幼きイエズスに捧げる心の贈物としても、信者全部がこの聖なる運動に進んで参与するよう期待されている。

永久聖体礼拝　十一月

第一日曜　那珂町教会
第二日曜　大江教会
第三日曜　桝塚教会
女子トラピスト修道院
第四日曜　琵琶崎教会
（最終）　玉名教会
日向学院



諸聖人の元后

光の世界

死の悲惨と光榮

フランスの画家ルオーの画いたキリスト、たとえば〝兵士に嘲弄されるキリスト〟や、〝磔刑〟は、写実的技術に秀れたルネッサンス時代のラファエル流の宗教画よりも、はるかに宗教的ヴィジョンに富んでいるように思われる。それは〝人間に非らずして虫けらなり〟と予言されたキリストの惨めさの面を、強調しすぎているともいえようが、現代人にとってはカタコンブ時代のあの幼稚な壁画と同様、何かわれわれに親近感をいだかせるものがある。

この親近感とは、必ずしも平常の、殊更に人間らしく振舞っているときの人間と、奇蹟を行って人々の讃嘆の的となっているときのキリストとの間に共通点があるというのではない。むしろ見せかけの仮面をはぎとられて赤裸な人間にもどったときの人間ー死に直面したときの人間と一同じく神性のひらめきをひたかくして〝虫けらの如くに〟取扱われ給う御受難のキリストの姿の間に、驚くべき類似点がうかがわれるといいたいのである。

まだ一度も生命の最後のドタン場におしやられたことのない者には、死をありのままに考えることは出来ないことである。われわれは色々な文学に接して、死についてもいかにも楽天的な判断を下しているか或は、自分をごまかすかしている。死についてもっともらしく語ること自体が僭越なのかも知れない。われわれは自分の死について正しい判断が下せないと同様他人の臨終と、その死に居合わせてもその精神の深奥において展開される恐るべき事実を捉えることはできないのではないか。

それにしてもわれわれは死について真剣に考え、自分の死を準備することは決して駄労ではないと思う。

今さっき死の実相を正しく描いた文学は殆んどないと云ったが、その中に一つの例外のあることを述べたい。

一人の人間の死を最も正しく把握してわれわれに伝えてくれるもので、キリストの死を描いた聖福音書の右に出るものはないと確信する。福音史家はわれわれの予期に反してキリストの死を偉大なる聖人英雄のそれにふさわしい〝大往生〟としては語っていない。正に平凡人の死よりも遥かに惨めな落伍者のそれのように描いている。驚くべきことだと思う。しかしキリストのこの死にさまに躓きをさえ感じるのは、或はキリストの人間性を本当に理解していないからであるか、或は自分に起るべき死の現実をまともにつかんでいないからである。否むしろこの二つの無知が重っているからであろう。

まずキリストが地上最後の夜、ゲツセマニの園で経験し給うた死の恐怖を考えよう。彼は自分独りで死と対面するのを避けるかのように、最愛の弟子三人を自分のそばから離し給わないのである。生命本能の激しい反撥、臨終の際の肉体的苦痛の予感からくる不安、精神と肉体の動揺はキリストの口から洩れ出た言葉のうちにうかがわれる。〝父よ出来うべくんば、この杯われより去れかし〟。

それは虚無を恐れる人間存在の本能的恐怖であって、霊魂の不滅の信仰だけで雰散できるようなものではない。却って神に対する信仰をもっているものには、死は更に堪えがたい程に恐しいものであると云える。自分の惨めさのままで完全無欠な神の御前に現われ出なければならないとは……。

この斗争に続いて人間をさいなむ苦しみは絶望感であろう。十字架上のキリストの死が神秘不可思議に思われるのは、彼のあの腸をえぐるような嘆きの言葉のためである〝わが神よ、わが神よ、なぜ我を捨て給いしぞや〟。

死と一対一で取組んで勝目のない勝負を続けねばならない自分、人間の力の限界が今迄とは違ってはっきり悟っていて、死の暴力と戦うのである。臨終の枕辺で慰めの言葉をかけてくれる友人もこの絶望感をしずめてくることはできない。聖人たちが〝精神の暗夜〟と呼んで自分の経験した所のものを、断片的に述べているのを読んでみても、死に臨んだ時の絶望感がどれ程きびしいかが少しは想像できるようである。或る作家が言ったのである。〝主よわが霊をおんみの御手に托せ奉る〟。キリストの口をついて出た単純な一語こそ死の暴力を克服できる唯一の道である。ここにはじめて人間最大の悲劇を喜んで引受ける不思議な力、生存の本能的な執着をたち切って自分を犠牲の供物として捧げる程の神秘的な変化が実現するのである。

人間の最も惨めな瞬間が人間生活の最も美しい、最も貴い瞬間となるのである。之が理解できなければ、なぜ人間だけがあれ程の斗争と苦悩を経験する運命を与えられているか説明がつかない。ゴールと見えるものが新しい生命のスタートであるからこそ、われわれは死に際して陣痛の苦しみを味わねばならないのである。

（深堀敏）

•……☆

祈禱の使徒會　十一月

〔一般の意向〕御聖体が信者の生活の中心とならんため

これこそ祈禱の使徒会の根本的精神であつて、各自が祭壇上に献げられる御聖体の聖心と一致して生活することにほかならない。罪に汚れたわれわれの生活を聖化し御父に罪の赦しを求め、計り難き恵みをわれらにもたらすものこそ御聖体である。ミサ聖祭でわれわれは、御聖体を犠牲として御父に奉献するが、聖体拝領においてこの犠牲の報酬を御父から受けるのである。御聖体のキリストによって日ぎ人間像は改造されて、キリスト的、新しき人間像が形成されてゆく。御聖体の奉献の精神は、決してミサの間のみにとどまってはならない。「毎朝の奉献の祈」にあることく、全世界の祭壇上のミサの犠牲となりたもう御聖体と絶え間なく心をあわせて、己が生活を奉献すること、かくして御聖体がわれわれ信者の生活の中心となつてくる。

〔布教の意向〕インドネシアの社会秩序がキリスト教的原理の上に築かれんため

☆☆　☆☆

司祭異動

福岡小神学校附　青木　保師
任二日市教会主任

学生ホーム附　畑原富雄師
任福岡小神学校附

二日市教会主任　糸永武夫師
病気のため辭職

十一月　煉獄の霊魂の月

一日（木）　諸聖人の大祝日
すでに天国で神の喜びにひたっているわれらの祖先、親、兄弟同胞の幸福を想う。

大名町教会で司教ミサ（午前九時）

二日（金）　諸死者の記念日
未だ練獄で償の期間を過している魂のことを考え彼等を慰めるよう努める。

泰星学園で慰霊祭（司教列席）

三日（土）　文化の日

別府教会でカトリック国鉄職員の集い（司教列席）

四日（日）　聖霊降臨後第廿四の主日
心中に吹きすさぶ嵐をとり静めるには主に信頼せねばならない「主よ、我らを救い給え、我ら亡ぶ」。

別府教会で堅振と信徒布教会

五日（月）　日本の福者聖パウロ・ナヴアル等殉教者
一六三三年十一月一日島原で火刑

宮崎教区司祭の集会日（司教列席）

六日（火）　教区司祭月例集会の日

九日（金）　ローマの救世主大聖堂の記念日。

十一日（日）　聖霊降臨後第廿五日の主日
われらの心の中にはよい麦とわるい麦とが生えている。悪い麦を引きぬいて、よい麦を成長させるのが、われらの務。

久留米教会で堅振と聖体行列

十五日（木）　聖大アルベルト司教博士証聖者

十八日（日）　ローマの聖ペトロパウロ大聖堂奉献の祝日
聖霊降臨後第廿六の主日
神の働きは　はじめ目にとまらない程　小さくかすかなものである。しかしそれが世界を支え、世界を変える程の力をこめている。

高宮教会で堅振

十九日（月）　ハンガリーの聖女エリザベート寡婦

社会科教育分科会（於司教館）

廿一日（水）　童貞聖マリアの奉献の祝日
聖母マリアは御年三才にして身も心も天主に捧げ神殿で沈黙と默想の生活に入り給うた。

福岡サンスルピス大神学校第一級の祝日（司教列席）

廿二日（木）　聖女セシリア童殉教者。二三〇年頃ローマで殉教。音楽の保護者と崇められている。

廿三日（金）　勤労感謝の日

廿四日（土）　十字架の聖ヨハネ博士証聖者
アヴィラの聖女テレジアと同時代の大神秘家でカルメル会の改革を行った。一五九一年帰天

廿五日（日）　聖霊降臨後第廿七日の主日ー最終の主日。
世の終りはキリスト再臨の日である。
賤しい人間の姿をもって来り給うのではなくて、栄光の主万物の王として来り給う。

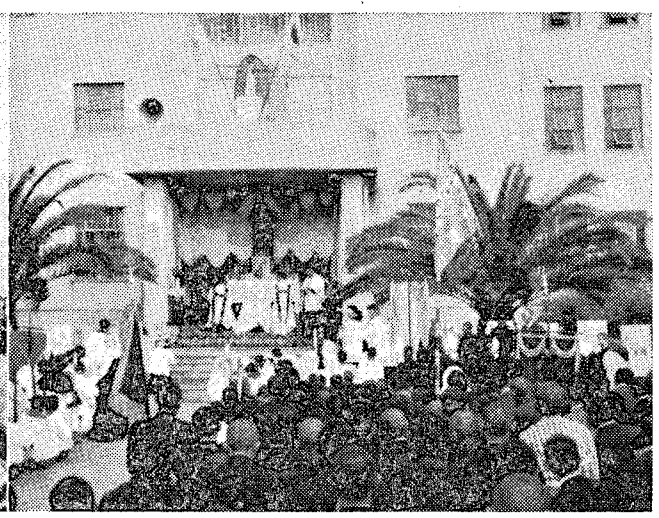
廿七日（火）　アレキサンドリアの聖女カタリナ

卅日（金）　日本の福者レオナルド木村等殉教者
一六一九年長崎で火刑

卅日（金）　使徒聖アンドレアの祝日

宮崎市を行く 聖体行列





一枚々々ていねいに画かれた無数の御聖体をかたどる旗の波とアーチにかざられたカリタスの園に秋の陽光が照りはえる十月二十一日午後二時、日向学院デユメ神父の奉持し奉る御聖体が、宮崎教会主任司祭ダニエリ神父と日向学院副院長ロペス神父とに附添われ、富高、高鍋、宮崎、田野、都城の各教会代表委員の持つ天蓋の中に聖堂を御出ましになる鐘の音が鳴りひびいた。

日向学院ブラスバンドの奏する行進曲に合せて、宮崎全県下より集まつたカトリック約一千名の昭和三十一年度聖体行列は、十字架を先頭に、各新聞社のカメラのシヤツターの切られる中に、宮崎カトリツク学生連盟、日向学院ドメニコ会、宮崎教会マリア会の奉仕による万国旗とモールでかざられたアーチが十数ケ所に立つ宮崎市の一つ薬道路から八間道路へと行進を開始すれば、男子小中高校生女子小中高校生がロザリオを唱えながら続く。百余名のカリタス修女会聖歌隊は御聖体の讃美のコーラスで進み、修道女、天使の服装の少女の一団、ローソクを持つた侍者の列、司祭団の後に、花の冠に白衣の少女が撒く花びらを浴びて御聖体は厳かに沿道を祝福して行かれる。その後に各教会の聖歌隊、婦人信徒、男子壮年信徒の列は果てしなく続き、歌と祈りの一大交響楽が街頭にひびきわたつた。

日向学院正門前に到着して、山頭神父は一きわ高き仮祭壇上のマイクから、我が主イエズス・キリストを中心に集まつた二千年前の使徒時代と同じ姿のキリスト信者の群が此処に再現されている旨の感銘深き説教をなし、聖体降福祭を終り、行列は再び同じコースを祈りと歌を合唱しながらカリタスの園に帰り、屋外の仮祭壇で最後の聖体降福祭を行つて、午後四時信仰のおめぐみを感謝しながら散会した。

（写真左は行列にしたがう信者、右は日向学院での降福式）

太刀洗教会でも
定例の聖体行列

毎年十月中旬布教デーに挙行されている太刀洗教会聖体行列は、本郷、久留米方面からの信者参加をえて、秋晴のもと盛大にくり展げられた。

午后二時赤練瓦造りの教会を出発。聖体を捧持した棚町師の両脇に青木保、金松の両師がつきそいその直後を当日堅振のため来町中の深堀司教が司教正装で進まれた行列は上高橋の大通りを過ぎ黄金色に実る豊作の筑後平野を進んで農業倉庫の前に準備された仮祭壇において聖体降福式を行い、本郷教会主任の村岡の師熱情こもる説教によつて、聖体に対する信仰を題に強められ、午后四時祭典の幕をとじた。

第一回筑後地区 信徒布教委員會
十月十四日 太刀洗教会で

棚町指導司祭、太刀洗、本郷主任司祭列席のもとに、委員十四名出席、第一回筑後地区信徒布教委員会は太刀洗教会で、聖体行列にひきつづき開催された。

会長挨拶、末次委員の始業前の祈りにつぎ、棚町師の霊的講話の後各小教区の委員会の報告をうけ議案の討論に入つた。

❶組織活動について

太刀洗十六、本郷十、久留米十三、大牟田八の隣組が設置され、活動を続けている。

祈りの会は種々あるが、大牟田では、聖体姉妹会、下僕会などをまとめて新たにロザリオ会を組織

これらの組織活動には司祭の列席が強く要望され、大牟田では各隣組に二名づゝの布教委員が指導に当つている。

尚これらの外的活動の推進力は祈りと信仰にある。この点を更に深く認識して「隣組集会に際して信心業をもつと実行すること」また各小教区委員会相互の情報をより迅速に交換すること。

❷信者家庭相互間の親和策について

新信者を温く迎え、離れている信者を呼び戻すよう努める、信者家庭相互の親和を図るため、例えば死者がある場合には必ず連絡をとり、祈りその他出来るだけの世話を行うようにする。そのため信者家族名簿を作製する。これに引きつゞいて結婚互助、各種職業別、青壮年別連絡などを整備する

❸布教用印刷物の配布方法

布教資金の活用の一つとして本郷教会ではカトリツク定期刊行物五十部その他パンフレツトを配布する予定。配布効果を上げるために病院、郵便局、銀行その他大衆が待ち合わせるような場所に配布する。

各家庭や各個人に配布したり販売したりする場合には、相手に順応したものを与えるよう努めること。例えば「カトリツク生活」誌は子供の映画観覧を心配する両親には歓迎される。

❹信者各層に於ける組織活動

青年会の育成はどこでも要望されているがリーダーの養成が充分に出来ないなどの理由で進展がはばまれている。都会青年は、農村青年に比べて勤めなどの関係上、集会がむつかしい。久留米には壮年会も発足している。これらの団体の正しい育成のためには教理研究の時間が不可欠である。太刀洗では毎週行つている。

❺地区委員会の資金について

第一回会合では地区費の積立は行わないことになつていたが、福岡地区では小教区資金の三割を地区資金に積立てることに決定しているので、筑後地区でも三割を地区費とすることに決定、十月度分より徴集する。

❻講演会開催

在ソ獄囚生活十年の遠坂師が久留米教会来訪の折りに講演を依頼する予定。

❼クリスマス節の布教活動

全国布教委員会の主旨に協力、ポスター、クリスマスカード、リフレツト、クリスマスシールなどをできるだけ多く配布する。

❽野外ミサの件

天草に於ける野外ミサに倣い、キリシタン因縁の地、柳河、甘木八女市などで野外ミサを来春頃に行うよう準備する

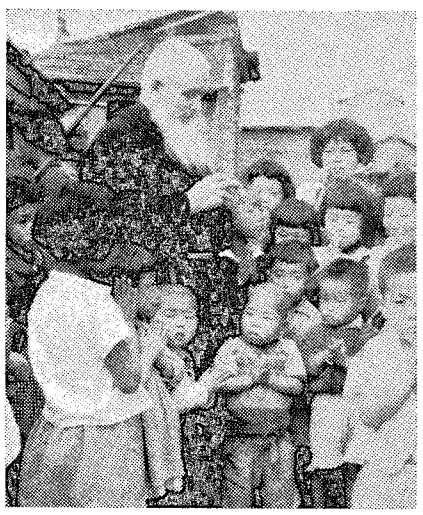
因みに次期委員会は来年一月第二日曜日本郷教会で行う。

唐津、鳥栖両教会 カトリツク墓地を購入

唐津、鳥栖両教会ではこの程両市の保健所衛生課を通じて県衛生課担当の県知事認可を得て、唐津市田町字カ川の二八坪と、鳥栖市轟字峯牛の一五一坪を購入。去る十月十一日午前七時より深堀司教より祝別式が行われ、つゞいてパウロ会のアンゼロ師によつて司教より祝別式が行われ、つゞいてパウロ会のアンゼロ師によつてミサ聖祭を挙行、参列者一同聖体拝領をなした。

福岡ピエ・ディセポレ 修道院完成

福岡市小笹町の男子聖パウロ会修道院の隣にこの度、ピエ・ディセポレ女子修道院の一部が完成。去る十月十一日午前七時より深堀司教より祝別式が行われ、つゞいてパウロ会のアンゼロ師によつてミサ聖祭を挙行、参列者一同聖体拝領をなした。



"ゼノさんがんばれ" バタ屋部落の運動会

バタ屋部落の運動会が去る十四日午前九時からにぎやかに開かれた。福岡市長浜新町二区第一回大運動会と名前はいかめしいが、長浜埋立地の広場に急ごしらえの臨時運動場。学校の運動会の味もしらないものも多いだけに子供たちは大喜び、レース中でもグラウンドの真中に飛び出して大はしゃぎだつた。聖母の騎士のゼノ修道士と福村町内会長がキモいりで"アリの町"とよばれる同町にも明るい秋の喜びをもたらそうとこの運動会になつたもの。

両氏が勉金三万円を集めて賞品を買つたりおべんとうのパンを求めたりでみんなが同じオヒルを過したが、バタヤ部落運動会ときいて百円、二百円と送金してきた小、中学生もあつた。

外から内から、生活の貧しきを心の温かさでおぎないあつて、スプーン・レース、トルコ蟻走対抗リレーとどこに出してもはずかしくない運動会は午后三時すぎまで甘ごろの苦労をふつとばして続いた。

（運動会準備にバタ屋部落を訪れたゼノさんと子供たち）

☆～　～～　～☆

奉献の歌ミサが捧げられた。建物はプロツク、建坪一一八・五八坪福岡高山工務店が建築を担当した都藤を遠くはなれた平尾の丘の南側に位置した理想的である。

ちなみにピエ・ディセポレ修道会は昭和二十五年五月イタリーより二名の修道女が初めて来朝、現在全国に四つの修院（東京三、福岡一）をもち立誓願者二十名、志願者廿名に上つている、当会の特徴は三つの使徒事業に要約される。第一は永久聖体礼拝、これは司祭の召命と聖化のため、および放送、映画、出版によつて犯される現代的罪の償いのため昼夜交代に行われる。第二は司祭、神学生修道者のための炊事その他の世話第三は典礼用具、たとえば祭服、祭壇用布など、またロザリオ、御像、御絵の製作に当つている。

社会福祉施設、幼稚園責任者会議

十月廿六日（金）福岡司教館に教区内のカトリック社会福祉施設および幼稚園責任者約四十名が参集。当面の諸問題について深堀司教、棚町正刀師、ルリエ師および福音の光女子修道院長エリザベート童貞から指導や感想が述べられ正午過ぎ散会した。

九大仏文学講師にベルトラン師

福岡市大濠訪問童員会附司祭ベルトラン師（パリ外国宣教会）は先程帰仏したヴアンドリユ師の後任として、九州大学で仏文学の講義を十月末より担当する。

箱崎ニユーマン・クラブでカトリツク研究会

福岡市箱崎浜松町のドミニコ会修院内に併置されているニユーマン・クラブで、ベリボー師（九大哲学講師）の指導のもとに、隔週火曜午后六時より、九大教授および学生のためのカトリツク研究が行われている。十月最終の会合は三十日である。

尚六本松の教養学部でも同師による研究会を開始の予定。

レヂオ・マリエ、八幡クリア会員のための一日静修

十月廿一日（日）八幡市天神町カトリツク教会に於て八幡クリア会員（北九州地区レヂオ・マリエ会員）約一〇〇名が参集して、深堀司教直接の指導のもとに、終日黙想を行つた。

朝九時の司教ミサから午後四時の聖体降福式まで会員一同非常な熱心にあふれた静かなふん囲気の中に、前後四回にわたる司教様の説教に導かれ、他の時間は共同で霊的読書を行つたり、礼明に励むなど、毎日を多忙な職場にいそしむ会員にとつてまさに霊的オアシスの一日であつた。

戸畑天使園で
九月廿九日に天使まつり

戸畑市千防町の戸畑天使園では九月廿九日大天使聖ミカエルの大祝日を期して"天使まつり"を盛大に催し、昨年にひきつゞきすばらしい評判をまき起した。

朝九時半園児父兄一諸にミサ聖祭を拝聴、終つて男児は二週間前から実行して来た犠牲と祈りの花束を、女児は花の冠を祭壇前に安置された聖母の像に四人づつ進みでて捧呈した。

ミサ后父兄は市公民館で大名町教会主任伊東師の"希望にこたえて"と題する講演をきき、正午には同所で親子そろつて弁当箱につめた昼食をとり、午后には父の会母の会および幼稚園職員が園児たちをお客様にしたてて会食をやつて、天使達の美わしい世界を思わしめる和気あいあいとした"天使まつり"を終つた。

開校記念バザーにカトリツク展

延岡緑ケ丘学園高等学校では、去る九月三十日第二回開校記念バザーを催したが、十五号台風直後のめずらしい快晴にめぐまれ、食堂売店、演劇、福引き、展示などといずれも盛況であつた。

同校は昨年四月に創立されたばかりで市民の認識もまだまだ十分でないので、一般の理解を深める意味に於てバザーを催して学校を公開し、それと同時にカトリツク学校としての特色を強く示すために特に「カトリツク展」をも併せ催した。



（写真はカトリツク展会場）

このカトリツク展では、会場正面に聖主キリストの御絵、教皇、司教、司祭の写真を配して、キリストと教皇の関係、教皇とカトリツク教会との関係を明示したり、図表と統計の部では世界宗教別信者比較や主要国別カトリツク信者数と伝道時期などを示した。

その他ローマ聖ペトロ大聖堂、国会議事堂、延岡市庁舎などの百分の一縮尺の模型を作成して、ルネツサンス時代の建築の壮大な傑作である聖ペトロ大聖堂の大きさを一目瞭然たらしめた。

資料の乏しさにも拘らず、入手できたものを最大限に利用して社会科的見地からも非常に興味ある展示会であつた。

（写真はカトリツク展会場）

全世界を感動させた宗教名画

沼の中の光

（聖女マリア・ゴレツチ）

イタリヤ語版
日本語解説

希望団体はできるだけ早く
司教館に御申込み下さい

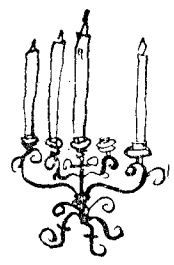
堅振式

【那珂町教会】

十月七日（日）に廿五名が受堅。

【太刀洗教会】

十月十四日（日）廿九名が受堅。



「公教要理」(八)

悔悛の秘蹟（A）

伊東誠二

洗礼によって、ひとたび天主の子となったひとは、その恵みによって三位のまごいに加えられる。そして、堅振によって、信仰の勇者となる恵みに育てられるが、此の間、御聖体はキリストへの合致の糧をもって、絶えざる魂の生長の原因となる。

すべての秘蹟の目的は神秘体の生命に関するところで結ばれていて頭たるキリストへの一致を来たすように、御意志によって制定されました。

しかし、キリスト信者とて、霊魂の世界で経験する心細いあの浮沈を誰一人として看過出来るものではない。

人は生れながらに、罪の種族に属していて、その智慧のくらさと、意志の弱さ故に何度つまづくことか？被造物全域は悪へのいざないで蔽はれているかのようである処あり、聖霊に導かれて人々が神によって話したものなのです。

だから十二使徒の教を誤りなく保っている教会は、ヴァチカン公議会で新、旧両書は聖なる書であること、それは聖霊の神感によって書かれたのです。

聖書が知名の又無名の多くの人々の手になるものであることは前にも述べました。彼等はそれぞれの環境、教養にもとづいて、聖書の各部分を書いたのですが、一つの根本的な特徴がその全部を、深い、神秘的な、超人間な統一の中にまとめ上げて

私どもの手にしている聖書が「聖なる」書と呼ばれるのは一体どうしてでしょうか。

それは聖なる教をのせているからでしょうか。たしかに聖書は神の選民の聖なる歴史、唯一神に対する信仰、人のふむべき道など聖なる教を記しておりますが。でもそれだけでは殊更にこれだけが聖なる書と呼ばれる理由になりません。聖なる教を記した書物は他にも沢山あるからです。

では信仰をもつてこれを默想する人を聖化する力があるからでしょうか。それも本当です。幼きイエズスの聖テレジアは聖書、なかでも福音を默想することを好み、それから新しい光を見出していたのです。でも私どもを聖徳の高みに導くのは聖書とは限つておりません。だが聖書だけが特権的な地位を占めております。

聖書が「聖なる」特質をおびているのは、神の御手から出ているという理由によるのです。実に聖書は皆神感によるもので



みんなのための聖書

(6)

神の御言葉

この人々は聖霊の特別の働のもとに、それぞれ道具のように協力したのです。一人の音楽家に弾ぜられる竪琴のように、神の御手の中で音をかなでていたのです。

各自の理性のあり方をぐさないで智慧を照らし、その自由を犯さないで意志を誘導し、人間心理の機微を尊重しながら彼等につきそつていたのです。

聖霊は理性を具えた生きた道具たる彼等を内部から動かしてゐられたのですから、神の御言を機械的に伝えるに過ぎないスピーカーのようなものだと考えてはなりません。

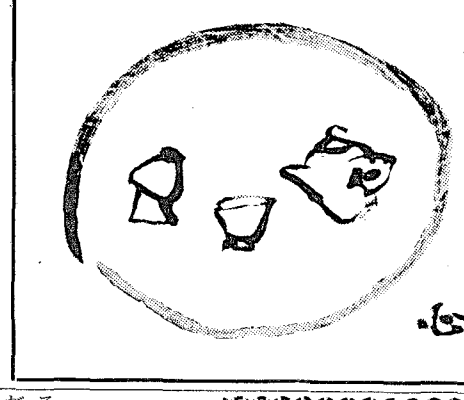
神はこの人々が神の御考と同時に、人間の考えも述べ伝えるような風に彼等を照らし、導き、助けたのです。それに書かれていることは、人間のメツセージであると同時に神御自身のメツセージ、即ち神の御言葉なのであります。

☆　☆

☆　☆

法然院冬心

高きより
射ておとすごと
松葉ふる



『聖人物語』

殉教と才媛

アレクサンドリアの聖女カタリナ

（十一月二十五日）

キリスト教は多くの殉教史でかざられている。いつの時代でも、どこの国でも信者に対して苛酷な迫害の方法が工夫され、人類の残忍性が暴露されている。

そこでふとひとは次のように考えるかもしれない。

か程に血迷つた迫害の面に立つて殉教に終始するものは冷静な理性ではなかろう。すくなくとも、死の場面における信者の心境は狂気に似た内からの力に屈するのでなければ説明が出来ぬのではないか

非理性的に狂暴な迫害者に対して平静な理性はその相手にする義務さえもたない等である。かしこいものは殉教を敬遠する、と。

しかしながら、キリスト信者の多くの殉教のケースはこのような想定を裏切つてしまう。トマス・モアはギロチンの刃の下でユーモアを忘れなかつた。われらのカタリナもエヂプトきつての才媛であつたのだ。後世、教会ではこの聖女を哲学神学の保護者と仰ぐのである。

カタリナは、エヂプトの都会、アレクサンドリアの裕福なローマ人の娘であつた。当時華かであつたアフリカ精神文化の教養を身につけて、哲学を修め衆目を引いていたそうである。

えい智への憧憬、真理への喜びはカタリナのひとみにすがすがしい光をそえていたにちがいない。

哲学は地上のえい智、そして真理の熱心な探求者である。一日、町の近郊に住む隠修士にゆきあい、真理の本源にましますキリスト教の天主の事を聞くに及んで、ひたすらに真理にあこがれる彼女の精神は求道の道に入つた。洗礼を受けると、自分の装身具と財産を売りはらつて、貧素な修道者のような生活に留まつて、真理の主への一致を希つた。

ローマのガレリオ皇帝と共にアフリカを治めていたマクシミノの治下で、エヂプトにも急激にキリスト教撲滅のろしが上つた時、カタリナもとらわれの身となつた。ローマ人である事と、美貌で学識深いこの娘は直接皇帝の面前に引き出されて棄教をせまられたが信仰を弁護したので無学の田舎出のこの皇帝は、聖女に歯が立たず、数人の御用学者を呼んで討論させて、彼女の信仰の愚を笑うつもりであつたが、かえつてイエススを明証してしまつた。皇帝は怒りにわけでもなかつたのにこの〝死〟という問題が妙に気になりだしたのである。

そのうち夏休みになつて海岸の親戚に行つた。従兄弟は大勢いたが、その中でも私に成績のことやや学科のことをよく尋ねてくれる高校生の従兄が一番偉く見えた。それである日この彼に素晴しい解答を期待して質問の矢を向けてみた〝子供がそんな事を考えると早くおばあさんになるよ〟彼は笑つてたゞそれだけしか答えてくれなかつた。

それから暫くして祖母が亡くなつた。その時のおぼろな記憶の中に一つはつきり悩襄に刻まれていてマグダラの罪の女の様に赦しを暗うイエススの足元に居る事

秘蹟を定められたイエススは常に魂の世界にその御父の御前に於ける使命を続行されているのである「この人は何をいうのか。神ひとりのほか、誰が罪を赦し得ようか」（マルコニワ）と秘蹟を笑う人々は告白場のそばでいうだろうしかし、われらに罪をゆるされる御方は、不治の病者に向つて、その場で「起きよ、床をとつて家にかえれ」といい得る御方であることを確悟しなければならない。

〝まことに汝等に言う。汝等が地上でつなぐものは天でもつながれ地上で解くものは天でも解かれるのである〟（マテオ一八18）

かつて、教会設立をペトロの上に約束された時に用いられた〝天国の鍵〟の表徴を用いて、救霊に必要な罪のゆるしを、天国の門を或十字架のよき盗賊の様に主の御あはれみに呼びかける信仰の状態が秘蹟に近づく作者の中に再現せられなければ〝汝の罪をゆるす〟との御主の御声を受ける訳にはゆかない。

以上の様なこの秘蹟の性質から痛悔者と、司祭にそれぞれ要求せられるいくばくかの本質的な要素があげられるのである。即ち

痛悔者には、十分な罪の告白とすべての罪に対する痛悔と遷善の決心、償いであり、

司祭には、罪の赦し、又は拒否の明かな決定、そしてこのために告白者の上にその罪と痛悔について明白な判断とである。

次回からその一つ一つについての考察を試み度い。

死をみつめる

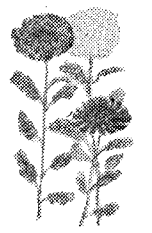
中共で死刑を宣告され、死の獄中生活をへて遂に出獄追放され、今日本で活動している一司祭が数日前、死の感を私にこう語つた。

銃殺を刻々にまつ獄中、最後の十日間、私はそれこそ世と己とに死して 身も魂も 天主に托して静かに死の準備ができそうなものでしたが、実はそれはおろか平素全く忘れてしまつて気にもとめていなかつたこと、幼小の頃のこと、親兄弟や友人のこと、全生涯の罪、死と死の苦しみの怖れが走馬燈のように記憶の中をはしり廻り、心を騒がし狼狽させられたのでした。

人間というものは浅ましいものです平素は何といつていようと、またどれ程準備していようと、一度わが身に迫る死に直面すると全生涯について余程違つた考えをいだき始めるのです。

自己と自己の力、知識も学問もはや用をなさないし、またそのような人間的なものには頼つておられないのです。

しかしまた死はわが永遠の運命を決定する岐点であつてみれば、之に直面してはいかなる人も恐れおののき狼狽するのも当然のことでしよう。これが自立自存の力なき人間の真相でしよう。他方では心は死を怖れ何物かに頼らんとあせるのでした。私は幸に十字架上のキリストへ



と上り、主の贖いのうちにようやく心の平安を得たのでした…と。

中国の布教のため飢も喝きも迫害も苦しみも、生も死も天主の御旨に托していたこの宣教師にしてこれだとすれば、この私は死に際してどんな怖れにおそわれることであろう。私はいかなる状態のうちに死するであろうか。

ああしかし幸いに私は十字架上の主イエスス・キリストを信じ、彼のうちにわが永遠のたすかりの贖あることを知つている。この主の贖いの御功力にあづかる為に、いざ只今より立上り主の許に走りより、イエスス、マリア、ヨゼフ、わが魂とわが生涯とを御手に托せ幸るをとなえつつ、主に於て安らかに息絶ゆるを得しめ給へと祈り願おう。

今より直ちにこの祈りにともなうよき生活と行とを以て、自己の改善と遷業とにとりかかりよき死にそなえておこう。

「死ぬときにあらまほしく思うような生活を今おくるべく努むる人は幸であり賢い人である」

天地万物はようやく色あせて終末の相を深くしてゆく秋も半ば、死者の月である十一月の月は、自然の静寂のうちにわれらを死の默想にさそい、われらの心に語るものがある。

〝汝、しばしば汝の死を默想し自らに問うてみよ、われはいかなる状態で死するであろうか〟

十一月によせて

マリア

〝人は死んだらその後はどうなるのかしら〟小学校四年生だつたが、小さな私の頭にこんな疑問が浮び、いくら忘れようとしても離れなかつた。家族の中で亡くなつた者もなく又亡くなつた人を見たり扒つて、貧素な修道者のような生活に留まつて、真理の主への一致を希つた。

ローマのガレリオ皇帝と共にアフリカを治めていたマクシミノの治下で、エヂプトにも急激にキリスト教撲滅のろしが上つた時、カタリナもとらわれの身となつた。ローマ人である事と、美貌で学識深いこの娘は直接皇帝の面前に引き出されて棄教をせまられたが信仰を弁護したので無学の田舎出のこの皇帝は、聖女に歯が立たず、数人の御用学者を呼んで討論させて、彼女の信仰の愚を笑うつもりであつたが、かえつてイエススを明証してしまつた。皇帝は怒りにわけでもなかつたのにこの〝死〟という問題が妙に気になりだしたのである。

そのうち夏休みになつて海岸の親戚に行つた。従兄弟は大勢いたが、その中でも私に成績のことやや学科のことをよく尋ねてくれる高校生の従兄が一番偉く見えた。それである日この彼に素晴しい解答を期待して質問の矢を向けてみた〝子供がそんな事を考えると早くおばあさんになるよ〟彼は笑つてたゞそれだけしか答えてくれなかつた。

それから暫くして祖母が亡くなつた。その時のおぼろな記憶の中に一つはつきり悩襄に刻まれていてもえて学者達を罰し、カタリナを鉄鉤のついた車にかけて殺そうとした。ところが、いざ車が廻り出すと聖女の体はがん丈な石にでもなつたかの如く鉤つきの車輪が壊れて刑吏をあわてさせた。皇帝はやむなく剣をもつてその首を打落し彼女に殉教の誉を得させた。八世紀になつて聖女の遺がシナイ山のふもとに発堀された相であるが、アレクサンドリアの信者が人知れず尊き遺骸をモイゼの山に葬つて、迫害者の手から守つたのであろうといわれる。

聖女カタリナは真理を愛し、真理に殉じたエジプトの才媛である。聖教が無学の人の悲惨な運命だとする迷い言にまどわされない様な信仰の教養が近代の人には最も必要なのではないだろうか。

信仰の真理に対して、理性的な沈潜をもつてのぞみ得る程の教養はひたすら祈りと愛の実践なくては私たちの心のものとはならない。

真理は力であり、強靱な物質でも之を否定せんがためには、自らを砕いてしまうはめに落入るものである。

聖女の模範に、私たちは真理に対する愛と共に忠実さを死の間ぎわまでももちこたえる賢明さを見るのである。

一九五六・十・二十

備え

ゲーテ

備え暴風雨の被害に前もつて備えるのに、どうして一生の一大事たる死に備えないのであろうか。必らず一度来る死、これにつながる人生の意義、その目的をしつかり把握して安心して日々を送る人は如何に幸福であり、賢い人であろう。〝死は生涯のこだま〟〝主に於いて死ぬ人は幸いである〟十一月を迎え、煉獄の魂の為祈ると共に自分の死についても真面目に考えてみるのも大切なこと、思う。

人間の一生について、
また彼の運命全体について
決定するものは
ただ瞬間のみ

暗中模索

さむたただし

田舎から東京に行つて先ず驚くことは人の多いことですが、殊にラッシュ・アワーでの駅の人出のすさまじいこと。人々は皆殺気立つた眼をして右往左往しています。でも私はそれらの多くの人々の動きの底に一つの流れを感じます。そしてその流れは一つの方向を持つているようです。ある時間が過ると、満ていた潮が引いて行くようにその人出は少くなつて行くからです。そしてそれは非常に正確に毎日くりかえされています。それは人間の生活の週期が一致しているからでしょうが、もつと私にとつて不思議に思われることは、こんなに多くの人々が、何のために、どこへ行き、何をしているだろうかということです。勿論よく考えて見ると不思議なことではないのかも知れません。生活の糧をうるために、職場へ、夫々の仕事をしに行くのでしようから。

しかし、私の疑問はそのような生活の、奥にあつて人間を動かしている力にかかわつている命を維持するためには食物をとる必要があるからです。即ち食物をとるという行為は生命の維持という目的を持つています。そして食物は一旦口に入ると一定の自然の法則に従つて、消化吸収され、生命の維持という目的を果します。

私達の平凡な日常の生活の一つ一つの行いが、その人の人生をきづいているのですが、同時にそれらの行いは、その人を人生の目的に到らせるか、どうか決定しつゝあるのです。

ラッシュ・アワーの駅頭に立つて、多くの人々の流れを見ながら、一人一人が人間の目的に到るための行動をしているだろうか、果して道を見失わないで歩いているだろうかと考えてしまいます。

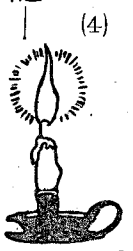
人生を本当に有意義に送るためにはその目的を知ることが先決問題でしょう。

そして、宗教が人間の目的に到る道そのものだとすれば、宗教を求めずして人生の真の意義を知ることは出来ないのではないでしようか。

キリストは「我は道なり、真理なり。」といつておられますその御言葉を深く味つて見ることが、私達の人生の一転機となるかも知れません。

暗より光へ (4)

―死刑囚の手記―



永井博士を心から尊敬して居た私は、「聖母の騎士」で博士の「天からの招待状」の一文を読んで信仰の足らないのを恥じました。「死は天主様の招待状です。私はよろこびをもつて死を待つています。」

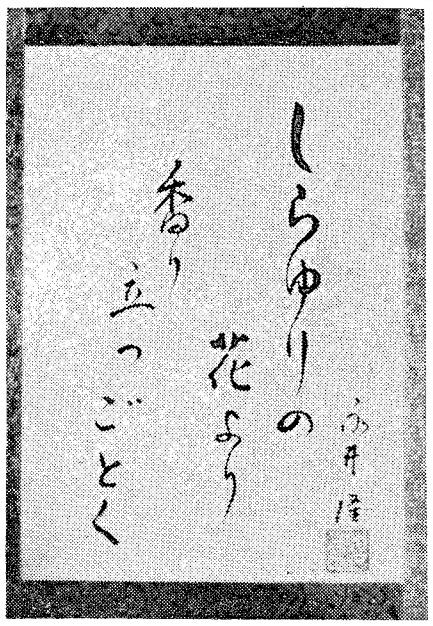
私は博士のことばを繰返し繰返しかみしめて味わいました。

ほんとうにそうだ。そうでなければならないと、自分の心に云い聞かせ納得して居るつもりで居て何かももやもやした不安な思いから抜け出ることが出来ませんでした。

親の悪業のため、何も知らぬ幼な子達が、大きくなつても今の安らかな状態で過ごすことが出来るであろうか。たとえ子供達がそうであつても、社会は温いふところに包んでくれるであろうか…と私は考えまいとすればする程、吾子の行く末の事がしつこくまつわりついていて眠れぬ夜もありました

斯うした私に慰めの為に同囚が貸してくれた雑誌の中に、たまたま映画「長崎の鐘」の数場面が掲載されてありました。日頃敬愛していました永井博士の映画物語りであります。私は其の一場面に息をのみました。

それは博士の枕もとで二人の愛児が積木遊びをして居る場面で、其の左下に「自分が去つたあと、この部屋で小供達は誰れと語るであろうか……」とタイトルの文字が書かれてありました。



私はたまらなくなつて、その上にうつ伏してしまいました。博士の子供誠一さんとカヤノさんの姿は、私の二人の幼な子に変り私の心は動揺しました。

博士は世の為人のために、身も魂も献げつくして帰天されるが、私は極悪人だ、世人に恐れを抱かせる悪業を犯した男だ。……でも親子の情だけは……。私は矢もたてもたまらなくなつて、自己の苦衷を病床の博士に書き送りました。

博士からは折返し毛筆の親書が届けられました。

十一月二十四日　永井　隆

天主の計画はすべて、愛にもとずいている。

その計画はあやまりがないその計画にはすべて、愛によつて行われる。

私が、これを手に入れ、また失う。すべてそれは、天主の愛の計画によつて起るだから、何事が起ろうと、みんな大きな愛のあらわれと考え何もかも天主に感謝しさえすれば、あやまりはない。

肉身の光栄ある復活を、堅く信じよう。

告白と聖体拝領によつて、罪そのものは許され、霊魂は清浄潔白であるを得ました。

博士は右の親書と一緒に重き病床の中から「白ゆりの花より香り立つごとく」と認めた短冊を贈つて下さいました。私はこの短冊を独房の壁に貼り、日夜博士に捧する思いをこめて祈り、修徳の業にはげみました。

それから五ケ月を過ぎた五月一日のことでありました。その頃私は毎夜就寝の祈りを終えて頭を枕につけると直ちに深い眠りに這入るのが常でありましたが、体には何の異状もないのに、その夜に限りどうしても寝つかれず、とうとう起きて聖書を開いて読みつづけました。たしか二時を過ぎ三時に近い頃だつたと思います。その時私はマテオ福音書二十六章のゲツセマニに於けるイエズス様の御心痛の御祈りを黙想しつつ静かに読んでいました。

万物寂とした、まだ夜中にキリスト様のみそばに居る様な気がして御心痛の程に瞼が熱くなりました殊に「……斯くも汝ら一時間我れと共に醒め居る能はざりしか、誘惑に入さらん為に醒めて祈れ、精神は適れども肉身は弱し」と、この二節の句にひどく鞭うたれ、自ら祈りの足らざる事を強く反省させられました。そしてマルコ・ルカ福音書の同じ個所を開いて黙想をつづけて居まするうちに、漸く夜明け近くになつたので、床をあげ掃除洗面を済まし、朝の祈りのあとで、昨夜の不思議な出来ごとについて考えていました。そこへ、まだ起床の時間でもないのに係りの部長さんが出勤して来て、「U君起きているかね」と声をかけられました。私はどきつとして不安な胸さわぎがして、若しか郷里に何事か起きたのではないか。出勤にはまだ一時間以上も早いのでだ事ではないから、私は不審に思い何事でしようかと尋ねると、部長さんは無言のまゝ静かに戸を開き壁に貼つた永井博士の短冊をじつと見つめていましたが、やがて

「U君、君があんなに尊敬して居た永井博士が昨夜昇天されたと云ふ記事が、今朝の新聞に出ていたので、君に早く知らせようと思つて朝食もせずに官服の袖を通すのももどかしく出て来た。あとで所長さんの許しを受けて新聞は見せて頂く事にするが、博士は聖母マリヤの御名を呼びつゝ安らかに昇天されたと出ていた。本当に惜しい事であつた。よくお祈りしなさい」と云つて短冊に頭を下げて部長さんは去られました。

短冊の前に頭を垂れた私は、あゝそうだつたのか、あんなに努めても眠れなかつたのは、博士の友情を主が嘉し給うての事ではなかつたろうか。醒めて祈れの主のみ言葉を、博士が教えて下さつたような気がして、感謝の涙をおさえる事が出来ませんでした。

私はこの時から、肉体を離れた博士の霊魂をいつも身近に感じて獄舎の生活が明るく平和に満ちた事をよろこび、一段と祈りに励む者とせられました。

洗礼によつて私達は天国の世嗣となるというお恵みが与えられ、その時から、天主の望み給う完徳の理想を目指して雄々しくも、その第一歩をふみ出すのである。

しかし、真の信心に不慣れな生れた許りの魂は、この聖籠に協力するには如何にすればよいか、その術を知らず、理想は高く掲げたものの、その道に到達する事の余りに遠きを思つては焦り、熱い遂には心弱くも、諦めに近い心となり、又ある時は、外面的な信心業に熱心が加わり、何かの信心の会に席を置けば、最早、事足れりと云う悲しい錯覚に陥つたりする。

このような己が信仰の弱さをかこつのは、私だけであろうか。否、他の多くの方々も同じような経験を持たれるのではないかと思う。

このような迷える霊魂に一つの光を与えて完徳へのやさしい道へと私達を導く小径となつてくれるのは、この「小さな秘訣」であると信ずる。本書は、内容を第一部と第二部にわかち、第一部において、完徳に達しようと闘つてゆく信者の生活部、内的生活に速かに進み、心の喜びと平安を得、信仰の奥義に到る秘訣を教えている。

この小さな秘訣とは、日常生活を最も大事な祈りの生活とするために、常に心の中に讃嘆を唱えることである。まず、討禱は自分の性格と職務にふさわしいものを自由に選ぶ例えば、「イエズス様、マリア様により御身を愛します」などそして、この小さな祈りを仕事の始めや終りに、又、休み時間、散歩の時、電車の中、その他自由に考える事の出来る時常に心をこめて唱え、何年も何年も辛抱強く実行するのである。祈りと共に小さな犠牲も行うことを忘れてはならないといつている。

第二部には、この秘訣の具体的実行法、カード記入の仕方などが記されている。全編にわたつて、このように小さな秘訣をたゆまず実行してゆく中に、何時かこれが大きな秘訣となり、やがては念禱の生活に導かれ、微動だもしない強い信仰を持つようになる過程が、沢山の実例によつて解り易く懇切に述べられている。

単に、抽象的、理論的な説明ではなく、この小さな秘訣を忠実に実行した。多くの人たちが多大の成果を収めた実話を網羅しての解説だけに興味も深く感銘も強い。老若男女を問わず、一読した者は必ず、これなら自分も「小さな秘訣」を実行してみようと云う気が起るのは受合いである。特に、小さい人たちを指導して居られる方々には是非読んで頂きたいと思う本である。

（光明社定価六〇円）（S）

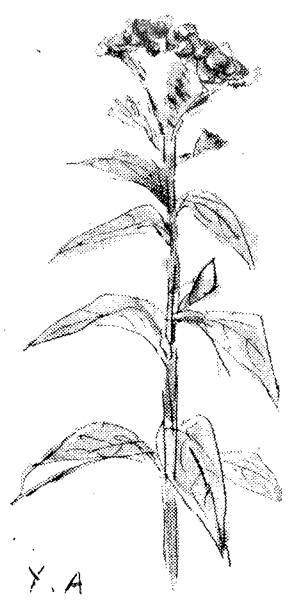
質問欄

キリストの人性

「問」「イエズス・キリストは完全な人間だつたのでしようか？完全な人間は苦しみも悩みも死も全くない、人祖が罪を犯す以前の状態と同じではないのでしょうか？（大牟田一高校生）

「答」イエズス様が完全な人間であつたことに相違はありませんが完全という言葉はこの場合、意味がはつきりしているようで、その実はかなりあいまいです。絶対的な意味で人間に完全という言葉をあてはめることは勿論できませんが、相対的な意味即ち人間である限りという意味でもいろいろの種類や段階で完全という言葉が使われ得るからです。例えば、五体が一応備はつて居れば肉体的に完全ということも出来、或は道徳的に完全といえば罪がないばかりでなく、あらゆる徳を備えることを要求します。この意味ではイエズス様は確かに完全な人間です。然しイエズス様は、公教要理によれば「完全な人」よりもむしろ「真の人」と呼ばれています。成程イエズス様は、健康な五体と聖なる霊魂とを有し給う完全な人ですが、それは苦しみや悩みや死をまぬがれるという意味ではありません。むしろ大切なことは、イエズス様が真の人であるということ、即ちイエズス様はその御苦しみや御死去を以て罪とその罰とを赦し、人類を永遠の救いに導く為にこそ人となり給うたということです。苦しみや死こそが、御托身（イエズス様が真の人となり給うたこと）の真の目的だつたのです。

原罪以前の人祖の状態は、公教要理にもありますように、自然外のお恵みをも受けていたので、或る意味で完全といえますが、自然的には完全という言葉はあてはまりません。勿論、イエズス様には、原罪も自罪もなかつたのですから罪の結果たる苦しみや死をまぬがれてもよかつたでしよう。然し、罰は償いともなるものです。イエズス様は無罪の身にかかわらず全人類に代つて、罪の罰たる苦しみや死を一身に引受け、御父天主の尊前に人類の罪を償い給うたのです。そして最後に、御自分の御復活を以て、人類の罪の償と、その罰（苦しみや死等）に対するその御人性の勝利を立派に証明し給うたのであります。（畑原）



アロイジオ　二　丈

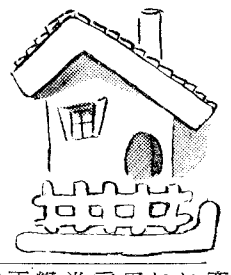
かきの実の二十ばかりがなり残る黒きトタンの屋根のある家

利潤ということばの意味にかかずらいメンガーなどの本をよむ夜

目をつぶり口でつぶやきひたすらにノートを覚える子らに自習さす

ロザリオの月なり夜も二人して　ロザリオをとなえむ心はげまし

詩



こんな風に話がしてみたい

フランシスコ

山奥の
とある小寒にて
松風の音をききつつ
湯のたぎる鉄瓶からは
茶碗に澄き緑の茶をしたたらせ
松寂びし日の本を愛し
言の葉ゆかしきふらんすを愛し
人の世の惨さ故に人類を愛し
それらの一切に超え
神を愛して
天空高く舞い上りし
荒鷲のように
雄壮で
視野広く
眼光深き
かの国の詩人の夢を語り合い乍ら
夜の更けるのも忘れ
夜寒の身に泌むのも忘れ
いつまでも
いつまでも
思いは尽きず
言葉は一つとなり
光となり
終には天使の如くなつて
天翔りゆくのを見凝め乍ら
二人はたゞ黙然としている
こんな風に話がしてみたい

空を見て

高宮教会（中二）テレジア

空の美しさをほんとうに知つている人はあまりないと思う。いつも見ているから人々の心には平凡にしかうつらないだろう。夕やけを見た人は、一時的には感嘆しても、いつもその感心感をもちつづけているのではない。けれども空の深い美しさを知つた時にはその人の生活にまで影響してくるだろうと思う。空のように広びろとした心ですごそうと思うにちがいないから。北アメリカの山地の神秘的な夕暮も、アフリカの密林の上にあるのも空である。又私達の上にあるのも、空を見ている時に訪れる気持は何とも形容のしようもないものである。それは空をいつも見る人、空を好きな人だけがあじわえる。空は素晴しいものだと思う。太陽でさえも空の下にあるし、空の下にある物質ははかりしれない。空を見るときいつしよに浮んでくるのは、その創造主である。この空、雄大なものみなお作りになつた万物の創造主。それを見て自分の罪深さを後悔する人があるようにも考えて空をお作りになつたのかも知れない。それから、神様を知らない人が空を見て、この広大なものの創造者を考えるにちがいないから。

空はどんなものだろう。空をどんどんのぼつていくと青い雲のようなものの中に入つてしまつて感覚はないようなものではないかと思う。空に涯がないというのはどういうことだろう。終りがないことなど考えられない。そんな事を考えると不思議で不思議でたまらない。それは人間にはつかみきれない永遠のなぞなのだろうか。私は空を見るたびに思う。この全宇宙の万物はみんなこの大空の下にあることを、そしてみんな空を見てくらせばいいなあということを。

▶ブツクガイド◀

小さな秘訣　内的生活の鍵

カシアン・カルグ著　神言會司祭ワツラビク譯

カトリック
可認教司堀深
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀敏
定価　一部　十円

東欧と中近東動乱に際し
三回勅發せらる

ローマ教皇ピオ十二世聖下は、最近短期間中に三つの回勅を発せられて、東欧および中東における危険を強調された。

第一の回勅

まず十月廿八日「最も悲しむべき事態」と題する回勅では、東欧における平和のために訴えられ、全世界の信者たちが平和のために特別祈禱するよう要請され、次のように述べておられる。

東欧の諸国民（特に今この瞬間に、極めて残酷な斗争によって血を流しつつある予の真に愛するハンガリア国民）に影響を及ぼすことの極めて重大な諸事件は、予の慈父的な心を深く動かすのである。それは単に予の心のみでなく、文明生活、人間の尊厳および（個々人と諸国民とに当然与えられるべき）自由の諸権利を深く尊重するすべての人々の心をも確かに動かすのである。

それ故に予は、予の教皇職責を意識しつつ、尊敬すべき兄弟たる卿らの全員、ならびに卿らの一人一人に托せられた信者達に対し、次のことを熱烈に訴えざるを得ない。即ち卿らが兄弟愛に鼓吹されて、予と心を合せつつ神に歎願の祈りを捧げ、これによって、（諸国民の運命ならびに彼らの支配者達の権力と生命をも掌中に握り給うところの）神に向って次のことを懇願されたいということである。即ちこの共倒れの殺戮が止んで、正義と愛と正しい自由を基礎とする「真の平和」が最後に輝き出るようにということである…。

第二の回勅

引きつづき十一月三日「大ないなる喜びである」の回勅をもって中東における軍事行動によってひき起された危険を強調され、平和のための祈りの十字軍を再び強く要請。

尊敬すべき兄弟たちよ、諸子も知っての通り、天の使が天から降り、神のみどりごの馬槽の上をめぐりつつ「聖意の人々に平和」といったその聖地から遠からぬ中東地域において、おびやかすように火が燃えている。

父としての愛をもってあらゆる民を抱く私は、哀隣の御父、一切の慰めである神に祈りを捧げると共に、諸子のすべてに私の祈りを合せ祈ることをうながすのである。多くの人々、特に国民の運命を手中に握っている人々が、戦争は恒久の福祉をもたらすものでなく、ただ幾多の不幸、災害を生むものであることを肝に銘ぜんことを。

人々の間における紛争は軍隊殺戮、壊滅によって解決できるものではなく、ひたすら理性、合法、賢明と正義によって達成されるのである。

第三の回勅

ところがその後危機は少しも緩和されないのみか、ますます悪化の一途をたどり、ハンガリアは暴力と流血の巷と化してしまった。教皇はこの事態に心痛められ、前二回勅に次いで第三の回勅「最新の回勅」を発布せられて、暴力を強く非難すると共に正しい平和の回復を祈るよう全世界の信者に要望しておられる。

周知の通りハンガリアの都市でも村落でも「正しい平和」を心の底から熱望する国民の鮮血が再び大量に流されたのである従って予は、こうするのが予の義務上の命令だと信ずるが故に、カトリック世界のみでなく、すべての自由な人々に対しても非常な悲しみと憤りを起させるところの、これらの悲しむべき行為に対して抗議し、かつこれを遺憾とせざるを得ないのである　慈父的な心をもって万民を見守っている事は、次のことを厳かに断言せねばならない。即ち一切の暴力と一切の不当な流血は、その原因のいかんを問わず常に不法なものだという事である。さらに予は、凡ゆる人々と凡ゆる社会階級に向って、「正義と自由とを基礎とし、かつ愛徳を最も重要な栄養分とするところの平和」を打建てるよう、再び要請せねばならないのである（カトリック新聞より転載）



東洋の使徒　聖フランシスコ・ザベリオ

世の光
道徳の権威

良心とは何か、なぜ良心に従わねばならないか、良心の役割は何か、などの問題は、解っているようで案外漠然としか知られていないことである。いいことをすると気持がよいが、悪いことをすると気持が悪い。これをせよと勧める心の声があるし、また悪いことをしたあと自分を咎める心の声がきかれる。この心の声が良心であって、これに従って生活すれば正しい人間になれると云われる。

良心が一種の声であり、命令であり、具体的行動の判断であることが述べられている。

良心とは一人一人の心の中での判断である所からして、主観的判断であり、抽象的な事柄について論議するのでなくて、現在目の前にあって、これをしてよいのか、悪いのかという非常に直接な具体的な判断を与えるものである。従って良心的な人間というのは、必ずしも頭脳明晰な秀才を指すのではなく、一つ一つの行為のよいわるいに就いて実際的な正しい判断を下し、しかもそれに従って生きてゆく人を云うのである。

このように良心とは実践的な智慧の働き、実際に即した善、悪の判断である。

しかしここで直ぐ問題となるのは、良心は一体何に準拠して可、不可の命令的判断を出すかと云うことである。

〝A君のこの時計を盗んではいけない〟という良心の命令は〝他人の所有権を無断で侵してはいけない〟と云う一般的な自然の法の適用である。このような普遍的で然も客観的な法とも云うべき不文律の掟が解るならば、良心は必ずそれに従って判断を下すわけである。

だから子供の道徳教育の第一歩は、行いの普遍的な掟、即ち自然法を少しづつ教えること、次に良心の判断に従う意志の力を養成することである。この二点は何れも大切であって、若し前者がおろそかにされると、善悪の区別のつかない道徳観念のない子供になり、後者の良心への服従心が欠けるとずるい子供になる。前者では智識を与え、後者では意志の鍛練が行われる。この第二のものが一般の学校教育でゆるがせにされていることは事実であり、現代教育の最大欠陥もここにある。

所が四、五年程前ローマ教皇は全世界のカトリック信者および一般の良識ある人々に向って、次のような警告を発しておられる。

それは良心の判断の客観的規準となる普遍的道徳戒律を排斥して、自分の良心にだけ従って、同じものは二度と起らない日常の個々の行動に対処すべきであると主張する所謂新道徳―境遇の道徳―の誤謬に欺かれないようにとのことである。

これは一種の道徳的無政府主義であって、既成の道徳、なかでもモイゼの十誡やキリストの山上の説教から出発したキリスト教的道徳を、個人の自由を無視した受動的な旧道徳として投げ棄てるものである。

今ここでこれらの新人たちと渡り合おうとは思わない。むしろ彼等の行過ぎに心を痛めながらも、自分達の教える道徳教育に確固不動の基準と権威をもたせ得ないために、絶対不変の普遍的道徳的真理を、絶対権威を以て断言することができず、心中もどかしさを感じておられる方々に申し上げ度いのは、無罪者の殺害は絶対に許されないという普遍的真理を、単なる抽象的真理として軽蔑したからであり、そして〝絶対にいけない〟というきびしい命令が、どの権威によったものであるかを考えないからである。

自然法に基いた一切の普遍的真理は人間の絶対的主である神の意志の表われであり、神によって人間に課せられた命令なのである。この絶対的神に対する信仰がなければ、道徳は人間の行為の指導的地位と権威を失うのである。真の正しい宗教信仰が生きている処にだけ、真に権威ある正しい道徳が生きているのである。この信仰を認めないでおいて、人間性の尊重とか個人の自由などを謳歌しても所詮それは美辞麗句の空言に過ぎない。道徳教育の是非を論ずる前に考えるべきことがあるのである。

もし皆さんが道徳的教えの基準を、どの時代のどの人間のどのケースにも適用できるような普遍的教―人の心に刻み込まれた自然法や成文化されたモイゼの十誡等に求めず、その最高の権威を凡ての掟と法の源たる神の権威におかない限り、道徳教育は全く無用の長物となってしまうだろう。交明社会や人間の智識の権威によって道徳を教えて果して良心的人間を養成されるだろうか。心の奥底のひそかな考えさえも正しく律することを命じるほどの権威がなければ、意志がいうことをきくだろうか、一時の社会状勢にだけ通用する理由を持ち出して、それによって良心を決定し行動してよいであれば、人工妊娠中絶という殺人行為も現代の日本の人口過剰からして善行為といわねばならなくなる。日本人の大部分がこの野蛮行為を肯定できる良心を作り上げ

（深堀敏）

永久聖体礼拝　十二月

第一日曜　二日市教会
第二日曜　バウロ会（八代）　本渡教会　幼きイエズス会（久留米）
第三日曜　聖母扶助会（野口原）　唐津教会
第四日曜　聖小崎（八幡）
第五日曜　中津教会

祈禱の使徒會　十二月

【一般の意向】迫害下の信者が虚偽と空言にまどわされないこと
【布教の意向】アフリカの教育事業

昭和三十二年度
福岡小神学校
生徒募集について

一、願書受付
　高校の部　一月十日から
　中学の部　二月一日から
一、選考日　未定
一、選考方法―書類選考及び面接書類選考は主任司祭推薦状と出身学校長の報告書による。
　但し、高校、中学の編入については未定、入学御希望の方は左記宛御連絡下さい。

福岡市浄水通三八
福岡小神学校
畑原神父

十一月

二日（日） 待降節第一の主日
待降節とは今日から十二月廿四日までのクリスマス直前の準備期間のことをいう。神御自らが全人類を救うために、この世に来り給うのを待望していたイスラエル人にならい、今日の信者もクリスマスの祝日を心の中に準備し、ふさわしく主をうけ奉ることができるように聖なる生活を送る期間である。

三日（月）布教の守護者聖フランシスコ・ザベリオ証聖者
今から四百年程前、日本に来朝してキリストの教えをはじめてわが国民に伝えた聖人、日本の布教のためこの聖人の代禱を祈ろう。

久留米カトリック授産場祝別式（午前十時）

四日（火） 日本の福者イエロニモ・シモン満浦殉教者　元和九年十月十三日（一六二三年十二月四日）江戸で火刑

教区司祭月の集会の日

六日（木） 聖ニコラオ司教証聖者

七日（金） 聖アンブロジオ司教博士証聖者

八日（土）童貞聖マリアの無原罪の御宿りの祝日
「無原罪の御宿り」とはマリアが母の胎内にやどられた最初の瞬間に、御子イエズスの贖罪の御功徳を前もって与えられ、原罪の汚れをうけずにすんだということ。だから聖マリアは我等の理想の女性、美しく愛すべき御母にて在す。

トラピスト修道院で誓願式（司教司式）

九日（日） 待降節第二の主日
〝シオンの民よ、主は万民を救うために来給い、はえある御声をきかせ給う。そしてあなたたちの心はよろこび勇むであろう

邦人司祭　養成の日（今日の献金は神学校のため）

十三日（木） 聖女ルチア童貞殉教者

十五日（土）琵琶崎マリアの宣教者フランシスコ修道院で誓願式（司教司式）

十六日（日） 待降節第三の主日
今日の主日は〝喜びの主日〟と呼ばれる。メシア（キリスト）の到来の近きを感じて心は喜びおどる。

十九日（水） 四季の水曜日

下関教会で司祭叙品式（司教司式）

廿一日（金） 使徒聖トマの祝日―大斉―

サン・スルピス大神学校で叙品式

廿三日（日） 待降節第四の主日、
年末も迫り道も心はうきうき、忙しさもましてくる。然し、聖母マリアに倣って心静かに主の御来臨を準備しよう。

廿五日（火）我が主イエズス・キリストの御降誕の大祝日
〝本日、光がわれらの上に輝く、主が生れ給うたからである。その御名は妙なるもの、神、平和の王、新らしき世の父である〟その御国はきわまるところがないであろう。

大名町教会夜中のミサは司教荘厳ミサ

廿六日（水） 最初の殉教者聖ステファノ。

廿七日（木） 使徒福音史家聖ヨハネの祝日。

廿八日（金） 罪なきみどり児たち殉教者。

卅日（日） 御降誕大祝日後の主日。

卅一日（月） 本年最後の日、過ぎた一年をふりかえって天主からうけた御恵みを感謝しよう。

第四回福岡地区信徒布教委員会

信者つとめ先別名簿完成

第四回福岡地区信徒布教委員会は十一月廿五日（日）午後一時三十分より福岡司教館において開かれ、八教会の主任司祭と代表委員ら廿六名が出席。左記の通り議事審議を行った。

❶クリスマス浄化運動の実施。前回委員会で決定された通り、十二月十日を期してクリスマスポスターを貼布する。その為各教会で分担して自費通りは勿論、未信者の家庭にも諒解を求めて貼る。なお期日後に必ずポスターをはぐこと。本地区で貼布されるポスターは一、〇七二枚で全教区の約四割を占める。クリスマス・リフレット（あなたとクリスマス）は本地区で六〇六〇部を配布することになっているが（なお全教区内の配布部数は二万で、この中一万枚は学校関係で配布される）リフレット分配と同時に貧困者への慈善の贈物を配布することが望ましい。未信者をミサ聖祭に勧誘する努力を払い、未信者が教会に近づき易いように工夫し、信者が出来るだけ附き添って面倒を見ること。クリスマスの朝のミサには信者の出席が多いので注意する。

❷聖句の掲示について。聖堂の入口その他通行人の目につき易い所に、聖句を掲示する教会の実情に従って、できるだけ実施する様希望する。

❸青年部、壮年部の結成　大名町教会より、布教委員会の下部組織としての青年会あるいは壮年会結成が提案された。本日全委員に手渡された大名町カトリック青年会規約案に従って十二月九日日曜日に発足の予定であるが、その実績に従って全教区に及ぼしては如何が討議される様希望する。

❹来年度の布教会運営計画を第五回委員会の三週間前迄に、各教会毎に準備し平田勇師までに通知すること。

❺福岡地区カトリック信者つとめ先別名簿（廿一年十一月現在）が完成

九月委員会における決議に従って約二五〇名について作成。本日各教会毎に数部づつ配布されたが、今迄同一職場又は近接した地点で働きながらも相互に知り合うことがなかつた者同志がこれから職場を通じて結束することができると期待される。

❻去る九月より十二月迄の間に新たに求道者として獲得された数。古賀（四）浄水通（十二）地行町（七）西新町（三）高宮（一）大名町（三十四）那珂町二日市、吉塚は不祥。

❼次回委員会開催は廿二年二月廿四日とする。

大分で宮崎教区司祭大会

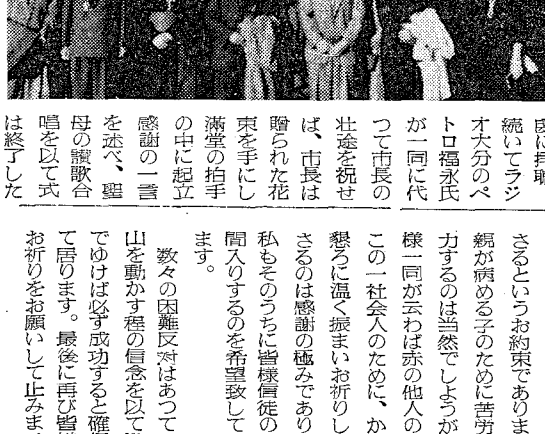
去る十一月五日（月）堅振式のため別府訪問中の深堀司教と遠路姫路から来分された全国布教委員会事務総長スパー師の臨席の下に大分カトリック教会で宮崎教区司祭大会が盛大に開催された。

大会は深堀司教の講話にはじまり、家庭的懇談会につづく壮厳な聖時間を以て午前の部を終了。午后一時半からスパー師の指導のもとに布教研究会に移り明朗活発な意見交換、実施事項決定ののち深堀司教の祝福をもつて四時散会。

聖母奉献のお祝い

サン・スルピス大神学校

童貞聖マリアの御奉献の祝日を最上位の保護者として崇めている福岡サン・スルピス大神学校では十一月廿一日（水）同校出身および近隣の司祭約廿名と神学校教授在学生が一堂に会して、なごやかにも極めて有意義な一日を過した午前十時深堀司教の荘厳ミサには平田正喜（福岡）村上真理雄（京都）尾上金助（長崎）川口康頼（福岡）師ら同校出身司祭が仕え、ミサ後直ちに全司祭が祭壇に進みて、剃髪式の時になした約束を司教の前で新たにした。



宮崎教区男子信徒

第一回使徒職研究大會

信徒使徒職第二回世界大会は明年十月六日から十三日までローマに於て開催されることになっているが、宮崎教区に於ても万全の準備をなし、全世界の信徒使徒職団体と協同しその一翼を負う名誉を発揮すべく、去る十一月四日（日）午後二時別府カトリック教会に教区各教会男子信徒の代表者廿六名（大分県側廿九名、宮崎県側七名）が相集い、第一回使徒職研究大会を開催した。

会は議事進行係担当のラジオ大分ペトロ福永氏が司会し、全国布教委員会宮崎教区代表のモロ師から、教区内に信徒使徒職委員会を設立したき旨の開会の言葉があり、続いて一同主禱文その他を唱和、聖歌斉唱の後、福岡より来別中の宮崎教区長深堀司教から本委員会設置について、その使命、あり方など詳細にわたる講話あり、次で出席者がそれぞれ自己紹介を行い、真剣な中にもなごやかな雰囲気の中に懇談会に移り、活発な意見が述べられ、委員会組織化の具体的問題などを寸刻を惜んで熱心に討議し意義ある成果を収めた。

フランス大使司教館訪問

駐日フランス大使アルマン・ベラール氏夫妻とフランス神戸領事

氏は、西日本視察旅行の途中、十一月廿二日午前十時後三時汽車で長崎に向った。

なお司教訪問の前日一行は八幡に立寄り、パリ外国宣教会司祭と昼食を共にし、八幡、戸畑の両製鉄所を視察した。（写真は左より大使夫人、進藤教授、深堀司教、ベルトラン師、大使、深堀司教、領事）

映画〝聖ヴアンサン〟上映報告

この度全日本映画文化協会今員窪野治次の肝入りで、十一月十二日より往年フランス宗教名画〝聖ヴアンサン〟を八幡市内五中学校（花尾、中央、枝光、尾倉、陣山）福岡市三筑中学校生徒約六千名に上映観賞させることができたが、去る十四日には戸畑明治学園中、高学生全部に、また廿五日には福岡市高宮中学校生徒のために上映された。

田中峰子女史（最高裁判所長官夫人）来福

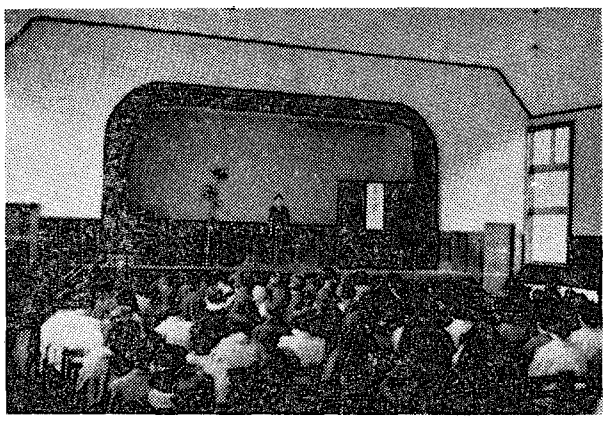
保育関係者と懇談

最高裁判所長官夫人田中峰子女史（カトリック保育教材雑誌〝子供のせかい〟編集長）は、九州地方の幼稚園と保育園の状況視察のため、聖光社の武市八十雄氏を伴い十一日廿三日（金）特急〝あさかぜ〟で来福、折から福岡市で開催中の第五回九州幼稚園連合会分科会に出席。翌廿四日午前中は総合会に列席ののち、午後一時四十五分より雙葉学園講堂で、同大会に参加したカトリック幼稚園、保育園関係者、園児父兄、一般来聴者数百名に〝道徳教育について〟と題して一時間講演を行った。講演後、別室で深堀司教御臨席の談懇協議会にも出席。

この席上、深堀司教は、全九州カトリック保育者連盟を結成することを提案されたので討議にかかり、カトリック関係者の横の連絡をより緊密スムースにするため、毎年の全九州大会の開催地でその機会を利用してカトリック幼稚園関係者の特別集合を開き開催地県の関係者が外来者の世話に当るようにすることを全員決議した。

このあと保育内容についての討論に移り、まづカリキュラムに関しては、長崎純心短大保育科で一般向き、宗教的カリキュラムの外に、保育園向きのものを作成していることが発表され保育材料については、〝子供のせかい〟はカトリック唯一の保育雑誌であるので、これを育成発展させるために全員が協力することが要望され、次いで平田勇師より、来年一月頃にドン・ボスン社から発行される幼稚園保育園向き公教要理（単元式による子供のテキストとその指導書）の使用方法が紹介された。

同女史は廿五日午前十一時長崎に出発に先立ち、平田勇師の案内で福岡市内の全カトリック関係幼稚園、保育園を視察した。（写真は雙葉学園講堂での田中女史の講演）



秋の聖体行列

新田原と久留米教会で

【新田原教会】

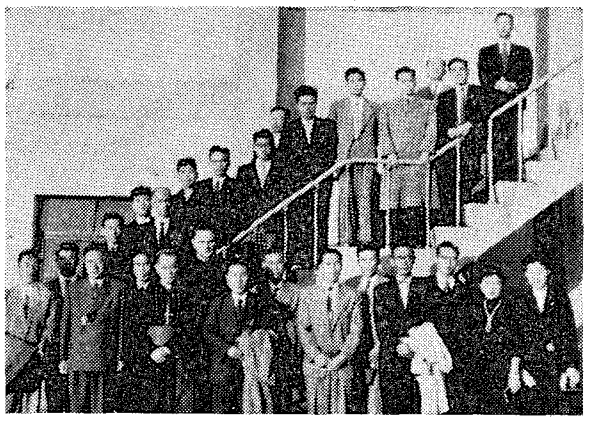
毎年主なるキリストの祝日を期して行われる新田原教会聖体行列は、福岡から深堀司教、北九州各教会より多数の信者の参加を得豊作感謝の心をこめて敬虔に行われた。

御聖体は司教のお手に奉持されてトラピスト女子修道院を出発、途中豊作にほゝえむ田畑を横切り二時間のち新田原病院広場の仮祭壇に到着、午後四時、教会玄関前での降福式を以てえんえん二時間半にわたる聖体行列を終えた。

なお行列は小雨に見舞われたが行列中止にまで至らず幸いであつた。

【久留米教会】

恒例の久留米教会主催聖体行列は十一月十一日、秋晴れのもと信者、求道者、幼稚園々児、父兄ら約千五百名が参加して盛大に挙行された。午後三時過ぎ、棚町主任神父に奉持された御聖体は、カツパマニヤを着けられた深堀司教と共に教会を出発。市内の目貫通り日吉町を通過、旭屋デパートから北に右折して日吉町地区を一周、途中聖母幼稚園運動場にしつらえられた仮祭壇前に停止、深堀敏師の説教ののち再び大通りに出て、教会に於ける荘厳聖体降福式をもつて、四時聖体讃美の祝典の幕を閉ちた。



西日本国鉄職員信者大会

別府教会で第一会合

国鉄に勤務するカトリック信者の第二回西日本大会は十一月三日文化の日、別府カトリック教会の集会場で西日本の鉄道管理局（大阪、広島、門司、大分鹿児島）の代表廿八名が深堀司教のもとに集

第二回社会科教育研究会

鹿児島、宮崎からも参加

第二回社会科教育研究会は、十一月十九日、前回同様福岡司教館で開かれ、本教区内の高等学校（福岡県四校、熊本県二校）の外に宮崎教区より緑ケ丘、更に今回初めて鹿児島教区より ラサール、と純心の二校、以上九校の社会科教諭廿名が出席した。会場には深堀司教が終始臨席され、西洋史、日本史ならびに一般社会科の重要問題五点について、小野雙葉学園教諭の司会のもとに、各校の意見現状を披瀝しながら討議を行い午後四時半散会した。尚この分科研究会は毎年春秋二回つづいて開催することを決議した。

七五三のお祝いをカトリック教会で

本教区では、さきの保育園、幼稚園責任者会議の席上、深堀司教より日本の伝統である七、五、三のお祝いを、各保育園幼稚園毎にカトリック的に盛大に祝うようにとの達示に従い、今年はじめて十一月十五日一斉にこの子供の祝日を所属教会において挙行した。その内容の詳細点は各地で相違していたが、大体、司祭の子供向けまたは父兄向け短い訓話、聖体降福式または子供の祝福、おみやげや聖句の短冊の授与などで、参列した父兄にも大好評であつた。

上田大分市長

祈願ミサ拝聴

ローマ訪問前、大分教会で

かねて六年前から大分市顕徳寺町キリシタン旧蹟「デウス堂」跡に、キリシタン博物館、慈善病院音楽堂などカトリック文化センター建設計画を進めて来た上田大分市長は、教皇ピオ十二世聖下に御寄附金その他の御礼と報告のため又今後の御援助も願うため、十一月廿五日羽田空港を出発、ローマに向つたが、それに先立つて建設祈願ミサを主任司祭ヨゼフ・モロ師に懇請、同十八日日曜日午前九時半、夫人同伴で建設委員、後援会員外名士二同と共に同師によつて捧げられた祈願ミサを信徒一同に和して敬虔に拝聴、続いてラジオ大分のペトロ福永氏が一同に代つて市長の壮途を祝せば、市長は贈られた花束を手にし満堂の拍手の中に起立感謝の一言を述べ、聖母の讃歌合唱を以て式は終了したが、堂外に出た市長は自ら寄贈した茶菓の会場に信徒一同を案内饗応し、計らずも市長を囲んだ信徒懇親会の観を呈し、一同ユーモアたつぷりの市長のカトリック文化センター建設抱負談に大喜び、時のたつのも忘れ、聖母讃歌と万歳三唱の後、乗車場に駈せよつて市長を見送り名残りを惜んだ。

上田市長感謝の辞要略―

カトリツク文化センター建設を計画してから六年になるが、その間皆様が私を色々と御後援下さつたことに対して心の底から感謝して居ります。今の御ミサ中モロ神父様の御説教をきいて最大の喜びと慰めとなつたのは、神父様方と皆様が私のため計画成功のため絶えず祈つて下さるというお約束であります。

綿が病める子のために苦労し尽力するのは当然でしようが、皆様一同が云わば赤の他人の様なこの一社会人のために、かくも懇ろに温く振まいお祈りして下さるのは感謝の極みであります私もそのうちに皆様信徒のお仲間入りするのを希望致して居ります。

数々の困難反対はあつても、山を動かす程の信念を以て進んでゆけば必ず成功すると確信して居ります。最後に再び皆様のお祈りをお願いして止みません

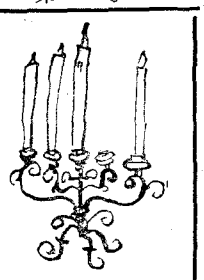
布教日（十月の第三日曜）献金

福岡教区

大名町	七、三六七円	浄水通	二、三一〇
地行町	一、八六八	冀島	一、六六〇
西新町	二、二五〇	高宮	四、五六五
吉塚	五、〇〇〇	那珂町	二、〇〇〇
二日市	四一〇	久留米	二、九五〇
今村	一三、八五〇	本郷	八、四三四
大牟田	一、二〇〇	呼子	二、二六〇
馬渡	一、六三四	古賀	七四〇
佐賀	二、三五〇	唐津	五〇〇
鳥栖	一、四一〇	伊万里	五〇〇
門司	二、一五〇	小倉	四、五〇〇
湯川	四、〇〇七	戸畑	六、〇〇〇
若松	九三〇	八幡	三、二〇〇
黒崎	五〇〇	水俣	二、五〇〇
人吉	八五〇	玉名	六〇〇
直方	八二五	飯塚	四六〇〇
田川	一、〇〇〇	行橋	三、七〇〇
新田原	二、〇〇〇	北九州本部	四、三〇〇
手取	一、〇〇〇	健軍	七、四七四
琵琶崎	二、〇〇〇	八代	五〇〇〇
水俣	一、五〇〇〇	人吉	五〇〇
玉名	一、六一〇	直方	三五〇〇
飯塚	二、〇〇〇	本渡	一、二〇〇
崎津	二、〇〇〇	大江	一、一四〇
合計	一二二、		

宮崎教区

宮崎	四、七〇〇	田野	一、四四七
高鍋	六〇〇	都城	五、一〇〇
富高	四〇〇〇	延岡	八三〇
大分	一、〇〇〇	別府	二、五〇〇
中津	四、六〇〇	日田	三、一〇〇
大貞	一、三〇〇	杵築	二〇〇
坂市	四〇〇〇	佐伯	四〇〇〇
合計	二六、五七七		



「公教要理」(九)

悔悛の秘蹟（B）

伊東誠二

受洗者が、たゞ一つの大罪を犯して、洗礼の恵みを失った時にはいくらそれ以前によき生涯を送った実跡があっても、天主の全能の御手が、あらたに御あわれみの恵みを垂れ給わぬかぎり、救霊については絶望の状態にある。

それで、教父達は、悔悛の秘蹟の事を「再度の救世」と呼んだ。皮相的にこの秘蹟を見ると、あまり名誉ではない罪の告白に人の羞恥がゆり動かされるだけで事をわれりとする嫌いがある。

ところが、本当は、この秘蹟に於て、洗礼の時と同じ様に成義のために全能の力が動員される。即ちキリストの聖血が全部、痛悔者の魂にそゝがれて、あらたに浄化されるのである。大人の洗礼のために長い期間の準備がなされるが、悔悛の秘蹟のためにも深さに於て同様な関心が示されるのが本当であろう。聖カタリナは告白に行く時には「御血にゆく」といって居った。よく味わうべき表現である。

二種の痛悔ー

一般に二種の働き方が考えられる。そして神学はこれを完全な痛悔、不完全な痛悔と名付けている。己が罪を天主より赦されたいと真面目に望んで悔悛の秘蹟に近づくものは、天国か或は超自然的な多くの善を失った事実、地獄の罰を身に負うている事実を信仰の光の下に見るだろう。そして更に人間的な判断に基く利害の問題も彼の心を幾重にもとりまいて、感覚的な涙さえ交えさせる事も普通であろう。無論、かゝる痛悔に偽善の烙印をおすべきではないが、この種の痛悔は、それだけでは、天主の友情を更新する力はない。赦しの希望と改心の意志の上に赦免の秘蹟的効果が働くことによって魂は救世主の御血の中に浸され浄められて初めて聖寵の状態が回復されるのである。

これは、人の弱さを体験された御子の御あはれみによって改心する罪人に要求される最少限度のものである、之をもって、一個の人間の上に下される聖寵の価値を憶測すべきではない。改心のドラマは秘蹟的全能の力に全部がかゝって居るのである。

信仰の精神は罪とその罰を恐れさせる。これは所謂、奴隷的恐怖に過ぎない。次に天主の御あわれみに対する信頼が起り、最後に赦免を請はしめる。天主の聖寵はその愛徳と諸徳の力をもって魂に下されて、愛する事を知る「子」の敬畏を変る。彼は罪が自分に及ぼす影響よりも天父の御顔に映る罪の影をにくみ、〝私はあなたの子と呼ばれる価しない〟（ルカ十五21）と叫ばしめて回心の精は完成される。すると優しき父は、子の腕を取り彼を胸に抱いて、「赦す」との全能の言葉が発せられるのである。

聖トマは成義の過程を次の様に説明する。ー（神学大全、三巻85）

「先づ信仰の業が天主とキリストの面前に霊魂を置かしめる。次は奴隷的恐怖の動きが過ちの罰として用意された責苦の考察を行わせる。次に、無の淵よりのぼる天主の御慈愛への信頼が起り、最後に罪に対して天主故の絶対的憎悪と共に最初の愛徳の行為がなされる」と。

一般にいって改心に於ける人間の役目は、彼の上に下される天主の御働きのままに己をゆだねる事全く無償で与えられる聖寵を受ける事に存する。しかし、この人の生命を根本からゆり動かす程の天主の御働きは、個人の心理的な多様のニュアンスをともなって行われるのである。

聖トマは、贖罪は愛徳の止むに止まれぬ欲求から流れ出る現実である事を知るべきである。公教要理は完全な痛悔をこの様に説明しているのである。又、

イエズスは、マダレナについて次の様に宣言されるのである。

〝多く愛した、だから多く赦される〟（ルカ七47）

以上の事から次の事が考察される即ち、愛が、私たちの天国の位置を決定する様に、地上に於ても、愛が痛悔者の赦しの恵みの度合を決定する。

聖書拝読の方法にはいろいろ方でありますが、勿論理解力だけでなく信仰も必要です。そのためにはテキストをよく理解すること、立派な註釈を手に入れること。でも中級程度の教育をうけた人達には歴史的な事柄や文学上の問題で相当の困難があると思われます。聖書の典礼的神学的読み方ー聖書に啓示されている事柄をもっとよく理解できるよう、神の御言葉を探す方法です。例えば旧、新両書を通じて、神につき、三位一体につき、聖寵などについて教えられていることをさぐり出すことです。

⑤霊的読書としてー三番目と四番目の方法からこの五番目に移ると思います。聖書の典礼的神学的読書を経ないでおいては、我々の個人的黙想は成り立ちません。適当な案内書をもって、聖書が直接、私に語りかけることがあります。机に向って聖書を研究したあと、跪いて静かに聖書をひもとくことを忘れてはならないのです。これこそ神に向う魂の大切な食物なのであります。

☆　☆



みんなのための聖書

(7)

聖書奉読の方法

聖書拝読の方法にはいろいろとありますが、どれも独立した特殊なものではなく、強調点に違いがある程度です。ですから聖書、聖霊、教会の導きに従ってゆく限り代るがわる別の方法を採用し、又必要に応じて二つ三つを併用することもできます

❶走り読みー どの本に限らず、はじめて手にした本を読むときどの点にと注意せずにはらはらつと読み通すものであります。それは丁度、はじめて或る国を旅行する人が、用件を果したり旅行案内を綿密に下調べする前に、その国の風景をのんびりと眺めながら歩き廻るのに似ています。こういう読書法によりましても、沢山のことを発見することができます。必ずしも好奇心や宗教的な感覚などを除外するわけではないのですが、素通りしておいて全部わかつたと一人合点することは注意しなければなりません。

❷批評的読み方ー之は語句の意味を一つ一つ探ろうとする読み方でありますが、素通りしておいて全部わかつたと一人合点することは注意しなければなりません。

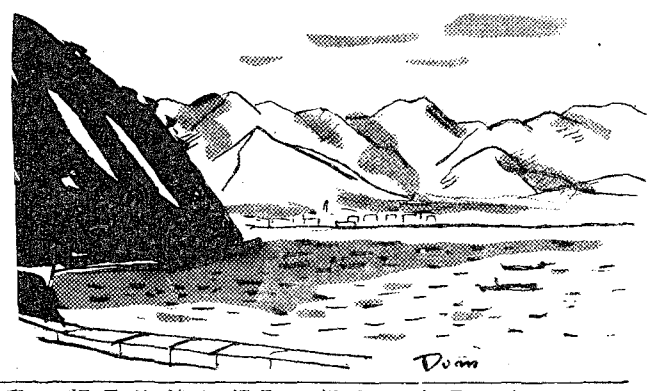
❸典礼的読み方ー大部分の信者によく採用されている方法です教会と共に祈りながら聖書をよむことによって、聖なる歴史をもつことが先決問題となります。

❹神学的な読み方ー聖書の典礼的神学的読書を経ないでおいては、我々の個人的黙想は成り立ちません。適当な案内書をもって、聖書が直接、私に語りかけることがあります。机に向って聖書を研究したあと、跪いて静かに聖書をひもとくことを忘れてはならないのです。これこそ神に向う魂の大切な食物なのであります。

☆　☆

こどもたちの聖人

サンタクロースものがたり



クリスマスが近づきました。クリスマスといえばイエズス様がお生れになった日ですね。イエズス様は私たちを天国に入れて下さるために、あの寒いきたない馬小屋にお生れになりました。

クリスマスといえば、みなさんがすぐ思い出す人がありますね。白いひげをはやし、赤い服をきて赤い帽子をかむり、赤いくつをはいたおじいさん、そうです、サンタクロースのおじいさんですね。おみやげのたくさん入った袋をかついで、となかいの引くそりに乗って、まつ白い雪の上を北の国からやってくるお話や、えんとつから入って来て、かわいゝ子供たちのくつ下の中にきれいなおみやげをそっと入れて帰るお話を、みなさんもきっと聞いたことがあるでしょう。ところで本とうにこんなおじいさんがいたのでしょうか？そうです、本当にいたのです。それで今からそのお話をしましょう。

今から千七百年ばかりも前のことです。小アジアのミラという町にニコラスという少年が住んでいました。ニコラスのお家は大へんお金持でしたが、天主様にたいしては信心ぶかく、人にはしんせつで、心もおごないも本当に清らかでした。貧しくて困っている人たちには、いつもひつようなものをめぐんでやりましたので、大へんに人々から尊けいされていました。

ある時のことです。ニコラスの住んでいる町の近くに、お父さんと一しょに住んでいる三人の娘がいました。毎日食べるものもない程貧しかったので三人ともおよめに行くことも出来ませんでした。このことを聞いて、ニコラスは大そう気の毒に思い、すぐこの可愛想な親子を助けてあげようと決心しました。それでも人の見ている前でよいことをして、人に余りほめられたくなかったので、ニコラスは或るまっくらい晩に、そっと親子の住んでいるお家にしのびよって、窓の破れたすきまから、用意してきたお金のつゝみを投げこむと一目さんににげて帰りました。あくる朝、このお金を見つけた親子は大へんおどろきました。それからまもなく、一ばん上の姉さんはおよめに行くことが出来ました。ニコラスは父夜中にお金を投げこんで帰りました。二ばん目の娘もおよめに行くことができました。このおうちの人はみんなかんしゃの気もちで一ぱいでした。それで、お父さんと一番末の娘は誰がこんなたくさんのお金を下さるのか見とゞけようと、くる晩もくる晩もかわるがわるばんをしていました。何も知らないニコラスはいつものようにまっくらい夜、お金をめぐんであげるため、そっとお家に近づきましたが、こんどはとうとう見つかってしまいました。このことはすぐミラの町中のひようばんになり、ますます人々はニコラスをそんけいするようになりました。

まもなく、ニコラスはミラの町の司教さまにえらばれました。白ひげをはやし司教さまの赤い服をつけ、白い馬に乗って、気の毒な人たちを助けてまわりました。多くの人々が、このやさしい司教さまから、お金や食べものばかりでなく、たくさんの心のなぐさめを得ました。

ニコラスは七十一才のおじいさんになった時、天国にめされましたが、そのおはかではたくさんのきせきが行われました。ニコラスは死んでからもたくさんの人たちを助けたのです。それでカトリック教会では、ニコラスを聖人の位にあげ、十二月六日にお祝いしています。むかしはこの日に、お父さんたちがまじめな子供たちにおくりものをするしゅうかんがありましたが、今ではクリスマスと一しよに行われるようになりました皆さんも、ニコラスのように、人の気の毒な人にはいつもしんせつな心のやさしい子供となるようにつとめましょう。

私の洗礼

粕屋郡古賀町福岡療養所　パウロ井手口得治郎

私は兄と父との三人暮しであつた。兄は昭和二十一年の三月に山口県の高等工業を卒業し小倉のある工場に就職した。ところが二十二年の暮にその工場にストライキが起り、兄は労働組合の交渉委員として、工場側と夜遅くまで交渉していた。ところがその争議は永びくばかり、夜遅く帰つて来る兄は、青白い顔をして元気がない様になつた。

父は兄に委員をやめなさいといつたが、兄は無理をして出勤していた。終りには工場からあまり遠くない寮に入り、翌年の三月頃争議が終つて寮から帰つて来た時に

私の待降節

人の一生は有限一筋の、しかも困難と誘惑の多い人生の途上に、永遠、無限を探しまわる放浪の旅である。永遠を求めて一生涯をさすらい廻るわが心は永遠な生命からでなければ満さないものなのだ。

ああ、わが心のあこがれなる永遠の生命は何処？、わが待望のメシアは何処？

旧約の人々に予言者をつかわし、その口をかりて救主と人類のたすかりとを告げ知らしめ給うた天主は、今日の私の心に御自分の地上に於ける代理者、教会を以てそれを知らしめ給うのである。かの人々は数千年の間救主を罪の償の苦行、犠牲、祈りを以て待望し遂に天主の定めの時に及んで救主イエズス、キリストを迎え得たのであつて私も又、わが一生の待降節をあげて罪の償の苦行犠牲、祈りの中に救主、わが生命、わが永遠なるイエズス、キリストを待望し奉らねばならぬやがて待望の永遠の日は私に来るのだ。

思えば人祖が天主に背いてからというものは、人類は楽園の柵外にあつて永遠の御国に入り得ない罪悪と苦悩にさいなまれながらも天主の時至らば、汝等にメシア（救主）をつかわすであろうとの御約束に望をかけてあろうとの御降臨を幾千年の長い間待ち望んでいたのであつた。いわば彼等にとつて、旧約全時代は救主の待降節であつた。この長い年月の間には、或は待ちくたびれ、或はあきらめ失望して天主を忘れ、迷いの道に陥つた者もなかつたではないが、多くの人は常に天を仰いでは、天主の御あわれみを求め、早く救主のつかわされんことを祈りながら、罪の償の犠牲、苦行をつづけたのであつた。即ち彼等は救主が世に下つて、人類の永遠へのあこがれを満し給うよう、苦行と犠牲の中に祈りつづけたのであつた。

一方天主は時代を追つて予言者を世に送り、救主の御降臨は次第に近づきつつあるから希望を以て待つべきことを世に告げ励まし給うたが、遂に時満つるに及んでイエズス、キリストを救主としておつかわしになつた。実に天主は、ヘブレオ書に記されている通り、昔予言者達を以て幾度にも幾様にも祖先達に語り給いしに、この末の日に至りて御子イエズス、キリストを世に下し、彼を以て全てのことをわれらに語り、知らしめ、世の終りまでの全ての人に、永遠の救いを得させ給うのである。

今独りわが心の中を深くのぞきこんで見ると、その最も深い所に、はつきりとはつかみ得ないが、打消すことのできない何かしら無限とか永遠とかいつたようなものへのあこがれのあることが知られる。ーわが心は永遠なるものを待望していながらも、これを現実につかみ得ない空虚さと淋しさが感じられる然り、この世の生はわれらにとつては、わが上に永遠なるものの下るのを待つ待降節の期間なのである。

クリスマスのお買物は

大名町聖パウロ書院で！

クリスマスカード

●宗教画	¥20ヨリ	¥60マデ	六通リ
●日本画	¥15ヨリ	¥50マデ	六通リ
●子供向	¥ 5ヨリ	¥25マデ	三通リ
●葉書型	¥ 5ト	¥10ノ	二通リ
（封筒付）		¥15	

クリスマス●セット（馬ごや）家庭用

11ケ一組	¥ 1,600
3ケ一組	¥ 1,500
3ケ一組	¥ 600

幼きイエズス様

一ケ	¥ 700
一ケ	¥ 150

堅振式

【別府教会】十一月四日、一一九名が受堅。

【久留米教会】十一月十一日、廿九名が受堅。

【高宮教会】十一月十八日、四一名が受堅。

心の扉をひらく

マリア・カタリナ

「あなたのように幸福な人がどうして信者になりましたか？」とよくきかれます。世間には不幸だから悲しいからそれから逃れる為にのみ宗教を求めると思っている人が多いようです。

十二年前の戦争中のことでした。語学の勉強の為、大きなお家の外国人の処に毎週通いましたが、そこで私は見出したものは、この世ならぬ静寂、平和、そして夕方きまってきこえてくる低い祈り声でした。（それが修道院の夕食後の祈りであることを知ったのは信者になってからでしたが）その私の先生（修道士でいられることを知ったのもずっと後でした）は私に一言も布教されませんでしたが、私自然のお恵みをいただくもとになったことを思い、天主様の御摂理のはかりがたさに驚き感謝は一人でそこで語学を学びつつ天主様を見出しました。修道士さんは私に無言の尊いお説教をされたのでした。その頃私は誰にでも羨まれるような幸福な学生でした。

この世的に幸福な人が天主様に近ずくのは確かに困難なことのように思われます。病める者貧しき者、禍いにあう者……不幸な境遇にある時、人は何か偉大なものにすがりたい謙虚な心からしばしば天主様を見出します。道士でいられることを知ったのもずっと後でした）は私に一言も布教されませんでしたが、私自然のお恵みをいただくもとになったことを思い、天主様の御摂理のはかりがたさに驚き感謝を捧げるばかりであります。深い信仰をいただきますならば、たとえ悲しみ苦しみにあいましても、御聖櫃にましますイエズス様のみ前にひざまづく時、心にほのぼのとした明るさをとり戻し、どんな困苦にもたえてゆく力をいただきます。

天主様はこの世に沢山の草花―人間―を植えられましたと私は時々考えます。皆それぞれに美しさをもち、それぞれに一生を過します。ある草花は芽を出して間もなく、ある草花は成長して、ある時、天主様のまことの愛子となります。が、ある草花は天主様に捨てられてしまいます。この世は仮の苗床、私共は天国の花園に移し植えられるべきもの、天主様は私共が皆そこに入ることをお望みでいらっしゃり、色々の形で私共の心の扉を叩かれますのに、多くの人は中々扉を開こうとしないのです。

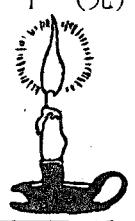
さあ、あなたの心の扉を大きく開いて天主様の御声に耳を傾けて下さい。今年もまもなく又新たにイエズス様が私共のところにお降りになります。あなたの心に今年こそ幼きイエズス様がお生れになりますようお祈りいたします。

×　×



暗より光へ（完）

―死刑囚の手記―



運動後に集る友の数は段々とまして、中には熱心な求道者もあらわれ、それらの友は皆一様に日日にその生活が改まり、一人の反則者もなく他の囚人の模範となったので、所長はじめ職員達もカトリックに対する理解と関心をいだき、共犯関係や通謀のおそれのない者は、月に何回か職員監督の下に一室に集り、共に祈り、要理を学ぶことが許され、私共の願いによって神父様を呼んで貰うなどと多大の便宜を与えて貰う様になりまして、中には熱心な求道者もあらわれ、それらの友は皆一様に日日にその生活が改まり、一人の反則者もなく他の囚人の模範となったので、所長はじめ職員達もカトリックに対する理解と関心をいだき、共犯関係や通謀のおそれのない者は、月に何回か職員監督の下に一室に集り、共に祈り、要理を学ぶことが許され、私共の願いによって神父様を呼んで貰うなどとて来ました。

瀬くこれからと思う時、私は第二審公判の為に○○市の高裁近くの刑務所に移され、そこに於ける独房の中の生活は二ケ月足らずでありましたが、一人の友を導き、後事をW神父様にお願いして、私はこの刑場のある刑務所に送られて来ました。

ここは当時やっと新築成つたばかりの独房だけの近代的な建物で同時に死刑囚が四名集りました。そしてこのグループは毎日運動その他の行事が一緒に許されますので、万事好都合に運びました。前の刑務所からの申し送りでもあったのか、職員の方の理解も深く、又同囚の中でも一番の年長であったので皆だんだんと熱心に求道するようになりました。そしてここに始めて「カルワリオ会」なるものが誕生しました。

そもそも私は、自分が十字架につけられたあの盗賊と同じ運命にありつつも、イエスス様の流し給うたあの尊き御血潮の功徳によって贖われたその恵みを片時も忘れることができなかったので、十字架にすがる者の集いという意味で「カルワリオ会」と命名したのです。

二人の神父様の熱心な御指導により全死刑囚が熱心になると、同じ建物の中に一緒にいる一般被告達も信仰を求めるようになりましたが、死刑囚以外は規則上教誨堂に出て、直接神父様の御指導は許されないので、それ等の友のためには御話をノートして回覧したり私共が話してやる外はないのですが、熱心に求道を続け、信者となって、罪許されて出所した人は、何れも立派に更生し、教会に出席し一家揃って教会活動に努力している者もあり、服役中の者は模範囚と呼ばれ、死刑囚の中の大方は平安に召されてゆきました。

それらの死刑囚の殆んどが、犯罪故に世の人々にすてられ、身寄りのない者、身寄りはあっても世間態を恐れて顧みてくれず、淋しさから世を呪い人をうらみ、全く自暴自棄となって全くの無法者となっていた者もありました。そうした友に対しては急いで信仰を勧めても無駄です。常に愛の心をもって労わり、何事にも味方となり、乏しい物をも分つて愛の行為を気長に続けていると、いくら強情に見えても、もともとが愛に飢え渇いた淋しさからの仕業です。その真心は必ず通じます。一度求道心が向くと、激しい性格の持主であり、一方時が迫っているだけにその熱心さは驚く程です。

嘗かの運動の時間や月に何回かの神父様のお話では満足できません。幸いここの建物は急造の板壁で隣間が多く、小声で隣室と語り合うことができます。そこで熱心な友は無理に願って私の両隣の監房に入れて貰い、左右の室から質問の連続です。板壁を隔てているので私が何をしているか隣の友には判りまれん。だから祈つていようが、手紙を書いていようが、そんなことにはお構いなしの質問であり、これには私もいささか嬉しい悲鳴をあげました。

一番早く召された友は、私の房と境の壁板の節穴を利用し、ペン先を用いて手から血を流し、三日間もかかつて穴を開け、そこから時を惜んで勉強しました。

今日まで死刑囚や一般囚の中にまたその家族達の中に立派な回心の事実を沢山見て、私は非常に励まされ、教えられています。これ等についても御話し申上げたく存じますが、何分にも無学の私はこれを読者に解つて頂くようにまとめる力がなく、拙文をもつて尊い御話を余りに長く汚すことを恐縮に存じますので、一応これで私の手記を終らせて頂きます。

アヴエ・マリアー―（終）

詩

待降節

マリア・ヨハンナ

主よ来りませ我が心に
二千年の昔
御降誕の夜のため
主よ来りませ我が心に



わたしの肩に

フランシスコ

わたしの肩に全世界がかかっている
だれもしらない
わたしのひそかな思望行いが
全世界を動かす
わたしの存在は
よしそれがどんなにかそけきものであろうとも
二人、三人、四人……
そして終に全世界に波紋を投げるだれがどんな影響を与えるのかだれもしらない
だが自分さえ気付かないうちに
わたしの肩の上で
全世界が動いている。

偉大な人間

若さは力を求め、躍動する事を欲する。それは小さなかこいの中の美しさを堪能している事には堪えられない。危険を承知の上でわくを打破り広い、広大な活動の場を求めて飛躍して行く。それだから若者はエツセイを読まない。その中に述べられている悟り切った老人の哲理は理解出来ても、彼等の心を捕える事は出来ない。彼等は小説を読む、詩の甘い言葉に胸をときめかす。彼等の理想とする所は大自然を敵としてもびくともせずに、眉根一つ動かさず立向い勝敗はどうあろうとも最後迄戦列を離れない偉大な人間、超人の姿である。若さ、生命力の溢るるまま、私は平凡な生活を軽蔑した同じ事の反覆にすぎない家事の中に私は力を、偉大さを見出せなかつたから。しかし頭だけにあふれた力、実質のともなわない力程ナンセンスなものはない。当時の自分をふりかえつてみる時こうしていても赤面せざるを得ない。頭だけが進んで足下の虚りの構えは、過日九州を襲つた台風の前に、その脆弱性を、もろくも露呈した。

夜半に目がさめた私は、頭上のトタンを吹飛ばし、雨戸を突き破らんとする風の力にきもを奪われ横なぐりに壁にたたきつける雨の勢いにおびえてしまつた。雨戸の隙間をすかしてみた闇の世界は、木々の悲鳴と草木のふれあう絶望の声に満ち満ち。ただ風が、雨が、我もの顔に猛威を示めて天がけり、行違つていた。電灯の消えた室の中ですきまもる風に心細くたゆらく灯を両手で守りながら雨もりをさけて、右に、左に、行きまどう自分の姿につくづく愛想がつきてしまつた。その時懐中電灯の円い明りが隣りの室でともされた。ガラス戸ごしに、下宿の女主人が一人で天井を調べている様子が望まれた。処置なし、あまりに沢山の雨もりにバケツも、洗面器もすべて動員されている。と、彼女は唯一人黙然として畳を上げ床板をはぎ出した。あれくるう台風の暴威を外に、静かに、唯一人床をはぐ女主人の姿、ぼう然としている私を眺目に仕事を終つた彼女は、又子供達と一緒に寝入つてしまつた。

翌朝、さしもの台風も静まりやつとたどつた重苦しい眠りをやぶられた、扉をあけて女主人の顔がのぞいている。

「台風で電気が来ていませんからお食事のしたくがおくれて申しわけありません。どうぞ召し上つて下さい」。

その顔にも体にも昨夜の一人での苦斗のかげさえとどめていない彼女の力がどこから来ているのか私は知らない。子供を守ろうとする本能的母親の力か、或いは、文明に害されていない平凡な農婦の原始的な力かも知れない。私はあらためて平凡な彼女の顔をじつと見つめた。

（T・A）

おそるべき種類の死がある。
それは
悪しき習慣と
呼ばれる。

アウグスチヌス

質問欄

【問】新教と旧教とは何故対立しなければいけないのですか？どちらも同じ神を信じているのですのに。新教の方は「一日も早く一緒になつたらいい」というのに、旧教の方は「いや、絶対に新教とは一緒になれない」とおつしやいます。もし一緒になれないんでしたら、どちらが正しい宗教なのですか？私はカトリックが真の宗教だと教えられています。何故ですか？（大牟田迷える子）

【答】御りやすいように、例を引いて説明しましよう。ここに非常に勝れた宝のかくされた一枚の畑があると仮定します。そしてあなたはこの事を知り、又他の何所にも発見することの出来ない宝が無尽蔵にかくされていて、あなたは多くの人と一緒にこの畑を掘つていると想像して下さい。この畑の周囲にも多くの畑があつて、そこにも多くの人がそれ等の畑を掘つていますが、そこには宝はかくされていません。この様な時、若しこの周囲に働いている人達が、畳意をこめて「どうぞこちらにおいで下さい。こちらの畑が掘りやすいですから」と誘つてくれたとしても、あなたはきつと「いいえ皆さんこそこちらにお出で下さいこちらにこそ本当の宝がかくされているのです」と答えるでしようが何故なら、あなたはそう確信しているのですから。

同様に、カトリツク教会は、そしてカトリツク教会だけが、キリスト様による永遠の救いという見えない宝を所有しております。そしてカトリツク教会は、この宝をそつと一人占めにしているのではなく、いつも温い手をのべて、全世界の人々をそのふところの中に差招いているのです。

最後に、どうしてカトリツク教会だけが真の宗教であるかということは、限られたこの紙面では到底説明出来ませんが、一口で言えば、カトリツクの教だけが、真実にキリスト様の御教であるからです。カトリツク信者は、キリスト様のお建てになつたカトリツク教会を通じて、二千年来変らないキリスト様の御教を信じておりますが、之に反して、失礼な言い分かも知れませんが、新教の方々は、例えばルーテルとか、カルウインとか、いわゆる宗教改革者達の考えを信じておられるからです。

（畑原）

◇ ぶつくがいど ◇

フランシスコ・デ・サビエル

箴言集

ペトロ・アルペ編

新航路が発見されて間もない頃、既にインドは勿論のこと、遠くアジアの果てなる日本にまでやつてきて、神への愛のために、布教に勉めた聖フランシスコ・ザビエル。

その内的生活を知らない人は単なる活動的な、冒険的な、情熱の人とのみ思いがちであるがこの箴言集を読んだ人は、聖フランシスコ・ザビエルの中にいとなまれている深い精神生活を知り、その活動の裏付けとなるものが、如何に充ち溢れる程の豊かなものであつたかが分つて、聖フランシスコ・ザビエルは、たとえザビエル城から一歩も出なかつたとしても、矢張り聖フランシスコ・ザビエルだつたと、感嘆せざるを得ないであろう。

百三十七にのぼる手紙から抜萃されたこの箴言集は、淡々たる筆で書かれているにもかかわらず、神を思い、人を愛する至情に充ち溢れている。パリー大学に於て、救霊への熱心よりも学問にのみうつつをぬかしている学生の、怠慢の故に如何に多くの人が天国に行くことができずに、地獄に堕ちているかということを鋭く戒めた言葉や印度の離れ小島たるモロ島、そこの人種は頗る野蛮で自分の好まぬ者はすぐ毒殺するような習慣があり、小麦や家畜は勿論のこと、満足な飲料水すらないような赤貧と危険の真只中に、全く神への愛と奉仕のために、たた信頼して、踏みこんでゆく彼、そこにおれば、あまりに大きな慰めのために、感激の涙がたえず流れてきて、数年もたつたら、視力を失つてしまうのではないかと思い、モロ島と呼ぶよりも、神への信頼の島と呼ぶべきであると述べた手紙。

我々は聖フランシスコ・ザビエルのように、万里の波涛をこえて常に死の危険に身をさらさねばならないような生活はしないかもしれないが、毎日の生活に於ける悪魔との戦のためにはこれと同じだけの力が必要なのではないだろうか。

主なる神は、すべての被造物に対して全能にましますが故に私は神以外の何者をも恐れないただ私は神への奉仕に献身したりイエス・キリストの聖名を弘めたりするのにふさわしくない無益なものであるので、神が私に与え給うであろう罰のみが、私にとつて唯一の恐れである。（七八ノ二）東洋の大使徒といわれる人の何という謙遜にみちた言葉であろうか。

私達は神の摂理に生かされているのであり、如何なる被造物といえども、彼等はただ神の意志と、その許し給うたことに従う外は、自力を以てしては何一つ成し遂げ得ないのであるから私達はこのような偉大なる神と神に対して犯した罪の償罰との外、恐るべきものとしては何一つ存在しないわけである。（一〇九の五）聖フランシスコ・ザビエルのあの超人的な勇気の秘密が、ここに蔵されているといえないだろうか。

己が魂を救わんと欲する人はこれを失い、我がために魂を失なう人はこれを得べしとの御言葉は、実際死の危険に身をさらした時には、真暗になつてこの簡単なラテン語の意味さえ分らなくなるといい乍ら、この御教えを文字通り実行した彼。日本の布教にあたつては、自分の力には全く信頼せず、すべての希望を、主イエス・キリストとその御母にして至聖なる童貞聖マリア、天使の九つの歌隊特に戦う教会の総師であり守護者である大天使聖ミカエルに保護を願つて、毎日、日本人の改宗の為に祈りつづけた彼、に対して感謝という言葉は淡い、誰が熱き礼を捧げることを禁じ得ようか。

（定価一六〇円）（K）